



最後の

鼓動

あなたの
永遠への
旅

マーク・ケーヒル

80万分以上印刷

最後の鼓動

あなたの永遠への旅

マーク・ケイヒル

ベスト・セラー 天国でできない一つのことの著者

“出版し続けよう！”

“私はひどい失語症を患っているので読書には苦勞するが、この本を読んだときには、理解できるばかりか、とても力強く、楽しいと感じた。—ロバート・コンクリン

あなたが私にくれた本、最後の鼓動を私は初めから終わりまでこの7時間で読み終えた。その間読むのを止めたのは、夕食の時とホテルにチェックインする時と婚約者にそのことを言った時だけだった。
—トッド・ジョーダン

“この本は私が今まで読んだ本の中で一番素晴らしいものの一つだ” —パム・マシューズ

“あなたが私にくれたこの本は私の‘死後’と‘永遠そのものに関するすべての質問に答えをくれた。そう、この本が私の‘永遠への旅’になったのである。私はそのページを繰るごとに感銘を受けた…—
ヴィヴィアナ・コトロヴァ

私と友達40代を終えようとしており、かけがいのない子供たちがいて、私た

ちは、子どもたちを正しく導くこと以外に理由がないとしても最も重要な問に答えなくてはならない。

‘この人生の後に何が起こるのか？’我々は皆‘いつかは最後の鼓動を迎える存在’なのである。

—スコット・ガラハー

私はあなたの新しい本‘最後の鼓動’が

とてもよく出来ていて、私たちは何者なのか、そして何のために地上にいるのかを素晴らしく上手に説明していると言いたかった。もし世界の60億の人すべてがこの本を読んできたなら！

ーバート・マッカーディー

私はあなたの新しい本”最後の鼓動:あなたの永遠への旅“をちょうど読み終えたところだ。出版し続けよう！これは必読の書だ。人が持つ最も重要な質問‘私たちはこの惑星(ルビ:ほし)を去った後にどこへ行くか’に答えている。ーリック・ブラザーズ

この本は私が出会った本の中で最も広範の人の心に届くだろう。若者、高齢者、親切な人、ひどい人。確かなな真実が思わず引き込まれるような読みやすい方法で語られている。私たちは患者が霊的な目を開かれて私たちの病院を去るのを助けると固く信じる。

ースティーブン・カークハム博士、眼科医

序文

この世のことには備えても、永遠のことを気につけない者は一見、賢いようにみえるが
果てしなく愚かである

ジョン ティロットソン

大統領立候補者が当選するには副大統領候補者の選択が重要であると言われている。実際副
大統領こそ世界で最も影響力のある地位であるアメリカ合衆国大統領に、いつなるとき代わるかもし
れない人物である。実は、同じように我々の誰もが、いつでも人生の最後の鼓動を迎えるかもしれな
い、永遠と隣り合わせの存在なのである。人間の心臓は24時間毎に約10万回鼓動する。しかし、あ
る日その最後の鼓動を迎えるのである。

このことを考えることは、あなたを不安にするだろうか？ 大概の人は必ず死に対して恐怖心を抱く。
喜劇俳優のロビンウィリアムスは、「死ぬということは、自然が『あなたの席の用意できたよ』と言っ
てだけのことだ」というジョークを言って、それを意に介しませんでした。これに対して、俳優のデビット
ニーヴンは「俺は行かないよ。蹴ったり叫んだりして暴れてやる」と述べています。そしてウッディ
アレンは、「私は死が怖くはない、ただその死が実際に起きた時にその場にいたくないだけだ」と言いま
した。

また、「死とは‘自然’があなたに減速しろと伝える方法なのだ」と書いてあるバンパースティッカー
があります。しかし、死は誰もがいつか迎えるものであり、そして、その後に私たちはどこかに永遠居
ることになるのである。今から3億年後、

あなたはどこにいるだろうか？

それは我々の誰もが人生の間に時として考えることである。病気の時、乗っている飛行機がグラグラ揺れる時、交通事故にあった時、友人やジョニー・カースン、デールアーンハルト(ローマ法王)のような有名人が死んだ時、あるいは9・11のような大惨事やインド洋の津波、また自然災害の時—こうした状況が、我々にこの地球(ルビ:ほし)を離れるとき何が起こるのかを考えさせる。

しかし、それ以前に、私たちはなぜこの地球(ルビ:ほし)にいるのだろうか？我々の存在の目的は？多くの人がそれは学校に行くこと、ちょっとパーティをすること、就職、結婚して子供を持つこと、スポーツイベントに参加すること、白髪が生えてくる(あるいは禿げてくる)ことを経験すること、定年を迎えること、ゴルフをすること、そして死ぬことだと考える。

しかし、それが我々が毎日呼吸する理由だろうか？人生には生きることと死ぬこと以外に何もないのか？どのようにして我々はこの地球(ルビ:ほし)で過ごした時間が成功だったかどうか知ることが出来るのだろうか？ある人は、牢屋に入らず、他人を傷付けなければ良い人生だという人もいるかもしれない。また、ある人は成功を自分の名前が後世に残ることと定義する。ことによると、あなたにとって良い生活とは子供が大きなトラブルに巻き込まれないこと、そしてお金の心配をしなくて済むことかもしれない。

では、人生で最も重要なことは何だろう？上述したことのどれかに当てはまるだろうか？私は空港である人にこの質問をした。彼は家族が一番重要だと答えた。それはこの質問に対する典型的な答えである。

存在していることの目的は何だろう？多くの方は学校に行って、ちょっとパーティをして、就職し、結婚して子供を持ち、スポーツイベントに参加して、白髪頭になり、(あるいは禿げ頭に)、定年を迎え、ゴルフをして死ぬことだと思っている。

そこで、私は彼にではあなたが死ぬときに一番重要なものは何かと尋ねた。彼はやはり家族だと答えた。私はその意図を訊くと、彼は死んだ後に家族が生活するのに困らないだけのお金を残しておきたいと答えた。そこで、私は死後にどこに行くか、そしていつかそこで家族に再会できるのかを見出すことが重要ではないかと尋ねた。彼は眼を開いてそんなことは考えたこともなかったと答えた。

私たちは皆、10人のうち10人が必ず死ぬという絶対的な統計結果から逃れることが出来ない者なのだから、死んだらどこに行くのか、そしてそこには誰と一緒にいるのかを我々は考えなければならぬ。身体は骨になってしまうが、魂はどうなのか？もし、あなたの存在には、今のこの人生だけでなくさらに何かがあると信じるならば、それは特別なことではない。バーナグループによる最近の調査ではアメリカ人の10人中8人がなんらかの死後の世界の存在を信じている。79パーセントの人は神が存在するか否かに関わらず魂は永遠に生きるという意見に同意している。あなたは死後の世界がどのようなであると思うだろうか？これにはたくさんの異なる信仰的立場がある。

- ヒンズー教は人が因果応報の法則によって人は限りなく輪廻(生れ変り)を繰り返し、正しい行いや悪い行い、人々が人生で行ったことを来世で報いを受けると教える。輪廻は魂が神の本質に至るまで何度でも繰り返されると。
- ユダヤ教(旧約聖書だけを信じる)は新約聖書と同様に天国と地獄の存在を教える。ユダヤ教徒はクリスチャンと同じように死後に裁きを受けることを信じている。
- イスラム教徒は楽園と地獄の業火を教え、殉教だけが確実に楽園に行ける切符をもらう方法であると教える。
- 仏教は人は悟りを通して魂は輪廻を繰り返し、それがニルヴァーナと言われる究極の無に至るまで続くことを教える。

- 無神論は意識のある死後の世界を否定する。ある無神論者は死を「天における昼寝」と呼ぶ。
- ニューエイジムーブメントは、人が神と一体になるまで生まれ変わるという信仰も含め、多くの異なる信仰的立場を包含する。

多くの可能性があるが、どれがあなたに起こるだろうか？最後の息を引き取った後に何があるとどのように知ることが出来るだろうか？いや、そもそも知ることが出来るだろうか？

大半の人が魂の存在や死後の世界を信じているが、その多くは自分の行き先についてはっきりとした確信はない。成人の4人に1人が死後に何があるか全く分からないと認めている。驚くべきことに、3分の2の無神論者あるいは不可知論者が死後の世界の存在を認めている。このように、多くの人には自分が何を信じているのか、そしてそれは何故なのかを慎重に考えたことが無いのである。さらに重要なことは、彼らが信じていることについて、それを支持する証拠があるかどうかさえも考えたことが無いことである。

驚くべきことに、3分の2の無神論者あるいは不可知論者が死後の世界の存在を認めている。

仮に私が12月に北アメリカにいて、氷点下の気温が数日続いたあとに、近くの湖に氷が張りはじめたとする。私は以前に凍った湖上のウォーキングを楽しんだことがあり、私は氷の上を歩いてみようかと決心したとしよう。しかし、もっと良いアイデアを思いついて、スノーモービルを持ちだそうと決心します。私は人がスノーモービルで走るのをテレビで見たことがあり、それがとても楽しそうだったのだ。もっと、楽しそうなのは氷の塊でジャンプ台を作ることだ。そうすれば、ジャンプして着地した後に遠くまで滑ることが出来る。どんなに楽しいだろう？

しかし、問題が一つだけある。私がどれだけ強くそれが出来る信じようと、どれだけ深い信仰を持ってしようと、氷が割れて湖に落ちてしまうだろう。なぜなら、その氷はまだとても薄いからだ。それが

現実である。

今度は2月の場合の同じ湖を考えてみよう。すでに2か月以上氷点下の気温が続いている。私はその氷の上を歩いてみたいのだが、数か月前に友達が氷を割って湖の中に落ちたので、怖くて出来ない。だから、氷の上に片足そっと乗せてみて私の体重に耐えられるかどうか確かめたい。しかし、氷はわたしの体重を支えるだけでなく、スノーモービルでジャンプしたって大丈夫なのである。なぜか？氷はこの時までには数十センチになっているからである。

この二つの話の筋書きの違いは何だろうか？一つ目の場合はこの世の価値観を信じた場合である。信じた対象はわたしが思っているようなものではなかった。氷が薄すぎたのである。私は間違った信仰に信頼して、盲目的に突き進んだのだ。二つ目の場合は証拠を考慮に入れていたのだ。行動を起こすために、ほんの少ししか信仰を働かせなかったかもしれないが、それでも大丈夫だったたのである。

意識しているといないに関わらず、我々は何かを信じているものである。いや、あなたは毎日たくさんのかんことを信じて生きている。あなたは車を運転するとき他の車が赤信号で止まることを信じている。座っている椅子が壊れないであなたを支え続けると信じている。飛行機に乗るときパイロットに自殺願望がなく、飛行機を墜落させることがないと信じている。問題はどれだけ深く信じるかということではなく、何を信じるかということである。つまり、我々が信じていること、あるいは信頼していることが実際に真実かどうかということである。

そういうわけで、問題は死後の世界について何を信じているかではない。そうではなくて、信じていることに根拠があり信頼できるかどうかの問題なのである。あなたは永遠について薄い氷の上に目をつぶって飛び出そうとしているのだろうか？それとも、それは数十センチもある、スノーモービルが着

地しても大丈夫な氷だろうか？その答えがどうであれ、あなたは何かを信じているのである。だから、自分に信じているものに本当に根拠があるのかどうか自分に訊いてみてほしい。

オプラ・ウインフリー（アメリカのコメディショーの司会者）は、ショーのゲストにする質問で一番好きなのは、「それが確かだとどうしてわかりますか？」だと言っている。我々が確実に知っていることは、いつか死ぬということである。しかし問題は、その後どこに行くかなのである。

私たちは皆、昨日よりも永遠に近づいている。あなたが何を、あるいは誰を信頼を置くものとして選んでいるとしても、あなたはその決断にかけているのである—あなたの永遠の幸福はあなたの選択にかかっているのである。

あなたはあなたのしている選択が正しいことを確証するために、その証拠を検証したことがあるだろうか？あなた自身のために、あなたはその選択肢を十分に調べなければならない。ただ証拠を検証する時間取らなかったというだけで、永遠に関わることについて間違った選択をしたくはないだろう。

そこで、永遠への旅を始める前に、私と一緒に永遠の真実についての証拠を調べる短い旅を試してみようではないか。神はいるのかいないのか。死後の世界があるのかないのか。あなたの信じていることはどれほど信頼できるのか？ウインストンチャーチルは言っている「人は時に真実につまずくが、たいていの場合、何事もなかったように急いでその場をやり過ぎ」と。私はあなたが真実につまずきそれを無視するのではなく、むしろそれを積極的に追い求めること、そして、あなたの信仰の根拠をそこに置くことを願う。いつの日かあなたが死ぬときに「その氷がどれほど厚いのか」を確かめるために、いくつかの証拠を見てみよう。永遠の真実の深淵の深さを一緒に調べてみよう。そして、そこで何を見出すのか確かめてみよう。

ウインстонチャーチルは言っている「人は時に真実につまずくが、たいていの場合、何事もなかったように急いでその場をやり過ごす」と。

第1章

ノーベル賞

地上を見下ろしたときに無神論者であり得るということは理解できるが、天を見上げたうえで神がいないとどうして言えるのか想像できない

—アブラハム・リンカーン

多くの人は科学が宇宙の成り立ちを完全に説明していると確信しているので、神はいないと信じている。もし、我々の起源についてもっともな説明があるのなら、いったい誰が超自然的な説明を必要とするだろう。おそらく、あなたも多くの人と同じように、科学と宗教の対立を見て、圧倒的な科学の勝利を信じているだろう。しかし、科学のみでこのとてつもなく美しく、複雑な私たちが住んでいる創造の世界を説明できるのだろうか？その壮大さにあなたは驚嘆させられないだろうか？

どのようにして太陽が適量の光と熱のエネルギーを私たちの地球(ルビ:ほし)に供給できるのか？我々の整然とした世界はどのようにその秩序が保たれているだろう？どのようにして満月や月食の正確な日にちが予測できるのだろうか、あるいは、壮絶な嵐なのかそれとも静かな雪の日を期待すべきなのかを決定できるだろう？

稲妻、あるいは美しい虹はどこから来るのか？素晴らしい夕焼けを見ると、我々はしばしばこのような壮大な光景はどのように造られたのかと不思議に思う。壮大な山や美しい砂浜にも驚きを覚える。

わたしは初めてグランドキャニオンを見た時に唾然とした。その広大さには畏敬の念さえ覚え、その色彩は本当に驚くべきものであった。このグランドキャニオンはどのようにできたのか？

我々が人間によって造られたものを見るとき—例えば家を見るときに必ずそれを作った人がいることを知っている。また、時計などのデザインを見た時にそのデザイナーがいることを疑う人はいない。絵画などの芸術作品を見た時も、それを描いた画家がいることを知っている。なんらかの秩序があるときも—例えばコーラのグラスが20個並んでいたら、それを並べた人がいることが分かる。

我々が天地万物の人間によって作られたのではないものを見回した時、そこに何を見るだろうか。私たちはそこに、創造、デザイン、芸術、そして秩序があるのを見る。もし人間のつくったもの全ての背後に創造者や、デザイナー、芸術家がいることを知っているなら、なぜ私たちは、天地万物については創造者、芸術家、そして秩序を保つ方がいると思わないだろうか？ どうしてラシュモア山(巨大な四人のアメリカ大統領の顔が刻まれていることで有名)を見たとき、「うわー、侵食て言うのはなんてすごいだ。なんと、四人のアメリカ大統領の顔がが浸食によってできたんだ」と言わないのか？それはバカバカしいからである。

我々はなにがしかの創造、デザイン、芸術や秩序を見る時に、それが出来るためにそこには間違いなく知的な力が働いていることを見て取るのである。私はアメリカ国内の様々なところで講演をするのでよく飛行機に乗る。あるときに空港から運転しているときに美しい夕焼けを見た。その素晴らしく鮮やかな映像の色の移り変わりはまるで万華鏡のようであった。私は誰かがその美しい夕焼けを見て、誰が空にこれを描いたんだろうと不思議に思うようにと祈り始めた。

翌日の夜はハロウィーンだった。私は友人たちと、通りからだいぶ奥まった大きな家にいた。だれもキャンディをもらいに来なかった—9時半にドアベルがなるまでは。その家の人に対応のためにドアを開けるときに、部屋の角に頭を寄せてそれを覗き見た。そこには顔を猫のように塗った二人の若い女性がいた。かれらはトリックオアトリーディング(ハロウィーンにお菓子をくれなければ魔法をかけると

言ってキャンディーをねだる遊び)をするにはちょっと歳を取りすぎているように見えたので私が年齢を訊ねると、彼女たちは20歳と21歳と答えた。私がなぜ彼女たちにトリックオアトリーティングをやっているのかと訊くと、もちろんキャンディーが欲しいからだと答えた。

数分間話した後に、私は永遠についての質問を持ち出した。一人の女性が答えた。「我々は無神論者だから神様のことを私たちに話しても時間の無駄」だと。そこで私は聞いた、あなたは何の証拠をもって神がないことを証明できるのかと。結局彼女たちが何の証拠ももっていなかったことに、私は非常に興味を覚えた。

多くの人と同じように、恐らく彼女たちも自分たちに理があると思っていたのだろう。しかしながら、何の証拠もなしになにかを信じるのは盲目的な信仰である—しかも、それを永遠の行き先の根拠にしているのだ。神を信じるのには盲目的な信仰が必要だというひとがいます。しかし、我々は人生の中で決断するとき、殆どの場合、確かめられていることを信じて決定するのだから、永遠の運命についての決断も同じようにするべきだろう。私は彼女たちに神を信じるのにどれほどの証拠が必要かと尋ねた。彼女たちはそれについても答えをもっていなかった。そこで、私は私の言うことを少し考えて見なさいと言って、宇宙はそのデザイン、芸術性、秩序によって創造を示しているという考えを説明した。

もしも、すべてのものの背後に創造者、デザイナー、芸術家、オーガナイザーがいるとしたなら、どうして宇宙の背後にはにはそれらが無いと考えるのか？ 彼らの目が突如として輝きだした。一人が、「実は昨日の夕暮れに散歩していた時、非常に美しい夕焼けを見て、だれがこのような美しい夕焼けを空に描いたのかと思ったのですと言った。祈って、24時間のうちに神はその祈りの答えの人に会わせて下さったのだ。

二人の女性は地方の芸術大学の学生で、芸術家として、彼らはすべての美しい絵画にはそれを

描いた画家が必ずいることを知っていた。そして論理的に言って、信じられないほど素晴らしいこの宇宙についても同じことが言えるはずである。論理的に画家のない絵画や陶芸家のない陶芸、デザイナーのないデザインというのにはあり得ない。それはナンセンスである。そして、私たちが永遠の運命について道理に合わないことを根拠にするのはさらにナンセンスである。

ある日私は、アトランタのダウンタウンである男性と話していた。私は彼に、霊的なことについて質問した。彼は無神論者であり、神の存在を証明することなどできないと言った。我々は高いビル群の中に立っていたので、私は高層ビルの一つを指さして「このビルを建てた人がいることを証明してくれ」と言った。彼は言った。「それは簡単なことさ。このビルの存在そのものが建てた人のいたことの証拠だ」と。

彼は100%正しかったのである。我々は人が単にコンクリートやパイプ、窓、ペンキ、ワイヤなどを集めて振り返ってみたら、突如としてビルが出来ていたなどということはないことを知っている。ビルにはそれを建てた人が必ずいる。

私はその通りだと言った。ビルそのものがそれを建てた人がいることの証拠だと。そして私は付け加えた。太陽、月、星、海、砂、一つ一つ形が異なる雪の結晶、私のとは異なるあなたの30億個のDNAは、宇宙に創造主がいることの確実な証拠であると。彼はわたしをじっと見た。私は彼の眼の奥で何かひらめいたことが分かった。そして彼は目をそらした。彼が言ったことそのものがその証拠なのだ。あなたが高層ビルを建てた人を見ることやその声を聞くこと、触れることやそのにおいをかぐことができないことは、それを建てた人がいないことを意味しない。あなたが眼にしているビルディングにはそれを建てた人がいることを信じるのに驚くような信仰は必要ない。ただ、その証拠を見て論理的な判断をすればよいのだ。あなたが手にすることが出来る最良の証拠は、その作者が残した作品であ

る。この宇宙と神についても同じことだ。

私たちのために残された証拠は、すべて我々に宇宙には創造主がいることを示している。

無から有へ

次のような出来事を想像してみしてほしい。

数十億年前に無から未知の物質が生成し始めた。どこから来るともなく。そして、大爆発(ビッグバン)があった。なぜ、どうして起こったのかはわからないが、とにかくそれは起こったのである。数百万年たって、この物質は泡を発生して甘くなった。数百万年後に無からアルミニウムの分子が形成され、それらが集まりそれはこの液体を完璧な円筒形で覆った。そして、円筒形の上にアルミニウムのプルトップが形作られた。

40—45年くらい前に赤と白の分子がその缶の上に落ちてきて、コカ・コーラという文字を形造った。しかも、賞味期限と材料のリストまでついて。おお、素晴らしい！！

この例はわたしの友人から教わったものだが、非常にバカバカしい考えである。もしも、私がこの話を真実だと主張すれば、あなたの知性を馬鹿にしていることになるだろう。宇宙はこのひと缶のコーラよりも比べ物にならないほど複雑である。しかし、なんらかの理由によって人々はこの宇宙がどこからともなく、つまり無から生じたと信じて満足している。しかし、コーラの缶とその中身が偶然のプロセスによって出来ることが不可能であるなら、私たちの宇宙のように秩序だっいて複雑にデザインされたものががどのように単なる偶然によって形成されたのだろうか？論理的に我々はそれが不可能であることを知っている。

ある夜に私が話していた所から通りの向こう側で、若者がフットボールを練習しているのが目についた。そこで、私はそこに行ってそこで息子のプレーを見ていた男と話しはじめた。話をしていると、彼

は自分がユダヤ教徒だと言った。私たちはユダヤ人の信仰について少し話したが、彼はその信仰を
実践していないだけでなく実際は無神論者であると言った。私には、ユダヤ人で無神論者という結び
つきが非常に興味深く思われた。

一 冴え冴えと輝く月と満天の星が美しい夜だった。「今夜のような美しい夜に空をを見ていると、こ
の場所を造った創造主について考えることはないかい」と私は訊いてみた。彼は認めた。「それが私
の悩みの種なんだ」。彼は悩んでいた。なぜなら、彼はその美しい空を見た時、その素晴らしい創造
物には必ずどこかにその要因がなければならないことに気づいたからである。誰かがそれを造ったの
だ。しかし、問題は一体それは誰なのか？

多くの人は永遠の存在というものを想像できないので、神様が宇宙を創造したことを信じない。確
かに神にも初まりは必要だと彼らは考える。神はどこから来たのか？神を作ったのは誰なのか？そし
て、満足な回答を得られないと彼らは信じることを拒否する。面白いことに、ビッグバン理論が出てくる
までは、科学者は宇宙が永遠であると信じていた。それがそれ自身でどのように存在するようになった
か説明できないので、単純にそれはそこにあった、つまり始まりはないと主張していた。

現在の科学者は宇宙がビッグバンとともに始まったと主張する。しかし、それは答えを提供するより
もより多くの疑問を生じさせる。

爆発するべきなにかがなければならない。その物質はどこから来たのか？どのようなエネルギー源
が爆発を起こさせたのか？宇宙を形成するために物質を動かした触媒は何だったのか？無秩序から
どのように秩序が生まれたのか？考えてみてほしい。もしあなたが永遠に存在し、宇宙が出来ていくよ
うにスタートさせる能力があり、秩序と精密さと美しさを兼ね備えた計り知れない宇宙を創造するに十
分な能力を持つパワフルで知的な存在を信じるとすれば、それが神ではないのか？その神を信じる

ことは、あなたが思っているほど難しいことではない。あなたは神を理解できないかもしれないが、それは神が存在しないと信じる根拠にはならない。

ある夜遅くに帰宅して、テレビをつけるとデビットレターマン・ショーという番組をやっていた。ゲストは80歳のちょうどノーベル賞を受賞したイギリスの科学者だった。私はイギリス英語のアクセントが好きなのでその番組に引き込まれていった。

その科学者は言った。「デビット、科学は宇宙に始まりがあったという結論に達した」。レターマンは座り直し、驚きを持ってゲストを見つめ、言った。「ちょっと待ってくれ、ゆおっと待ってくれ。もしもこの宇宙に始まりがあるならそれは…」あなたが話していたらこの後をどう続けるだろう？ある人々は、「それは宇宙に終わりもあるということですか？」と続けるかもしれない。しかし、レターマンは続けた。「それは宇宙を始めたものがいたということになるのではないですか？」

論理的に考えれば何かに始まりがあるならそれを始めたものがいたはずなのである。それを始めたものが。科学者の返答は驚くべきものだった。彼はしばらく床を見つめ、それからレターマンを見て答えた。「それは科学が立ち入るべき問題ではない」と。なんと信じられないような告白だろう。彼は科学者なのでそのことについては考えたくないと答えたのである。我々は真理を探究する旅の中で論理的であることをやめることを選ぶことも出来るが、それは賢いことではないと思う。レターマンのように、始まるためには始める存在が必要だということを我々は直感的に知っている。

原因と結果

科学には因果関係という法則がある。これは議論の余地のない普遍的な法則であって、すべての結果には原因があるというものである。宇宙に原因のない存在(結果)というものは存在しない。あなたは両親からそして両親は祖父母から生まれたのである。しかし、これは永久に元をたどることはできな

い。最終的には第一原因(あるいは原因のない原因)、つまり最初の結果を造ったものにぶち当たることになる。何もないところから自然に出来たものではない何者かである。言い換えれば、全宇宙が生成され、動き始めるための起因となるものがなければならないのである。

NASAのゴッダード宇宙研究所の創始者であるロバートジャスロウはその必要性を認めている。宇宙、そして時間の初めから宇宙の内包するすべてのものは、原因不明の壮大な結果である。原因なしの結果？それは科学ではない。それは魔法の話であり、狂気の沙汰であり、悪魔や中世の世界のものであり、科学が排斥しようとしてきたものである。

チャールズ・ダーウィンでさえも認めている。

この壮大で不思議な宇宙が、私たちの意識そのものと共に偶然に出来たと想像することの不可能さは、神の存在の議論を引き起こさないではおかない。私は第一原因の存在を認めたとしても、なおそれがどこからきて、どのように起こったかを知りたいと切望する思いに気づく。

科学者の中には起因となるものの存在を認めたくない人もいるだろう。しかし、この法則によれば、宇宙を含めてすべて始まりのあるものには原因があることを否定することはできない。宇宙(結果)はそれ自体で存在をもたらすことは出来ない。それはそのものの外にある原因を必要とするのである。

C.S.ルイスはその著書「ドックの神」の中で次のように書いている。

卵が鳥以外から出てきたとするのは、鳥が永遠に存在していたとするのと同じように「不自然」である。そして卵一鳥一卵という限りない繰り返しが納得できる起源に到達しないなら、この連鎖の全く外側にその原因を探究するのが適当なのではないだろうか？ロケットの真の開発者を見つけるためには、エンジンの世界の外にある人の世界に行かなければならない。それと同様に、自然の秩序の本物の創始者を見出すためには、自然の外側を探ることが理にかなっているのではないだろうか？

あなたはどう思うだろうか？

有名な科学者のパスツールは、私たちの世界について、「私は自然を研究するほどにその創造主のみ業の前に呆然と立ち尽くす」と言った。彼の論理性が、この複雑で秩序だった作品には必ず創造主がいることを確信させたのだ。アイザックニュートンは述べている。「この最も美しい太陽系は知的でパワフルな存在の知恵と主権によってのみに起こりうる」と。あなたは、神が全てを無から創造したということを信じるのが難しいというかもしれない。しかしそうでなければ、すべては無から自然に生じたということになる。果たしてどちらのほうがより信仰を必要とするだろうか？

デザインの証拠

コカ・コーラの例でも分かるように、無計画な偶然からデザインは生まれない。あなたは、竜巻廃品置き場を通り抜けたら、そこに完全なジャンボジェット、メルセデスベンツ、あるいは高層ビルをそこに残していったという話を聞くことはないだろう。なぜか？無計画な偶然からそんなことは起こらないからである。

あなたは時計のすべての部品を靴箱に入れて10分間、上下にふったらきちんと動く時計が組み立てられると思うだろうか？もちろん思わないだろう。では、一年間振り続けたらちゃんと動く時計が出来るだろうか？もし50億年ではどうだろうか？答えは同じだろう。その方法ではそんなことは起こらない。そして、比較すればはるかに単純な構造の時計が出来ないなら、圧倒的に複雑な宇宙が偶然できることはありえないだろう。

それがデザインされたものであることを示す、私たちの太陽系のもつ驚くべき側面を考えてみよう。

1. 地球は生命が保てる程度のちょうど良い熱がある位置に太陽から離れている。ほかの太陽系の惑星

はいずれも近すぎるか遠すぎる(寒すぎるか暑すぎる)。

2. わずかな自転の速度の変化は生命体の保存を不可能にする。たとえば、時点の速度が現在の10分の1のスピードなら地球上の全ての植物は昼の間にカリカリに焼けてしまうか夜のうちに凍り付いてしまうだろう。
3. 気温の変化は、地球が太陽の周りを回る軌道がほぼ円であることによって、適切な範囲に保たれている。
4. 月は地球に害を及ぼさない潮の満ち引きを起こすに適当な、地球から38万4千キロの距離を公転している。もし尽きが今の距離より5分の一離れていれば、大陸は一日に二回、完全に水没してしまうだろう。
5. 地殻の厚さと海の深さは注意深く計算されているように思われる。もしも、これらが数メートル違えば、酸素と二酸化炭素の吸収量が大幅に変わり、植物と動物はその生命を保つことができない。
6. 地軸は公転する軌道面に対し、直角から23度傾いている。この傾きは、太陽の周りを回ることと相まって、季節を生じさせる。これは食料を生み出すために絶対に不可欠である。
7. 地球の大気(特にオゾン層)は、太陽からの殺人的な紫外線に対する防御帯になっている。それがなければ、全ての生命は破壊されてしまうだろう。
8. そのうえ、大気圏は毎日、秒速48キロメートルのスピードで突入して来る約2000万個の隕石を燃や

し続けることによって、地球を守っている。この重要な保護がなければ生命体への影響ははかり知れない。

9. 地球の大気を形成する二大要素である窒素(78パーセント)と酸素(20パーセント)である。この微妙で絶妙な比率はすべての生物にとって限りなく重要である。

10. 地球の磁場は有害な宇宙の放射線から地球を守る重要な働きをしている。

これらはすべて偶然の産物であろうか？私は、そう信じるためには知的自殺をしなければならないと思う。証拠を考える時、あなたの論理性は何と言うだろう？

有名な宇宙物理学者スティーブンホーキングは以下のように結論した。

宇宙と物理学の法則はすべて私たちのためにデザインされたように見える。もし40のうちの一つでも物理的特性の数値が僅かに異なっていたら、私たちが知っているように生命は存在しえない。原子も安定しないし、結合して分子にならない。星もより重い元素を形成しないし宇宙も生命が発生する前に破壊されてしまう。

デビットレターマンショーに登場した紳士と違って、多くの科学者は正直に、論理的証拠に重きを置き、何の計画性もない偶然によって高い秩序を持つ私たちの宇宙が創造されたとはとても信じられないと名言してきた。進化論者であったホーキングでさえ、「私たちのような存在を創造しようとした神の業をなくしてなぜ宇宙がこのように始まったのかを説明するのは難しい」と認めている。

宇宙の形成について他の科学者が達した結論を考えてみよう。

フレッド ホイル(イギリスの宇宙物理学者)

事実の常識的な解釈として障地を超えた知性が物理学や生物学、化学を操っていることを指し示している。自然には、語るに値する無意味な力は存在しない。事実からはじき出されるこの結論は圧倒的で、ほとんど疑問を挟む余地が無いように思われる。¹²

ポール・デイビス(オーストラリアの宇宙物理学者)

わたしには、かげで何らかの法則が働いて宇宙を形成したということを示す強力な証拠がある。それは、まるで誰かが宇宙を造るために秩序とパターンを精密に調整したように見える。デザインされた印象がとてつもなく強い¹³

アラン サンダージェ(クローフォード賞を受賞した最も偉大なる天文学者)

世界は部分的にもその組み合わせにおいても偶然の産物としては複雑すぎる。生命とその秩序だった成り立ちは、単純に言ってあまりにもよく出来すぎている。¹⁴

「すべての証拠を検証するとき、超自然的な力いや、むしろ起因となっている力が関与しているという
思いをどうしても拭えない」

ジョージ・グリーンスタイン

ジョン オキーフ (NASA 天文学者)

我々は、天文学的観点から言って限りなく恵まれた生命体であり…。もしも宇宙が緻密に計算されて形成されなかったら決して存在しなかっただろう。これらの状況から私には宇宙は人間が住むために作られたとしか思えない。¹⁵

アルノ ペンジアス(ノーベル物理学者受賞者)

天文学は私たちを特異な事象に導く。無から作られた宇宙は生命体が存在するのに適切な条件

を満たすために非常にデリケートなバランスの上に成り立っており、それは計画に基づいている(人はそれを超自然と呼ぶかもしれない)。¹⁶

ジョージ グリーンスタイン(天文学者)

「すべての証拠を検証するとき、超自然的な力いや、むしろ起因となっている力が感としているという思いをどうしても拭えない。突然、意図的ではなく人間を超えた存在の科学的な証拠に出会って躓いてしまうことは可能であろうか？我々にとって住みやすいように、慎重に宇宙を造ったのは、介入された神なのだろうか？¹⁷歴史上最高の科学者であると言われるアルバート・アインシュタインは「私は神様がどのように宇宙を創造したのか知りたい」と述べた。恐らく彼のこの欲求は、我々が証拠を検証するときに考えなければならない事であろう。¹⁸

道徳律

神の存在についてもうひとつの議論は、道徳律の現実性である。人間は道徳的存在であるが、進化論は我々の道徳観念がどこから来たのかを説明できない。どのようにして我々は、ある事が正しくないなら間違っていると直感的に知ることが出来るのだろうか？何故正しいことと誤ったことが存在するのだろうか？

我々の道徳的性質は正義を求めるところからも見る事が出来る。我々は常に正しいことが出来るわけではないが、我々は過ちを犯したときにそれについて過ちだと知ることが出来る。そして、過ちが起きた時には我々は正義がなされることを要求する。それによって人間が生活しているこの道徳律は、必ずどこからか来たはずである。しかし、どこから？道徳律は意図のない偶然の産物ということでは説明がつかない。

道徳律は前述した因果関係の法則とも関連している。因果関係の法則によれば、結果が原因の

前に起こることはありえない。そして、結果が原因よりも偉大で優れていることはあり得ない。したがって、宇宙が存在する以前に存在した何かがなければならぬ。そしてその原因は、わたしたちの驚くばかりの宇宙そのものよりもすべての点で偉大でなければならぬ。建物がそうであるように、宇宙もそこにはデザインがあることを示している。ということは、デザイナーが必ず居るということである。宇宙のデザインが知性を示す以上、デザイナーも知的でなければならぬ。そして、宇宙が生命体を持つ以上、デザイナーも生命を持っていないとすればならぬし、道徳性がある以上はデザイナーも道徳的でなければならぬ。

このことを真剣に考えるとき、神がいないと信じるほうが、神がいると信じるよりも、より信仰を必要とする。物質がなぜ無から存在するようになったのか？原因がないのに、どのように結果が生じたのか？生命がないものからどのように生命体が出来上がったのか？知性のないものからどのように知性のあるものが生まれたのか？なぜ無意味なものから意味のあるものが生まれたのか？これらのことはすべて、無神論者が一貫性を保つためには信じなければならないことである。そして、これはすべては、反駁の余地のない因果律の法則と矛盾する。

これらのことは、あなたにとって論理的にじっくりくさるだろうか？常に証拠、事実、真実に基づいて物事を決定しなければならない。決断する場合には、感覚だけで先走ってはいけない。感覚も人生のある局面では重要なこともあるだろう。しかし、何が真実かを決定するのは、感覚ではない。

あなたの下にある氷は厚くなり始めている。創造、デザイン、芸術、秩序、科学、そして道徳律の証拠を考えると、永遠なる真実の探求はあきらかに絞り込まれてくる。

次章では宇宙のデザイン過程についてさらに詳しく述べてみたい。そして、第3章ではそのデザイナーとはいったい誰なのかを考察する。

2章

私には今はっきりと見える

自動照準、自動焦点、自動しぼり調整など、人間の目はおよそ完全な暗闇から明るい陽射しまで髪の毛の直径のものを見極め、一日に平均して10万回の異なる動きをする、、、そして、我々が眠る間にその整備をする

スコット・ヒューズ博士

異なる距離に対して自動フォーカスし、光量の違いを許容し、色や球面の収差を補正するという、人間の眼に備わった真似ることのできない精巧な作りの全てを考えると、私は自然淘汰で出来るなどとはばかばかしくて考えられない

チャールズ・ダーウィン

前章で述べたように宇宙がデザインされたことは明らかである。創造者を示す論理的な証拠にもかかわらず、人々は進化論を信じ神様の存在を否定する。我々は幼稚園でカエルが王子様になるのはおとぎ話と教わった。しかし、高校や大学では、カエルが王子様になるのは科学だと教えられたのである。そのため、ある科学者たちが全宇宙がひとりで出来たという証拠がある言うと、おとぎ話の「創造主」は必要ないと考えてしまうのである。

私は公立学校の環境で育ち公立の大学に行ったので、学校生活が始まった時からと進化論を教わった多くの子どもたちの一人であった。それで一人の大人として、果たして進化論が万物が存在するに至った理由たり得るかと考えた。私はそれについて色々調べてみることにした。その結果、驚くべ

きことを知った。

このことは神が存在するかどうかだけでなく、どんな神なのかを決定することなので、少しの間その証拠をありのままに調べ、それがどのような結論に導くか見てみよう。

進化とは何か？

まず、「進化」とは何を意味するかから見てみよう。進化には二種類ある。一つはマイクロな進化である。これは種の範囲内における比較的小さな変化であり、バクテリアが抗生物質に対して抗体を作るなどいたるところで見ることが出来る。これは適合や自然淘汰とも呼ばれる。マイクロな進化は観察可能であり、また測定可能であるので科学的である。もう一つはマクロな進化である。これは連続した小さな変化が時間とともに少しずつひとつの種を別の種に変えることが可能であるという概念である。これは小さな変化だけではなく、完全に新しい特徴と体形も含むというものである。

J.P.モーランド博士は以下のように要約している。

マクロな進化とは、すべての生命体がある原始的なスープの中の非生命体から発生し(そこでは、化学反応に加えてある種のエネルギーが最初の生命を発生させた)、そして、初めに生まれた生命体から人間に至るまで進化したという一般論である¹⁹。

マクロな進化—マイクロな進化で見られる(ひとつの種の範囲内で起こる)変化が、恐らく連続的に際限なく続き、遂には新しい種を生むという信念—が進化論の最も重要な骨子である。しかし、マクロな進化はこれまでに観測されていない。したがって、科学的ではない。

進化論の真実について私が研究していた時に学んだ最も動かしがたい事実は、マイクロな進化は遺伝情報を超えないということである。現存する生物のDNAの中になく特徴は自然淘汰では起こりえない。つまり、種の中の変化はすべてこの範囲に限られるのである。例えば、犬には様々な種類が

あるが、チワワであれアイリッシュウルフハウンドであれ、メキシカンヘアレスであれヨークシャーテリアであれ、すべてどれも犬であるということである。

アンサーズブックの中でケン・ハムはマイクロな進化の限界を述べている。

適合と自然淘汰は生物学上の事実である。しかし、アメーバから人間への進化は違う。自然淘汰は現在の種が持つ遺伝的情報のなかでだけ行われるのであって、新種への変化はありえない。例えば、羽の遺伝子を持つ爬虫類は見つかっていないので、爬虫類が羽を持つことはありえない。突然変異は修正や既にある構造をなくすことはできても新しい種を作り出すことはできない。²⁰

したがって、生物の変化には常に限界がある。自然淘汰は結局のところ選択である。新しいものを作り出すことはできない。生命体にある遺伝的設計図の中にある情報の中から選択することだけしか出来ないのである。しかし、進化論者はこの重要な事実を無視し、一つの種が新しい情報を得ることが出来、別の種に進化すると主張する。残念ながら進化論者はその為のどんな根拠を示すことができない。それはこれまでに証明されたこともないし自然の中で観察されたこともない。そして事実観察され得ないのである。マクロな進化における二つの条件を詳しく見てみよう。どちらも、進化の理論が真実であるために必要な条件である。

生命の始まり

進化論者の最初の主張は非生命体から生命体が生まれたとすることである。そこにはひとつの問題がある。それが不可能であることは、ずっと示されてきた。科学的な方法では、あることを証明するために繰り返し観察できることが必要である。しかし、科学者はその熱心な努力と根拠のない主張によっても非生命体から生命体を作ることを再現できないでいる。その反対が残念ながら事実である。進化論者であるマーティン・モーは一世紀にわたる生物学の研究はわたしたちに生命体は生命体か

らほか生まれることはない²¹ということをお教えたかと認めている。したがって、進化論者の主張する遠い過去のいつか、自発的な発生があったということ、すなわち、非生命体である化学物質から生命体が生まれたというのは科学的でないし、正確ではない。

ルイス・パスツールと幾人かの生物学者たちは、自然発生的な生命体の誕生が不可能であることを明らかにし、生命体は既に存在する生命体以外から生まれることはなく、またその種だけが存続するという生物発生の法則を証明した。

著名な進化論者のジョージ・ゲイロード・シンプソンとその同僚は言及している。

生物発生の法則に関して疑わしいところは全くなく、生命体は他の生命体からしか発生することは無く、その生命体の単位である細胞は、常にしかも排他的に同じ種の他の細胞から発生する²²

生物発生の法則は生命体が必ず生命体からしか生まれないと規定しているので、これは私たちの心に次の疑問を引き起こす。宇宙の初めの生命体はどこから来たのか？もし生命体は必ず生命体からしか発生しないとするなら、論理的な結論は生命体が常に存在していたということになる。原因がない結果がないことを想起してもらいたい。そして、結果より小さい原因がないことも。したがって、唯一の可能性は、我々が永遠に存続する生きる創造主から来たということである。

ノーベル賞受賞者のフランシス・クリックは述べた。

生命体が生まれるまでの過程はどのようにしても再現することができない。正直なところ、現在のあらゆる科学知識をもってしても、生命の起源は奇跡であると言えようがない。それが起こるにはあらゆる条件が一致しなければならない。²³ 生物発生の法則は、生命発生の起源に加えて種がその種を超えないことをも述べている。それぞれの生物の遺伝子からは、同じ種のものだけが生まれるように、ユニークにプログラムされている。このことは、なぜクジラがクジラだけを、牛が牛だけを、アリがアリだ

けを、そして人が人だけを生むことを説明するが、同時に、我々を進化論についての次の問題に導くこととなる。

中間種 (Transitional forms)

マクロな進化の他の主張は種が少しずつ時間をかけて他の種へ変化したということである。マクロな進化を証明するために、科学者は様々な生物を取り上げ、その共通点を示し、明らかに共通の祖先から進化したのだと言う。あなたも学校の教科書で魚が爬虫類へ、そして哺乳類へ進化した表を見たことがあるだろう。

しかし、わたしがあるメーカーの車の様々な車種を、軽自動車から高級車まで大きさの順に並べて、その類似点を示したとしよう。あなたは、それらが明確に共通の祖先から出てきたと信じるだろうか？それともあなたは常識的にそれらが共通の自動車メーカーが作ったというふうに判断するだろうか？

これらの表を造るために用いられた化石は、せいぜい馬の中にも様々な種類の馬が存在するというミクロな進化を示しているだけである。しかし、ある種が他の種へと変化したという何か証拠はあるだろうか？そのような証拠はどこにもない。実のところ、それは起こらなかったという証拠がある。もしもマクロな進化が真実であれば、全ての種は完成形よりも中間形の時間の方が長かったであろう。そして、それらを示す幾百万の中間種——進化の途中状態の生物——の化石がなければならない。しかし、そのような化石は存在しない。

「種の起源」(On the Origin of Species by Means of Natural Selection or the Preservation of Favored Races in the Struggle for Life)において進化論を擁護したチャールズ・ダーウインは、中間種のないことを彼の理論の致命的な欠点であると認めている。

この理論によれば数えきれない中間種が存在しなければならないが、なぜ私たちは地殻の中に

埋まっているそれを発見することができないのか？なぜ、自然は雑然としてなく、私たちが見るように種によって整然と別れているのか？地層調査によって、理論上必要とされる過去と現在の間に変化した限りなく多く細分化された様々な種を発見することが出来ない。そしてこれこそが、その理論に対して議論される多くの反論の中で最も明確なものである。しかし、それに対する説明は、地質記録 (Geologic record) が極端に不完全なのだということである。²⁴

ダーウィンは彼の理論を証明するためには何が必要かを知っていた。そして、正直にそれを述べている。彼自身もまた、彼の理論に対する数々の正当な反論、とりわけ中間種の欠如について認識していた。進化論が本当であれば数億個の進化過程の化石が発見されなければならない。ダーウィンは、我々がまだ十分な化石の証拠を発見していないことが問題であると明言した。

確かにこれは、近代地質学によって検証されてきた。ダーウィン以降過去 150 年間に、私たちはどのような化石を発見しただろうか？我々は完全な形の毛に覆われたマンモス、完全な魚、完全な爬虫類等の化石を発見した。発見された化石はすべてが完全な形で、完全にその種に属するものであった。進化過程の骨や魚のヒレやくちばしは発見されなかった。発見された数百万の化石の中に、もし彼の進化の理論が正しいならば必ず存在しなければならないとダーウィンが言った中間種は、ただの一つもない。これは何を意味するだろう？彼の理論のどこかに大きな誤りがあるということである。この理論が正しいのであれば、化石は単純生物から複雑な生物までの少しずつの進化の過程を示さなければならない。他の専門家の意見を見てみよう。

ジョージゲイロードシンプソンは認めている

中間種の欠如は哺乳類に限らない、それどころか、多くの古生物学者が長い間指摘してきたように、ほとんどすべての生物において認められることである²⁵

また、A.J. マーシャルは述べている

鳥類の起源は大部分が推論にすぎない。爬虫類から鳥類への顕著な変化を示す段階の化石は存在しない。²⁶

さらに、ニューヨーク大学の H.W.スミスは脊椎動物の化石の欠如について次のように述べている

溝は埋められないまま残っている。そして、脊椎動物の進化の始まりは、未だ想像の域を出ていない。²⁷

40 年の間進化論の証拠を探究し、何も発見できずに終わったニルスヘリバートルソンは以下のよう述べている

化石の材料は今や完璧である。それは新しい種類を構築できるほどである。それにもかかわらず、一連の中間種を示すことは、材料の不十分さによって出来ない。実際に不足している。それが満たされることはないだろう。²⁸

結論として、マクロな進化の証拠は化石からは見つからない。つまり、一つの種から他の種へと変化した証拠はない。進化論者は中間種の欠如を説明するために、種は急激に進化したためにその化石を残さなかったと主張する。しかし同時に、進化の速度は遅すぎて我々の誰もが今日それを見ることはできないと言う。²⁸

現実的に言って、それを見るために生物の進化が速すぎようが、遅すぎようと、マクロな進化の証拠となる化石はどこにもない。つまり実のところ、誰も進化の証拠をどこにも見ることは出来ないのである。我々は全く根拠のないことを進化の「事実」と呼ぶことが出来るだろうか？それは健全な理論としては成り立たないのではないだろうか？

「進化」という雑誌の中でデビッド・キッツは同僚の進化論者に述べている

古生物学が進化を「目に見える」かたちで提供するという楽観的な期待に反して、進化論者にとって厄介な幾つかの難問を提供してきた。その中で最も厄介なのは、化石資料の「ギャップ」である。進化論が成り立つためには、種と種の間の中間的な形のを必要とするが、古生物学はそれらを提供しない。

化石資料が示すものは少しずつの変化ではなく、突然の出現と安定性である。ほとんどの種の化石は、一度に全て現れ、しかもその種として完全なかたちをしている。²⁹

また、古生物学者のロバート キヤロルは 次のように述べている。

大規模な進化の驚くべき特徴は、その起源直後の時期における各種族の極めて速い広がり、その後の長い期間それらの生物の基本構造と行動様式が変わっていないことである。欠如しているのは、ダーウィンの仮説である進化の過程にある多くの中間種である。³⁰

事実上、古生物学者のとなえるカンブリア期の爆発の期間に、すべての主要な動物のグループが、どこからともなく、先立つ中間種を持つことなしに突然現れたのである。したがって、動物が共通の祖先から広がったというよりは、化石はすべての主要なグループが一時期に突然現れたことを示している。考えてみてほしい。この証拠は生物が偶然によって徐々に進化したという進化論を支持するだろうか？それとも創造主を示すだろうか？

進化論者は進化過程の化石は存在するがまだ発見されていないだけだとか、破壊されてしまったのだと主張する。このように全く証拠がないのにそれを信じることは、果たして科学の範疇に入るのだろうか、それともそれは信仰の範疇なのであろうか？

なぜ、ある人々は、根拠のある創造主を信仰によって信じないで、根拠のない進化論を信仰によって

信じることを選ぶのだろうか？根拠となる証拠が無いのに。実のところ、証拠はそれが誤っていることを示しているのに。

ケント・ホバンド博士は、あらゆる理論に対するテストは、その理論が基本的な質問に答えを提供するかどうかであると述べている。あなたならこれらの質問にどう答えるだろうか？

1. いつ、どこで、なぜ、どのようにして非生物は生命体になったのか？
2. いつ、どこで、なぜ、どのようにして生命体は繁殖することを学んだのか？
3. 最初の細胞は何によって有性生殖による繁殖の能力をもったのか？
4. なぜ、植物や動物はさらなる食料を必要とし生存の機会を減少させるにもかかわらず、その種を繁殖しようとするのか？(生存へ駆り立てさせるのは各個体なのか、それとも種なのか？ あなたはそれをどのように説明するのか？)
5. 突然変異(遺伝的信号の組み換え)はどのように新しく進歩した品種を生み出すのか？(英語の文字を組み換えても中国語の本にはならない)
6. 自然淘汰は保持している遺伝的情報の範囲内で可能であり、種を安定的に保とうとする傾向がある。もし進化論が真実なら、必ず起こるはずの遺伝的情報の複雑化をどのように説明するのか？
7. いつ、どこで、なぜ、どのようにして
 - 1) 単細胞植物は多細胞生物になるのか？(その過程の2細胞や3細胞の植物はどこにあるのか？)

- 2) 魚が両生類になるのか？
- 3) 両生類が爬虫類になるのか？
- 4) 爬虫類は鳥類に変わるのか？（彼らの肺、骨、眼、生殖器官、心臓、移動方法や体を覆う構造などはどれも全く違う）

8. いつ、どこで、なぜ、どのようにして、何から

- 1) クジラは進化するのか？
- 2) 竜の落とし子は進化するのか？
- 3) コウモリは進化するのか？
- 4) 髪や、皮膚、羽毛、うろこ、爪などは進化するのか？

9. 以下のうちなにが最初に進化したのか(どのように、どのぐらいの期間、ほかのものがなくてもそれは機能したのか)？

- 1) 消化器官、消化すべき食糧、食欲、食料を探し食べる能力、消化液、あるいは自分の消化液に耐えるだけの体の耐性(胃、腸など)
- 2) 生殖する能力とその欲求
- 3) 肺、肺を守るための内側の粘液、咽喉あるいは肺に吸い込まれるための完璧な混合気体

- 4) 植物あるいは植物の受粉をする昆虫
- 5) 骨、靭帯、腱、血流、あるいは骨を動かす筋肉
- 6) 免疫機能あるいはその必要性³¹

少し時間を取ってこの答えをよく考えてみてほしい。あなたはこれらが合理的であり科学的に証明できると本当に思うだろうか？あるいはそのように起こったのだろうかとただ単に信じ、希望指定のだけだろうか？あなたは本当に進化論が理にかなっていると考えるだろうか？科学者は新しい身体の構造と複雑な内臓は――それらの機能の相互関係とともに――単純にその生物の新しい必要に応じて進化したと我々を説得したいのである。

しかし、論理的に考えてそれは不可能である。自然淘汰はある生命体の比較的小規模の変化を説明するには良いかもしれない。たとえば、鳥のくちばしが周囲の環境に応じて変化するような。それは、現在の機能を保ちながらそれを高機能にしていくことである。しかし、最初にあった複雑な構造がどうやって出来たのかは説明できない。

同時に我々は中間種の論理的な結論を出さなければならない。魚が部分的なエラを持ちながら生きうるだろうか？いや、それでは死んでしまう。鳥が半分の羽根だけで飛べるか？いや、それでは他の動物のえさになってしまうだろう。我々は不完全な消化器官で食料を消化できるか？不完全な眼球で見れるか？チーターは完全に形をなしていない足で走れるか？常識で考えてほしい。

失われた環 (Missing link)

このことは、私たちを中間種の究極の問題へと導く。サルと人間の間の失われた環である。もしも、人間がサルから進化したのであればこの二つには多くの中間種の化石が存在するはずである。そし

て、人間にまで進化したのは相対的に現在に近いはずなので、化石は傷む期間が短く、大量に見つかるはずである。

では、科学者はそれらを発見したであろうか？ネブラスカ人、ピルトダウン人、ジャワ原人、北京原人、ネアンデルタール人、そしてルーシー（アウストラロピテクス）が「失われた環」であろうか？しかし、あなたはこれらのどれもが科学的に間違いであったとされたことを知っているだろうか？それにもかかわらず、それらは私の学校の教科書に載っていたし、科学的に間違いであることは証明されているのにそれらの多くは今でも教科書に載っている。では、一つ一つの証拠を見てみよう。

ネブラスカ人はネブラスカで発見された一つの歯から創りだされた。ネブラスカ人は、たった一つの歯（と多くの想像）を基にその頭蓋骨、骨組み、彼らが使った道具や家族までが描かれたのだ。ただ問題は、その歯はもともとは絶滅した種類の豚の歯であったことが後に明らかになったことである。

ピルトダウン人は意図的にでっちあげられたものである。頭蓋骨の断片は、実は現代人の骨を集めたものであり、あごの部分と二つの歯はオランウータンからとったものである。歯は人間のものに見えるように加工され、骨と歯は古代のものであるかのように着色された。すべての発見は最初から真実を探求しない愚かな人々に向けた偽造だったのである。

ジャワ原人は、広い範囲に散らばっていた骨から形成された一脳天の骨と大腿骨は、遠く離れた砂利堆積場から発見された。それらは実は人類のものではなく、大テナガザルのものである。

北京原人は、後ろがが強く打されて陥没したサルのものであるような頭蓋骨が基になっている。その骨が様々な動物の骨と道具類と一緒に発見されたため、これらの道具を使うサルたちは人間の祖先ではないかと推測されたのである。しかし、後になってそれは人間が食べた動物のものであったことが分かり、道具もサルによるものではなく人のものであったことが分かっている。

ネアンデルタール人は完全な人間であったことが分かっている。発達した文化を持ち、芸術や宗教も持っているごく普通の現代人である。だが栄養不足で苦しんでいたのだ。

ルーシーは失われた環ではありえない、なぜならルーシーの時代よりも前にすでに人間が直立歩行していたことが分かっているからである。

失われた環は依然として失われたままである—そして永遠に失われたままであろう。なぜなら、人間を律している法則が全ての生命体を律しているからである。そして、失われた環など存在しないのだから。すべてのものは突然化石の中に現れ、完全な形をしているのである。

前述したようにマイクロな進化(種の内における変化あるいは適応)は多くの証拠が発見されているが、マクロな進化——即ち1つの種が別の種へと進化すること——については、それを立証する証拠は全く見つかっていない。科学者はいかなる進化過程の化石も失われた環も見つけていないのである。英国自然博物館のコリンパターソン博士は著名な進化論者で進化論についてたくさんの書を書いている。自分の博物館に700万個の化石を所蔵している彼は、どうして彼の本に進化過程の化石のイラストがないのかと問われたときに以下のように述べている。

私は、進化過程の化石についてのあなたのコメントに完全に同意する。もし、私が化石であれ生きているものであれ進化過程のものがあれば展示するだろう。しかし、どの化石もその議論に加えるのに十分な証拠価値を持っていない。³²

脊椎動物の化石に関して第一人者であるナイルス・エルドリッジは、証拠に対して正直であろうと決心した。以下は彼の結論である。

古生物学者が進化論を論じることを長い間避けているのも無理はない。そんなことは起こらないだろう。些細な変化とたまに起こるわずかな変化の累積を徹底的に詳しく検証した結果、何百万年もか

かるスピードでは、遅すぎて進化論で考える歴史の中で起こったという全ての大きな変化を説明することは、できない。我々が進化論の目新しさを紹介されるとき、それは通常衝撃的であるが、確かな証拠は伴っていない。進化を示す化石はどこにも発見できない。進化の議論はどこにも永遠に行きえない。³³それが、進化論について学ぼうとするとき、化石記録がしがない古生物学者に突きつける圧倒的な結論である。

なんという説明であろう！彼らは進化論に証拠がないと完全に言い切っている。そして、長い研究の結果の真実は進化論を信仰するだけの証拠がないということである。あなたはどうか？

確率論

前述したように生物発生の法則によると進化論は不可能である。そして、中間生物の化石がないことがその結論を支持している。もう一つ私に進化論を認めさせなくさせた事実は確率論である。それは、同時に、非生命体から生命体が生まれることが不可能であることをしめすものでもある。著名なイギリスの天文学者であるフレデリック・ホイール卿によるとアミノ酸が生命体に必要なエンザイムを作り出す確率は10のマイナス4万乗以下であると述べている³⁴。1兆分の一は10のたったの12乗分の1である。そして宇宙には10の80乗分の1の陽子しか存在しない。したがって、10の4万乗分の1以下というのは想像することも出来ない。数学者によると10の50乗分の1以下の確立の出来事は不可能である。それは、どれだけ時間をかけようが、およそ考えられる限りの機会があっても起こることは不可能なのである。

ホイールの述べたエンザイムが自然に出来る確率は、10の4万乗分の一ということを思い出して欲しい。それは、10の50乗分の一よりもはるかに低い確率であり、それは起こらないということである。イエール大学の生物物理学の前教授であるハロルド・モロビッツ博士はもっとも小さく最も単純な構造

の生物が発生する確率は10の3億4千万乗分の1以下であると見積もっている。また、天文学者であり進化論者でもあるカール・セーゲンは地球を含む宇宙のどの惑星でも生命が進化する確率は10の20億乗分の一であると見積もっている。

この数字がどれほど莫大かお分かりになるだろうか？これは300ページの本にその数字を書くだけで6000冊にも上る。したがって、もし何か不可能なことがあるとしたら、それは生命体が自然に誕生することであろう。確率の法則によれば非生命体から生命体が誕生する可能性は、可能性の範疇の遥か彼方にあるのである。そして、それは一つの分子が生命体になる確率に過ぎない。あなたはどのようにして生命体の複雑さや極めて詳細なDNA(デオキシリボ核酸)情報の形成を説明できるだろうか？

例えば人間のDNAは30億以上の情報が含まれている—文字通り何万ページにも相当する。その情報が一時に1ページの割合で発達し進化したのであろうか？どのようにして何の方向付けもない無作為のチャンスがこのような複雑な情報を作りえたのであろうか？考えることも出来ない。これは偶然ではなくデザインされたとしか考えられない。

かつてある男性が私に質問した。コンピュータとロボットと747ジャンボジェットとミミズのなかでどれが一番複雑なデザインを持っていると科学者は言うかかと。私はミミズであると思った。彼はその通りと言った。科学者と私の答えとは同じであった。もしあなたが、消化器官やほかのどの最も小さなシステムの機能を調べても、その高度に秩序だった働きを認めることになる。我々はコンピュータに創造者とデザイナーがいることを知っている。ロボットや747ジャンボジェットも同様である。しかし、どうしてミミズは偶然に長い期間を費やして生まれたのだと考えるのだろうか？まったく話にならない。もしも非生命体が創造者とデザイナーを要するなら、複雑なだけでなく、生きていて、そして繁殖することのでき

るミミズはなおさらである。しかも、他の3つの非生命体よりもさらに偉大な創造者とデザイナーでなければならない。そして、単純なミミズでさえもそうであるなら驚くほど複雑な人間の脳を形成するのがどのようなことか考えてほしい。

カール・セーゲンも認めている、、、

人間の脳の情報は、おそらくすべての神経細胞の結合数に匹敵するだろう—およそ100兆、10の14乗ビットである。もしも、英語で書くならその情報は2000万冊にも及ぶ—世界でもっとも大きな図書館に匹敵する。2000万冊の本に匹敵する情報が、我々全ての人の脳には入っているのだ。脳は非常に小さなスペースにある大きな器官である。脳の神経化学反応はおそろしく速く、その機構の回路は、人間が考えだしたどんなものよりも優れている³⁵。

もしも、人間が脳のような驚くべきものを造れないとしたら、いったい誰が出来るだろう、いやしたのだろうか？世界的に有名な詩歌論の支持者であるリチャード・ドーキンス教授は述べている。我々は、生き物が偶然に出来たとするには、あまりにも美しく、あり得ないほど素晴らしくデザインされているのを見てきた³⁶。

還元不可能な複雑性

進化は生命体の構造の複雑さを増加させたことはないと主張する生化学者マイケル・ベー博士は、彼が「還元不可能な複雑性」と呼ぶものを明らかにした。これは生命体は複雑すぎて、部分一つ一つが機能を保ちながら集まって一体になることは出来ない。すべての部分が同時に出来なくては機能しないと彼は主張する。

還元不可能な複雑性とは以下のような意味である。それは、幾つかの部分が相互作用をもちながら、調和して成り立って一つのシステムの基礎的な機能に貢献しているということである。どの一部が

欠けてもそれは実質的にシステムが機能しなくなることに繋がる。還元不可能な複雑性は、古いシステムが少しずつ連続的に改良されて出来あがることはない(つまり、同じメカニズムで動いているもとの機能が、連続的に改善されて出来上がることはない)。なぜなら、還元不可能な複雑性をもつシステム以前のシステムというのは、その定義上ある部分を欠いており、機能しないからである。

自然淘汰はすでに働いているシステムから選択されるだけであり、もしも生物学的なシステムが少しずつ出来上がるのでないなら、一度に完全なものとして出来なければならない。なぜなら、自然淘汰は活動しているものに対してなされるものだからである³⁷

ベー博士はネズミ捕りを例に挙げる。ネズミ捕りはすべての部分が同時に存在しなければ機能しない。一つの木材でネズミを捕まえることはできない。木材とバネだけでも同様である。木材とバネと蝶番でも駄目である。ネズミ捕りが機能するためには、すべての部品がそろって、しかも正しく組み合わせられていなければならない。還元不可能な複雑性をもったどんなシステムも同じことである。例えばひざの関節は、少なくとも16個の重要な特徴を持っており、そのためには数千の情報と同時に遺伝的情報の中になければならない。したがって、ひざは徐々に進化したのではあり得ない。そうではなくて、全体がいったんに全てが完全に機能するものとして創造されたのである。

チャールズ・ダーウィンも驚くべきことに還元不可能な複雑性のような理論が証明されれば彼の理論はくつがえされると彼自身が認めている。種の起源の中で彼は述べている。

もしも存在する複雑な器官が、おびただしい、連続した、少しの変化の積み重ねによってはできないことが証明されれば私の理論は完全に崩壊してしまう。³⁸

ダーウィンは冒頭でも述べたように人間の眼の複雑な働きをどう理解するかに困難を覚えた。目の驚くべき複雑性を考えると、徐々に進化したというのは、全く馬鹿げた考えであることを認めている。ス

コット・ヒューズ博士は人間の眼の出来ることについて以下のように述べている。

自動照準、自動焦点、自動しぼり、自動的な光のしぼりを備えた人間の眼は、ほぼ完全な闇から明るい太陽光まで対応し、細い髪の毛も見る事が出来、日に約 10 万回の異なる動きをし、フルカラーで立体的な映像を忠実に与え続ける。これらはすべてなんの不自由もなく行われ、眠っている間には自分でその整備をする³⁹。

鞭毛は、バクテリアの後ろに位置する小さなモーターで動くプロペラで、バクテリアは、それによって水のような環境の中を動き回る。10 万 rpm で回転し、4 分の 1 回転の間に方向を変えることができる。この分子のモーターの複雑な機構は、回転子、固定子、Oリング、軸受け、回転軸等、約 40 の相互関係が調整された複雑なたんぱく質のパーツを必要とする。

それでは、バクテリアの鞭毛の驚くべき仕組みを見てみよう。ハーバード大の生物学者ハワード・ベルグは、彼の講義でそれは宇宙で最も効率的な機械だと述べた。鞭毛はバクテリアの後ろに位置する小さなモーターで動くプロペラで、バクテリアは、それによって水のような環境の中を動き回る。10 万 rpm で回転し、4 分の 1 回転の間に方向を変えることができる。この分子のモーターの複雑な機構は、一回転子、固定子、Oリング、軸受け、回転軸等、約 40 の相互関係が調整された複雑なたんぱく質のパーツを必要とする。

このどの部分が欠けても適切な大きさでなくても機能する鞭毛は形成されない。では、それがどのように進化したと言えるのだろうか。

マイケル・ベー博士によると、機能する集合体である還元不可能な複雑なシステムを創り出せる唯一の可能性を我々は知っている。それは、インテリジェントデザイナーである。分子生物学は一つの細胞でさえも、とてつもなく複雑であることを示してきた。細胞生物学のリーダー的存在、国立自然科

学研究所の所長、ブルース・アルバーツは述べている。

我々は常に細胞の複雑さを過小評価している。一つの細胞全体はそれぞれが多くのタンパク質の大きな機械によって構成された連動して動く組み立てラインの精巧なネットワークを持っている工場のようなものだ。なぜ、機械と呼ぶのか、それは機械が目に見える世界を効率的効率的に処理するために人間によって発明されたからである。これらのタンパク質の集合体は、高度に統合された動く部品を含んでいる。⁴⁰

これらの器官が同時に所定の位置になれば細胞は機能しない。生命体はこれらの機械から出来ているのだから、生命のシステムが自然発生的に出来たという説明は愚かしい。ベー博士は言っている。

ものすごいシステム、細胞の中には還元不可能な複雑さがある。単純な自然の法即によって生命体が出来たと考えることに慣れている20世紀の我々には、生命がある知性を持ったものによってデザインされたという結果としての事実は驚きである。⁴¹

これらの高度に入り組んだ細胞の中の機械は、人間の設計したものとよく似ているが、多くの場合、人間がつくる事が出来るものよりもはるかに優れている。進化論者のリチャード・ドーキンス博士は細胞内のDNAについて「遺伝子の機械語は不思議なほどコンピュータのそれに似ている」⁴²と述べている。

マイクロソフト社の共同創業者であるビル・ゲイツ氏も「DNAはコンピュータプログラムに似ているが、我々が造ったどんなソフトウェアよりも遥かに優れている」と述べている。⁴³

ゲイツ氏は彼のソフトウェアを設計するためにプログラマーを雇っているのであるから、細胞内のソフトウェア—それは人間の作るプログラムよりも遥かに優れている—にはやはり設計者がいると考え

るのが妥当ではないか。実際に研究者たちはDNAが驚くほどパワフルな次世代コンピューターの基礎となると信じている。コンピューター科学者のレオナルド・アドルマンがコンピュータと人間の細胞の情報を処理したり蓄えたりする方法がほとんど同じであることに気付いて以来、

世界中の研究者はアルゴリズムを高速処理し情報を入力するために、DNAを大量に含む水の試験管を用いて、小さな生物学を基礎にしたコンピュータの開発に着手し始めた。

更に研究者達は、遺伝物質が自己増殖し、処理装置の中で成長して、複雑過ぎてなシリコンベースのコンピュータでは処理しきれない問題を扱うことが出来るようになることを期待している。

Nature Biotechnology という学術誌は、三目並べゲームで、外から何の助けも無しに絶対に人間に負けない生物学をベースにしたコンピュータを開発したが二人の科学者を取り上げている。

質問:もし生命の基礎的要素が人間が造るものよりも素晴らしいとしたら、それをデザインしたのは人間より賢い何者かなのではないだろうか? 分子生物学者の(Molecular biologist)ジェームズ・シャピロが言うには

ダーウィニズムには、生物化学あるいは細胞システムの原理的な進化を説明するのに詳細な説明は何もない。そこにあるのは、ただ幾つかの希望的観測だけである。ダーウィニズムが生物学的適応と多様性の明確な実例の中でどのようにその原理が働いたのかほとんど実証的な研究がないのに、進化という壮大なテーマの納得できる説明として受け入れられていること自体が驚きである。⁴⁴優れた進化論者のシャピロでさえもダーウィンの進化論の証拠については、それが無いことを認めている。

進化を否定する生物(evolution-defying creatures)

もしも、進化ではあり得ないということで進化の理論を否定する生物が発見されれば、それは創造されたということではないだろうか? もしも、一つの動物が神が創造したとしか考えられないとすれば、

他のすべてのものも同じように創造したお方として神を信じない理由があるだろうか？あなたが証拠を正直に調べてみれば、このようなデザインがデザイナーがなくて自然に出来上がったということは理にかなっていないのではないだろうか？以下に述べる動物は素晴らしくデザインされた例で、進化を否定する生物である。

ダニ(tick)

最初に見てみようとしている素晴らしくデザインされた生物はあの嫌われ者のダニである。アメリカ国立衛生研究所(National Institute of Health)のホセ・リベリオ博士はダニを賞賛して、「ダニは化学的には薬学について知らないのに、我々が知っていることをすべて知っている」と言っている⁴⁵。

小さなダニは唾液の中に何ダースもの精巧な化学的武器を持っており、傷口にそれを注入する。ダニは取りついた動物が数日間気付かないように、唾液の中に麻酔薬が含まれている。それによって、動物に気付かれず、食事を邪魔されることもないのである。

動物の血が流れが止まらないように、ダニの唾液には血液凝固を妨げる化合物が含まれている。それはまた、動物の免疫機能を騙して白血球の働きを妨げる機能も持っている。それによって、ダニは必要な赤血球のごちそうを楽しむことが出来るのだ。

1万ものダニを研究した昆虫学者のステーヴン・ウィケルは、この複雑な工程がどのように機能するのかを知るためには、「私たちは恐らくこれから先全生涯を要すだろう」と述べた。⁴⁶

リベリオ博士は、この小さな生物は「古代からの知恵を持っている」と述べた⁴⁷。あなたはこの唾液という驚くべき化学的混合物が偶然に自然に出来得ると考えるだろうか？それとも、知的な創造者によってしか出来得ないと考えるだろうか？

ヤモリ(Gecko Lizard)

次に驚くべきヤモリについて考えてみよう。ヤモリは落ちこちること無く天井を逆さまに這うことが出来る。足の裏には5億もの細かい繊維が吸盤の役目を果たしている。加えて、ヤモリのつま先は上に向かって曲がり、それによって吸盤が一步動くごとに徐々にはがれるので表面から動けなくなることがない。

ロバート・コップフェル博士は説明する

ヤモリのつま先の素晴らしく繊細な構造は知的な目的を持ったデザインを示唆する。ヤモリの吸盤の起源は、進化論者が用いる特異変化や自然淘汰の概念では納得できる説明は未だされることがない。また、かりにある科学者が適切な説明を思いついたとしても、その進化が過去に実際に起こったことを示す化石の証拠はどこにもない。⁴⁸

どのようにして特異変化や偶然がヤモリのつま先の吸盤を造ることが出来るだろう。ヤモリのつま先の吸盤が半分だけしかなかったならばすぐに他の動物のえさになってしまう。吸着力が強すぎればヤモリは動くことが出来なくなってしまう。無作為な進化がどのようにして吸着力をコントロールするためにつま先が上向きにねじ曲げることを思いつくだろう？ただ神のみ手だけがヤモリの目的にかなったデザインをすることが出来たのである。

海綿動物

次に私たちの度肝を抜く私物は、単純に見える海綿動物である。科学者たちは、それが我々の最も先端的の技術をもってするよりも優れた光ファイバーを造ることを発見した。海綿の細いグラスファイバーは、我々が通信に使う工業用光ケーブルよりも光の伝達能力に優れている。工業的な製造方法では高熱を必要とし、比較的もろい曲げすぎたら折れてしまうケーブルしか作れない。海綿動物のファイバーは低温度で育ち、はるかに柔軟であり、折れること無く結んでしまうことが出来る。海綿

はナトリウムを少量取り込むことで光を伝える能力を高めることが出来る—これは我々の工業生産では出来ないことである。ベル研究所の科学者たちは、この平凡な海綿動物の生造過程をどうやったら再現できるのか、やがて知りたいと願っている。

ベル研究所のジョアンナ・アイゼンバーグは認めている。「近代技術は、まだ生命有機体がもつ高度な光システムに対抗出来ない」⁴⁹。我々の多くは海綿動物は進化の系列のかなり初期の生物と考えるが、先端の科学者たちはその洗練された光システムを模倣しようとしているのだ。

彼らは知的デザインの証拠を見て、それをただしく評価しているだろうか？驚くべきことに答えはノーである。化学者のジェリ・リッチモンドは海綿動物についてこう述べている。

自然がどれほど美しく複雑なシステムにデザインされているかの海綿動物は素晴らしい例である。我々は紙にペンで書いて、その設計を考えることは出来るが、自然に比べれば我々は石器時代にいるようなものだ。⁵⁰

科学誌ネイチャーによると、バイオミメティクス(biomimetics)と呼ばれる新しい分野が出来ており、そこでは科学者たちが生物学的なシステムがどのように設計されているかを理解し、その原理を技術開発に応用しようと試みている。

あなたはそれが「設計」されているとおもわないだろうか？そして、科学者たちが造ることが出来るもの以上に高度なものが何の意図もなしに偶然的に出来上がったということがあり得るだろうか？それが我々が前に見た統計が言っていることと同じである。

他にも最近の発見は、クラゲの光るたんぱく質を外科医が手術中にガンの組織を照らして、それを取り除くときに使うことが出来るようになった。あるいはクモヒトデというヒトデの一種は小さなレンズで覆われており、それが集合眼として機能しているが、エンジニアたちはこれをセンサーとガイドのシステ

ムを造るためのモデルとして用いられている。

海洋生物学者のランディ・コチヴァはクモヒトデを信じられないほど素晴らしいと述べている。

これらの生物は目が見えることすら知られていないが、かれらがとてつもなく緻密な光学システムを内蔵していることを我々は知りつつある。⁵¹

オーストラリアの宇宙物理学者であるポール・デイビスはその著書「Superforce: The Search for a Grand Unified Theory of Nature」で以下のような洞察に満ちた質問を提起している。

もし自然がこのようにその精巧さによって私たちに驚かせるようなメカニズムを開発するほど賢いとするなら、それは宇宙の背後に知的なデザイナーがいた説得力のある証拠なのではないか？もし我々の最も優れた頭脳を持つ人たちでさえ自然の奥の深い働きをなんとか解明するだけで精一杯だとしたら、どうしてそれが偶然や無作為のチャンスによってできたといえようか？⁵²

キリン

私は背が高いので(6フィート6インチ; 約198センチ)あまり見上げることがないが、例外は、動物園で多くのキリンをはるかに見上げる時である。キリンは18フィート(約5.4メートル)も身長があるのに私と違ってとても速く走ることが出来る。私はこの奇妙な動物についてもっと知りたいと思う。私が学んだことの一つは、キリンは脳に血を送るために非常に強い心臓を必要とすることである。

もしも、進化論を信じたいと思うのなら、最初のキリンが60センチの心臓をどうにかして進化させなければならぬことを想像して欲しい。その長い首に血を送るためには、それが必要なのだ。

心臓がそれほど強ければ頭を下げた時に上昇する血圧は、脳の血管を破裂させてしまうのに十分である。

それで、最初のキリンはこの問題を解決するために、改善が必要であることを認識するに十分な知性を持ち、そしてまた、このような信じ難いほど複雑な身体構造を何とかして造り上げなければならない。そしてそれは、喉の乾きか脳のダメージで死んでしまう前に、数日中に行われなければならない。そうでなければこの新しい種は、あっという間に絶滅してしまうだろう。(もし最初に脳出血しなかったとしても、改善が必要であることをどのようにして知ることが出来るだろう？そして、何も知らなければ、それは死んでしまう)。

進化論は、長期間にわたる無作為の偶然によって出来上がったという想定に立っているがも、最初に水を飲む時に脳が破裂してしまわないように、動物はそれを防ぐためのメカニズムをなんとか素早く工夫しなければならないのである。

ジョブ・マーチン博士は以下のような素晴らしい詳細な解決法を述べている。

牛が頭を下げる時首の中の動脈の複数のヴァルヴが閉じ始める。最後のヴァルヴを通り過ぎた血液は、脳に向かって移動し続ける。最後に押し出された血液が高速で進み、脳に圧力を加えてダメージを与えたり破壊したりしないように、血液は、脳の下でちょうどスポンジのような容器の集まりに分岐される…脳は酸素を含んだ高圧の血液をこのスポンジの中に優しく拡散させることによって守られるのである。

しかし、このメカニズムは別の問題を生む。ライオンは目を付けた獲物に気付かれないように近づき、狩る準備をする。そのときキリンが素早く頭を上げると、少なくなった血流を補う何かがないために気絶してしまう。頭を上げる動きが非常に速いため、低血圧を引き起こし、脳中の酸素量を減らしてしまうのだ。ライオンは大食漢である。そのキリンがもし生きていたなら、酸素量が減った脳の酸素を増やすメカニズムを進化させたほうが良いことに気付くかも知れない。しかし、たとえ進化論者が我々に

生物は生き残るために必要な進化をすると信じさせようとしても、私たちは誰でも、ライオンに食われてしまった動物は進化しないことを知っている。

それでも、キリンは生き残っている。何故なら、キリンが頭をもたげると動脈のヴァルヴが開くからである。例のスポンジが、酸素を含んだ血液を脳に送り込む。首の下に向かって流れる静脈はいくつかのヴァルヴを持っておりそれらが閉じて血圧を一定の状態に保つ。これによりキリンは急いで立って気絶することなく走り、ライオンの昼食になることから逃れることが出来る。⁵³

これらのことはすべて全自動で行われる。キリンは進化を否定する素晴らしい動物の一つである。あなたはキリンが長期間にわたって徐々にこのような性質を獲得するように進化出来た何かの方法が、進化論が要求するようがあると本当に考えるだろうか？もしも、ひとつでも進化出来なかった動物がいたら、それは創造主が必要なことを意味するというのを思い出してほしい。

証拠に従う

根拠を検証してみた結果—全体の中のほんのわずかなものだが—我々は科学者たちが進化論の証拠を何もっていないことが分かった。そして、マクロな進化が生命体の誕生あるいは単純生物から複雑生物への進化の説明にならないことも分かった。もう少し、証拠の検証をしてみた例を見てみよう、いや証拠がないことの検証を。

生命体の起源について、進化論者として知られるノーベル賞受賞者でハーバード大学の教授であるジョージ・ウォールドは以下のように述べている。

生命体の自然発生が不可能であることを受け入れるためには、それが起こることがどれほど大変なことであるかを考慮するだけで良い。しかし結論として、私はここに自然発生を信じる。⁵⁴

この著名な科学者は、生命体の自然発生は科学的に不可能であることを認めるが、生命がその

ように始まったことを信じることを選んでいるのである！ここに、ノーベル賞を取るほど優秀な頭脳を持っているにもかかわらずかたくなに明らかな事実を拒否している人がいる。

ペニシリンの発見によってノーベル賞を受賞したアーネスト・チェイン卿は進化の他の主要な側面について警告している。

発達と適者生存が完全に突然変異の結果であると仮定することは、私には何の根拠もない、事実とも一致しない仮説に思える。古典的な進化論は、とてつもなく入り組んだ複雑な事実のかたまりを恐ろしく単純化したものであり、それが無批判にやすやすと、しかも長い間それに反対する小さな動きさえも無しに、多くの科学者たちによって受け入れられたのは驚きである。⁵⁵

もしも、真実を知りたいなら、どんな結論に導かれようとも常に証拠に基づかなければならない。

一つの種から違う種への進化は、人類が犯した最も大きな虚偽の一つである。アドルフ・ヒトラーが言ったように、「大きなうそのほうが多くの人々に信じられやすい」のである。私も数年間、進化論を信じた。しかし、その証拠はどこにもなかった。事実が進化論を否定している。私はうそをもはや信じないし、あなたにも信じてもらいたくない。

しかし、なぜ人は証拠をろくに検証しないでそれが導くところも考えずに理論を信じるのだろうか？
なぜ、科学者はそのような理論を無批判に受け入れるのだろうか？

進化論者でハーバード大学の遺伝学者であるリチャード・ルウォンティン教授の、このことについて核心に触れる、正直な驚くべき告白を聞いてみよう。

常識に逆らう科学的主張を受け入れようとする我々の意欲は、科学と超自然の間にある現実の闘いを理解する鍵である。その理論の明らかな不合理にも関わらず…実証されていない尤もらしい説明に対して寛容な科学界であるにもかかわらず我々が科学の立場に立つのは、我々が優先的な前提

を持っているから、即ち物質主義という前提である…

さらに、物質主義は絶対であるので、我々は神の業の痕跡を認めることは出来ない。全能の神を持ち出すということは、いつでも奇跡が起こって自然の規則が破壊されることを許すということである。

56

そういうことだ。真実を話した瞬間である。ルウォンティン教授は、實際上証拠がどこに導こうともそれを考慮しないと認めているのである。もし証拠が明らかに神の業の痕跡を指し示したとしても、彼はそれを受け入れないということである。

なぜか？みんな理由は同じである。我々が一旦神が存在することを知ってしまったら、我々はその神に対して責任があることを知っているからだ。したがって、ある人々は証拠があるにも関わらずそれが指し示すところに行きたくないのである。あなたはこの証拠によってどちらの方向に行くだろうか？

NASA のゴッダード宇宙研究所のロバート・ジャスロウ所長は選択肢について明確に述べている。

おそらく地球上の生命体の誕生は奇跡である。科学者はこの見方を受け入れないが、可能性は次の二つしかない。生命体が地球上に、科学的な理解を超えた何者かの意思によって創造されたか、または、惑星の表面にある非生命体に化学反応が起こることによって自然に進化したかである。⁵⁷

選択肢は二つきりである。限りなく複雑な宇宙が偶然によって出来たか、あるいは神の手によって創造されたかである。あなたはどちらを選ぶだろうか？盲目的な信仰でなく、事実に基づいて選択してほしい。その選択にあなたの将来がかかっているのである。

もう一つ熟考しなければならない真実がある。もしも、神があなたを創造したということを信じないことを選択するのであれば…つまり、あなたの存在は無作為な偶然のプロセスの結果以外の何ものでも

ないと信じるほうを選択するなら、それは次のことを信じることである。

- 人間と動物の間に質的な違いはない。
- 最終的には人生には意味はない。
- 死後の世界はない。
- 人間の歴史に目的はない。

これらをあなたの推論と合っているだろうか？それともあなたは直感的に人間には特別な価値があり、あなたの人生には目的があると思うだろうか？

ある人々のように、あなたが説明責任を持つ神様がいるとは認めたくないかもしれない。しかし、我々はみないつかは死ぬ。たとえ全身全霊で否定しようとも、やがて私たちは事実と向き合わなくてはならない。究極の統計を思い出して欲しい。10人中10人の人が死ぬ。そして、その最後の呼吸をするとき、神はそこにいる。そして、どうなる？

この章の眼を見張る証拠を考えた時に、カエルが王子様になるのはおとぎ話であり科学的な事実ではありえないことがあなたにも分かったのではないだろうか？証拠は我々が創造主によって造られたことを示している。私は偶然ここにいるのではなく目的をもって創造されたのである。生命の謎は我々の永遠の真実の探求範囲が絞り込まれるにつれて、さらに明らかになりつつある。証拠が我々をどこに導くのか見てみようではないか。

第3章 赤い1ドル硬貨

(テキサスを 60 センチの深さに1ドル硬貨で埋め尽くして、その一つを赤色に塗ってみよう)

聖書はこの一世紀のうちに消滅してしまうだろうボルテール(1694-1778)

創造主についての証拠が確かであり、進化があったという証拠の断片もないことが分かった今、我々は創造主が誰なのかを訊ねなければならない。確かに彼は、彼が創造したものが彼を知ることが出来ることを望んでいる。

なぜ、彼は我々を創造し、その中でじたばたするような闇の中に我々を取り残したのだろうか？唯一理に合うことがあるとすれば、神が人類に彼を見つけ出す手段を与えているということだろう——つまり、彼自身について、彼の性質や人間のための計画について、私たちに対して書かれた記録である。

この神がだれであるかという質問に対する答えにははたくさんの可能性がある。仏教徒は、人は輪廻転生を繰り返し最終的には宇宙の一部になることを信じるほどには神を信じない。イスラム教の神であるアラーは遠く離れた存在であり、人間には知ることが出来ない。ニューエイジの者にとってはすべての人、すべての物が神である——あなたも私も神である。多くのヒンズー教徒にとっての神はブラフマン、即ち宇宙の霊であり、すべてに人はその一部である。しかし、多くのヒンズー教徒は至高の存在を認めず、3億3千万ものより小さな神々を礼拝する。

ユダヤ教徒にとっては、神は創造主である——人格を持ったお方で、全能の霊であり、ご自身をアブラハムや預言者に現し、いつかメシヤとして現れる約束をしておられるお方である。

クリスチャンにとっても神は同じ創造主である。彼らは、神が人と神の間の罪の障壁をご自身の犠牲によって打ち壊すために、イエス、即ちメシヤとして現れたこと、そして全ての人々を裁くために再び来ることを信じている。

ほかにも神とは何か、神とは誰かということについては様々な信仰がある。ある人々は、一つの信

仰が唯一の真実であり、ほかのものをすべて偽物だと主張する人は狭量、あるいは傲慢であると考え
る。しかしお分かりのように、それぞれの宗教が神の概念を提供しており、それらは互いに矛盾してい
る。従って、それらすべてがすべて正しいということはありません。すべてが間違いであることはありう
るが、すべてが正しいということは、絶対にありません。

では、もしも正しいものがあるとしたらどのようにして本当の宗教を選べばいいのか？ 選択肢の中
のそれぞれの妥当性を確認するためには、まずは色々な信仰の経典を調べるべきであろう。そこで、
どれが真実なのか知るために、ある種のテストを試みよう。エジプトの死者の書、モルモン経典、高
価な真珠(どちらもモルモン教の経典)、コーラン、ハディース(どちらもイスラム教の経典)、聖書、バ
ガヴァッド・ギター(ヒンズー教の聖典)、ヴェーダ(バラモン教とヒンズー教の聖典)、法句教(仏典)
などである。

どんなテストをすれば、その経典が真実かどうか決められるのだろうか？ 妥当性を検証するときに忘
れてはならないことは、我々が何を信じるのかではなく、なにが真実であるかが大事であるということ
である。私は地球が平坦であると信じるかもしれないが、それは真実ではない。私は空は青色であると
信じているかも知れないが、それは真実でない。私は億万長者であると信じるかも知れないが、真実
ではない。真実とは事実がそれを示すものである。

したがって、注意して欲しいのは、あなたが調べようとしているのは何が真実であるかであって、あ
なたが今何を信じているかではない。あなたの永遠への信仰が盲目的な飛躍ではなく、証拠によって
証明された確実な飛躍であることを確かめて欲しい。

あなたが一旦正しい経典を発見すれば、どの信仰が真実かという問の答えをもつことになる。では、
テストについて話そう。あなたが選択問題を解いているとして次の問題があったとしよう。

2+2 = a) 4; b) 5; c) 3; d) 6

いったん答えは a) であることを知ったら、他の選択肢である b, c, d を検討するのにどれほどの時間が必要だろうか？ 全く必要ない。なぜ、他の選択肢を検討しないのか？ 何故なら、全て真実というものはその定義から言って、狭いからである。2+2 には 4 以外の選択肢がない。あるのは、一つの正しい答えと数百万の間違った答えである。例えば、現在アメリカ合衆国の大統領である人はたった一人しかいない。あとの 60 億人は違う。同じことが他のタイプの真実についても言える。永遠の真実であってもそうである。永遠なる真実もまた狭く、あなたは本当に正しい答えを見出したのか確証が欲しいはずである。

私はよく飛行機に乗るが、ある時隣に座った人が「近所の霊性」という記事のメモをとっていた。私は、その記事の中の全てのページに仏像の絵が印刷されていることに気がついて、何について書いてあるのか興味を持った。彼はユニテリアン・ユニヴァーサルイズムの牧師で、信者の中にはユダヤ教徒、クリスチャン、仏教徒、無神論者など様々な人がいると私に話した。彼の教会には、全ての種類の信仰者が少しずつ居るのだ。

私は「あなたが死んだ後には何があると思うか」と訊いてみた。彼は「よくわからない」と答えた。彼は輪廻転生があることを望んでいたが、彼の教会ではなんでも信じたいものを信じる事が出来ると答えた。彼の教会は他者への善行を積むことによる社会正義に熱心であり、それで、次の世界に行って何があっても大丈夫だと考えていた。

私は次の質問をぶつけてみた。「ある人が死後にあると信じていたものが、死んでみたら実は無かったということがありうると思うか？」彼は答えた、「もちろん」。「あなたは正しい」と私は言った。もしも、誰かが死後に何もないと信じていても、実はなにかがあつたら彼は 100%間違っていることになる。で

も何がなければ間違っただけは無いということになりませんか？と私は訊いた。彼はわたしをみて、生唾を飲み込んだ。そして、「正しい答えだね」と彼は答えた。「その通り、永遠に対する正しい答えがなければならぬ。あなたはたった今そう言いましたね。それはつまり不変的な真実があるということの意味です。では、あなたの教会の信者の人々が、永遠に関して間違っただけを持っていたらどうしますか？あなたはそれに対してどうしようと思えますか？」と私は訊いた。

彼は論理的には正しい答えと間違っただけがあることを認めたが、それでも彼は、正しいか間違っただけを区別すべきということについては信じなかった。しかし、私たちが死んだとき何かがあるか、あるいは無いかどうかである。永遠に関するすべての意見が正しいということとはあり得ない。もしも、間違っただけがあるなら正しい答えもあるのである。あなたには何が正しい答えか分かるだろうか？輪廻転生は多くの人が受け入れている信仰なので(ヒンズー教、仏教、超越瞑想教、様々なオカルトやニューエイジサークル、などなど)少しどのようなものか考えてみたい。

輪廻転生のメカニズムはカルマの法則に基づいている。カルマの法則とはこの世での良い行いと悪い行いが集計され、それに基づいて来世でのその人の運命が決まるというものである。人の善いカルマは高いステイタスか幸運をもたらす、悪いカルマは過去の誤った行いに見合った苦しみをその人生にもたらすのである。

輪廻転生は通常、人が善いカルマと悪いカルマのどちらも持たずに、ちょうどバランスがとれた時にのみ終わる。そして、最終的に人は非人格的な宇宙の意識(universal consciousness or cosmic consciousness)中に吸収される、つまり個々の自己としては存在しなくなるということである。最終的な結果は完全なる限定された自己の消滅である。個々は宇宙とひとつになるのである。

私はずっと疑問でした。一体誰が、あるいは何が、カルマの輪を造るための一人ひとりの生涯の

一つ一つの行いを追跡し続けることが出来るだろう？そのようなものが存在するとすれば、以下のようなものでなければならない。

同時に全ての場所にいることが出来る(偏在 omnipresent) — 全ての人を全時間見ることが出来、彼らの思いや動機を知ることが出来る。

全てを知っている(全知 omniscient) — 数十億の人のそれぞれの行動を集計し続けることができ、来世で上位に行くか下位に行くか決めることが出来るため。

何でもできる(全能 omnipotent) — 決定を実行できる

善 — 高い道德心を持ち、いかなる状況においても何が良いか何が悪いかを知っている。また、その人が来世でどのような人生を送るかを正しく判断できるために十分な正しさを兼ね備えている。

我々は宇宙が輪廻転生を実行するために宇宙がどのようなものでなければならないかを定義した。しかし、むしろそれは人格をもたない「宇宙の力」というようなものというよりも、そこで要求されているのは、独立した、人格的な、全知の、常に存在する、全能で、道徳的で、公正で知的で正しい存在であろう。

更に、もしも一人ひとりがした行動が、善か悪か正しく裁かれるとするなら、事前に何が正しくて何が誤りか、その定義を知らなければならない。

また、それは彼らがカルマのどのレベルに居るかをも見るができなければならない。

結局最終的には、公正な神が我々がどこにいるのかを知らせるということではないだろうか？ それは、とても残酷なことであろう。何故なら、ある一人の人が一生の間に 72 億 582 万 6418 の善行を積むために、頑張っても、(ゴキブリになった来世で) たった一つの善行が足りななかつたために上の

レベルに進めなかったことが分かったりするからである！

それは、とても残酷なことであろう。何故なら、ある一人の人が一生の間に 72 億 582 万 6418 の善行を積むために頑張っても、(ゴキブリになった来世で) たった一つの善行が足りなかったために上のレベルに進めなかったことが分かったりするからである。

それは残念なことだろう。そして、全然公正な神でなくなってしまう。公正で、義であり、正しい神は我々に彼が何者であり、我々がどのように彼を知ることが出来、永遠の世界では何があるかを、明確に言ってくれるはずだ。彼はまた、何が正しくて何が誤っているかの明確なガイドラインを我々に与え、そして我々がどういう状況かを知らせてくれるはずだ。他の宗教書と違い聖書は実際にそれを行っている。

聖書とはなんだろう？それは 40 人以上の筆者が 1600 年以上の期間に亘って書いた 66 巻からなる本であり、一人の著者によって書かれたもののように読める。聖書の統一性、調和性、正確性は、他の書物とも比較にならない。。聖書は、その存在そのものによって、忠実な人々を通して神が書かれたものであることを証明している。もしあなたが聖書以外に気に入っている聖典を持っていたらそれを議論したいかもしれない。では、聖書がなぜ特別なのか説明させて欲しい。

ある聖書学者が、それをこのように述べている。

ちょっと聖書の驚くべき不思議さを考えてみよ。聖書は 60 世代以上(約 1600 年)に亘り 40 人以上の著者によって書かれている。著者は多様な背景を持った人たち、王様、牧夫、兵士、漁師、詩人、政治家、学者、祭司、預言者からなる。

著者はアジア大陸、アフリカ大陸、ヨーロッパ大陸の事柄についてヘブライ語、ギリシャ語、アム語で書いている。それなのに聖書は、全体を通して一つの贖いのドラマを展開している。およそ想像出

来る限り最も複雑で、しかも逆の結果を招きそうな方法で、このように正確なものをまとめ上げることが、どのように可能だったのでしょうか？⁵⁸

聖書は歴史上一番のベストセラー

多くの本は何千冊か売れ、ある本は何万冊、あるいは何百万、中には何千万冊売れた本もある。それと比較して、聖書は年に1億5千万冊売れる。2000を超える原語で、おおよそ40億冊が印刷されている。他の本は、その足元にも及ばない。⁵⁹そこには、世界中の人々が読みたいと思う、何か引き付けるものがあるということである。

何十億冊も印刷されていることが、聖書が真実であることの証明にはならないが、これだけの歴史的ベストセラーなのだから読んでみる価値はあるであろう。実際に読んだことがないのに、気軽に批判したり、聖書を知っていると主張する人々の一人にだけはならないでほしい。

聖書は神様の手によって書かれたと主張されている

他のすべての聖典は神の代わりに語ったと主張する人によって書かれたものである。バガヴァッド・ギーターを書いたのは人間で、コーランは、モハメドの知り合いかあるいは彼を知っていた人によって、モハメドの死後長くたってから書かれた。モルモン教典は、天使が古代の黄金のプレートの翻訳を彼に与えたと主張する人が書いた。メリー・ベイカー・エディはクリスチャンサイエンスの中心となる「聖書の鍵となる科学と健康」を書いた。初版は1879年である。

聖書だけが人間に話しかける神によって書かれたと主張している。聖書の中には3000回以上も「主はこう言われる…」という箇所が出てくる。ほかのどの聖典がそのように頻繁に神が言ったと書いてあるだろうか？聖書にはどんな形であっても、決して人間の原作であることを主張していない。私がかれを知った時に、聖書の超自然的な起源を証明する証拠はあるのかと考えた。私はそ、歴史、考古

学、科学、預言の中に豊かな情報があり、それらが聖書が本当に神の言葉であることを示していることを発見した。

私に同意する前に、先ず次の証拠を読んで欲しい。そして、読んだ後でどうするかを自分で決めて欲しい。

聖書を裏付ける歴史的証拠

何かが歴史的に正しいかどうかを証明するにはあなたは様々なものを見なければならない。考えなければならないことの一つは、その書物の原典、あるいは早期の写本である。そして、今持っているものとその原典がどれくらい近いかを見なければならない。聖書の場合、古代の新約聖書の一部分の写本が2万4千も存在する。次に多いのはホーマーのイリアドであるが、643部である。

ジョン・ワーウィック・モンゴメリーは言っている。

写本を集めた新約聖書の文書に対する懐疑は、すべての古代の書物を不明瞭なものと認めることである。古代の文書で、新約聖書ほど文献的に検証された書物はないのだから。⁶⁰

また、多くの古代書物の中で、聖書ほどオリジナルに近い時期に書かれた写本のあるものは他には無い。イリアドもオデッセイのような古い文書を受け入れるなら、遥かに確実な裏付け資料のある聖書も受け入れなければならない。

加えて、その書物はどんな既知の矛盾も含んでいてはならない。もしも、ある書物が自己矛盾を持っていれば、それ自体に信頼性がない。グリーンソン・アーチャー博士は言う…

私は、見かけ上の不一致を次から次へと扱い、聖書の記録と言語学的、考古学的、科学的な証拠との間の申し立てられた矛盾を研究した。そしてそれは、私の聖書の信頼性に対する確信が繰り返

し検証されることとなり、ますます強められる結果となった。⁶¹

多くの人が聖書には矛盾があると主張するが、何がどのようにと訊かれるとみな答えることが出来ない。聖書の最初から最後まで読んだことがあるという人もいるが、数年前に一度だけである。これは人が12歳の時に読んだもので永遠の運命を決定していることを物語る。あなたは絶対に、自分自身で事実を確認することなしに、他人が言ったことを鵜呑みにしてはならない。

聖書の「外的」証拠もまた驚くべきものだ。ローマ人の歴史家タキトゥス(Tacitus)もユダヤ人の歴史家ヨセフス(Josephus)も聖書の正確性を支持している。例えば、キリストが十字架上で処刑されたことを書いた17人の未信者の歴史家がいた。これは、あるグループの人たちによってでっちあげられたものではあり得ない。、外的な歴史の記録が、聖書の真実性を証明している。

聖書は、歴史の非常に細かい部分までも正確に記しており、歴史は、聖書の言葉の正確さを証明している。例えば、ギリシャ帝国やローマ帝国の栄枯盛衰(ダニエル書2章39-40節)や、大都市の破壊(例えば、ツロ、シドン;イザヤ書23章)が聖書に記載されている。

ツロの終焉は、他の古代の歴史家たちによっても記録されている。それらには一バビロンのネブカドネザル王が13年かけてその海岸の町を占領するのに失敗した後一アレキサンダー大王が7か月間街を包囲攻撃し、完全に破壊し、そこに住む人々まで虐殺したことが書かれている。長期間にわたる徹底的な研究は、聖書が、エジプトやアッシリア、あるいは他の古代の国々の書物よりも、歴史的正確さにおいて遥かに優れていることを示している。

聖書を裏付ける考古学的証拠

聖書の中で言及されている人々や、その肩書、場所について、それらを裏付ける考古学的発見が、2万5千以上あった。興味深いことにそのどれ一つとして聖書と矛盾していない。いや、むしろ聖

書の正しさを示していると言ったほうがいいだろう。有名なユダヤの考古学者であるネルソン・グルエックは書いている

どんな考古学的発見も、聖書の言及と矛盾するものはなかったと無条件に言っているのではないだろうか。⁶²

これは素晴らしいことである。この書物は歴史的に信用出来るということである。

ミラー・バローズは述べている。

聖書は考古学的証拠により繰り返し検証されている。概して発掘の結果が、歴史的文書としての聖書の重要性を、学者たちにますます認めさせるようになったことは疑う余地がない。⁶³

聖書を裏付ける科学的証拠

聖書の正しさを裏付ける証拠で最も説得力のあるもののひとつは、その科学性である。私は科学と聖書はお互いに相容れないと信じ込まされていた—その二つは互いに矛盾すると。

私がいかに間違っていたか読んで欲しい。

約 2500 年前に、科学は空には約 1100 の星があると言っていた。しかし同じ頃、預言者イザヤは言った(エレミヤ書 33 章 22 節)。「天の万象は数えきれず、海の砂は量れない」。エレミヤは、それは数えきれないと言ったのである。そして現在は、ハッブル宇宙望遠鏡によって地球に送られて来る荘厳な写真を見て、わたしたちは、星の数は人間には数えられないということが分かっている。[もちろん、神様にとっては、数えることは不可能ではない。「主は星の数を数えそのすべてに名をつけられる」(詩篇 147 章 4 節)]

科学はかつて、世界が大きな動物の背に乗っていると教えていた。科学者たちがそう教えた理由

は、平坦な地球が何によっても支えられていないとは信じられなかったからである。

私は最近ある小さな少年が、地球が宇宙に単純に掛かっているという驚くような事実直面し、その代わりに、カメの背中に乗っていると信じたという話を読んだ。そして、そのカメは何の上にあるかと問われると、彼は答えた「もう一つのカメの上だ」と。では、そのカメの下には何があるか？どこまでもカメがいるのだと…

ヨブ記 26 章 7 節には、「神は北側を、防爆としたところに繰り広げ、地を、何も無いところに掛けられる」と書いてある。これは 3500 年前に書かれたものである。聖書はずっと地球は宇宙に掛かっていると書いていたのである。そしてもちろん、今日の科学と宇宙の探求によって、私たちはそれが事実であることを知っている。

ヘブル人への手紙に以下のように書いてある。

信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、その結果、見えるものが目に見えるものから出来たのではないことを悟ります(ヘブル人への手紙 11 章 3 節)。

これは約 2000 年前に書かれたものである。ここから私たちは、聖書が、私たちが目にするものは目に見えないものから出来たとずっと言ってきたことが分かる。このことは、「原子」と呼ばれる目に見えない粒子が実際に存在することが分かるまでは、全く意味のわからないことだった。

3500 年前に書かれたヨブ記には次のように記されている。私たちは「あなたは稲妻を向こうに行かせ、あなたに向かって「私たちはここです」と言わせることが出来るか。(ヨブ記 38 章 35 節)」。

聖書はここでは科学的にはバカバカしいことを述べている—光が行かされ、自分が居ることをしゃべるなどという。しかし、あなたは電波が光のスピードで移動することを知っているだろうか？これが我々が地球の反対側の人と時間差なしで無線で会話できる理由である。科学はこのことを、1864 年

にイギリスの科学者ジェームズ・クラーク・マクスウェルが電気と光の波は違う形だが同じものだと提唱するまで分からなかったのだ。⁶⁴

再度言うが、聖書は科学的に正確である。2800年前にイザヤは興味深い観察をしている。彼は言った。「主は、地をおおう天蓋(英語の聖書では circle)の上に住む方。地の住民はバッタのようだ。主は、天を薄絹のように述べ広げ、これを天幕のように張って住まわれる(イザヤ書 40 章 22 節)。

レイ・コンフォートは、「聖書の科学的事実」の中で次のように言っている。

聖書はここ(イザヤ書 40 章 22 節)で、地球は丸いと告げている。科学が地球は平らだと信じていた時代に、聖書の言葉がクリストファー・コロンブスを鼓舞して、世界一周の航海に出発させたのである。彼は書いている。

「それを私の心の中に入れてくださったのは主であった。私は私の上に御手を感じる事が出来た…その思いが聖霊からのものであることは、疑う余地がない。なぜなら、御言葉からの素晴らしい光によって、神が私を励ましてくださったからである。」

宇宙の創造主はもちろん被造物がどのようなものであるかを知っているし、創造主は聖書を通してその事実の証拠を私たちに教えている。⁶⁵

数年前に、空港の本屋に入ると、ヴァニラアイスという数年前から有名なrapperが居ることに気がついた。私は彼に話し掛けた。私は彼と話し始め、は「あなたがクリスチャンだったと聞いた」と言った。彼は「私は一時期はまっていた」と答えた。面白い回答だった。会話をツツケテイクと、彼は聖書によれば自殺した人は地獄に行くと言った。彼は聖書を引用しようとしたがどの箇所か分からなかった。聖書は6回自殺について述べていて、一度もそれが正しいことだとは言っていない。しかし、それは自動的に地獄行きだとも言っていないと私は言った。

彼は科学にもはまったと言った。なので、私は彼に聖書の内容の科学的証拠を、幾つか彼に話した。すると、彼はその証拠に非常に興味を持ち、もっと詳しい情報を知るための本を私が送ることができるように、住所まで教えてくれた。我々の論理性と良心は、今の人生—そして次の世界への正しい答えに導く証拠を知りたいと切に望んでいる。

あなたの論理性と良心はそう望んでいるだろうか？

実現した預言が聖書を裏付けている

聖書に対する科学的裏付けは衝撃的なものがあるが、それでも、聖書が疑問の余地がない神のことばであるということを示しているとはとても言えない。

では、事実はどうであろうか？ 聖書が人間からのものではあり得なく、全知全能の神手によるものであることを示すにはどのような事実が必要なのか？ 未来についての預言の100%の実現性である。もしも我々が、ある聖典にそれを見つけたら、我々は捜している答えを得たことになるだろう。

次の質問：世界中で唯一、何百もの詳細な預言とその預言の実現について書いてある本は何だろうか？ 答えは聖書である。末日聖徒イエス・キリスト教会のモルモンの聖典でも、イスラム経のコーランでも、ヒンズー教のバヴァガヴァッド・ギータでもない。

仏陀や孔子や老子が書いた聖典のどれにも、一つとして実現した預言の例は書かれていない。コーランにある唯一の実例は、モハマドが彼自身がメッカに戻るという預言であるが、それは彼が自分で容易く実現できる預言である。

それに対して、聖書は2000以上の詳細な預言が旧約聖書だけでも書かれている。実際には聖書の25%は予言的な性質を持っている。そして、キリストが再来する最後の時について語っている預言を除けば、イエス・キリストの再臨に至るまでのすべての預言は、政治的、宗教的、知的、地理的な

出来事が詳細にわたって実現して来ている。

聖書について興味深いことのひとつは、100%の正確さをもって予言しない預言者は偽預言者と言っていることである。実際のところ、ナショナル・エンクワイア(アメリカのタブロイド紙)で何かの予言をしている人は預言者ではない。

旧約聖書の時代には、もしも誰かが神の言葉を語っていると主張してその予言が実現しなかったら、彼は石打ちの死刑であった。(神は彼の言葉を間違えて伝えることには非常に厳しい)。したがって、預言者語るとき、かれらは神の言葉を間違いなく語っているか、自分自身の言葉ではないかについて非常に注意深かった！預言とは、神とは誰であり、信頼出来る方であることを実証するものなので、非常に重要なのである。

「遠い大昔のことを思い出せ。わたしが神である。ほかにはいない。私のような神はいない。わたしは後のことを初めから告げ、まだなされてないことを昔から告げ、『私の計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。…わたしは語って、それを来たらせ、計画を立てて、それを実行する」(イザヤ書 46 章 9 節～11 節)

神は後のことを初めから告げると言っている。もし神が彼の預言者を通して彼が将来何かを行うことを語っているなら、神はそれを実行するはずである。では、それが本当かどうか確かめてみよう。旧約聖書は新約聖書が書かれる 400 年以上前に完成したものである。神の予言の力を確かめるために、待ち望まれる救い主、メシアがどのようなお方なのか、旧約聖書の預言で予め語られているもののほんの一部見てみよう。

1. 旧約聖書のイザヤ書の 7 章 14 節に「それゆえ、主は自ら、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ、おとめが身ごもって男のことを産む、その名はインマヌエルとなえられる。」と書いてある。

この預言は、新約聖書に次のように書かれてあるように、エシユア(ヘブライ語でイエスの意)によって実現している。

「イエス・キリストの誕生は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人がまだ一緒にならないうちに、聖霊によって身ごもっていることが分かった。

夫のヨセフは正しい人で、マリアをさらし者にしたくなかったので、ひそかに離縁しようと思った。

彼がこのことを思い巡らしていたところ、見よ、主の使いが夢に現れて言った。『ダビデの子ヨセフよ、恐れずにマリアをあなたの妻として迎えなさい。その胎に宿っている子は聖霊によるのです。

マリアは男のこゝを産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです。』

このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。

『見よ、おとめが身ごもって男のこゝを産む、その名はインマヌエルとなえられる』それは訳すと『神が私たちとともにおられる』という意味である。

ヨセフは眠りから覚めると主の使いが命じたとおりにし、自分の妻を迎え入れたが、子を産むまでは彼女を知ることはなかった。そして、その子の名を**イエス**とつけた」(マタイの福音書 1 章 18 節—25 節)

神は御子を処女から生まれさせると言って、実際にそのようにした。

2. 旧約聖書では、この救い主は御子でありインマヌエル、即ち神共に居ます方)であり、全知全能の神が肉体をとられるお方である。と預言されている。

「ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩

にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる」(イザヤ書 9 章 6

節)

新約には次のように書かれている。

『しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります』

こう言ってから、イエスは使徒たちが見ている間に上げられた。そして雲がイエスを包み、彼らの目には見えなくなった。

イエスが上って行かれるとき、使徒たちは天を見つめていた。すると見よ、白い衣を着た二人の人が、彼らのそばに立っていた。そしてこう言った。『ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。』(使徒 1 章 8 節～11 節)

「イエスは彼らに言われた。『まことの、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から『わたしは、ある』なのです』」(ヨハネ 8 章 58 節)

神は、救い主が人間の形をとった「全能の神、永遠の父であろう」と言った—そして、彼はそうであった。

3. 旧約聖書は同様に、この世で人間の形をとってはいても、救い主メシアは神の子であると預言している。

「私は主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは私の子。わたしが今日、あなたを生んだ。』」(詩篇 2 篇 7 節)

この預言はマタイ 3 章 17 節で成就された。そこではこう言われている。

「そして、見よ、天から声があり、こう告げた。『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ』」

さらにマタイ 17 章 5 節では

彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおった。すると見よ、雲の中から『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け』という声がした』と言われている。

ルカ 22 章 66 節—71 節は次のように言う。

「夜が明けると、民の長老会、祭司長たちや律法学者たちが集まり、イエスを彼らの最高法院に連れ出して、こう言った。『お前がキリストなら、そうだと言え。』しかしイエスは言われた。『わたしが言っても、あなたがたは決して信じないでしょう。わたしが尋ねても、あなたがたは決して答えないでしょう。だが今から後、人の子は力ある神の右の座に着きます。』彼らはみな言った。『では、おまえは神の子なのか。』イエスは彼らに答えられた。『あなたがたの言うとおりに、わたしはそれです』。そこで彼らは『どうしてこれ以上証言が必要だろうか。私たち自身が彼の口から聞いたのだ』と言った」

我々は神が子を持つと言ったこと、そして、実際にそうされたのを見た。

4. さらに旧約聖書では、それが誰であれメシアはベツレヘムで生まれると預言されている。イエス誕生の時、ベツレヘムは 1000 人くらいの町に過ぎなかった。

「しかし、ベツレヘム・エフラテよ、あなたはユダの氏族の中で、あまりにも小さい。だが、あなたからわたしのためにイスラエルを治める者が出る。その出現は昔から、永遠の昔から定まっている」(ミカ書 5 章 2 節)

マタイ 2 章 1 節にその成就を見ることが出来る。

「イエスがヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東の方から博士た

ちがエルサレムにやって来て、こう言った」

神は御子がベツレヘムで生まれると言ったが、その通りになった。

5. ミカはまた、救い主の先在について、上に挙げたように言及している。

「その出現は昔から、永遠の昔から定まっている」

イエスがユダヤにいたころ、彼自身が、彼に反対する人々に話したときに、この預言を成就したと言った。

「あなた方の父アブラハムは、わたしの日を見るようになることを、大いに喜んでいました。そして、それを見て、喜んだのです。そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。『あなたはまだ 50 歳になっていないのに、アブラハムを見たのか。』イエスは彼らに言われた。『まことの、まことに、あなたがたに言います。アブラハムが生まれる前から『私はある』なのです』」(ヨハネ 8 章 56 節—58 節)

この預言はコロサイ人への手紙 1 章 17 節でも成就している。

「御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています」

神は、御子はすべてのものの前に存在していたと言い、そして、その通りであった。

6. 申命記 18 章 18 節は、救い主は預言者であると述べている。

「わたしは彼らの同胞のうちから、彼らのためにあなたのような一人の預言者を起こして、彼の口にわたしのことばを授ける。彼はわたしが命じることすべてを、彼らに告げる」

この預言はマタイ 21 章 11 節で成就している。

「群衆は『この人はガリラヤのナザレから出た預言者イエスだ』と言っていた。」

神はその御子は預言者であるだろうと言ったが、実際にその通りになった。

7. 救い主には、特別な聖霊の現れがある。イザヤ 11 章 2 節は言う

「その上に主の霊がとどまる。それは知恵と悟りの霊、深慮と力の霊、主を恐れる、知恵の霊である。」

マタイはこの預言の成就を確認する出来事について伝えている。マタイ 3 章 16-17 節にこう述べている。

「イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると見よ、天が開け、神の御霊が鳩のようにご自分の上に降ってこられるのをご覧になった。そして、見よ。天から声があり、こう告げた『これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。』」

神は救い主には特別な聖霊の現れがある言ったが、実際にそうだった。

8. 救い主は、イザヤ書 35 章 6 節で予告されているように、奇跡の業を行う。

「そのとき、足の萎えた者は鹿のように飛び跳ね、口のきけない者の舌は喜び歌う」

この預言はキリストの働きの中で継続的に成就している。例えば、マタイ 9 章 35 節は次のように述べている。

「それからイエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを癒やされた。」

また、マタイ 15 章 29-31 節には 次のように書いてある。

「それからイエスはそこを去ってガリラヤ湖のほとりに行かれた。そして山に登り、そこにわ座っておられた。すると大勢の群衆が、足の不自由な人たち、目の見えない人たち、手足の曲がった人たち、口

のきけない人たち、そのほか多くの人をみもとに連れて来て、イエスの足もとに置いたので、イエスは彼らを癒やされた。群衆は、口のきけない人たちがものを言い、手足の曲がった人たちが治り、足の不自由な人たちが歩き、目の見えない人たちが見えるようになるのを見て驚いた。そしてイスラエルの神をあがめた。」

神は御子が奇跡をおこなうと予告し、実際に彼はそれを行った。

9. 旧約聖書では救い主は死からよみがえると預言している。詩篇 16 篇 10 節は言っている。

「あなたは私のたましいをよみに捨て置かず、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せにならないからです」

この預言はイエスの復活によって成就されたことを、我々は使徒 2 章 31 節でパウロから知らされている。

そこでパウロは、上述の聖句を引用している。

「それで、後のことを予見し、キリストの復活について、『彼はよみに捨て置かれず、そのからだは朽ちて滅びることがない』と語ったのです。」

なんという素晴らしい預言なのだろう。何百年も前に神の御子は地球の上を歩かれたのだ。そして彼が死からよみがえることが預言されており、その通り彼はよみがえったのだ！

10. 聖書は救い主は友により裏切られると告げている。中でも詩篇 41 篇 9 節は次のように言っている。

「わたしが信頼した親しい友が、私のパンを食べている者までがわたしに向かってかかとを上げます」

マタイ 10 章 4 節は、イスカリオテのユダもまたイエスを裏切ったことを明確に述べている。

そして、ヨハネ 13 章 21－22 節、25－26 節はその預言がどのように成就したのかさらに詳細に記して

いる。

「イエスは、これらのことを離されたとき、心が騒いだ。そして証しされた。『まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。』弟子たちは、だれのことを言われたのか分からず当惑し、互いに顔を見合わせていた…その弟子はイエスの胸元に寄りかかったまま、イエスに言った。『主よ、それはだれのことですか。』イエスは答えられた。『私がパン切れをを浸して与える者が、その人です。』それからイエスはパン切れを浸して取り、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられた。」

こうして、ユダは親友を裏切る計画を心に抱きながら、そのパンを取って食べたのである。

神は御子が食事を共にする友に裏切られると預言し、その通りになった。

11. 預言者は救い主は30枚の銀貨で裏切られるであろうと言った。ゼカリア書 11;12は裏切り者についてこう述べている。

「私は彼らに言った。『あなたがたの目にかなうなら、私に賃金を払え。もし、そうでないなら、やめよ。』すると彼らは、私の賃金として銀30シケルを量った」

マタイ 26 章 15 節がその預言の成就を示している

「こう言った。『私に何をくれますか。この私が、彼をあなたがたに引き渡しましょう。』すると、彼らは銀貨30枚を彼に支払った。」

イエスは数百年前に預言された通りの価格で友人に裏切られた。神は御子が30枚の銀貨で裏切られると預言し、その通りになった。

12. 旧約聖書は救世主はあざけられると預言している。

しかし 私は虫けらです。人ではありません。人のそしりの的、民の蔑みの的 です。私を見る者はみな わたしを嘲ります。口をとがらせ 頭を振ります。「主に身を任せよ。助け出してもらえばよい。主に救い出してもらえ。彼のお気に入りなのだから。」(詩篇 22 篇 6-8 節)

マタイ 27 章 29 節はその成就を記述している:

それから彼らは茨で冠を編んでイエスの頭に置き、右手に葦の棒を持たせた。そしてイエスの前にひざまずき、「ユダヤ人の王様、万歳」と言って、からかった。

マタイ 26 章 67 節は言っている:

それから彼らはイエスの顔に唾をかけ、拳で殴った。また、ある者たちはイエスを平手で打って、神はその御子があざけられるであろうと預言して、実際にそうなった。

13. 詩篇は救い主がどのように死ぬかを述べている。

詩篇 22 章 14-20 節は彼の死を詳細に述べている:

「水のように、私は注ぎ出され、骨はみな外れました。心はろうのように、私のうちで溶けました。私の力は、土器のかけらのように乾ききり、舌は上あごに張り付いています。死のちりの上に、あなたは私を置かれます。犬どもがわたしを取り囲み、悪者どもの群れがわたしを取り巻いて、わたしの手足にかみついたからです。私は自分の骨をみな数えることができます。彼らは目を凝らし私を見えています。彼らは私の衣服を分け合い、わたしの衣をくじ引きにします。主よ、あなたは離れないでください。私の力よ、早く助けに来てください。救い出してください。わたしのたましいを剣から。私のただ一つのものを犬の手から。」

彼を取り巻く場面が十分に、そして完全にそれを記述した詩篇 22 篇に達した時、彼はそばにいた人たち—すべての詩篇を知っている人たち—と一緒に唱えはじめるように最初のことばを大声で言った。

この十字架刑による死刑の肉体に及ぼす苦しみの、具体的な驚くべき記述は、それがローマ人によって使われる数百年前に書かれた。十字架刑は紀元前 200 年前ころに初めて執行され、ユダヤ地方では、紀元前 63 年に初めて執行された。しかし、それは詩篇 22 篇に詳しく予告されている。それを書いたダビデ王はイエスよりも 1000 年以上前に生まれた人である。そうです。マシアはそのような死に方をすると予告され、そのように死んだのである。手と足を釘で打たれ、着物をくじ引きにされたこともまた、詩篇 22 篇に詳しく書かれている通りである。

それがどのように実現したのか見てみよう。ルカ 22 章 33－34 節に十字架刑の様子が書かれている。

『どくろ』と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。また犯罪人たちを、一人は右に、もう一人は左に十字架につけた。そのとき、イエスはこう言われた『父よ、彼らをお赦し下さい。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。』彼らはイエスの衣分けるためにくじを引いた。」

マタイ 27 章 35 節には

「彼らはイエスを十字架につけてから、くじを引いてその衣を分けた。」』と書かれている。

神は御子がある特定の形で死ぬと書き、その通りになった。

14. 旧約聖書は、救い主の死の間際における叫びを預言している。詩篇 22 章 1 節にそれが記されている。

「わが神、わが神、どうして私をお見捨てになったのですか...」

マタイ 27 章 46 節はその預言の成就をこう記している。「三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。『エリ、エリ、レマ、サバクタニ。』これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である」

敬虔なユダヤ人は、男性も女性も、どの時代でも、そして今でも詩篇を暗記し繰り返し唱えてきた—とりわけ困難な状況、そして未信者に囲まれているときにそうしてきた。私はイエスが詩篇の 22 篇の最初の部分を叫んだことは、今も続くユダヤの習慣に従って、イエスも絶えず詩篇を暗唱していたことを示していると信じている。

そして、その暗唱が、彼を取り囲む状況を完全に表している詩篇 22 篇に及んだ時、彼はその最初の言葉を周囲の者たち—詩篇を暗記している者、そしてそれがメシア預言であることを知っている者たち全員—が、彼と共に唱えることが出来るように大声で叫んだのだ。

そしてユダヤ人たちは、それを唱えたときに、突然その預言が、イエス自身によって計画することの出来ない方法で、目の前で実現されるのに気が付いたのではないだろうか。。彼の体は特別な方法で苦しめられていたのだ。彼の着物はくじの対象ににされ、兵士たちは彼の手と足を十字架に釘で打ち付けたのである。人々は、彼を侮辱する言葉を叫んでいたが、それは、この詩篇や他の箇所ですべて予告されている(イザヤ 53)。

人々は、これら全てのことが何を意味するのか、続いてイザヤのメシア預言の中に見出したかも知れない。

1. 「まことに、彼は我々の病を負い、我々の痛みを担った。それなのに、私たちは思った。神に罰せられ、打たれ、苦しめられたのだと。しかし、彼は私たちの背きのために刺され、私たちの咎

のために砕かれたのだ。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、その打ち傷のゆえに、私たちは癒やされた。私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な道に向かって行った。しかし、主は私たちすべての者の咎を、彼に負わせた。彼は痛めつけられ、苦しんだ。だが、口を開かない。屠り場に引かれて行く羊のように、毛を刈る者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。虐げとさばきによって、彼は取り去られた。彼の時代の者で、だれが思ったことか。彼が民の背きのゆえに打たれ、生ける者の地から絶たれたのだと。彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた。彼は不法を働かず、その口に欺きはなかったが。しかし、彼を砕いて病を追わせることは主のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末永く子孫を見ることができ、主のみこころは彼によって成し遂げられる。『彼は自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て、満足する。私の正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う…』(イザヤ書 53:4-11)

神は御子が死に際して叫ぶであろうと告げ、その通りになった。

15. 旧約聖書はメシアが突き刺されることを預言している。我々は既に、彼の手と足がくぎで突き刺されたこと、そして、その預言がどのように成就したかを読んだ。例えば、

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵と嘆願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て、ひとり子を失って嘆くかのように、その者のために嘆き、長子を失って激しく泣くかのように、その者のために激しく泣く。」(ゼカリヤ書 12:10)

しかし、突き刺されることが更に実行された。ヨハネはイエスが脇腹を突き刺されたことを述べている。なぜか。その預言が成就したことを示すためである。

「イエスのところに来ると、すでに死んでいるのが分かったので、その脚を折らなかった。しかし、

兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出てきた。これを目撃した者が証している。それは、あなたがたも信じるようになるためである。その証しは真実であり、その人は自分が真実を話していることを知っている。これらのことが起こったのは、『彼の骨は一つもおられることはない』とある聖書が成就するためであり、また聖書の別のところで、『彼らは自分たちが突き刺した方を仰ぎ見る』と言われているからである。(ヨハネ19章33-37節)

神は御子は突き刺されると告げ、その通りになった。

16. 闇が地をおおうであろう。アモスは言う。

「その日には、一神である主のことば一わたしは真昼に太陽を沈ませ、白昼に地を暗くする」(アモス8章9節)

その成就は、マタイの福音書に記されている。

「さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。」(マタイ27章45節)

(原文では第6時からとなっているが、ユダヤの時計は午前6時始まりなので、第6時とは正午である)

神は真昼に地を暗くすると言って、実際にそうした。一3時間に亘って。

検討: これらは驚くべき正確さで成就された何百の預言の内のほんの一部である。これらすべての預言とても重要である理由は、複合確率と呼ばれるものである。同じ人物によって非常に多くの成就されなければならない事柄がある場合、そんな人が存在する可能性は、その必要事項が増えるほど低くなる。その成就しなければならない事柄が稀にしか起こらない内容であればなおさらである。

次にはこれを検討してみよう: イエスキリストはその生涯の中で、300以上の預言を成就させた。こ

ここに挙げたのものは、こんなことが起こることがどれほど異常なことなのか理解する助けとなるだろう。

もしそれら300の預言の内、たった8つの預言が誰か一人の人物に実現するとしたら、以下のことに匹敵するのだ。

- テキサス州の周りに低いフェンスを作る。
- それを 60 センチの銀の硬貨で埋め尽くす。
- その中の一つを赤く塗る。
- 全部の硬貨を混ぜ合わせる
- それから、ルイジアナの州との境界線から目隠しをしてテキサス州の中へ向かって好きなだけ歩く。
- 目隠しを付けたまま前にかがむ
- そして、赤く塗られた銀の硬貨をひろう

赤い硬貨を見つける確率はどのくらいであろうか？あなたはそれを見つけることに退職後の人生を賭けるだろうか？永遠の命をその確率に賭けるか？我々すべてがそうする。なぜならそれがひとりの人物に8つの預言が成就する確率に過ぎないからである。しかし、イエスには 300 以上の預言が成就したのである。

ラビ(ユダヤ教の教師)たちは2種類の救い主が存在するのではないかと考えた。なぜなら救い主は、神と人の間の罪の障壁を取り除く苦しみの僕として、そして、人々をこの世界の圧政から開放するために来る征服する王として、両方言われているからである。しかし、それらは同じメシアの二回の訪れを示しているのである。既に一度は来られ、もう一度来られるのである。

ラビたちは、3人のメシアかも知れないとも考えていた。なぜなら、彼がベツレヘムに生まれ、神が彼をエジプトから呼び出し、彼はナザレ人と呼ばれると書かれているからである。彼らは一人の人物が

これらの三つの要求を全て満たすとは想像することが出来なかったのである。しかし、イエスはベツレヘムに生まれ、ヘロデ王に殺されることから逃れるために、両親にエジプトに連れていかれ、神がヨセフにイスラエルに戻っても良いと言われるまでそこに住んだ。そして、彼らはナザレに行って生活し、イエスはそこで30歳まで育ち、学び、働いたのである。

もし、メシアに対するこれらのたった3つの要求を、ひとりの人物が満たすことを想像するのも難しいなら、300以上の預言がイエスにおいて実現した確率がどんなであるか想像して欲しい。

あなたは最初にサンプル数を十分確保するために、原子の中性子、陽子、電子まで数に入れなければならない。それ以外に、この宇宙のどんなものを持ってきても、これほど起こる確率の低さを表現することはできない。将来を100パーセント正確に見通すことなど、人間には全く不可能なのである。この次元までは絶対に。神だけが出来るのであり、そして、神はそれをやったのである。

マタイは述べている

「イエスは答えられた。『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある」(マタイ4章4節)

我々は神から出た彼の言葉を聖書の中にもっている。それは、永遠について何を告げようとしているのだろうか？

ヨハネは次のように記録している。

「ピラトはイエスに言った。『真理とは何なのか。』こう言ってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。『私は、あの人に何の罪も認めない』」(ヨハネ18章38節)

ピラトのように我々は信頼に足る真理をみな迫及している——盲目的信仰ではなく確実な証拠に基

づいた信仰を。

ヨハネは言う

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理です」(ヨハネ 17 章 17 節)

まとめ:メシアについての神の言葉は、聖書に書かれており、それが真理であることは明らかである。科学、歴史、考古学や預言の検証結果が一証拠に基づいて一示していることは、神がいないことは考えられないということである。なぜなら、宇宙はすべて知的なデザインに基づいているし、完璧で詳細な預言も神以外のだれもすることは出来ない。一時には数千年も昔に一しかもそれらは、ひとりの人物の人生に明確に見事に成就するのである。

これまで我々は、科学は我々とその他すべてのものを造った創造者を指し示していることを見てきた。そして、聖書は信頼性のある真実の書であることが分かった。これらすべてを一つにまとめるとどうなるであろう？ 聖書は科学と同じ立場を支持するだろうか？ 詳しく見てみよう。

聖書、自然、科学、そして真実

これまで永遠の真実を探してきて、主があなたの理性を使うように言ったことを覚えておられるだろうか？ 論理的整合性である。真実を信じることは知的に自殺することではない。論理は、私たちが真実を見出すために存在する。合理的に考えながら、真実がどのように展開するのか注意深く見てみよう。

『さあ、来たれ。論じ合おう。一主は言われる一…』(イザヤ書 1 章 18 節)

聖書は間違いやすい人間によって書かれたが、聖書の言葉は神からのものであるということは無効にしないとしよう。預言の成就是その大きな証拠である。さらに言えば、人間は常に間違っただけでは

ない。いつでも間違えうわけではない。我々は間違いなしに書くことができる。実際に、学校や職場で小切手や財務に関するものなど間違いなく書かなければならない。聖書には92回「こう書かれている通り...」とある。これは神が人間を使って、今神が語られたものとしなければならぬことを書かせたという意味である。

あなたが美しい絵画を見た時に画家が描いたと思うだろうか？それとも絵筆が描いたと思うだろうか？もちろん我々は、画家が描いたことを知っている。しかし、それと同時に彼が絵筆を使ったことを知っている。同様に、神は聖書の著者であることを主張するが、人間を使って羊皮紙に書かせてずっと保存したのである。誰かが神は曲がった棒でまっすぐな線を引くことは出来ると言った。つまり、彼は不完全な人間を用いて、完全なものを書いたのである。

我々は神が間違えることがないことを知っている。聖書は神の言葉なので、やはり間違えることがない。神はその言葉を保ち、誤りから守ったのだ。我々はただこれが真実であるという証拠を見ればよいのである。

・聖書は、造られたものがそれを造ったお方について非常にはっきりと語っていると言っている。

「天は神の栄光を語り告げ、大空はみ手のわざを告げ知らせる。昼は昼へ話を伝え、夜は夜へ知識を示す。話しもせず、語りもせず、その声も聞こえない。しかしその光芒は全地に、そのことばは世界の果てまで届いた。神は天に、太陽のために幕屋を設けられた。花婿のように、太陽は部屋から出て、勇士のように、走路を喜び走る。天の果てからそれは昇り、天の果てまで、それは巡る。その熱から隠れ得るものは何もない。」(詩篇 19 章 1-6 節)

「はじめに神が天と地を創造された。」(創世記 1 章 1 節)

・我々が 1 章の証拠を見た時に、我々は宇宙には創造主がいないと信じることは理にかなっていない

と結論した。我々がそう言うずっと前に、神は同じ結論に達し、彼の存在を否定するものに対して次のように語っている。

「神について知りうることは、彼らの間で明らかです。神が彼らに明らかにされたのです。神の、目に見えない性質、すなわち神の永遠の力と神性は、世界が創造されたときから被造物を通して知られ、はっきりと認められるので、彼らには弁解の余地はありません。」(ローマ書 1 章 19－20 節)

「愚か者は心の中で『神はいない』と言う。彼らは腐っていて、忌まわしいことを行う。善を行う者はいない。」(詩篇 14 章 1 節)

・神は、この世界をご自身が造ったと言ったとき、物事の起源についてもまた明言している。

「主は御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く据え、英知をもって天を張られた。主の御声に、天では水のざわめきが起る。主は地の果てから雲を上らせ、雨のために稲妻を造り、ご自分の倉から風を出される。すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、偶像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中には息がない。」(エレミヤ書 10 章 12－14 節)

「私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。」(詩篇 121 章 2 節)

「幸いなことよ ヤコブの神を助けとし、その神、主に望みを置く人。主は天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造られた方。」(詩篇 146 章 5－6 節)

「ただあなただけが主です。あなたは天と、天の天と、その万象を、地とその上のすべてのものを、海とその中にあるすべてのものを造られました。あなたはそのすべてを生かしておられます。天の万象はあなたを伏し拝んでいます」(ネヘミヤ記 9 章 6 節)

・神は動物を創造したと言っている

「しかし獣に訪ねてみよ。あなたに教えてくれるだろう。空の鳥にも。あなたに告げてくれるだろう。あるいは地に話しかけよ。教えてくれるだろう。海の魚も語るだろう。これらすべてのうちで、主の御手がこれをなしたことを知らない者がるだろうか。すべての生き物のいのちと、すべての肉なる人の息は、その御手の内にある。」(ヨブ記 12 章 7-10 節)

・神がすべての生き物の息をその御手の内に握っており、ほかのなにものでもない！

「主よ、代々にわたってあなたは私たちの住まいです。山が生まれる前から地と世界をあなたが生み出す前から、とこしえからとこしえまで、あなたは神です。」(詩篇 90 章 1-2 節)

「知れ。主こそ神。主が私たちを造られた。私たちは主のもの、主の民、その牧の羊。」(詩篇 100 篇 3 節)

「天を創造し、これを延べ広げ、地とその産物を押し広げ、その上にいる民に息を与え、そこを歩む者たちに霊を授けた神なる主はこう言われる。」(イザヤ書 42 章 5 節)

「このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。このわたしが手で天を延べ広げ、その万象に命じたのだ。このわたしが義をもって彼を奮い立たせ、彼の道をことごとく平らにする。彼がわたしの都を建て直し、わたしの捕囚の民を開放する。代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。一万軍の主は言われる。」

イスラエルの神、救主よ。まことに、あなたはご自分を隠す神。偶像を細工する者どもはみな恥を見、辱めを受ける。彼らはともに、辱めのうちに去る。イスラエルは主に救われ、永遠のの救いに入れられる。あなたがたは恥を見ることも、辱めを受けることもない。永遠に至るまで。

天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを堅く立てた方、これを茫漠としたものとして創造せず、住む所として形造った方、まことに、この主が言われる。『わたしは主。ほかに

はいない。』(イザヤ書 45 章 12-13 節、15-18 節)

- 神は動物も人間も、その種に応じて造った。それは一つの種類は同じ種を生み出し、他の種を生み出さないということである。

「神は、海の巨獣と、水に群がりうごめくすべての生き物を種類ごとに、また翼のあるすべての鳥を種類ごとに創造された。神はそれを良しと見られた。

神はそれらを祝福して、『生めよ。増えよ。海の水に満ちよ。鳥は地の上の上に増えよ』と仰せられた。

夕があり、朝があった。第五日。

神は仰せられた。『地は生き物を種類ごとに、家畜や、這うもの、地の獣を種類ごとに生じよ。』すると、そのようになった。

神は、地の獣を種類ごと、家畜を種類ごとに、地面を這うすべてのものを種類ごとに造られた。神はそれを良しと見られた。

神は仰せられた。『さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。』(創世記 1 章 21-26 節)

- 聖書はさらに詳細にマクロな進化が起きなかったと主張している。

「どんな肉も同じではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉、それぞれ違います。』(第一コリント 1 5 章 39 節)

科学的証拠が示すように、それぞれの種類の肉は異なり、同じ種類の肉だけを再生産する。聖書は

まったく同じことを語っている！

- 最終結論： 真実は明らかにされた。聖書は、我々がどこで永遠を過ごすのかを選ぶために必要な知らなければならないことを、すべて述べている。実際、聖書(BIBLE)は、地上を去る前の基本的情報(Basic Information Before Leaving Earth)の頭文字であると言っても良いかも知れない。

あなたが誰でもかまわない。マイケル・ジョーダンであれ大統領であれ私であれ、私たちは、いつかはこの地上を去るのである。もしあなたが永遠に関する正しい情報をもっていて、それによって正しいことをすれば、最後には正しい場所に行くのである。しかし、あなたが間違っただけの情報を持っているか、あるいは正しい情報を持っていながらそれにそわないことをするなら、間違っただけの場所に行くのである。我々の下の氷は、今や益々厚くなっている。我々は、聖書が真実であることを知っており、永遠の真理もより明らかになっているのだから。

我々は「死」を予定表に書き入れない。しかしそれは突然やってくる。

4 章

「火事だ！火事だ！」

私たちと天国か地獄の間には、世界で最ももろいものである生命だけがある。

—ブレイズ・パスカル

さて、聖書が正しいかどうかの謎は解けた。我々の旅の次のステップへの道は開いている。聖書が永遠の到着点についてどのように言っているのかを見出すことである。これらの言葉を聞いたことがあるだろうか？

すべてのことには定まった時期があり、

天の下のすべての営みに時がある。

生まれるのに時があり、死ぬのに時がある。

植えるのに時があり、

植えた物を抜くのに時がある。

殺すのに時があり、癒すのに時がある。

崩すのに時があり、建てるのに時がある。

泣くのに時があり、笑うのに時がある。

嘆くのに時があり、踊るのに時がある。

この言葉を数十年前にバーズ(ロックバンド)が書いた歌詞だと思う人もいるが、実はこの時間を超える言葉は、その数千年前に神の靈感によって書かれたのである(伝道者の書3章1-4節)。

これらの言葉は真実なので心の奥深くに響く。私たち一人ひとりに生きる時と死ぬ時がある。問題は、私たちが死ぬ時が来た時何が起こるかである。最後の鼓動を終えた後に何が起こるだろう?もしも、それが今日であるならあなたは準備ができているだろうか?

神は永遠を思う思いををすべての男と女の心に置かれた。心の奥底で、我々は人生がこれだけのものではなく、墓の向こうに何かがあると直感的に知っている。聖書は我々はみな体、魂、霊を持っていると述べている(第一テサロニケ5章23節)。あなたは死ぬ時にあなたの肉体を離れるだろう。しかし、あなたの魂や霊には何が起こるだろうか?あなたは永遠の時をどこで過ごすのだろうか?

あなたが墓に彫られた名前を見るときに、故人の誕生日と亡くなった日を見る。もしも、その誕生日と亡くなった日の間に70-80年間くらいの期間があれば、それは多くの人によい人生だったのだと思われるだろう。

しかし、永遠は当然ながら80年よりも無限に長い。私はあなたが肉体的な死を迎えた後に、どこかでこの地上で生きるよりもはるかに長い時を過ごすことを保証できる。

そういう事実があるのだから、一時的なことにだけ目を留めるのかわりに、永遠について何が出来るかを学ぶほうが理にかなっている。これから150年後にあなたが数百万ドル稼いだかどうか、ベンツのオープンカーに乗ったかどうか、素晴らしい家を持ったかどうか、Final Four(アメリカの大学バスケットボール選手権決勝)に出場したかどうかは重要だろうか？ 私たちは霊柩車の後ろのU-Haul(自家用車煮付ける荷物運搬車)を付けることはない。私たちが死ぬときはなにも持っていけないのだから。あなたが死ぬときに重要なことは、あなたを創造した神を知っているかどうかだけである。もしも、あなたが知っていればあなたは神と共に永遠を過ごすだろう。そして、もしも知っていなければ、神無しで永遠を過ごすだろう。なぜなら、あなたは彼の存在そのものを愛する愛を否定し、それを拒絶するという結論に向かうことを受け入れたからである。

永遠なることのみが重要なのである。一時的なことではない。自分の胸に聞いてみて欲しい。あなたは、この短い人生での結びつきや所有物を、永遠をどこでどのように過ごすことよりも心配していないだろうか？

聖書は、生涯で得た所有物に大いに満足した裕福な男について書いている。彼は自分に言う。

「そして言った。『こうしよう。私の倉を壊して、もっと大きいのを建て、私の穀物や財産はすべてそこにしまっておこう。そして、自分の魂にこう言おう。「わがたましいよ、これから先何年分もいっぱい物

がためられた。さあ休め。食べて、飲んで、楽しめ。」しかし、神は彼に言われた。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるか』。自分のために蓄えても、神に対して富まない者はこのとおりです。」(ルカ 12 章 18-21 節)

死は突然やってくる。死は歓迎されないものであるが、確実にやってくる。我々は日程表に“死”と書き込まないが、それはある日突然やってくる。それは、そこから戻ることのない旅である。我々は愚か者と呼ばれたくない、この人生でも来世でも。では、どうやったら死んだ後に、私たちは愚か者だったということにならないで済むのだろうか？

人生にはあまりにも多くの選択がある。どんな車を買うか、今晚何を食べるか、どこの学校に行くか、だれと結婚するか、どの大学に行くか、どのように時間を過ごすかなどなど。しかし永遠には2つの選択肢しか無い。聖書は我々が死後に二つのうちの一つに行くことが決まっていると述べている。

「ちりの大地の中に眠っている者のうち、多くの者が目を覚ます。ある者は永遠のいのちに、ある者は恥辱と、永遠の嫌悪に。」(ダニエル 12 章 2 節)

私たちはみんな目覚めて天国に幸せにいるか、地獄に不名誉と憎しみの中にいるか、どちらにいるか気付くのである。マーク・トウェインは冗談で言った。『良い気候を求めめるなら天国へ行け、仲間を求めめるなら地獄へ行け』と。しかし、もし地獄に行くとしたら、それはあなたにとっても誰にとっても冗談ごとではない。

『天国がないと想像してごらん』

ジョン・レノンはイマジジンという歌の中で永遠についての神様の言葉を真剣に受け止めなかった。(全歌詞をインターネットで見ることが出来る)。レノンの想像した世界はは、天国も地獄もなく、国もなく、殺したり死ぬ理由もなく、宗教もなく、所有物もないものだった。レノンのこの世界を幸福にするも

のは何かについての想像は、完全に間違っている。人々は幸福を求めるが、所有物、国、神を投げ出すことは幸福になる方法でないことは明らかである。

神を投げ出すこと、そして神が我々に望むと聖書が言っているすべてのこと—所有物、国などを投げ出すことは果たしていい考えであろうか？もし本当に神様がいなければ。しかし、これまで見たすべての証拠が神がいると証明している。

レノンの、この世界を幸福にするものは何かについての想像は、完全に間違っている。人々は幸福を求めるが、所有物、国、神を投げ出すことは幸福になる方法でないことは明らかである。

死後の世界について、レノンが存在を否定したものが本当に無いのかどうか考えてみよう。神は、永遠について我々よりもはるかによく見えている。そして、我々が永遠に彼と一緒に過ごすことができるように、真実を知ってほしいと願っている。次の世界で何が待っているのかについて聖書がなんと言っているか見てみよう。あなたはそこで発見することに驚くかも知れない。バーナグループの調査によれば、大多数のアメリカ人(76%)が天国が存在すると信じている。その内の46%の人がそれを、「神と一緒に永遠に過ごす状態」と述べ、30%の人が死後に魂が行く、休息と報酬の実際の場所だとみなしている。14%の人はそれを単なる象徴的なものに過ぎないと考えている。⁶⁶

あなたは天国がどのようなところだと思うだろうか？

多くの人が天国を旧友や死んだ家族と一緒に過ごせる限りなく楽しい場所だと想像する。彼らは天国の目的が個人的な楽しみであり、あらゆる気まぐれに応じてくれるところであると信じている。しかし、皆が利己的に自分のことだけを考えるというのは、他人から奪ってでも欲しいものを得ようとするこの地上の生活と同じようではないだろうか？ 実実 C.S.ルイスによれば、「無慈悲、眠れないこと、ほほえみがないこと、自分のことだけに興味を持つことは地獄の特徴である」、天国のではない。

それは神の言葉が述べる天の王国とは異なる。聖書は天国を以下のように描写している。

「しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥とнаさいませんでした。神が彼らのために都を用意されたのです」(ヘブル 11 章 16 節)

イエスは、天にはたくさん住むところがあり、彼は私たちのために場所を用意しに行くと言った(ヨハネ 14 章 2 節)

天国には古びたり壊れたりするものはない。そこはすべてのものが良いと安心して信頼できる場所である。

「自分のために天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を明けて盗むこともありません。」(マタイ 6 章 20 節)

私たちは実体のある新しい霊の体をもつことになる。それは完全で健全であり、地上で苦しんだ全ての肉体的な弱さから自由とされるのである(第一コリント 15 章 44 節)。

もはや飢えも渇きも、涙も痛みも永遠にない(黙示録 7 章 16-17 節)。天国では、聖書によると、報酬を受け、労苦を休んで休息することができるかと書かれている。天国は平和の地であり、疲れたものに快適で、あなたが今住んでいる国よりも良いところである。そこは、神様と天使がいるところである。私たちは、そこが自分が行くところかどうか自分自身に問わなければならない。

私の友人が最近亡くなった。彼はクリスチャンであった。彼は心臓が止まった時には透析機械につながれていた。医師たちは急いで AED を持ってきて、電気ショックで心肺を蘇生させた。

彼は隣りに座っていた父親を見て言った。「パパ。さっき僕が見たものを信じないと思うよ!」。驚く

べきことに、この言葉を発した彼は20年間盲目だったのである。彼の身体を徐々に蝕んでいった糖尿病によって、彼は20年前に視力を失っていたのだ。

彼は彼の魂が体を離れ、彼のベッドの横にある心電図のモニターの線が平になったのを見ることが出来たと説明した。そしてその旅が始まったのである。彼は言った。白い心が奪われるような光が、すばらしい愛の臨済とともに彼を包み、彼は見たこともない生き生きとした美しい色の花を見たと言った。彼は「パパ、もしもあれが死なら、死って悪くないよ」と言い、5日後に亡くなった。

天国はあなたがいつか行く本当に現実的な場所なのである。クリスチャンであった夫の葬式で妻は言った。「彼は幸運ね。私も行けるものなら今日天国に行きたいわ。どうして私でなかったのでしょうか。」。私たちの愛する者の行き先、そして私たちの行き先を知っていれば、死は恐れることなく待ち望むことが出来るものなのである。

また、ある若者が夏空を見上げてこんなことを言った話を聞いた。「もし、天国の外側があれだけキレイなら、内側はどれだけきれいなのだろう」。我々の誰もが、神が彼に従うもののために用意している場所の素晴らしさについて、現実的な手がかりを何ももっていない。聖書は天国には金の道があり、壁は真珠やエメラルドなどの宝石で作られていると述べている。

天国ではこの地上では非常に高価なものが、私たちが歩く道を舗装する普通材料であることが興味深い。なんと、天国の美しいことだろうか？

ことばではそれは言いつくせない。痛みも苦しみも病気もなく、泣くことも死もない。しかしその中でも最も素晴らしいことは、—私たちが遂にそこに行った時、何より大切なことは—天国は、我々の驚くべき創造主に直接会えるところだということである。

そこはあなたが永遠を過ごす場所だろうか？

“地獄がない”

もう一つの選択肢は地獄と呼ばれるところである。ジョン・レノンは「地獄なんてない」ことを想像してみよとイマジンと言う歌の中で歌っている。地獄など今時流行らないが、そういう問題ではない。我々が好きでないからといって地獄が存在しないというわけではない。多くの人は地獄なんて信じない、だから地獄は存在しないという。しかし、忘れないでほしい。私たちが信じるかどうかは問題ではないのである。それが真実であるかどうかということが問題なのである。

信じないということが現実を変える訳ではない。我々は毒によって死なないと信じることが出来るが、実際には死ぬのである。地球が平坦であると信じることはできるが、そうではない。あなたが信じたいことではなく、真実を見つけてほしい。

多くの人が地獄には友達がたくさんいるから行くのは構わないと言う。しかし、地獄はリハビリをするところでも楽しいところでもない。罰を受ける場所である。バーナグループ調査によれば、3分の1の人しか地獄を苦痛の場所だと信じていない一方で、10分の4の人が単純に神から永遠に離れることであると考えている。⁶⁷我々がどう考えるかにかかわらず、神の言葉ではどのように記されているであろう？

聖書によれば地獄は現実に存在する場所である。イエスは33回にわたってその恐ろしさを生々しく描写して語っている。その場所は永遠であり、苦痛の意識があり、消えることのない火が燃える恐ろしい苦しみ場所である(マタイ3章12節)

聖書は、神にしたがわない者は「永遠の滅びという刑罰を受け…」(第2セサロニケ1章9節)、火の燃える炉の中に投げ込まれ、彼らはそこで泣いて歯ぎしりする(マタイ13章42節)と言っている。それは「火の燃えるゲヘナ」と呼ばれ(マタイ5章22節)、その者たちは永遠の刑罰に入り(マタイ25章

46 節)、怒りと憤りが下され、患難と苦悩とが下される(ローマ 2 章 8-9 節)。

イエスは我々に、どんな犠牲を払ってでも地獄に行かないようにと警告している。

『もし、あなたの手があなたをつまづかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろっていて、ゲヘナに、その消えない火の中に落ちるより、片手でいのちに入るほうがよいのです。もし、あなたの片足があなたをつまづかせるなら、それを切り捨てなさい。両足がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片足でいのちに入るほうがよいのです。もし、あなたの目があなたをつまづかせるなら、それをえぐり出しなさい。両目がそろっていてゲヘナに投げ込まれるより、片目で神の国に入るほうがよいのです。ゲヘナでは、彼らを食らうじ虫が尽きることもなく、火も消えることはありません。』(マルコ 9 章 43-48 節)

天において天使が神に反逆した時、「神は、罪を犯した御使いたちを放置せず、地獄に投げ入れ、暗闇の縄目につないで、さばきの日まで閉じ込められました」(第 2 ペテロ 2 章 4 節)と言われている。それがどれだけ暗いところか想像してみよ。あなたは洞窟を探検するツアーに参加したことがあるだろうか？ 普通ツアーガイドは、参加者がその真っ暗闇を感じ取る事が出来るように、すべての照明を消させる。完全に明かりが無ければそれは全くの暗闇で何も見えず、自分の指で自分の目を突き刺してしまうことさえありそうである。暗闇は大変なストレスで、人々はほんの短い時間でパニックを起こす。終わりのない永遠が、それと比べてどれほど長いかを想像して欲しい。暗闇だけで、十分な苦しみである。

聖書は、地獄を「暗闇の国」と述べており、「御国の子らは外の暗闇に放り出されます。そこで泣いて歯ぎしりするのです」と宣言している(マタイ 8 章 12 節)。神を拒否する人々は、光よりも闇の業を愛するのでそうするのだと言われている。

人々は光よりも闇を好むためであり、彼らは永遠にこれを得ることになる。そして、そこからの逃げ道はない、出口はなく入り口だけである。

なぜ地獄？

ある人々は、聖書の神を信じないことを選ぶ。なぜなら、地獄で永遠に人々に罰を与えるような怒る神という考えが嫌いだからである。わたしもそのように思っていた。クリスチャンになる前は神に様々な属性があることを知らなかったのである。ほとんどの人は、「神は愛である」という聖句に馴染みがある。実際に神は愛である。しかし、同時に神は公正である。神は聖いお方である。は義である。これらの属性により神は厳しい側面も持っている。そしてそれは正当なのである。

神は罪を憎む。そういうことである。この地上の我々の誰も、神がたとえどれほど小さな罪でも、それをどれほど憎むのか、完全に認識することは出来ない。私はこの神様の厳しい側面を想像できなかった。しかしある日、私は自分に好ましい神を造ることができるわけではないことに気が付いた。神は想像の産物ではないし、それを形にしたものでもなく、心の投影でもない。神は私が神についてどう考えようと、それとは無関係の存在である。しかしそれは、聖書が神について言っていることを無視していた時に、私が行なおうとしていたことだったのである。本当の神は私が死んだ時に必ずその前に立たなければならないお方であり、私の想像の神ではない。

我々は聖書が真実であることを知っているので、我々がやがて会うのは聖書の神であることも知っている。したがって、我々は神がなぜ怒りの側面も持っているのかを知り、理解しなければならない。そして、我々は死んだ時に神の怒りの側面に会わないことを確かにするためにはどうすればよいのかを知らなければならない。聖書、すなわち神の御言葉は、なぜ我々が彼の怒りを引き起すのか、そしてどのようにそれを避けることが出来るかを述べている。

「ですから、地にあるからだの部分、すなわち、淫らな行い、汚れ、情欲、悪い欲、そして貪欲を殺してしまいなさい。貪欲は偶像礼拝です。これらのために、神の怒りが不従順残らの上に下ります。」(コロサイ3章5-6節)

聖書は他にも以下のように述べている

「というのは、不義によって真理を阻んでいる人々のあらゆる不敬虔と不義に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。」(ローマ1章18節)

「あなたは、頑なで悔改める心がないために、神の正しいさばきが現れる御怒りの日の怒りを、自分のために蓄えています。神は、一人ひとり、その人の行いに応じて報いられます。忍耐をもって善を行い、光栄と誉と朽ちないものを求める者には、永遠のいのちを与え、利己的な思いから真理に従わず、不義に従う者には、怒りと憤りを下されます」(ローマ2章5-8節)

だから、人々が神の怒りに直面し地獄に行くときに、それは自分の選択の結果なのである。この世界を創造された神は、ご自身の存在の証拠を残された。しかし、多くの人々がそれを認めることを拒絶するのである。

聖書は、火の池は本来悪魔とそれに追従する天使たちのために用意されたものであると説明している。しかし、これらの悪の存在に従う人々もまた一緒にその火の池に行くのである。

「それから、王は左にいる者たちにも言います。『のろわれた者ども。わたしを離れ、悪魔とその使いのために用意された永遠の火に入れ』」(マタイ25章41節)

「あなたがたは知らないのですか。あなたがた自身を奴隷として捧げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷と生って死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります」(ローマ6章16節)

神は人々が地獄に行くことを望んではいないが、我々に選択の自由を与えているのである。

詩篇 139 章 8 節にあるように「たとえ私が天に上っても、そこにあなたはおられ、わたしがよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。」

あなたがベッドを作ったのだから、そこに寝なさい(日本語では「自業自得」と訳される)ということわざがある。つまり、ベッドを作ることは、そこに寝る準備なのである。それは私たちの行いが将来を決めるということである—好むと好まざるとにかかわらず。

私たちが地獄へ行く準備に時間を費やしてる間も、神は私たちと共にいる。私たちはいつでも神の方に向き直って、「神様、ずっとあなたに背いてきて申し訳ありませんどうぞ私をこのむちゃくちゃな状態から連れ出し、正しい道に戻してください」と言うことが出来る。そうすれば、神は私たちを助けてくださるであろう。しかし、死んでしまったら、そしてそこが地獄だったら、助けを求めても、もう遅い。

マタイの箇所では我々は地獄が本来は人を念頭に置いて造られたのではないことを学んだ。対して、天国は…

「それから王は右にいる者たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち、世界の基が据えられたときから、あなたがたのために備えられていた御国を受け継ぎなさい』」

(マタイ 25 章 34 節) と言われている。

聖書は神が悪人の死を喜ばないことを明確に述べている。

「彼らにこう言え、『わたしは生きている—神である主のことば—。わたしは決して悪しき者の死を喜ばない。悪しき者がその道から立ち返り、生きることを喜ぶ。立ち返れ。悪の道から立ち返れ…』」(エゼキエル 33 章 11 節 a)

「主は、ある人たちが遅れていると知っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたに対して忍耐しておられるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」(第2ペテロ3章9節)

神にとって誰かが死んで地獄へ行くときは嬉しい日ではない。あなたが死ぬときは神にとって不快な日だろうか？多くの人が神が個々人を永遠の地獄に送ることを不公平だと考える。神に対する彼らの拒絶を踏まえれば、神は完全に公平である。

もし、人々が地上で神と過ごしたくないなら、どうして来たるべき世で一緒に過ごしたいことがあるう？もし、彼らが今のこの世で神という概念が嫌いなら、やはり次の世でも神と一緒に居たくないだろう。作家フランク・ハーバーは述べている…

もし、神が人の意に反して彼らを天国へ強制的に送るならそれは天国ではなく地獄である。無神論者のジャン・ポール・サルトルは地獄のドアは内側から人々の自由意思によってロックされていると述べている。⁶⁸

C.S.ルイスは書いている

世の中には2種類の人がある。神に「あなたのみこころが行われますように」と言う人と、神が「では、あなたの好きなようにしなさい」と言う人である。⁶⁹

我々は善と悪のどちらかを選択する自由意思を与えられている。神の思いと自分の思いのどちらかを。神は率直にその選択を尊重しているのである—その結果に直面させることを許すことも含めて。

数年前に、地獄とは単純に神様から永遠に離れることであると言われたことがある。しかし黙示録14章10-11節によれば、多くの人が考えているそのような理解は真実ではない。

我々の誰も、神のいない世界が何を意味するのか完全には理解できない。神の存在を信じるか信じないかに関わらず、「私たちは神の中に生き、動き、存在しているのです」(使徒 17 章 28 節)。そして、「御子は万物に先立って存在し、万物は御子にあって成り立っています」(コロサイ 1 章 17 節)。全てを支えている神の存在しない世界というのはゾッとする。しかし、我々は何も想像する必要はない。聖書はそれをリアルに伝えている。

「彼らの苦しみの煙は、世々限りなく立ち上る。獣とその像を拝む者たち、また、だれでも獣の名の刻印を受ける者には、昼も夜も安らぎがない」(黙示録 14 章 11 節)

これらの者たちは、地獄において二つの恐ろしい方法で神を経験することになる。第一に、神は聖なる御使たちと共に証人としてそこにいる。

「また、彼らの後にもう一人、第三の御使いがやって来て、大声で言った。『もしだれかが獣とその像を拝み、自分の額か手に刻印を受けるなら、その者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた、神の怒りのぶどう酒を飲み、聖なる御使たちと小羊の前で火と硫黄によって苦しめられる。』」(黙示録 14 章 9-10 節)

第二に、神が忌まわしい記憶の中に存在することである。最大の苦悩の一つは、彼らが神がいかにかに彼らの心の奥深くに「これが道だ。これに歩め」(イザヤ書 30 章 21 節)と語り続けられたかを思い出すことである。そして彼らは聞くことを拒否したことを思い出すのである。地獄では彼らは神から逃れることが出来ない。彼らは愛に満ちた神の存在を地上の生涯で否定し拒絶し続けた結果、後悔の念に苦しみながら永遠の時を過ごすのである。

しかし、神は繰り返し我々は選択しているのだと明確に述べている。例えば…

「御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を信じな

かったからである」(ヨハネ3章18節)

「しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。』(第一コリント11章31節)

神は天国では栄光であり、地獄では恐怖である。地獄を地獄たらしめるのは神の怒りである。もし、あなたが地獄に行ってしまうえば神様の栄光から離れて、その素晴らしさからも離れることになるが、神の怒りから逃れることはできない。

サタンが地獄を司っていると思う人がいるが、サタンは滅ぼされた敵であって、なにも司っていない。神がすべてを支配しておられるのである。神が天と地、そして地獄の全てを支配する主権者である。地獄はサタンが支配する王国でも、人々がパーティをする場所でもない。それは永遠の処罰の場所である。

地獄の最も恐ろしいところは苦しさではなく、その苦しみが永遠に終わることがないことである。もしも、あなたが神の真実を拒絶する一人なら、いつの日か神の前に立つことは恐ろしいことだろう。預言者であり使徒であるヨハネはその光景を以下のように描いている

「また私は、大きな白い御座と、そこに着いておられる方を見た。地と天はその御前から逃げ去り、跡形もなくなった。また私は、死んだ人々が大きい者も小さい者も御座の前に立っているのを見た。数々の書物が開かれた。書物がもう一つ開かれたが、それはいのちの書であった。死んだ者たちは、これらの書物に書かれていることにしたが、自分の行いに応じてさばかれた。海はその中にいる死者を出した。死もよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が第二の死である。いのちの書に記されていない者はみな、火の池に投げ込まれた。』(黙示録20章11-15節)

第一の死は、我々のからだから魂が離れる時である。この瞬間にもし我々が神を信じ愛していれば、

我々の魂は神のもとへ行く。パウロは、彼自身の死が避けられないことを考えた時に書いている。

「私たちは心強いのですが、むしろ肉体から離れて、主のみもとにに住むほうがよいと思っています。」(第2コリント5章8節)

第二の死は最後の審判の時に起こる。それは、魂が神のもとへ行かなかったもの、そしてその時まで地獄に留められていた者が、正式に残りの有罪とされた人間とともに愛に満ちた神から離れて、永遠の火の池に行くと言われることである。

我々はみな第一の死を経験する。しかし、わたしたちはどうやって第二の死を確実に経験しないようにすることができるだろう？次に天国での永遠の命と地獄での永遠の苦しみという違いを決めるのは何なのかを短く見ることにする。あなたは絶対にそんなところの近くには、千万年以上どころか、10秒たりとも行きたくないであろう。

死は安全ではない

わたしは、ある日大けがをして緊急救命室に行ったことがある若者と話したことがある。彼は心臓がその鼓動を終え、魂が体から離れるとすぐに、邪悪な気配が近づいてきてその笑う声を聞いたと言った。彼はまた自分の身体に戻って生き返ったのがとても嬉しかったと言った。彼は悪魔が現実の存在であることを知った。

緊急救命室で働く呼吸器系の看護師が「コードレッド」、つまり心拍がなくなったある患者について教えてくれた。

数人の同僚と共に彼を蘇生させるためにAEDをもって急いだ。そのパッドを当て蘇生させると、彼は熱い、熱いと悲鳴をあげた。そして、心臓がまた止まった。もう一度蘇生させると今度は火だ火だと悲鳴をあげた。これが4度繰り返され、その度に彼は、「熱い」、「火だ」と叫んだ。最後に彼は死んだ。

そしてもう蘇生できなかつた。同僚の医師や看護師は数分間立ち尽くし、その死体を見詰めていた。皆が彼が地獄へ行ったのを知っていた。ここを出る前から彼はその苦しさに悲鳴をあげていたのだから。

わたしは、イエスと共にいるとか、あるいはトンネルと白い光というような典型的な話ではなく、燃える地獄を経験した(薬物やアルコールを飲んでいない)幾人かの人と会ったことがある。だから、ただ親切な人であれば死に際して甘やかな白い光の中でこそれを迎えるというような話を信じてはならない。

心臓外科医のモーリス・ローリング博士は数多くの死線をさまよった患者を見ている。そして、そこで見出したことについて「死のドアの向こう」という本に書いている。ローリング博士は死線から回復した300人の患者から話を聞いたところ、その約半数が火の池、悪魔のような姿、そして、現実的な地獄の光景を目撃していると語った。そして、ローリング博士は、「死後の世界がある。」そして「私が死後に行くところを知らなければ死ぬのは安全でない」と言った。

彼は地獄をありありと経験し、説明した人々が数日もするとその記憶を失ってしまうことも同様に発見した。このことが恐らく多くの調査機関が「良い場合」しか見い出せない理由であろう。彼は、地獄を経験したある人たちはそのことを認めることが、家族にさえもきまりが悪くて話を変えてしまうのに対し、天国を経験した人はその模様を記憶しており、詳細に説明するのだと考えている。⁷⁰

だから、死を楽しいことなどはゆめゆめ思わないでもらいたい。地獄は現実の場所であり、決してあなたが死後に行きたい場所ではない。

フランスの作家、哲学者、そして無神論者であるヴォルテールは、かつて死に行く友人を元気づけるために何か言葉をかけてもらえないかと頼まれたことがあった。ヴォルテールは答えた。「わたしには出来ない。本当に地獄があるかも知れないということにずっとさいなまれるから。」

地獄は存在する。そして、聖書の中でその様が最も鮮やかに描かれている場所の一つは、よく知られているお金持ちとラザロの話である。

「ある金持ちがいた。紫の衣や柔らかい亜麻布を着て、毎日ぜんとくに遊び暮らしていた。その金持ちの門前には、ラザロという、できものだらけの貧しい人が寝ていた。彼は金持ちの食卓から落ちる物で、腹を満たしたいと思っていた。犬たちもやって来ては、彼のできものををなめていた。あいにくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。金持ちが、よみで苦しみながら目をあげると、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロが見えた。金持ちは叫んで言った。『父アブラハムよ、私をあわれんでラザロをお送りください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすようにしてください。私はこの炎の中で苦しくてたまりません。』するとアブラハムは言った。『子よ、思い出しなさい。おまえは生着ている間、良いものを受け、ラザロは生きている間、悪いものを受けた。しかし今は、彼はここで慰められ、おまえは苦しきもだえている。そればかりか、わたしたちとおまえたちの間には大きな淵がある。ここからおまえたちのところへ渡ろうとしても渡れず、そこから私たちのところへ越えて来ることもできない。』金持ちは言った。『父よ、それではお願いですから、ラザロを私の家族に送ってください。私には兄弟が五人いますが、彼らまでこんな苦しい場所に来ることがないように、彼らに警告してください。』しかし、アブラハムは言った。『彼らにはモーセと預言者がいる。その言うことを聞くがよい。』金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ。もし、死んだ者たちの中から、だれかが彼らのところへ行けば、彼らは悔い改めるでしょう。』アブラハムは彼に言った。『モーセと預言者たちに耳を傾けないのなら、たとえ、だれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』(ルカ 16 章 19—31 節)

金持ちは地獄におり、すべての五感はきちんと働いている。彼は苦難の中でたった一滴の水を乞

うような苦しみの中にある。ここを読んでひとときわたしの心に響くのは、そこに橋渡しするものが無いことである。さばきはあなたの心臓が最後の鼓動を打ったときに行われる。金持ちは水を誰かに持ってこさせることが出来ないし、ラザロはそうしたくても助けるために駆けつけることが出来ない。

あなたは死後にその永遠の行き先を変えることはできない。あなたは永遠の行き先への片道切符しか持っていないのである。あなたは心臓が最後の鼓動を打つ前に、どこまでも永遠に続く分かれ道のどちら側に行くかを知らなければならない。金持ちは兄弟に同じ永遠の地獄に来て欲しくはなかった。わたしはあなたにこの本をあなたに対する警告として考えて欲しい。神はあなたが地獄へ行くことを望んでいないし、わたしもそうだ。

もしも人々が、最近のバーナ調査の結果を正確だと受け止めるなら、わたしはそう思わないが、地獄はとても閑散とした場所である。アメリカ人のわずか0.5%だけが死んだときに地獄に行くだろうと言っている一方で、3分の2近く(64%)が天国に行くと考えているのである。⁷¹

しかし、イエスは何と言っただろう？

『狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。』(マタイ7章13節)

『ですから、あなたがたも用心していなさい。人の子は思いがけない時に来るのです。』(マタイ24章44節)

いったい何が最後の行き先を決めるのだろうか？どのような基準があなたの行くところを決定するのだろうか？この重要な質問が次の章のテーマである。わたしたちの永遠の真実の探求の範囲はさらに狭まっていく。

上司やコーチや教師らは、我々のすることやしなかったことに基づいて裁く。社会全体としては、ほか

に方法はない。

5章

法だ！

わたしは完全なエンディングを求めた。今や私は経験によって知った。ある詩は韻を踏まず、ある物語は、初めも途中も最後もはっきりしない。人生はわからないこと。次に何が起こるか知らずに、チャンスをとらえ、最善を尽くし、変化しなければならない。実に楽しいあいまいさだ。—ギルダ・ラドナー

ギルダ・ラドナー、有名な喜劇役者は次に何が起こるのか知らなかった。しかし、あなたは知っている。あなたはこの世を去ったときに二つの行き先しか無いことを知っている。そして、最後の鼓動を終えた後にそのどちらかに向かう。

それはほとんどの人が最も気にしてる 次の質問に我々を導く一。

わたしはシンシナティへの飛行機にある日乗った。隣には Proctor and Gamble(アメリカの食品製薬会社)に勤める人が座っていた。私は彼に死後にどこに行くと思うか聞いてみた。彼は言った。「死後には天国か地獄があると思う。分からないのはどのような基準で誰がどちらに行くかだ。」もちろん、これこそが問題なのだ。我々を二つのうちどちらかに永遠に分けてしまう要素は一体何なのか？

「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることがないためです。」(エペソ 2 章 8—9 節)

神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみによって、聖霊による再生と刷新の洗いをもって、聖わたしたちを救ってくださいました。」(テトス 3 章 5 節)

最初に驚いたことは、我々が天国に入るためには良い行いは十分ではないということである。これは我々の思うことの反対である。

上司やコーチや教師らは、我々のすることやしなかったことに基づいて裁く。神も同じでないのか？ある時、ティーンエイジャーの私は教会の席に座っていた。そこで私の人生に一大転機が起こったときのことを覚えている。神がどのように私を裁くかを考え始めたのである。私は、神が天国に大きなスコアカードをもっており、私が兄弟や姉妹に優しくする度に、25セントを献金する度に、また宿題を提出する度に、あるいは教会に行くとき、そこに得点を得るのだと思っていた。

しかし、わたしには大きな質問があった。それはどれだけの得点を稼げば天国に行けるかということである。500か501か？答えは何だろう？天国に行くことを決定するのは何なのか？そして地獄の場合はどうか？多くの人はこのことを考えるだけで気が滅入る。ここにシアトル・ポストインティジェンサー(ワシントン州シアトルに拠点を置く日刊新聞)の2004年2月4日水曜日版がある。

少女が地獄という言葉を使い、停学に

ダン・ネフリン アソシアティッドプレス記者

ピッツバーグ AP バランディ・マッキネイス、7歳が地獄という言葉を使って罵ったという理由で停学になった。しかし、彼女の家族は、彼女は聖書に書いてある火と硫黄の燃える場所のことを言ったのだと言っている。

彼女は火曜日に停学になった。ピッツバーグパブリックスクールは、校則で冒流行為を禁じている。しかし、その定義を示していないと女性代理人の patt・クローフォードは述べた。学校側はそれ以上のコメントを控えている。

「学校規則は冒流はいけなと言っているが、それ以上は定義されていない。どのようにこの小さ

な少女が『地獄』という言葉が禁じられていると知ることが出来ただろう？そもそも地獄という言葉自体が冒涇であるかどうか疑問である。そして、彼女が使った言い方は、間違いなく冒涇ではない。」とウォルクザクは言った。ピッツバーグ警察の刑事 マッケニス は、家族が「狂信的」なわけではなく、主への健全な尊敬の念があるので、彼は自分の娘の説明を受け入れていると言った。「彼女は良い人間は天国へ、そして悪い人間は地獄へ行くと考えている」と彼は水曜日に答えた。

しかし、小学二年生の子供がどうして良い人間は天国へ、悪い人間は地獄へ行くと考えるだろう？そして、ほとんど我々のすべてが同じように考えるのだろうか？

テリー・シンドラー・シャイボが死んだ日に、私はビル・オライリーのラジオショーを聞いていた。かれは言った。「私は彼女が楽園にいることを望む」それを信じて何がいけないのか？あなたも悪い人は罰せられ、良い人はその報いを得るべきだと思わないか？

わたしはどうして多くの人が、どのようにして良い人は天国に行き悪い人は地獄に行くという考えを持つのか知らない。しかし、それは我々の心に刻まれているように思える。私は探求を続けるうちに、世の中がたとえ「天国に行くために善くありなさい」と言ったとしても、神は違う基準を持っていると知った。そして、わたしは自分が永遠についての正しい判断をするためにその基準を知らなければならぬことに気がついた。我々の永遠の行き先はその基準によって決められるのだから。では、神の信頼出来る言葉はどのようにその基準について述べているだろう？そして、何がその基準に従って生きたのか、そうでなかったのかを決定し、その人が「善」か「悪」かをきめるのだろうか？

ローマ書3章23節は、「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず…」と言っている。すべての人は“罪を犯した”というのはどういうことであろうか？“罪”と言う言葉は標的の中心を外すことから来た「的を外れ」という意味である。我々は的の真ん中に当てたいが、神の言葉は言う。もしあ

なたが的の中心を外して矢が横にずれてしまったら、それこそが“罪”—的を外したということである。

使徒パウロは述べている「罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです」。そこで私の次の質問は単純である。我々が死を避け永遠のいのちを得るために的中させなければならない的とは何か？

ローマ書3章19-20節は述べている「わたしたちが知っています。律法が言うことはみな、律法の下にある者たちに対して語られているのです。それは、すべての口がふさがれて、全世界が神のさばきに服するためです。なぜなら、人はだれも、律法を行うことによっては神の前に義と認められないからです。律法を通して生じるの罪の意識です。」

この律法がわたしに罪を教えてくれることは明らかである。律法とは何であろうか？

詩篇19章7節は言っている。

「主のおしえは完全で、たましいを生きかえらせ、主の証しは確かで、浅はかな者を賢くする」。

この律法は、私を神のもとに返すことが出来るだろうか？ この律法とは何なんだろう？ 第1ヨハネ3章4節ははっきりと述べている。

「罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。」

もし律法を破ればそれは罪だろうか？ 律法とは何か？ ローマ書7章7節は尋ねる。

「それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることはなかったでしょう。実際、律法が『隣人のものを欲してはならない』と言わなければ、わたしは欲望を知らなかったでしょう。」

ここに私たちが探していた大きな手がかりがある。我々は十戒がここで引用されていることが分か

る「あなたの隣人のものを欲してはならない」とは十戒の10番目の戒めである。

モーセによって書かれた聖書の最初の5巻の中で、神は十戒を二度与えられた(出エジプト記20章1-17節、申命記5章6-21節)。私が子供だった頃、母が二回同じことを言ったときにそれは大事なことで忘れてはならないことだったことを覚えている。神が短い期間の間にこれらの戒めを二回繰り返しているということは、それらが何であるか、そしてどのようにそれに従うかを知ることは重要に違いない。

ABC ナイトラインのテッド・コッペルはデューク大学の卒業式のスピーチで述べている。我々はスローガンが自分たちを助けるのを知っている。「(ドラッグを)打つならきれいな針で」、「セックスを楽しめ。何時でも、誰とでも。ただしコンドームを使え」。いや！答えはNoである。それは、かっこよくなかったり、あるいは刑務所にぶち込まれるかもしれないから、あるいはエイズ病棟で死ぬことになるからではない。それは間違っているからだ。モーセがシナイ山から持ち帰ったのは10個の提案ではなく、戒めである。戒めだったのではなく、戒めであるのだ。十戒の全く素晴らしいところは、それが短い言葉で人間の受け入れられる行動を成文化していることである。しかも当時だけとか今だけでなく、何時の時代にも当てはまるのである。⁷²

テッド・コッペルでさえ神が我々に与えたものは10の提案ではなく10の戒めであり、私たちはそれによって生きなければならないと知っていた。そして、これらの戒めは神を幸せにするためのものではなく、私たちを聖くするためのものである。それは私たちに満足をもたらすのだ。

例えば、わたしが最近頼まれてスピーチをした場所の一つは、ウエストポイントの米国陸軍士官学校最大のオフィサーズ・クリスチャン・フェローシップであった。それがどれほど幸いだっただのか、とても書き表せないほどである。多くの立派な士官候補生たちがそのホールを歩き、そしてアメリカの文

化に影響を与えたことを知って、謙遜な思いにさせられると同時に感動的な経験であった。神は士官候補生の10分の一にあたる若者に一時間半話す栄誉を与えてくださった。これらの若い男女に会えたことはなんと幸いであったことか！軍隊は、私が会った将来の士官たちがいるので大丈夫にちがいない。私が話し終えた後、士官候補生の一人が、デイビッド・リップスキーの Absolutely American (完全にアメリカ人) という本をくれた。それは士官候補生のあるグループのウエストポイントでの4年間の生活を追った驚くべき本である。

著者は、雑誌ローリングストーン誌に、若い学生たちに関することに特化して書いている。彼が書いたことの一つがわたしを驚かした。彼は30の異なるアメリカの大学を訪れた結果、ウエストポイントの学生が、どの大学の学生よりも幸せであることを発見したと言っているの。彼はその発見にショックを受けた。彼は士官学校の学生はそのすべての規則や規定のために不幸せだと思っていたからである。もちろん、多少の不平不満はあるが、それでも彼が知り合った学生たちの中で疑いなく最も幸せだった。

わたしはそれはなぜだろうかと考え始めた。しかし、考えてみればそれは簡単なことだった。ルールがない世界に生きることは、実は何の自由もないことなのである。決して、幸せでない。しかし、世界のすべての自由は、境界線やルールがあるところにあるのである。我々は幸せになれる。どこか、おかしいだろうか？

ある日ある若者と話したときに、わたしは彼に一つの例を挙げた。もしもホテルの30階に滞在していて、バルコニーがもし手すりのないただのコンクリートだったらそこに出て行くだろうか？ 子供をそこに出すだろうか？

もちろん、あなたはそんなことはしない。危険すぎる。しかし、もしも丈夫な手すりがあればそこに

出ないだろうか？子供子どもと一緒にそこに出ないだろうか？

もちろん行くだらう！我々は出て行くだけでなく、そこで手すりに寄りかかったりさえするだらう。なぜそうするのだろうか？そこに境界線がありさえすれば、その境界線の内側で自由を満喫できるのだ。もしそうしたければ、そこでお昼を食べることも出来る。境界線が自由を提供するのである。

あるとき、マーチル・ビーチで二人の18歳の子たちと話していたら、彼らは絶対にクリスチャンにならないと言った。なぜ？と私は訊いた。それは人生のすべての楽しみを取り去ってしまうからだと言った。私は彼らの目を見て言った「僕は今日誰かを妊娠させることはありえない。今日、エイズになる心配もない。「酒飲み運転をする心配もない。クリスチャンになるとメリットもあるだらう？」

二人は驚いて口をあんぐりさせた。彼らはそんなことを考えたこともないと言った。彼らは自由だ思っていたけど、そうではなかった。彼らはしたいことは何でも出来ると思っていたが、彼らはその選択の結果がもたらすものから逃れられないことに気付いていなかった。

神はルールや律法を守るようにと与えてくれたのである。我々は、この境界線の中にいる時には世界で一番幸せな人々なのである。この境界の外に出ることは、手すりを乗り越えて30階のバルコニーの端を歩こうとするようなものである。その結果起こることは処罰ではなく、単に反抗的で近視眼的であることの結果である。

ジョン・ハギーの興味深い研究によれば、97%のアメリカ人が十戒を信じているが、それを実際に3つ以上述べることが出来る人は、わずか5%しかいないという結果であった。我々は以前に、律法が我々を天国へ導くために必要なことを全て教えてくれることを学んだ。。そして、その律法とは十戒であることが分かった。

では次に、この多くの人々が信じているが、ほんの少しの人しかよく知らない十戒について検討して

みよう。最初に出エジプト記の 20 章 1-17 節をも用いて、我々が神の前に立つ時に神の基準に対して、どのように行いを積み上げていくのか見てみよう。

第一の戒め

「それから神は次のすべての言葉を告げられた。『わたしは、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出したあなたの神、主である。あなたには、わたし以外に、ほかの神があってはならない』」(出エジプト記 20 章 1-3 節)

十戒の第一の戒めは、神があなたの愛の中心でなければならないという意味である。神とあなたの関係があなたの生活で一番重要でなくてはならない。

一つの完璧な例は、新約聖書のマタイによる福音書がお金持ちの青年指導者について言っていることである。「すると見よ、ひとりの人がイエスに近づいて来て言った。『先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。』イエスは彼に言われた。『なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたいと思うなら戒めを守りなさい』彼は『どの戒めですか』と言った。そこでイエスは答えられた。『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽りの証言をしてはならない。父と母を敬え。あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』この青年はイエスに言った。『私はそれらすべてを守ってきました。何がまだ欠けているのでしょうか。』イエスは彼に言われた。『完全になりたのなら、帰って、あなたの財産を売り払って貧しい人たちに与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を持つことになります。そのうえで、わたしに従って来なさい。』青年はこの言葉を聞くと、悲しみながら立ち去った。多くの財産を持っていたからである。そこで、イエスは弟子たちに言われた。『まことに、あなたがたに言います。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。もう一度あなたがたに言います。金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を

通るほうが易しいのです。』(マタイ19章16-24節)

お金持ちの若い指導者にイエスが話すときに、「永遠のいのちを得るために何をすればよいのか」という質問に対して、十戒から始めたのは興味深いことである。十戒によってイエスは彼の独善性を示すことが出来た。これは驚くべき話である。この金持ちの若い指導者は、第一の戒め守れていなかったのである。つまり、彼はまことの神以外に他の神をもっていたのである。それはお金であった。

我々はみな何かを礼拝するものである。我々が無神論者であろうと、不可知論者であろうと、何らかの宗教の信者であろうと、みな何かを礼拝するのである。あなたは自分の人生の意味、何かを達成すること、何かを支配すること、何かを守ること、そして意義あることを獲得するために、心と思いをどこに向けるであろうか？あなたが愛おしいと思うのは何であろうか？あなたが物思いにふけるのは何に対してだろうか？あなたが夜頭を枕につけるとときに何を考えるだろうか？誰が、あるいは何があなたの神であろうか？自分の胸に手を当てて考えてみよ。あなたは十戒の第一の戒めを破っていないだろうか？

第二の戒め

「あなたは自分のために偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、いかなる形をも造ってはならない。それらを拜んではならない。それらに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神。わたしを憎む者には父の咎を子に報い、三代、四代にまで及ぼし、わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施すからである。」(出エジプト記20章4-6節)

第二の戒めは、偶像礼拝について取り扱っている。我々は我々の罪に都合の良い神を造るときにこの戒めを破るのである。すなわち、「私の神はうそをついても怒らない」「私の神は人を罰して地獄に

送ることがない」「私の神は良い人を天国に入れる」。こうしたことを言っているとき、我々は自分のイメージする神を造っているのである。問題は我々は自分たちの神を造れないことである。それを想像することはできるが、全能の神はそのまま神で在り続ける。我々は神を、こうあって欲しいと思う神にする力はない。我々が出来るのはせいぜい偶像を造って信じることだけである、それらが神であるかのように。

我々が造りあげたものだろうが文化の中に含まれてきたものであろうが、偶像は我々に確かな影響力をもっている。所有すること、お金、スポーツ、スポーツチームファンであること、食べ物、ドラッグ、ボーイフレンド、ガールフレンド、テレビ、映画、仕事などなどのすべてが我々の偶像になりうる。

“アメリカン・アイドル”というテレビ番組を見ると分かる。番組の誰もが人からうらやましがられるアイドルになりたがっている。我々は自分たちそのものをアイドル(偶像)にすることも出来る。

あるときに、西海岸のクリスチャン・ハイスクールで話す機会があった。一時間目の授業で数人の生徒と話し、ベルが鳴った後に外に出た。私は美しいマスタング(アメリカの代表的なスポーツカー)をきれいに拭いている一人の生徒を見た。それは1966年モデルであった。白い車体の真ん中に青いレーシングストライプが施されてあった。美しい車であった。私は近づいて何をしているのか訊いた。「木の樹液やなんかが車に落ちていないかどうか確かめているんだ。」私は言った。「我々は校舎内に50分しかいなかったのに！たったの50分間で何が車に起こると言うんだい？」。彼がその車を愛しているのは明らかだった。

わたしは彼がその車をどれ程愛しているか知りたかったので、尋ねてみた。「車を運転させてもらえるかい？」「だめ、この車を運転するのは僕と父親だけなんだ」。そこで、私は彼に言った。僕の大学時代からの友人のチャールズ・バークリー(NBAの有名な選手)に会いに行ったら、彼は100,000万

ドルのベンツのキーを僕ににぼんと渡してくれて運転させてくれるよと。彼はそれでも私にその車を運転させてはくれなかったが、そこでしばらく話しているうちに「考えてみるよ」と言ってくれた。その後、彼は私のところに来て「僕と一緒に乗ると言う条件付きで運転させてあげるよ」と言ってくれた。私は言った「別に車を運転したいわけじゃないんだ。ただ君が運転させてくれるかどうかを知りたかったんだよ。僕は君の車が君のアイドル(偶像)かどうかを知ろうとしたんだけど、やはりそうだったんだね。」

彼の顔つきから、私が言ったことがその通りであることに気がついたことが分かった。私たちが、全世界の創造者、支配者である神よりも車一台のほうを愛することが出来るというのは驚くべきことじゃないだろうか？我々は壁のポスターにも我々の礼拝するものを見つけることが出来る。しかし、神はあなたに自分以外を愛してほしくないし、崇拝してほしくない。それがあなたを満足させることもないのを知っている。彼の愛だけがあなたを満足させることが出来る。あなたが切望しているのはそれだろうか？それとも他の何かだろうか？私はある人が十戒のどの「あなたはしてはならない」という部分が理解できないかと話しているのを聞いたことがある。それは神が言っていることを理解できないのではない。神が言っていることをしたくないだけなのだ。神がある事をしてはならないということは明らかに、我々のどこか奥底に反抗心があって、従いたくないのだ。しかし、二つの神に同時に仕えることはできない。どちらかがかならずもう一つよりも重要になるからである。例えば、マタイの福音書中でイエスはお金を愛することについて警告している。

「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。」(マタイ6章24節)

人間は本能的に何かを礼拝するものである。そして、そのあなたの礼拝するものがあなたを支配

する。

「あなたがたは知らないのですか。あなたがたが自分自身を奴隷として捧げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります。」(ローマ 6 章 16 節)

あなたは人生で何を礼拝しますか？ さあ、自分自身に問うてみなさい。「私は人生で偶像を持つことで第二の戒めを破っていないだろうか？

第三の戒め

「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに口にしてはならない。主は、主の名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。」(出エジプト記 20 章 7 節)

“みだりに”とはどのような意味だろう。それは“無駄に”あるいは“何の効果もなく”ということである。例えば、“私の目標を達成しようとする努力は無駄だった”のように言ったりする。

神の名をみだりに口にするとは、我々が本当に神をを呼ばずに、不敬虔な態度で無駄にそれを口にするのである。そうすることは、神を軽蔑することである。おそらく我々は、知らず知らずのうちに、何かを重要で有力なものを口にするときに、その仕方によってそれを矮小化し、安っぽいものにしてしまっているのである。旧約聖書では神の名をみだりに口にする者は死刑に処された。あるユダヤ人たちは、神の名は非常に聖いと考えて、それを口に出したり書いたり全くしない。それはうっかりこの戒めを破らないためである。

どのようにして神をながらその名をみだりに口にすることが出来るであろう？ 神の悪口を言ったり非難したりする人もいる。神と約束をしながら守らない人もいる。何のあてもないのに「神に誓って」と心にもないことを言ったりする人もいる。もしも、神に不満を言ったり、神の名と性質を誹謗するなら、

その人は、神の名をみだりに口にしているのである。

一つの悲しい例がある。ニューヨークに最近行ったとき、飛行機のとなりの席に誰も座っていなかった。それは、不思議なことだった。なぜなら私は、誰かに神について話せるように誰かが隣に座ってくれるように祈っていたのだから。しかし、通路の向こう側に座った人がいた。私は普段は通路越しに話さない。人が通ったりして会話がさえぎられるからである。それでもしばらく後に、祈ってから、やはりその人が話したいかどうか聞いてみることにした。彼は同意した。

彼の名前はマイケル。9月11日が誕生日だと言った。彼の言うことには、2001年にワールド・トレード・センターで働く義理の妹が、誕生日プレゼントを取りに来て欲しがっていたと言った。彼は出かけ、彼女は8時45分におりてきた。3分後に最初の飛行機がビルに突っ込んだ。彼は彼女に走るように言った。彼女の職場では彼女一人が生き残った。彼は2番目の飛行機が突っ込んだときにその場所にいた。彼は恐ろしかったと言った。一人の女性が空から落ちてきて、道路標識にぶつかって二つにちぎれててしまったときにそこに居たと言った。

彼はプロのマッサージ師だったので、消防士の救護のために残った。彼は同性愛者なのでそのために地獄に行くのかどうかが知りたいと言った。彼は彼のバッグを二度指さして“もし、地獄に行くなら日焼け止めがこの中に入っている”と言った。

会話の最中に彼は続けざまに神をあざけた。私は神をあざけったり、その名を誤って使うことを二度としないで欲しかった。私は、神の民の人生を変える力に感謝する。私はマイケルの救いのために続けて祈っている。彼は神を軽蔑し、その尊い名を恐れることなく呪いの言葉として使う世界に生きている。

スポーツイベントで、あなたは何度選手やコーチが神の聖い名をみだりに口にする唇の動きを

見たことがあるだろうか？神の名を軽い気持ちや冗談のように言うことすら正しくないのである。JC や GD なども宇宙の創造主を尊敬する呼び方とは言えない。

「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名を与えられました。それは、イエスの名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが膝をかがめ、すべての舌が、『イエス・キリストは主です』と告白して、父なる神に栄光を帰するためです。」(ピリピ 2 章 9-11 節)

宇宙で最も義であり、聖なる名を、下劣な呪う言葉として日常的にに使う言葉に貶めてしまっているのだ。自分自身に問うてみなさい。私な神の名をみだりに口にすることによって第三の戒めを破っていないだろうか？

第四の戒め

「安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべての者を造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。」(出エジプト記 20 章 8-11 節)

神は一週間のうち一日を休息のために取り分けられた。それは神からの贈り物である。安息日には仕事はもちろん、他の働きもすべきではない。神は我々のすべての状態を気に掛けておられる。モーセの時代には、安息日に働いたものは石打刑であった。今日では人々は死刑は犯罪を抑止するものではないと言う。しかし、いくつかの研究が、それが施行されると犯罪を低下させることを示している。私は、聖書が安息日を破った人が石打刑になった記事を一度だけ記録しているのは、そのた

めだと思っている(民数記 15 章 32-36 節)。

ほとんどのクリスチャンが週の初め(日曜日)を安息日と考えている。我々は神とともに過ごすための特別な時間として一日をあてるだろうか？それとも、平日の睡眠不足を解消するためだろうか？

現在、なぜ日曜日の朝に多くのサッカーの試合があるのだろうか？それは、週日の運動不足を取り戻す日なのだろうか？我々が安息日を守ることをどのように考えるにしろ、神が計画されたようにそれを守っている者は誰もいない。

第五の戒め

「あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしているその土地で、あなたの日々が長く続くようにするためである。」(出エジプト記 20 章 12 節)

これは何の条件もない記述である。我々は、我々の父母を自分の父母であるから敬うのである。我々はだれが自分の父母であるかを選べない。神がそうされたので、我々は従うべきなのである。我々は父母の偉大さと重要な価値を承認すべきである。その代りに、我々は長寿という大きな祝福を得るのである。これは新約聖書でも強調されている。

「子どもたちよ。主にあって自分の両親に従いなさい。これは正しいことなのです。『あなたの父と母を敬え。』これは約束を伴う第一の戒めです。『そうすれば、あなたは幸せになり、その土地であなたの日々は長く続く』という約束です。」(エペソ 6 章 1-3 節)

我々が両親を軽視したり無礼な態度をとる時に、私たちは両親に恥辱を与えているのである。わたしたちの両親への態度は、わたしたちが生涯で出会う権威者に対する態度のもととなるのである。この戒めは両親の価値に対する我々の評価とは関係ない。我々は両親がそうするにふさわしく見えてもそうは見えなくても、両親に服従し敬うのである。聖書は言う。「“愚かさ”は子供の心に絡み付いて

いる。懲らしめのむちがこれを子どもから遠ざける。」(箴言 22 章 15 節)。すなわち、我々は子供の衝動的な愚かさに従うことから両親の矯正のむちによって離れるのである。我々は愚かさから離れたくはないが、それは知恵を得るのに役立つのである。もし我々が両親の注意に反抗すれば、愚かであるよりももっと悪いのである。

「従わないことは占いの罪、高慢は偶像礼拝の悪。(第一サムエル 15 章 23 節 a)

神は、従わないことは占いに等しいと考えるのである。なぜだろうか？それは占いは結果を得るために神以外のものに心を向けることだからである。従わないことは神の教えや決定を拒否して、自分の意思をある人や状況に押し付けることだからである。強情(ある聖書では、高慢の部分は強情と訳されている)は悪であり偶像礼拝である。もしわれわれが両親に従えないなら同様に神様にも従えないのである。

わたしはバスケットボールを若いころにやっていた。高校生の頃、コロンビア高校と地区予選大会で試合をした。最初の時は 69-66 で試合に勝ったが、その時に私は 36 点取った。もし、あなたがチームの得点の半分以上を取ったならそれは上出来である。

次にコロンビア高校と地区本選で対戦した時は私は 9 点しか取れず、試合も負けた。ひどいものだった。試合の終盤、わたしは審判の判定がおかしいと思った。私は床に倒されたのに、反則を取らなかったのである。私は床をたたいて、「審判！よく見ろよ」と言った。私はテクニカルファールを取られた。私は中指を立て、毒づいた。審判はさらにもう一つのテクニカルファールを宣言した。私は間違いなくそれに値したのだ。このことが起こった時、私の両親は自分の愛する、従わない息子が自分を誤魔化していることをよく見ていた。その夜、家に帰っても両親は何も言わなかった。彼らは言う必要がなかったのである。私は単なる悪い振る舞いを超えてしまったことが分かっていた。私は実際、悪い振

る舞いというラインを、カール・ルイスの走り幅跳びのように軽々と飛び越えてしまったのだ。

その時に私はクリスチャンではなかったが、それでも両親を同じように侮辱すべきではないことは分かった。

あるとき、イベントで講演をした後に18歳の若者が話すために近づいてきた。しかし、彼は最初は話すことが出来なかった。彼はただそこで泣いていた。やがて彼は、私が神の両親を敬いなさいというこの戒めを話したときに、彼が5歳の時から両親に反抗してきたことを、神に指し示されたと言った。あなたは産まれた時からこの方、両親を敬ってきたらどうか？我々みんなと同様、あなたもこの戒律を破って来たのである。

第六の戒め

「殺してはならない。」(出エジプト記 20 章 13 節)

伝統的にこの戒めは英語では Thou shalt not kill と表現されているが、ヘブライ語では”kill”と”murder”は別の言葉である。そして、この戒めで使われている言葉は”murder”である。この違いがなぜ重要なのであろうか？なぜなら、聖書はわたしたちが自分の生命、家族、家、そして国を守る権利を認めているからである—たとえ、それが我々を攻撃する相手を殺すことがあったにしても。あなたを殺そうとする誰かを殺しても、それは”murder”ではない。あなたは、殺人者を止めることによって”murder”を防いだのである。歴史上最初の殺人はアダムの息子であるカインがアベルを殺したことである。それは最初の殺人であったが、決して最後の殺人ではなかった。アメリカでは一日に平均して44の殺人がある。毎日4千人もの胎児が墮胎手術によって殺されている。コロンバイン高校、ヒトラー、サダム・フセイン、等々。驚くべき大量殺戮が我々の周りで起こっている。

我々は生涯で何万もの不正な殺人を、テレビニュース、映画、ビデオゲームで見ることになる。

我々はそうした殺人が実行されるのをあまりにも目にしすぎて、それほど影響を受けなくなっているように思える。我々は、それに対して全く無感覚になってしまっている。町の酒場はいつも面白い人々を集める。私はある夜デンバーの酒場街を、人々に神様について話をするためにぶらぶらしていた。そして、3人組の人と話をするために歩み寄った。ひとりが、酒屋に行ってわれわれのために酒を買ってきて欲しいと言った。その願いは、叶いそうもなかったので、彼と女の子はほかの頼みを聞いてくれそうな人を探しに行ってしまった。しかし、ひとりの人はわたしと話したかったために残ってくれた。

会話の中で私は彼に罪を犯したことがあるかと訊いた。彼は「あるよ」と答えたが、ところで「罪とは何か」と聞いてきた。私は「うーん、十戒のような」と私が答えると彼は「ああ、俺はそれを全部破ったよ」と言うので「あなたは人を殺したことがあるのか」と訊いてみた。彼はしれっと「そうだ」と答えた。「10人？」と訊くと、彼は「人数は分からない」と言った

彼はカリフォルニアのロングビーチのギャング一味の中で育ち、実際何人の人を殺したか分からなかった。彼が14歳の時だった。彼が私道でバスケットをやっているところに何人かのギャングのメンバーが車で寄ってきて、彼のガールフレンドを撃った。彼女は出血多量で彼の腕の中で死んだ。彼は言った。「彼女と結婚するつもりだった。彼女と子供を持ちたかったが、彼女は俺の腕の中で死んだんだ。」

あなたは14歳でそんなことを経験したなんて想像できるだろうか？何人の人を殺したことが分からないなどと想像できるだろうか？しかし、それはあなたが心配することではない。イエスはこう言った...

「昔の人々に対して、『殺してはならない。人を殺す者はさばきをうけなければならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に対して怒る

者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に『ばか者』と言う者は最高法院でさばかれます。『愚か者』と言う者は火の燃えるゲヘナに投げ込まれます。」(マタイ5章21-22節)

そして、ヨハネはこう書いている…

「兄弟を憎む者はみな、人殺しです。あなたがたが知っているように、だれでも人を殺す者に、永遠のいのちがとどまることはありません。」(第一ヨハネ3章15節)

したがって、あなたが怒ったり、誰かを憎んだりしたら、それは全能の神からすれば殺人と同じなのである。なぜだろうか？神は外側と同様に内側も見。神は私たちの行動と同様に思いも見。これが、我々すべてはこの基準からすると問題がある理由である。自分自身に聞いて見て欲しい。神の基準で見たときに、人生で一度でも誰かに怒ったり誰かを憎んだりしてこの戒めを破ったことは無いだろうか？

第七の戒め

「姦淫してはならない」(出エジプト記20章14節)

多くの人は自分はこれをしてないと思うだろう。しかし、イエスの言葉はこの戒めを少しばかり興味深いものになっている。

『姦淫してはならない』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫をしたのです。」(マタイ5章27-28節)

あなたが情欲をもって誰かを見れば、それが一回きりでもあなたはこの戒めを破ったことになる。字義的にではなく霊においてである。イエスは、私たちは文字によってではなく霊によって裁かれると

言っている。神にとってはあなたが淫らな思いを抱えていることは問題なのだ。一体誰がそれ知っているだろう？人は他人の心を読めないが、神様は読めるし、また読む。

加えて、もしあなたがポルノを見たことが一度でもあるならあなたはこの戒めを破ったことになる。多くのメディアは、音楽を含めて情欲を起させる。それは、わたしたちを悪い思いに対して麻痺させ、無感覚にして、しまいには行動に移してしまうようにするのである。よく言われることだが、最初の一見は情欲ではない、しかし二回目は情欲である。それは、一見であなたははとらわれないが、じっと見ることでとらわれてしまうのである。

あなたは何度、ある人を二度見したであろうか？それは神が定めた基準からすれば有罪である。アメリカでは48秒に一度レイプが起こっている。性病は我々の文化の中で抑制のない情欲のためにあふれかえっている。情欲はあなたを神から離れさせ、あなたを行きたくないところに連れて行く。自分に尋ねてみなさい。私は何かを考えたり見ることによって、神の前に自分を危険な状態に置いていないだろうか？

第八の戒め

「盗んではならない。」(出エジプト記 20 章 15 節)

我々はその物の価値が少ない時には、盗んでいるという実感が無いものである。しかし、価値の大きさに関わらず盗みは盗みである。幼い時に母親の財布から1ドルを盗もうと20ドルを盗もうとそれはすでに盗みである。あなたが試験でカンニングをしたなら、それは誰かの答えを盗んだことになる。所得税をごまかせばそれは政府から盗んだことになる。雇用主から時間を盗めばそれも盗みである。聖書はサタンが盗人として記述しているが、我々も皆同じことをしているのだ。犯罪者は盗む。もし、わたしが盗めばそれは私を犯罪者とする一泥棒である。

大学時代の休暇中に、フロリダに行く途中で友達と私はガソリンを入れるため駐車した。私はガソリンを入れてお金を支払いに行った。私が車に戻ると、フットボールの選手の一人が早く発車しろと怒鳴った。私はすぐに発車したが、彼になぜなのか尋ねた。彼は私がお金を払っているときに、コンビニの隣の商品保管所に入ってビールを1ケース盗んで車に入れたのだと言った。急発進して逃げる間、私の心臓は、早鐘を打つようだった。どうして、わたしは戻らなかったのだろうか？なぜ、わたしの心臓はあんなにどきどきしたのか？私のシステムのすべてが自分たちは間違いを犯したのだと訴えていたのだ。しかし、それでも私は逃げ続けたのである。

聖書は言う

「律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じることを行う場合は、律法を持たなくても、彼ら自身が自分に対する律法なのです。彼らは、律法の命じる行ないが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め、合ったり、また弁明し合ったりさえするのです。」(ローマ2章14-15節)

ここで神は、人の心にご自身の律法を書き記したことを明確に述べている。そして、我々の良心は正しいか間違いかを知っていて証言するのである。私たちがそれを認めたくなくても、わたしたちは自分の罪を知識を持っている。わたしたちは、何か間違いを犯したときにそれが分かるのだ。私は一度ビデオでパプアニューギニアで働く宣教師たちを見たことがある。宣教師たちは、その地域には書き言葉がなく、すべては口答で伝えられていくと言っていた。

しかし興味深いことに、彼らは口伝による行動規範を持っている。彼らのルールのひとつは、隣人の妻に触ってはいけないというものがあり、これは第七の戒めの姦淫してはならないとよく似ている。もう一つのルールは、人の者を取ってはいけないである。これは第八の戒めが盗みを禁じているのと同

じである。ほかのルールは殺人をしないこと、またうそをつかないことである。その村人たちは書き言葉を持っていなくても、神の律法は彼らの心に書かれているのだ。そして、かれらは正しいことと間違っただことを知っている。

私がモールで若者と話していた時に、私は彼に今までに物を盗んだことがあるかと尋ねた。彼はギフトショップで働く妹を迎えに行った時のことを話してくれた。彼がモールで歩いていた時にガードマンがモールの反対側にいのを見た。そして、彼はその店には防犯カメラがないのを知っていた。妹を待っているときに彼はディスプレイ棚にカマロの鍵のキーホルダーがあるのに気付いた。彼の母親がカマロを持っていて、彼は母親にそのキーホルダーをあげたかった。それは2ドルくらいのものだったろうか？しかし、彼はそのキーホルダーをポケットに入れて、ディスプレイ棚から離れるように歩き出した。彼は心臓がどきどきして玉のような汗が額に出るのを感じた。

私は彼に「それでどうしたのか」と訊いた。彼はその棚に戻ってキーホルダーをポケットから出して棚に戻したと言った。そして、彼の心臓のどきどきはとまり、あせも引いた。この若者に盗みが悪いことであると誰も言う必要はなかった。彼の全神経が警報を鳴らしていた。神は我々をそのようにデザインしたのだ。すなわち、神は我々の心に律法を刻んだのである。自分自身にこの質問をしてみよ。あなたは今までに大きいものであれ小さなものであれ盗みをしたことがあるだろうか？それは聖であり義である神の眼からすれば泥棒なのだ。

第九の戒め

「あなたの隣人について、偽りの証言をしてはならない。」(出エジプト記 20 章 16 節)

シカゴサンタイムズの見出しに“真実、それはすべての人が嘘をつくということ”というのがあった。本当だろうか？ある人々は悪気のない嘘しかつかないと言う。しかし、わたしには神が嘘の種類にこだわる

とはとても思えない。われわれの司法制度全体は、証人は真実を語るという前提の上に成り立っている。真実以外ではあり得ない完全な真実をである。法廷で嘘をつくこと、つまり偽証は重罪であることには理由がある。なぜなら、真実が分からないときにどうして正義がありえようか？

ある調査では91%のアメリカ人が習慣的に嘘をついていると認めている。ある人々は嘘はついていない、ちょっと大げさに言っただけだと言い張るかも知れない。しかし、どこまで真実を誇張した場合は嘘になると言うのだろうか？自分たちの利益のために真実の一部を省くことも嘘である。我々が嘘であると知っていることが言われたときにそのままにするのも嘘である。嘘を一回でも言ったら、あなたは嘘つきである。2000年の10代の調査では10人中7人が先月中にカンニングをしたのを認めている。要するにカンニングというのはテストで知らないことを知っているかのように書くことによって嘘をつくことである。

あるときに我々は真実を言うよりも嘘をつくほうが楽なので嘘をつく。しかし、神は嘘についてどう考えるだろうか？

「しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」(黙示録 21 章8節)

十戒を通して私が気付いた一つのことは、神は罪を私よりも厳しくとらえていることであった。

イエスは言われた

「わたしはあなたがたに言います。人は、口にするあらゆる無益なことばについて、さばきの日に申し開きをしなければなりません。あなたは自分のことばによって義とされ、また、自分のことばによって不義に定められるのです。」(マタイ 12 章 36-37 節)

我々が話すすべてのいい加減な言葉がさばきの日には私たちにつきつけられるであろう。もしいい加減な言葉で裁かれるなら、残酷な言葉はどうだろう？野卑な言葉はどうだろう？神を冒瀆するような言葉は？

聖書はわれわれに簡潔ではっきりとまた正直であれと言う。

「あなたがたの言うことばは、『はい』は『はい』、『いいえ』は『いいえ』としなさい。それ以上のことは悪い者から出ているのです。」(マタイ5章37節)

聖書では一人の目撃者では誰かの犯罪を証明することが出来ないとされていた。目撃者が嘘をついているかもしれないし、間違っているかもしれないからである。だから、ある人を有罪とするためには、二人か三人の証人が必要だったのである。しかし、さらに興味深いことがある。もし誰かが死刑になり、それは多くの場合石打ちの刑であったが、あなたは誰が最初に石を投げなければならなかったかご存じだろうか？それは目撃者である。なぜかという、それは目撃者が嘘をつくの避けるためである。

神はこの戒めを与えた時に人が平気で嘘をつくであろうことを知っていた—例えば、嫉妬や仕返し、あるいはお金のために—しかし、それでもその人と面と向かうのは嫌だっただろうし、まして石を投げて殺すことなど。そして、その石を投げる人が中途半端であれば、あるいは被害者と対峙した時に後ろめたそうであれば、その証言は疑問があるとなされ、今度はその人が殺人未遂で訴えられるのである。神は嘘ではなく真実のさばきを求めた。あなたの言葉はさばきの日にどのように受け取られるだろうか？

神の言葉はわれわれに警告する

「しかし、もしそのように行わないなら、そのとき、あなたがたは主の前に罪ある者となり、自分たち

の身にふりかかる罪の罰を思い知ることになる。」(民数記 32 章 23 節)

我々はしばしば我々の罪を隠せると考えるが、しかし、罪は確実に発見される。全能の神の目にはすべてがあらわである。

「神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。」(ヘブル人への手紙 4 章 13 節)

全能の神の目にはすべてがあらわである

ジョージ・オーリアリ、元ジョージ工科大学フットボールコーチは、彼の夢であったオファーを受けた。ノートルダム大学のヘッドコーチである。記者会見での彼の表情から彼がどれほど興奮していたか分かった。彼の故郷の誰かがなにか地方紙に良い記事を書きたかった。そこで、そのレポーターはジョージ・オーリアリの履歴書を取り寄せ調べ始めた。すると、そこには彼の教育に関していくつかの詐称が発見された。

オーリアリはコーチとしての職を得るために、最初に履歴書をでっちあげて、それを直していなかったのが判明したのである。その話の紛糾の嵐がピークに達して6日目に、彼は職を辞した。30年前のでっち上げのためである。時間が経ったからといって罪が許される訳ではない。我々はそう思いたい、そうならないのである。もしも、ジョージがその嘘を正しいものに修正していたら、彼は辞めずに済んだだろう。

神の前で罪を修正することが出来るだろうか？われわれは黙示録 21 章 8 節をちょうど読んだところだ。そこにはこう書かれている。「しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である」—その時が来る前に、もしあるならば嘘を修正する方法

を知らなければならない。

19世紀の偉大な説教者、21歳ですでに、ロンドンで最も人気のある説教者であり、日曜日には何千人もの聴衆に対し、40年以上にわたって説教した⁷³ チャールズ・スポルジョンは言った…

神に対するもっとも小さな違反であっても、それは非常に耐え難いものである。もしも、地獄の火が消されても、一つの罪がそれを再燃させるだろう。⁷⁴

神は嘘をつくことを非常に真剣に受け止める。あなたはどうか？自分自身に尋ねてみよ。今までの人生で、一度でも嘘をついたことがあったらどうか？もしもあれば、それは全能の神の前で我々は嘘つきなのである。

第十の戒め

「あなたは隣人の家を欲してはならない。あなたの隣人の妻、男奴隷、女奴隷、牛、ろば、あなたの隣人のものを欲してはならない」(出エジプト記 20 章 17 節)

むさぼり(第十の戒めは、「むさぼってはならない」と別訳される)一本来自分のものでないものを欲しがること—はわれわれの生涯の中で多くの罪の水門を開くものである。我々は盗む前に欲しがる。我々は姦淫を犯す前にだれかを欲しがる。我々は、何かを欲しがってそれを得るために、両親や法律に従わないように誘惑される。むさぼりは人生の所有物や人生の境遇—成功、結婚、名声—を欲しがって間違った方法で獲得しようとすることも含まれる。広告主はわれわれに特定のものを買おうという欲求を高めるために働きかける。

もし、その望みや希望が人々の中で目覚めると、彼らはそれらをむさぼり始める—誰かが持っているものを羨んだり嫉妬したりして。次の誤った段階は、それを働いて得るか、それともそれなしですますかではなく、それを手に入れることである。それは神が選んで与えてくださったものに満足しないこ

とを表し、神の横顔をたたくことなのである。神様はあなたの心を見ておられる。

あなたは生涯でこの戒めを破ったことがあるだろうか？

神は言う。

「私たちははみな、汚れた者のようになり、その義はみな、不潔な衣のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、その咎は風のように私たちを吹き上げます。」(イザヤ書 64 章 6 節)

我々の罪は神にとって悪臭となった。我々はみな汚れている。我々は何百万もの良い行いをする事が出来るかも知れないが、それらは私たちの人生から一つの罪を拭い去ることすらできない。ジェリー・スプリンガーはかつてこう言った「多く人はわたしが天国に行くように応援している。もし、わたしが天国に行けるならみんながいけるからである」。スプリンガーは冗談を言いたかったのかもしれないが、冗談ではないのである。スプリンガーはそういうことによって、少なくとも大概の人は天国に行くための神の基準は、その人が善でなければならないと考えていることを知っていることを明らかにしたのである。しかし、彼はこの基準を真剣に受け止めていなかった。

あなたは今この基準を知っている。そして問うべき質問は、どうしたらその基準に到達できるかである。マーク・トウェインは言った。悩みの種は、聖書の分からないところではなく、わかることであると。言い得て妙だ。神の言葉についてすべてを知っているものはいない。しかし十戒、すなわち神の律法を見るときに一番頭の痛いことを見出す。それは、一つの戒めを破ったらすべての戒めを破ったのと同じことだということである。何だって？本当なのか？神はそれについて次のように言っている。

「律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです。」(ヤコブ書 2 章 10 節)

さらに驚くべきことはあなたがどのように宗教的でも、良い行いをして、教会や教派の活動的なメ

ンバーであっても、よい働きに貢献しても、それはあなたが天国に行くかどうかとは全く関係がないということである。そのことについてイエスが言った言葉がある。

「わたしに向かって『主よ、主よ』と言う者がみな天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父のまごころを行う者が入るのです。その日には多くの者がわたしに言うでしょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言し、あなたの名によって悪霊を追い出し、あなたの名によって多くの奇跡を行ったではありませんか。』しかし、わたしはそのとき、彼らにはっきりと言います。『わたしはおまえたちを全く知らない。不法を行う者たち、わたしから離れて行け。』」(マタイ7章21-23節)

もしも、宗教的であることが役に立たないなら、何が必要なのだろう？この聖句は我々に多くの人々が驚きと共に地獄に行ってしまうことを教えてくれる。あなたもその中の一人だろうか？我々の永遠の真実の探求も、正しい答えにだんだん近づきつつある。

“あなたが死ぬときに向こう側には何があると思いますか？”

6章

悪い知らせ

高潔な者は、人々がどう思うかよりも、真実のためにもっと心を砕くべきである

アリストテレス、哲学者 384-355 B.C.

法廷に、嘘つきで、泥棒で、殺人者で、レイプをした男がいると想像してみよう。しかし、ある人々が立ち上がって彼は良い隣人であったと証言するのである。彼は庭をきれいに掃除し、近隣の人々に気を配り、いつも遅刻することなく仕事に行っていた。裁判官はその良い行いによってこの男を釈

放するだろうか？あなたも私も、良い裁判官は彼を釈放するようなことを絶対にしないのを知っている。

良い裁判官は正しい判決を下すはずである。男は法を犯したので、その報いを得なければならない。彼は法律を知っていて破ったので、彼にとってそれは驚きではない。彼はただ捕まらなければよいと思っていたのである。

わたしたちは良い裁判官が正しい審判をするべきであることを知っている。そしてわれわれも、心の奥底では裁判官が正しい判断をすることを求めていることを知っている—とりわけ、もし自分が何かの件で告発された場合は。であれば、正しい宇宙の神もまた、私たちがその前に立った時に、正しい審判をしなければならないということを意味するのではないだろうか？我々は皆、この世で正義を望んでいる。しかし、我々は皆人生の終わりに正しい裁判官に会うことになる—そこで我々はどんな正義を望んでいるだろうか？

十戒を眺めてみて、我々はその少しを破っただけなのでそれほど悪くはないと思うかもしれない。的は外したかも知れないが、次からはもう少し頑張ればよいと思う。

しかし、ちょっと前に引用したように、

「律法全体を守っても、一つの点で過ちを犯すなら、その人はすべてについて責任を問われるからです。」(ヤコブ 2 章 10 節)

したがって、十戒の一つでも破ったならそれはすべてを破ったのと同じことなのである。これはそれを守って生きるには、極めて厳しい基準と言わざるとえない。この基準で言えば、アドルフ・ヒトラー、マザーテレサ、ヨセフ・スターリン、ビリー・グラハム、ティモシー・マクヴェイ(アメリカの元死刑囚。1995年4月19日に発生したオクラホマシティ連邦政府ビル爆破事件の主犯)、オサマ・ビン・ラディン、そしてあなたも私もみ

な有罪である。私しは、地球上の 60 億人がみな有罪であることを知って驚いた。それはわれわれのうちだれも神が私たちのために定めた基準に達していないからである。我々は全員が有罪である。私は罪で神を傷つけた。我々は皆同じボートに乗っている。罪の深刻さはその行為だけでなく、全能の神に対して誰が犯したかによって計られることである。それは本当だろうか？我々は単に他人にだけでなく神に対して罪を犯したのだろうか？ そうなのだ。聖書はそれを明らかにしている。

例えば、ダビデ王は部下が敵と戦っていて留守の間に、その部下の妻と関係をもった。彼女は妊娠した。そこで、ダビデ王はその部下を前線から呼び戻し、妻と居させ、自分の子であるように信じさせようとした。ところが、その部下は立派で、誠実な男で、ダビデ王のもとに帰ってきたときに部屋の隅で寝て家に帰ろうとしなかった。

「ウリヤはダビデに言った、『神の箱も、イスラエルも、ユダも仮庵に住み、私の主人ヨアブも、私の主人の家来たちも戦場で野営しています。それなのに、私が家に帰り、食べたり飲んだりして、妻と寝るといえることができるでしょうか。あなたの前に、あなたの魂の前に誓います。私は決してそのようなことをいたしません。』」(第 2 サムエル記 11 章 11 節)

ついには、ダビデは彼の罪を隠すためにウリヤを殺させてしまった。神は預言者を送り、ダビデに対して彼が間違いを犯したことを宣言させた。それまでは、ダビデは王であって、自分がしたいことは何をしていてもよいと思っていた。しかし、それを神の視点から見せられた時に、彼は初めて自分がしてしまったことの現実に気がついた。彼の反応は第 2 サムエル 11 章に書かれている。そして、ダビデはその祈りの中で、そのことについて神に語っている。

「私はあなたに ただあなたの前に罪ある者です。私はあなたの目に 悪であることを事を行いました。ですから あなたが宣告するとき あなたは正しく さばくとき あなたは清くあられます。」(詩篇 51 章

4 節)

問題は我々の多くはそのように考えないことである。私は小学2年生の子どもからから高校生まで集まっているのバスケットボールのパーティーで話をしていた。わたしは小学2年生に話すことがないのでどのように話せばよいか迷っていた。私が話し始めた時に多くの小学2年生がわたしの話を聞くためにステージの周りに集まっていた。私は十戒の一つ一つを一通り話した。それから、幾人かの名前を挙げ、その一つでも破れば有罪になる十戒の基準を知ったうえで、その基準によってどのように考えるか訊いてみた。

私はテモティ・マクヴェイ、ヒトラー、オサマ・ビン・ラディンの名前を挙げた。もちろん彼らは”有罪”と答えた。そこで私はマザーテレサについて聞いてみた。彼女が審判の日に有罪であるかないかを。

この質問をすると面白いことに、いつも”有罪”と答える人と”無罪”と答える人がいる。われわれは、ある人々に対して、戒めを破るはずがないという印象を持っている。このイベントでも有罪と言う人と無罪という人がいた。突然小学2年生の一人が立ち上がって、”ちょっと待ってください、マザーテレサも生涯に一つくらいは嘘をついたと思いませんか？”と言った。ああ、多くの大人が知らない真実を小学二年生が知っていたのだ。

「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、」(ローマ書3章23節)

「次のように書いてあるとおりです。『義人はいない、一人もない。』」(ローマ書3章10節)

十戒の基準によれば、我々の誰もが「無罪だ」とは言えないのである。

ある日、飛行機で空軍の科学者と隣りになった。彼はとても興味をもって神が存在する証拠と聖書の信頼性についての情報を知りたがっていた。彼はその証拠を聞くと、天国に行くには何が必要かを知

りたがった。そこで、わたしは十戒を一通り話した。わたしは彼に訊いた。“嘘をついたことがあるか？”
彼は答えた。“ある”“では、嘘をついたらあなたは何になるか？”“人間”と彼は答えた。とてもよい答
えだし、正しい。

わたしは言った。“もし誰かが人を殺したら殺人者であり、レイプをすれば強姦者になる。嘘をつけ
ばそれはあなたを何にするか？”“嘘つき”と彼は答えた。では、物を盗んだことがあるかと訊くと、ある
と彼は言った。“それはあなたを何にするか”彼は泥棒と答えた。“あなたは心の中で欲情を持ったこと
があるか？”と訊くと、彼は「ある」と言った。

私は、イエスがもし心の中で欲情を持てばそれは姦淫したのと同じことであると言ったことを話した。
あなたは神の名をみだりに使ったことがあるかと訊いた。彼はあると答えた。それは神の眼から見たら
冒瀆であると私は言った。あなたは誰かに怒ったことがあるかと訊くと、彼はあると答えた。それは神の
眼には殺人と一緒にであると私は答えた。それは、心の中で人を殺したのだと。

わたしは、彼の目を見て言った。「あなたはいま私に、神の基準からしたら嘘つきで泥棒で姦淫を
犯し、冒瀆者で殺人者であると言った。その基準で言うとあなたは審判の日に有罪か無罪か？」彼は
“有罪だ”と答えた。それでは、あなたは天国に行くか地獄に行くかと訊くと、「地獄だ」と答えた。私は
地獄に行くことは嫌ではないかと訊くと、彼は嫌だと答えた。それから、彼は決して永遠の地獄に行か
ないためにはどうしたらよいかと聞いたので、わたしは嬉しくなった。神の律法は、我々は審判の日に
有罪であるということに気付かせ、最終的に神の前に立つ審判の日に有罪から無罪になる方法をひ
たすら探すように導くことがお分かりだろう。聖書は言う。

「こうして、律法は私たちをキリストに導く養育係となりました。それは、私たちが信仰によって義と認め
られるためです。」(ガラテヤ 3 章 24 節)

あなたが神の律法と向き合う時、それは、あの空軍の科学者にしたように、あなたの良心に語り掛ける。わたしたちの良心が、全能の神の戒めを破ったことを教えるのである。前に見たように、神の律法が私たちの心に刻み付けられており、私たちの良心は、絶えずそれを私たちに告げるのである。

「彼らは、律法の命じる行ないが自分の心に記されていることを示しています。彼らの良心も証ししていて、彼らの心の思いは互いに責め合ったり、また弁明しあったりさえするのです。」(ローマ書 2 章 15 節)

神の基準に照らして、今あなたはどのような状態だろうか？

タイガー・ウッズと十戒

もしタイガー・ウッズが今、神の基準で審判されるとしたら、彼はどうするとあなたは思うだろうか？

以下の話は、彼の答えがどのようなものであるかを表している。

私がフロリダにいたころ、わたしは友人のチャールズ・バークリーがナイキのタイガー・ウッズのコマーシャルを取るのに車で 30 分くらいのところにいることを知った。私は彼の電話番号を知らなかったため、彼らが撮影をしているところに寄ることにした。

しかし、ちょっとした問題があった。撮影には厳しいセキュリティチェックがあるのだ。そこで、そのセキュリティを抜けてチャールズと会うためにどのようにすればよいか分からなかった。そこで、わたしは車でそこまで行って、祈り始めた。(もし、あなたがまだ知らなかったら、祈りが本当に条項を変えることを知るべきだ)。私はグランド・サイプレス・リゾートに駐車してガードマンと話し始めた。彼は撮影はホテルではなくゴルフ場で行われていることを教えてくれた。

そこで一人の女性が電話をしに行った。彼女は誰が訪れるかのリストを調べたのだろう。私は当然リストには入っていないことを知っていた。そこで、わたしは彼女を車まで呼んだそして、彼女と話を始

めた。私はあなたにもしあなたが今夜死ぬとしたらあなたは100%天国に行けると思うかと訊いた。面白いことに彼女は主を愛しており、聖書研究会で教えたりしていることを話した。私は初めて本を書いたと話した。彼女はそれを欲しいと言った。私は一冊を後部座席から取り出し、サインをして彼女に渡した。そして、クリスチャンではない最初に会ったガードマンもそれを欲しがった。なんと素晴らしい。そして、その女性は私を撮影の現場まで連れて行ってってくれると言った。彼女は自分の車に乗り、わたしは彼女に追っていった。彼女は、すべてのセキュリティを通過して連れて行ってくれた。

わたしがセットに到着した時にチャールズ・バークリーは撮影待ちでトレーラーの中にいた。そこで私は、彼と彼のエージェント、その他の人と話をしていて。突然、ドアが開いて少し高齢の男が入ってきた。チャールズがわたしたちを彼に紹介した。男は座った。なんとその人はコマーシャルのディレクターであることが分かった。話を聞いているうちに、この男が誰であるかに気がついた。その人は、恐らく世界で一番有名なコマーシャルのディレクターだったのだ。

彼は、あるスーパーボウルの試合合間に放映される4つか5つのコマーシャルを手掛けていた。私は実際に、あるニュース・マガジンで彼の特集を読んだことがある。しかし、彼はその成功の割には幸せではなかった。彼は私があった人の中でもっとも尊大で、怒りっぽく、不幸せな人だった。彼は離婚の経緯を話したが、とても辛かったと言った。しかし、わたしはそれが彼が怒りっぽい理由ではないと思った。彼の怒りは神に向けられているように思えた。私はすぐにその直感が正しかったことを知った。

トレーラーに乗っているときに、彼はそれぞれの人に何をしているのか尋ねた。私の順番になった時に、クリスチャン・アスリートフェロシッパで話をしているのだと言った。彼は私を見て、「あなたはその一員じゃないよね？」と言った。その後、10-15分くらい彼はクリスチャンのことをくそみそに言った。

話題はほかにも変わっていったが、すぐに私への意地悪な質問に戻った。最後に彼は私とバスケットボールを1対1でやりたいと言った！！そして、彼はトレーラーを降りて歩いて行った。

私は彼に「片方のひざが悪いんだ」と言ったが、彼は「自分はひざに軟骨がないんだ、さあ行くぞ」と言った。タイガーと仲間はタイガーがすこしいらだってきたので、撮影をしたいと言っていた。しかし、ディレクターは私とバスケットボールをしたかったのだ。それで、彼らはバスケットゴールを設置して、私たちはプレーした。私はなぜこの高齢の男性がわたしと一対一でバスケットをしたいのか分からなかった。おそらく、彼はクリスチャンを負かしたかったのであろう。それで私たちはプレーしたが、そのゲームの中で私は彼に証しをしようと決心した。私はただ彼に考えさせるように質問をした。それはうまくいったようだった。私は彼をみじめなところから救い出し、彼に勝った。そして、撮影を始めることが出来たのである。

われわれがティーグラウンドに着いた時に、チャールズはわれわれをみんなに紹介した。彼は私をタイガー・ウッズにも紹介した。タイガーは笑って、歩き続けた。それで彼らはコマーシャル撮影に取りかかった。

もし、あなたがわたしを知っているなら、わたしには話し相手が必要なことを知っているだろう。そこで私はリチャードという人のところに行って話し始めた。彼はタイガー・ウッズの代役だった。私は訊いた。「何をやるの？スタントをやるのか？」。私はなぜタイガーの代役が必要なのか分からなかったからである。彼はタイガーのコマーシャルの中で手だけの撮影や遠くからの撮影がある時は、実は自分がやっているんだと言った。リチャードはミシシッピで育ったのだが、子供の頃に教わったことから離れていたため、自分の信条を確立するためには大変な努力を必要としていた。

そして、わたしはかつて大リーグでプレーしたビンス・コールマンに話しかけた。彼は素晴らしい選

手でニューヨーク・メッツやセントルイス・カーディナルスで長い間プレーした。実は、私はフェニックスにあるチャールズの家で彼と会ったことがある。話してみると、彼は毎週日曜日フェニックスにある教会に通っていると言った。そこで、わたしは彼に最初の本を見せた。すると、彼はその本を見て、すぐに欲しいと二度言った。彼は夜にホテルでその本を読むつもりだと言った。

彼はアトランタ・ブレーブスのインストラクショナルリーグの選手と一緒に、ベース・ランニングの指導ために来ていた。(訳者注:インストラクショナルリーグとは、選ばれた選手だけが参加する若手育成のための特別リーグ)

私は彼に、実は今日はタイガーウッズに証しをしようと思ってやってきたのだが、ここに居る本当の理由は彼と彼の友人に大胆にキリストを擁護し挑戦するためだったのかもしれないと話した。そうこうしてるうちに、撮影中にコマーシャルのディレクターが10分から15分おきに、4～5メートル離れたところから皆の前で意地悪な質問を浴びせてきた。

彼は私に意地悪な質問で敵意を持たせるつもりだったのだろう。しかし、それは主の働きをする私の心をかき乱そうとするサタンの試みであった。ディレクターは「イエスは神様の子であり得ない。なぜなら彼はヴェジタリアンだったはずだから」と言ってきた。私は微笑んだ。彼は言った。イエスは魚を食べた。だから、神様の子であり得ないと。私は笑い始めた。彼は私を二度見て二度とも「笑うな」と言った。彼は神の子は殺生はしないはずだと言った。彼は前にあるインドの信条について述べていた。それでわたしは、彼が創造物は礼拝するが創造主は礼拝しないことを確信した。

私は彼を見て言った。イエスは魚を造ったのだ。彼は食べたかったら魚を食べてよいのだ。ディレクター以外は皆が笑いを隠そうとしていた。面白かったのは彼は皆の前で私にイライラさせようとしていたことだった。私が愛をもって対応することに努めていたので、それがかえって彼をイライラさせてい

た。私は彼が多くのスタッフの言うことを無視して、大声で彼らをなじるのを見た。彼は、一緒に働いて楽しい男ではなかった。それで、現場に居た人々は、わたしが自分の立場をきちんと主張したことに好感を持ってくれた。数時間後、チャールズは撮影の自分の分を終えて、さよならの挨拶を言おうとしていた。人々はタイガーとチャールズにサインを求めて近づいて来た。そこで私はサインをしているタイガーのところに行った。それは、神が紅海を分けたときのような感じだった。わたしが近づいていくと、皆がその場から離れ、そこにはタイガーと私だけが立っていた。

そこでわたしは本をポケットから取り出して、これは私の最初の本だが、それにサインして差し上げたいと言った。そして、アシスタントがどこにいるか教えてもらえればそれを渡しておきますから言った。彼はアシスタントを指さして、ティグランドから歩き出した。その時わたしは、彼に本をあげるだけではなく、もっとなにかすべきだと感じた。しかし、わたしは緊張していてそれ以上言葉が出なかった。私は自分に問うた。私はこの状況で優先するのは人に対する恐れか、それとも神に対する愛か？

私は二か月の間タイガーウッズと神について話すチャンスがあるように祈っていた。そして、神はその機会を与えてくださったのだ。だから、わたしは勇気を振り絞った。ティグランドから歩き出すときに、わたしは主が「これがわたしがお前に与えた機会だ、行くのだ(go for it)」と言ったように思った。そこで、わたしは歩きながら「タイガー、わたしはいつもあなたに質問をしたいと思っていたんだ。」と言った。彼は「言ってみて(go for it)」と答えた。神がかけてくれた言葉と同じ言葉だった。

私は言った。「君が死ぬときに反対側には何があると思う？この世を離れたとき何があると思う？」タイガーはその場に立ち止まり、私を見て言った。「わからないよ。」わたしは「ペイン・スチュアート(ペインは数年前に死んだ有名なゴルファーで、わたしはタイガーが彼の葬儀に行ったのを知っていた)でも、ジョン・リッターでも、ジョニー・キャッシュでも、死ぬときには皆このことを考えるんだ」と言った。

彼はただうなづいた。

私は彼を見て言った。「チャールズ(NBAの有名な選手)の兄弟に何が起こったか聞いたか？」彼は「否(ルビ:いや)」と答えた。彼が興味を持ったことが見て取れた。チャールズの兄弟ダリルは心臓麻痺を起し、一度心肺停止して、そのまま死んだ。医者がAEDで電気ショックを与えると蘇生した。彼は心肺停止して死んだ時に彼の魂が彼の身体から出たと私に語った。彼は、臨床的に死んでいる間、待合室に行き、そこにだれがいたのか、彼らが何を話していたのか、彼らが何を着ていたのか言うことが出来たと話した。

このことは、単に彼の頭の中での出来事ではあり得ない。なぜなら、彼の身体が死んでいる間に彼がその外に居たという明確な外的な証拠(待合室のこと)があるからである。それから彼は旅立って、木々が燃え盛っていてその木々の周りの地面がくすぶっているのが見えたと言った。そして、彼の前には火の池があったと。私は、「ダリル、君は何を見たんだ？」と尋ねた。彼は言った。「俺は地獄を見た。」そして、それはあなたが手にしているその本よりもはるかにリアルだったと言った。彼は感覚が驚くほど研ぎ澄まされ、火の池から押し寄せる熱を実際に感じる事ができたと言った。

タイガーはもともと大きな目をしているが、その時はそれが普段の二倍ぐらいに大きくなった。そんなものを見た人がいることに驚いたのだ。そして、それが彼がちょうど一緒にナイキのコマーシャルの撮影をしていた人の兄弟だったのだ。そこで、わたしは彼の目を見て言った。「これがあなたが永遠に過ごす場所が分かる方法です。十戒について聞いたことがありますか？」彼は「ある」と答えた。私は彼に今まで嘘をついたことがあるか訊いた。彼は「ある」と答えた。私はそれはあなたを何にするかを聞いた。彼は何の躊躇もなく、「嘘つきだ」と答えた。私はあなたは今まで盗んだことがありますか？と訊いた。彼は「ある」と答えた。

彼は質問を続けるにつれてイライラしてきていた。(神の律法は我々の心と良心に刻まれていて、罪と向き合うことは我々を不快にさせる)。私は詳細にはこだわっていなかったもので、急いで続けた。「私たちは多かれ少なかれ、皆やっていますよね。それは我々を泥棒にします。あなたは今までに情欲をもって女性を見たことがありますか？」彼は「ある」と答えた。私はそれに対して、「イエスはそれを姦淫をおかしたのと同じだと言っている。彼は外側と共に内側もチェックするのです。あなたは今まで誰かに怒ったことがありますか？」と言った。彼は「ある」と答えた。

わたしは「もし誰かに対して怒るなら、それは殺人と同じだとイエスは言っている。イエスは行動だけでなく、心に思うこともチェックします。」と続けた。そして言った。「タイガー、あなたは神の律法の基準では嘘つきで、泥棒で、姦淫を犯し、殺人者だと私に言いました。あなたは審判の日に有罪ですか無罪ですか？」彼は私を見て「有罪」と答えた。私は「ではそれは天国を意味しますかそれとも地獄ですか？」と訊いた。彼は答えた「多分地獄だろう」。

ちょうどその時にある男がきてタイガーのところに来てサインを頼み、コマーシャルを完成させるために次の場所に行く時間だと言った。タイガーはティグランドから離れ、そこで会話は終わりそうになった。そこで、わたしは彼に彼が指示した女性に本を渡しておくといい、「良い一日を」と言って別れた。私はこの会話の終わり方に中途半端さを感じたが、神に全面的に信頼することに決めた。神が残りの話をタイガー・ウッズにしてくれるだろう。タイミングが良い時に。タイガーのために言うと、彼は神の真実に対してオープンな心を持っており、これらの答えにくい質問にもオープンに、正直に答えてくれた。そのことに感謝したい。

さて、タイガーは置いておいて、あなたは正直だろうか？あなたの心は？それはオープンだろうか？あなたであろうと私であろうと、私たちは皆、神の基準によれば嘘つきで、泥棒で、姦淫を犯し、

殺人者であると言わなければならない。あなたも私もその基準によって審判の日には有罪であると言わなければならない。冷徹に考えればそうである。しかし感謝なことに、神は私たち一人ひとりにその問題の解決策をくださった。あなたの心は神の前に正しくなる準備が出来ているだろうか？

撮影隊が次のホールへ向かったので、わたしの本が欲しがった人たちのために、私は何冊かを取り出すために車に向かった。私が戻って来て本をみなに渡すのを見て、ディレクターはそんな紙くずを読むなど言った。なので、わたしはあなたと話し出来て楽しかったと言った。彼は握手をしないだろうと思ったが、なんとさよならのハグをした。その変化はおそらく私が彼の敵意に対して愛をこめて真実を話したから起きたのだろう。

”すべての人が罪を犯した…”

我々は皆、神の基準では有罪だから地獄が我々が行くべき場所だー神がそこから逃がれる道を備えてくださり、我々がその道を通らなければ。

チャールズ・スポルジョンは言った

あなたは大きく開いた地獄の口の上に細い紐でぶら下がっており、その紐は切れかかっている。ちょっと息が苦しくなったり、一瞬心臓が止まったりすれば、私たちは永遠の世界に行ってしまうーすなわち、神は居らず、希望もなければ許もない世界である。ああ、あなたはそれに耐えられるだろうか？⁷⁵

イエスは病人に話してとても興味深い質問をした。

イエスは彼が横になっているのを見て、すでに長い間そうしていることを知ると、彼に言われた。

「良くなりたいか。」(ヨハネ 5 章 6 節)

我々は皆、神の基準では有罪だから地獄が我々が行くべき場所だ—神がそこから逃がれる道を備えてくださり、我々はその道を通らなければ。

罪の代償は大きい。今のこの世において…そして、次の世に置いても。あなたに質問する。「良くなりたいか。」あなたは心から良くなることを願うか？あなたの答えは？

神の制定した基準によればすべての人が有罪であると言うのは驚くべきことだ。たとえ私がいくら自分の罪を無視しようとしても、神は無視しない。

その基準では私たち 60 億人が有罪である。それは私たち 60 億人が、もしこの大きな問題に対する神の解決策を持っていなければ、死んだら地獄に行くということである。永遠の真実への道はますます狭くなっている。そして、我々の罪の問題の解決は次のページにある。

狭い道の先に切符は発見された。そしてそれは、正しい血で押印されなければならない

7 章

福音

エウレカ！（私は発見した！）

アルキメデス、287-212 B.C.

「エウレカ！」は偉大なギリシャの科学者アルキメデスが王冠の密度を調べるという難しい問題を解決した時に叫んだ言葉である。王様はその冠が純金か、銀が混じっているかを知りたかったのである。

アルキメデスはその問題をじっくり考えるために湯船に座り込んだ。そのとき湯船からあふれて床に流れ落ちる水を見て、その水の体積が自分の体の体積と同じだということに気が付いた。つまり、ある物体が水に沈められると水位が上がる。なぜなら、その物体がその体積の分だけスペースを確保するため

に水を押しのけるからである。「ユーリーカ！」彼は王冠の体積を知る方法を発見した。彼は金の重さを知っていたので、その体積分の金の重さを計算することによって、王様の質問に答えることができたのである。

同様に、我々はみな解を見つけることが難しい非常に重要な質問を投げかけられている。それは、どのようにして神と関係を持ち、地獄を逃れることが出来るかである。あなたは今この章の答えを読んで、同じく「エウレカ！」と叫ぶかもしれない。俳優の W.C. フィールズが亡くなる直前に、友人が彼の病室を訪ねて彼が聖書のページをめくっているのを見て驚いた。聖書をなぜ読んでいるのかを訊ねられて、彼は答えた。「抜け道を探しているんだ」。我々は聖書が真理であり、どのような抜け道もないと知った今、面白いことが始まっていく。

神は言う

地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。」(イザヤ 45 章 22 節)

神は、ご自身が唯一の神であると言っている。ほかに神はいない。しかし、どうしたら神と正しい関係を持てるだろうか？その道は？神は一人の救い主がいると言っている。

「この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」(使徒 4 章 12 節)

我々すべてを救いうるその人の名前はなんだろうか。

神は言う…

神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。」(第一テ

モテ 2 章 5 節)

「だれでも御子を否定する者は御父を持たず、御子を告白する者は御父も持っているのです。」(第一ヨハネ 2 章 23 節)

『その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったということ、そして、そのいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。』(第一ヨハネ 5 章 11-12 節)

「御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれています。神のひとり子の名を信じなかったからである。」(ヨハネ 3 章 18 節)

「それで、あなたがたは自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。わたしが『わたしはある』であることを信じなければ、あなたがたは、自分の罪の中で死ぬことになるからです。」(ヨハネ 8 章 24 節)

「イエスは彼に言われた、『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。』」(ヨハネ 14 章 6 節)

…ほかにも、イエスだけが神様との平和な関係をつくり良い関係を見出すための唯一の道であると言う聖句がたくさんある。イエスこそその「唯一の仲介者」であると言うが、彼を特別な存在にするものは何なのか？なぜ彼だけが唯一の答えなのであろうか？

私たちがこの世界を去って永遠の世界へ入る時、私たちが安心できる正しい答えがなければならぬ。私たちが地獄へ行かないようにする正しい答えがなければならぬ。そして、それがここにある。あなたには正しい犠牲を持ってくる必要がある。犠牲？説明しよう。

旧約聖書を読んでとても興味深いのは、とても早い時期から神が罪の許しのために動物の犠牲を使ったことである。後に、ユダヤ人たちは罪の贖いのためにエルサレムの神殿に動物の捧げものを持って来るようになった。罪の無い動物の血が流される時、それは彼ら自身の血の代わりであると理解された。彼らの罪のために動物たちは死ななければならなかった。

実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である」(レビ記 17 章 11 節)

奴隷にされていたイスラエルの子孫たちは、それぞれ傷のない子羊を用意し、その血を家の鴨居と門柱に塗った。そうすると、死の使(ルビ:つかい)がその家を過ぎ越したのである。数年前、わたしは ESPN クラシック(アメリカのスポーツ専門チャンネル)から電話をもらった。彼らはチャールズ・バークレーの特集のためにアトランタに来て人々にインタビューをするとのことであった。どういう訳か、彼らは検索ソフトで私の名前を見つけ、私を突き止めたのである。若い大学を卒業したての青年がカメラの前で私に質問をした。

インタビューの後、私は彼と話をした。彼は半分ルター派で半分ユダヤ教のな中で育ったと言った。私は彼に今でもシナゴグ(ユダヤ教の会堂)に行くかと尋ねると、彼はユダヤ教の祭日には行くと答えた。インタビューは贖いの日(ヘブル語でヨム・キプル)の二日前であった。それで私たちは、その祭日について話をした。それは、すべてのイスラエル人が罪を告白し、動物を彼らの身代わりに生け贄として捧げ、許しを得る日である。罪についての話になった時に、私はユダヤ教では罪を取り除くために何をするのか訊いた。彼らは昔は罪の捧げものとして動物を生け贄としていたが、今はもうやっていないことを彼は知っていた。なぜなら、生け贄はエルサレムの神殿で捧げられなければならないが、それは西暦 70 年に破壊されてしまったからである。私は我々は神が罪を取り除くための方法を勝手

に変えられないと言った。もし、神が血の犠牲を要求するなら、どうしてもそれでなければならない。

その青年は、エルサレムの神殿がほぼ 2000 年前に破壊されているのに、今は血の犠牲をどうすればよいのか知りたがっていた。そこで私は、これからあなたに話そうとしていることを彼に話した。会話の後に彼は、「あなたは信じていることについてをどうしてそんなによく知っているのですか？」と言った。彼はあなたがここまで読んできた内容に興味を持ったが、彼がもっとも興味を持ったのは血の犠牲の意味と、なぜもはやあり得ない、あるいは必要ないかであった。イエスの二人の弟子が彼について言った…

「その翌日、ヨハネは自分の方にイエスが来られるのを見て言った、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊』(ヨハネ 1 章 29 節)

「ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。」(第一ペテロ 1 章 18－19 節)

ここですべてがつながり始めるのである。罪のために犠牲の血を要求する神は言う

「律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはあません。」(ヘブル 9 章 22 節)

「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、儀のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは、癒やされた。あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。」(第一ペテロ 2 章 24－25 節)

我々は今も将来も神の基準を変えることはできない。イエスは完全な犠牲であり、すべての罪の

罰を払った。我々は神様が完全の犠牲を求めることを覚えなければならない。

我々は今も将来も神様の基準を変えることはできない。イエスはまた、すべての人の全ての罪の代価を支払った完全な犠牲であると言われる。我々は神が完全な犠牲を求めることを覚えなければならない。もしイエスが我々のような罪人であれば、つまり同じ人間によっては、その犠牲は罪から来る結果を断ち切ることが出来た。多くの人が十字架で死んだが、イエスは普通の人とは違う特別な存在でなければならなかった。彼は次のような存在であった…

「私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでした、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。」(ヘブル 4 章 15 節)

「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった。ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、脅すことをせず、正しくさばかれる方にお任せになった。」(第一ペテロ 2 章 22-23 節)

これが違いである。イエスは決して罪を犯さなかった。一度も。全く。彼は我々同様誘惑されたが、彼は罪に落ちることがなかった。なぜなら彼は常に正しい心で正しい判断をして選択をしたからである。彼が、彼だけが、すべての罪人のすべての罪の、最終的な完全な犠牲になり得るのである。それが、彼が傷のない子羊という意味である。彼は私たちの全ての罪のための、この宇宙の全能の神に対する完全な贖(ルビ:あがな)いなのである。

私がカンザスシティで飛行機に乗り込んでいるときだった。私は自分の座る席にカバンを置いた。隣の席は、黒ずくめの服を着た夫人で、シルバーヘアで金の飾りを付けていた。それは非常にすばらしコントラストを成していた。おそらく 60 歳くらいであろう。私がこんにちとは声をかけると彼女もやさしくこんにちとは言った。しかし、私は彼女がニューヨークタイムズを読んでいるのに気付いた。非常にリベラル(神はいないという立場)な新聞である。

私は、これは少し話が出来ると考えたのを覚えている。(ところで、あなたの考えに注意しなさい。まったく間違えてるかもしれないから。)落ち着いてから私たちは自己紹介をした。彼女の名前はシェイラであった。そこで私は彼女がなぜカンザスシティに来たのかと尋ねた。彼女は葬式のために来たのだと言った。彼女は死について考えているだろうから、よい会話が出来るとはではないかという期待が膨らんだ。

私は誰が亡くなったのかと訊くと彼女は甥だと答えた。私はなぜ死んだのかと訊いた。彼女は私を見て、「あなたに会ったばかりだし、話すべきかどうかわからない」と答えた。私は、もし話すのが嫌でなければと言った。すると彼女は甥は自殺したのだと言った。私は私の学生の一人がやはり数年前に自殺したと言った。そうして、われわれは話し始めた。

20分くらい話しているうちに、素晴らしいことが起こった。私は神についてある点から一般的な話をした。彼女は別の点から霊のことについて話した。しかし、霊的なことについて話しているところまでは、特に話が深まることは無かった。私はシェイラに彼女がユダヤ人かと聞くと、彼女はそうだと言った。突然彼女は私を見て、全く唐突に、「私のような者がなぜ自分の罪の赦しのためにイエス受け入れなければならないのか？」と訊いた。どうして、私は十戒を守っている良いユダヤ人として神の前に正しくあることは出来ないのか？どうして私は罪の赦しのためにイエスを受け入れる必要があるのか？クリスチャンになってマイノリティからマジョリティになるほうがはるかに楽だろう。しかし、どうしてそうしなければならないのか？

私はあごを外しそうになった。彼女がわたしにこんなことを訊くなんて。私は、人々は永遠のことになると私と話しながらないと思うことが多いので、それは驚きだった。神は私の隣に“探求する思い”をもった人を置いてくださるのだ。私はただ彼らに言うべきことを忠実に言えばよい。神が彼らの心の中

で働いてくださっており、彼らは準備が出来ている。必要なことは、真理の種を植えること、あるいは植えてある種に水をやることだけである。シェイラが驚くほどたくさんの質問を続けざまにするので、私は立ち上がって、棚にある私のカバンから聖書を取り出した。そして私たちは、フライトの間中ずっと旧約に述べられているヨシュア(イエスのヘブル語の名前はヨシュアで、救済を意味する)について話した。

私はあるときに完全なユダヤ人—それはイエスをユダヤのメシア(救世主)として受け入れたということである—のテープを聞いたことがある。彼は、あるイエスを信じるユダヤ人が旧約聖書に書かれている4つの箇所を読んで、「これは誰をさしているのか？」と自問したという話を聞いて信じるようになったと言っていた。彼はその考えは尤もだと思ったので、実際に確かめたのだ。

1. イザヤ書 53 章は苦難のしもべについて書かれている。彼の答えは、その章はイエスのことを指しているというものだった。
2. 詩篇 22 章はメシアの十字架上の死について語っている。彼はそれがイエスの死を記述していると分かった。
3. エレミア書 31 章 31-34 節はどのように古い契約がどのようなものであり、ある日新しい契約が与えられることについて述べている。彼は新しい契約を知らなかったが、それをそのとき知った。
4. ダニエル 9 章 24-27 節はメシアがどのように断たれ、都(ルビ:みやこ)が破壊されるかが書いてある。きゅうやくせいしょが都について述べる時、それは常にエルサレムのことである。そして我々は、エルサレムは紀元 70 年に破壊されたことを歴史によって知っている。したがって、メシアはその前に来ていなければならない。この男性は、ここまで来て、それががイエスであり、イエスだけがこの預言を成就出来たのだと分かったと言った。

私は5番目の聖句が好きである。

5. 箴言 30 章 4 節は神の存在を告げている。そして、「その子の名は何か？」と質問している。

したがって、ユダヤ教の経典は、これらの、そして他の多くの箇所で、神の子がある特定の時にある特定の方法で現れると宣言しているのである。

シェイラは我々が話していた時に真剣にあることを考えていた。われわれは、彼女が神との正しい関係であるための方法と言っていた十戒を再吟味しながら彼女の罪について話した。それは素晴らしい会話であった。話の最後に、私は私の処女作の本を取ってサインして彼女に上げた。彼女は私を見て、私はいつもこのことについて長い間話したいと思っていたのだと言った。私は空港の向かう途中で、隣に座る人がどうかイエスについて自由な会話ができる人であるようにと祈ったのだと言った。

私はシェイラを見てあなたがわたしの祈りへの答えだと言った。彼女の顔は素晴らしいものだった。シェイラは私を見て、「この会話を決して忘れない」と言った。私は、もしシェイラがまだヨシュア/イエスを自分の救い主として受け入れていないなら、律法によって裁かれることが無いために、そうするように祈っている。

コロラドのウインターパークで私はあるとき一日中スキーを楽しんでいた。私は永遠のことについて人々とリフトでしゃべりたいと思っていた。彼らはジャンプするにしても、頂上まで是一緒に行くのだ！ある日、スキーリフトでユダヤ教会の先生とその息子と話していた。我々は罪のゆるしについて話していた。贖罪の日が数日先のことだったので、彼は、その日に行われる断食と祈りについて私に話した。

話しているうちに、彼がユダヤの経典が動物の犠牲について述べていること、そしてその血が罪をおおう為のものと理解されていることを知っていることを私は発見した。ローマ人によって神殿がほ

ば2000年前に破壊されてしまったため、ユダヤ人たちは、そこで行われるべき動物の犠牲を捧げることが2000年ほど出来ないでいることにも彼は気が付いていた。そこで、私はイエスが完全な罪のための犠牲であり、神殿での犠牲はもはや必要ないことを説明した。そういう訳で、神殿は無くなったのだ。

わたしたちはリフトでとてもいい話をした。そして、ちょうど頂上—そこでは地面にぶつからないようにスキーの先端を少し上に持ち上げてリストからサッと降りるところ—に着いたとき、彼は私を見て言った。「私は今まで罪のための人間の犠牲という事実について考えたことはなかった。」²たす²が彼の頭の中で4になりかけていた。彼は有効な罪祭が成就する必要があるユダヤの律法を知っていた。そして、初めてイエスが地上に来た理由—最終的な完全な罪祭として来たこと—を理解しかけていた。

神はイエスについて言っている…

「御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。」(ヘブル1章3節)

思い起こしてもらいたい。初めからこの本は真実を探求していた。真実を知り、真実に生きることは常にあなたを自由にする。

「イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。『あなたがたは、わたしのことばにとどまるなら、本当にわたしの弟子です。あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。』」(ヨハネ8章31-32節)

仏陀は人生の最後に言った。「私は神がいるかどうかを知らない。私はいまだに真実を探求している。」コーランはモハメットの死のずっと後に書かれたが、モハメッドが「私は許しを必要としている」

と言ったとして引用している。

しかし、イエスの言うことを聞いてみよう

「イエスは彼に言われた。『わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。』」(ヨハネ 14 章 6 節)

イエスが、彼が天国への唯一の道であると言っているその点において、がわれわれは、二者択一を迫られる。我々はイエスが実際何者であるのかを決定しなければならない。精神異常者とか嘘つきなのか、それとも主であるのかを決めなければならない。もし、彼が嘘をついていて、自分でそのことに気づいていないなら彼は精神異常者である。彼は気が狂っているに違いない。誰かが自分は神であり、天国への唯一の道であると主張するなどというのは普通のことではない。もし、あなたがこのようなことを言うならそれを裏付けることが出来なければならない。

2000 年の歴史にこれほどの影響を与えた男が、気が狂った者のようにふるまっただろうか？その誕生が歴史を B.C. と A.D. に分けるほどの人が気が狂っていたのだろうか？しかし、もし彼が嘘つきで、自分でそれを知っていたのなら、彼は世界の歴史上中でもっとも偉大な詐欺師である—実はそうでないのに、自分が天国への道であると人々に語ったのだから。イエスの言ったことが今日まで社会に浸透し、多くの人に対して真実の響きを感じさせるのである。彼の敵も彼にどのような罪を見つけることも出来なかった。彼は非の打ち所のない性格の持ち主であった。

その言葉が世界の歴史上、最も偉大な倫理の教えで、その言葉と行ないのがこの世界に最も大きい影響を与えた—そのような人が自分自身について、神について、間が永遠を過ごす場所について嘘をついていたということがあるだろうか？彼が精神異常者だというのはまったくおかしいし、嘘つきだということもそうである。結局は、一つの選択肢しかない。彼は真実を語ったのであり、彼は真実を

語っていることを知っていたということである。それは、聖書で預言されているように、彼が人の肉体をとった神の現れであるということである。

博識者 C.S.ルイスは書いた

この男が神の子でなければ、彼は狂人か、もっと悪いものであろう。あなたは彼を馬鹿と呼び黙らすことができる。唾を吐きかけ悪魔として殺すことができる。あるいは彼の足元にひれ伏して主、神と呼ぶことができる。しかし、彼を分かった風に偉大な人間の教師として扱うのはばかげている。彼はそう考える余地を残さなかった。彼はそれを意図していなかった。⁷⁶

キリストの主張はほかのすべての宗教の創始者と比較しても独特なものである。ジョシュ・マクダウエルは言う

モハメットは決して神であると主張しなかった。仏陀も神についての質問には無言だった。孔子は神についての議論は拒否した。モーセは神の預言者であると主張したに過ぎなかった。イエスだけが肉体をとった神であると主張した。人々はイエスを「賢い教師」、「偉大な主」と評した。しかし、それはイエス自身の言葉ではなく、人々が見た数々の奇跡は、疑いようのない事実であった。それと共に、古代の記述(旧約聖書)もすべて彼を肉体をとった神であると言う。⁷⁷

イエスという名前は、まさに「救い」という意味である。このことが真実を物語っている。彼が天国への唯一の道なのである。我々が探していた天国への道が見つかった。なぞは解かれた。彼が、そして彼だけがあなたの罪を許すことができる。彼だけが父なる神のもとへ行く道であり、神と正しい関係を持つ方法なのである。

「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広く、そこから入って行く者が多いのです。いのちに至る道はなんと狭く、その道もなんと細いことでしょう。そして、それを見出す者はわずかで

す。」(マタイ7章13-14節)

真実の探求は常に狭い探求である。なぜなら真実はただそれだけであり、すべての他の方法や答えを除外するものだからである。天国への狭い道の切符は見つかった。そしてそれにはイエスの血によって印が押されなければならない。多くの間違った答えがある中で、あなたが審判の日に神と会う時、正しい答えが一つある。「イエスがすべてを支払ってくれた」

「もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互に交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」(第一ヨハネ1章7節)

イエスの血は、私たちを全ての罪からきよめることができるのである。全て(傍点)の罪である。聖なる神が天国に入れることができる唯一の道は、我々が生涯で犯した全ての罪からきよめられているかどうかにかかっている。それが、私たちの「良い行い」が完全に聖なる神の前に出るためには決して十分ではな理由である。考えてほしい。もしあなたが焦げたケーキに白いホイップクリーム載せたらそれはどのように見えるか？それは外側は確かに良いかもしれない。しかし、食べてみたらどのような味がするだろうか？我々のほとんどは、焦げたケーキやクッキーを食べたことがあるだろう。その焦げた場所に当たるまではいい味だが、その焦げたところはひどい味である。

良い行いも同じことである。もしも、良い行いが天国への道だと信じているなら、われわれは外側をよく見せようとするだろう。しかし内側は、依然として汚れていてひどいままである。なぜなら、我々は日々十戒を破っているままだからである。きよくないものが許されない天国へ行くためには、ただ単に善い行いで罪を覆うことは出来ない。私たちは、その罪を全部一緒に取り除かなければならない。イエスの血、イエスの血だけが、あなたの罪を降ったばかりの雪のように白くきよめ、完全に取り除くことができる。

「さ、来たれ。論じ合おう。一主は言われる一たとえ、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとえ、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」(イザヤ書 1 章 18 節)

我々の全ての罪をきれいさっぱり取り除くには一つの方法しかない。メシアであるイエス(ギリシャ語でキリスト)の血によるあがないだけである。

「しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスにあって、キリストの血によって近いものとなりました。」(エペソ 2 章 13 節)

われわれは神の前にイエスの義を着て立つことが出来て、われわれの申し立ては、有罪でも無罪でもなく、

「御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。」(第一ヨハネ 1 章 7 節) ということであろう。

チャールズ・スポルジョンは言った…

キリストの心は山の中にある貯水池のようになった。すべての不法の支流や、彼の民の罪の一滴々々が、広大な一つの湖に流れ込む。そこは、際限なく深く、広い。これらのすべてがそのままキリストの心に集められ、彼はそれを耐え忍んだのである⁷⁸。彼は人類の罪を一掃することが出来る唯一のお方であり私たちのためにそうされた。スポルジョンは神の子のこの無償の行為についてこう言った。

天と地、時間と永遠の驚異は、イエス・キリストの死による贖いである。これは、全ての被造物に勝って神に栄光をもたらす神秘である。⁷⁹

我々が自分を救うために出来ることは何もない。現在のどんな良い行いも、その一瞬正しいだけ

であり、過去のためには何の埋め合わせにもならない。我々は靈的に破綻しており、私たちの負債を払うことができるのは、罪のない者だけなのだ。

「実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ者がいるかもしれません。しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。」(ローマ 5 章 6-10 節)

わたしはある日、ショッピングモールで青年と、キリストの血が彼のためにしたことの意味を理解してもらおうと話していた。わたしたちが話していると、ある男が店から出てきた。そして防犯ブザーが鳴り響いた。店員が防犯タグを取るのを忘れたためだった。わたしは彼に訊ねた「もし誰かがあなたのジーンズの防犯タグを取るのを忘れたまま、あなたがお店を出ようとしたら何が起こる？」彼はアラームが鳴るだろうと答えた。

わたしは言った。「分かりやすい喩え話があるよ。想像してごらん。天国の門の両側にそれぞれセンサーが付いているんだ。あなたがそこを通る時アラームを鳴らせるたった一つのものがある。それは何だろう？」彼は答えた。「私の罪だろう。」わたしは言った。「その通り。しかし、もしすべての罪が許されており、洗い流されていれば、あなたがこの地上を永遠に離れる時にその門を通ることができると思うか？」彼の眼が突如輝きだして言った。「そう思うよ。」だれでも店を出る時に防犯アラームが鳴って

欲しくないのだから、天国に入ろうとする時には絶対鳴って欲しくない。イエスの血は、あなたがそれに信頼すれば、すべての罪を洗い清めてくれる。間違いない。あなたが神の御座に近づくときに防犯アラームが鳴ることはない

チャールズ・スポルジョンは言った。

わたしの心はほったらかしで、雑草に覆われていた。しかし、ある日偉大な農夫がやってきてわたしの魂を耕し始めた。10頭の黒い馬が彼のすきを引き、そのすきの刃は鋭かった。そしてそのすきは、畝と畝の間に深いすじを作った。十戒は黒い馬であり、すきの刃のような神の義は、わたしの霊を引き裂いた。わたしは有罪を宣告され、破滅し、破壊され、失われ、何の助けもなく、望みもなかった。わたしは地獄は私の目の前にあると思った。しかし、耕すことの後に種を蒔く時が来た。福音の必要を覚えるようにと、神は哀れみによって心を耕してくださったのだ。そして福音の種は、喜びをもって受け入れられた。⁸⁰

律法の目的は、人に救い主が必要だということを示すためである。誰も律法を守ることはできないので、それをやろうとしても私たちは望みはない。われわれが、自分は望みがない状況であることを理解した時に、イエスが我々のために何をしてくれたかを聞いたら、それはなんと大きな喜びであろうか。あなたは以下の記事の男のように、イエスがあなたのためにしてくださったことを喜んで受け取る準備が出来ているだろうか？

『どくろ』と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。また犯罪人たちを、一人は右に、もう一人は左に十字架につけた。そのとき、イエスはこう言われた。『父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。』彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。民衆は立って眺めていた。議員たちもあざ笑って言った、『あれは他人を救った。

もし神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ったらよい。』

兵士たも近くに来て、酸いぶどう酒を差し出し、『おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。』と言ってイエスを嘲った。『これはユダヤ人の王』と書いた札も、イエスの頭の上に掲げてあった。十字架にかけられていた犯罪人のひとり、イエスをののしり、『おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え』と言った。すると、もう一人が彼をたしなめて言った。『お前は神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。おれたちは、自分のしたことのむくいを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。』そして言った。『イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。』イエスは彼に言われた。『まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。』さて、時はすでに十二時ごろであった。全知が暗くなり、午後三時まで続いた。太陽は光を失っていた。すると神殿の幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。『父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。』こう言って、息を引きとられた。百人隊長はこの出来事を見て、神をほめたたえ、『本当にこの方は正しい人であった』と言った。また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、これらの出来事を見て、悲しみのあまり胸をたたきながら帰って行った。しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた。」(ルカ 23 章 33－49 節)

実際、我々の誰もが、このイエスの隣で十字架に付けられた二人の強盗うちのどちらかであるということである。ひとりはイエスを嘲笑し、もう一人はイエスを神として認識し罪のゆるしを求めた。上記の聖書箇所から分かることは、我々は良い人であることによってではなく、自分の罪を悔い改めること、そして、イエスが自分のためにしてくださったことに信仰と信頼を置くことによって天国に行けるということである。

もしも、すべてが信仰によるなら、信仰とは何であろう？ 第一に、それは感覚ではない。あなたは強い感情や身体的感覚がなくても、強い信仰を持つことができる。あなたは、あなたが今座っているものが、あなたを支えられると信じている。あなたは完全にそれを信じているが、それについて何も感じない。一方、疑いとは感覚である。もし、あなたが今座っているものがいつ壊れるかわからないと信じていたら、あなたは感情的に肉体的に間違いなく動揺させられる。だから疑いとは感覚であり、霊的要素とは関係ない。しかし、信仰とは感覚ではない。

それはあなたの意思決定によってたどり着いた選択である。「その椅子は良さそうだ」とあなたは座ってみる、それ以上考えずに。あなたはあなたの選択を信頼している。イエスのあなたへの愛や、イエスがあなたの救いのためにしてくださったことを信じることもそれと同じである。いったん決定すれば感情や気持ちとは必ずしも関連しない。あなたは単純にイエスが救い主であることを知っており、疑いを抱くことなく彼の約束に安んじるのである。

どちらの泥棒もイエスをどう扱うのか選択することが出来た。結果として、ひとり天国に行き、ひとり地獄に行った。あなたにも同様に選択することが出来る。いずれにせよ、イエスに対してどのように決断するかによって、あなたが永遠をどこで過ごすかが決定するのである。イエスがなぜ来たのか、そしてそれがあなたにとって個人的に何を意味するかを考えなければならない。

「『キリスト・イエスは罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしらです。ある」(第一テモテ 1 章 15 節)

「しかし、私はあわれみを受けました。それは、キリスト・イエスがこの上ない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためでした。」(第一テモテ 1 章 16 節)

「私たちに不利な、様々な規定で私たちを責め立てている債務証書を無効にし、それを十字架に釘付けにして取り除いてくださいました。」(コロサイ2章14節)

「無効にする」というのは、「神様への負債のリストに『すべて支払い済』と書いて取り消す」という意味である。イエスが「完了した」と言ったとき、それは、人間の罪の負債を「すべて」支払うという救い主の地上の業に関する預言が、全て成就したという意味だったのである。そして、考えてみてほしい。あなたの負債は2,000年前に支払われていたのである。処罰は既になされた。あなたの負債は支払われ、神はもはやあなたを地獄にむかう罪びとだとは見ずに、彼の元へ帰る準備をしている愛する子供と見るのである。

条件は一つだけである。すべてはそれにかかっている—あなたがそれを受け入れると決心するかどうかである。神はあなたに神を愛することを強制しない。それが、この世の人生の本当の目的である。我々はここに態度を決めるためにいるのである。神は自由意志を授けられた。我々はそれを行使するためにいるのである。私たちが答えなければならない大きな質問は、わたしの人生の舵取りを自分で行うか、それとも神に舵取りをお願いするかである。

もしわたしが、自分自身を自分の神とすることにしたら、神は悲しみながらもそうすることを私に許すだろう。しかし、同時に彼はそれでも私を自分の方へと導こうとするだろう。もしも、わたしが自分のした誤り、特に彼に逆らったことについて、ごめんなさいと言って、彼との交わりの中でこの人生を生きることを願い、私が死んだ時彼の元へ行くことを願うなら、彼の答えは間違いなく「イエス」である。なぜなら、それはイエスが全部を支払ったからである。なので、わたしは神に恐れなく対面することが出来る。それが福音、グッドニュースである。すなわちそれは、神がは私に憐みを示して下さり、これまでで最高の愛ある贈り物をくださるということである。すなわち、イエス・キリストを通して与えられる全ての完

全な赦しである。もし私が神のゆるしの贈り物を受け取るなら、わたしは死んだ後地獄に行かないで、神と共にいるのである。

これはあなたに対する贈り物でもある。もし、あなたが罪深い道から離れ、神様の助けによってイエスキリストにある敬虔な生き方を選べばである。そうだ、もしあなたが、神のしてくれたことを受け入れると決心し、それを感謝して生きるなら、あなたは罪の負債から自由になるのである。

イエスは十字架の上でわれわれの罪のために死んだだけでなく、彼が誰であるかを我々が確実に知ることが出来るように、驚くべきことをなされた。彼は死からよみがえったのである。

「週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来た。見ると、石が墓からわきに転がされていた。そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。『あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に探すのですか。ここにはおられません。よみがえられたのです。』

まだ、ガリラヤにおられたころ、主がお話になったことを思い出さない。人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。』彼女たちはイエスのことばを思い出した。そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかつた。しかしペテロは立ちあがり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。(ルカ 24 章 1-12 節)

…そして空っぽの墓が残された

「しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。」(使徒 2 章 24 節)

「兄弟たち。私があなたがたに宣べ伝えた福音を、改めて知らせます。あなたがたはその福音を受け入れ、その福音によって立っているのです。私がどのようなことばで福音を伝えたか、あなたがたがしっかり覚えているなら、この福音によって救われます。そうでなければ、あなたがたが信じたことは無駄になってしまいます。私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、わたしたちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。私は使徒の中では最も小さい者であり、神の教会を迫害したのですから、使徒と呼ばれるに値しない者です。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みはむだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。ところで、キリストは死者の中からよみがえられたと宣べ伝えられているのに、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はないと言う人たちがいるのですか。もし死者の復活がないとしたら、キリストもよみがえらなかつたでしょう。そして、キリストがよみがえらなかつたとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰

も空しいものとなります。私たちは、神についての偽証人ということにさえなります。なぜなら、かりに死者がよみがえらないとしたら、神はキリストをよみがえらせなかったはずなのに、私たちは神がキリストをよみがえらせたと言って、神に逆らう証言をしたことになるからです。もし死者がよみがえらないとしたら、キリストもよみがえらなかったでしょう。そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます。そうだとしたら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったこととなります。もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。」(第一コリント 15 章 1-19 節)

我々が以前に述べた目撃者について覚えているだろうか？わたしたちは、ユダヤの裁判の中では、何かを証明するのに一人の目撃者では十分でないと考えられていたことを示した。何事かを立証するには、少なくとも二人の証人が必要だったのである。キリストが死から甦ったとき、40 日以上にわたって、13の異なった場所で、少なくとも 552 人によって目撃されている。キリストの復活と復活後の 40 日間のこの世界での活動の実態は閉じられたドアの後ろで隠されていたようなものではなかった。むしろ、広いオープンスペースで起こったことであり、すべての人が御子の復活における素晴らしい神のわざを見ることが出来たのである。

このことは、彼を見た人に、疑問の余地がなく彼が肉体をとられた神、メシアであることを証明した。そのことを考えてほしい。キリストは、現在の私たちを含めて、何時の時代の人々も正しい永遠に関する選択をするように、十分な証拠を残さなければならなかった。パウロはさらに言う。もしも、イエスの復活がなかったら我々の信仰は空しいと。それはでっちあげ以外の何物でもない。しかし、イエスの弟子たちは、それぞれ復活した救い主を見たので、信仰のゆえに喜んで死んだのである。

「テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い初め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。それは、お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた後、天に上げられた日までのことでした。イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた」(使徒 1 章 1-3 節)

わたしは美術フェスティバルで二人の婦人と話していた。彼女たちは私にイエスだけが天国への道であるとどうしても信じられないと言った。わたしはイエスの生涯、死、そして復活について彼女たちに説明した。私が復活について話し終えた時、ひとりが、わたしを見て、「もしもその人が死から蘇ったのなら、彼だけが天国への道であると言える。」と言った。イエスを信じていない彼女でも、誰かが自分の死を予告し、墓からよみがえると予告し、実際にその通りにしたら、他のことも彼の言うことは、信じる事が出来る。

イエスについて多くのことを言う事が出来るが、一つだけ確かなことがある。それは、彼の死からの復活は彼をこの地上に存在した他の誰とも違う特別な存在にするということである。彼は自分の死を予告し、死から蘇ることを予告し、その通り実行した。モハメドはそれをすることが出来なかった。仏陀も出来なかった。孔子も出来なかった。イエスはそれをすることが出来るはずというだけではなく、実際にそうしたのである。

パスカルの賭け

偉大な数学者であり哲学者であったブレイズ・パスカルは、神がいるかのように生きることは神がいないかのように生きるよりもよい賭けであると言った。これは、「パスカルの賭け」として知られるようになった。その賭けとは次のようなことである。もしも、神がいないように生きるほうにかけて、本当に神がいなくても死ねばただ墓に行くだけである。しかし、神がいるのにいない方に賭ければ永遠に地獄に

行くことになる。それとは逆に、神がいるほうに賭けて、実際に神が存在しなくても、死んでもただ墓に行くだけである。しかし、神が実際に存在すれば、永遠に天国で過ごすことになるという大当たりである。

パスカルの言いたいことは神様がいるほうに賭けてみるということである。もし、間違っているとしても何も失うことがないし、よい生活を送ることが出来る。そして、賭けたことが正しくて、本当に神がいるならば、永遠にその賢い選択を喜ぶことが出来る。我々は車や飛行機などに乗るとき、何か器具を使うとき、あるいはレストランで食事をするときにいつでも賭けをしているのである。それなのに、負けることがないこの選択にどうして賭けないのかというのである。

私はある日このパスカルの議論を見ていて、パスカルは何かを見落としていると思った。なぜなら、彼はイエスに言及していないからである。あなたが、神がいることを信じる事ができても、もし正しい神、救い主イエス・キリストを選択しなければ、あなたは永遠の間違いをしたことになる。何かと同時に正しくもあり正しくないということはないのである。イエス・キリストは神の子であり、道であり、真理であり、いのちであり、死からよみがえった方であるのか—あるいはそういう方ではなく、死からよみがらなかったのかどちらかである。

私はさらに調べた結果、パスカルはただ人は神を信じるべきだと言っているのではなく、キリスト教の言っている神を信じるべきだと言ったことを知った。パスカルはさらに、あなたがもし何事かを信じるなら、それにふさわしく行動するだろうとも言った。したがって、彼は本当はイエスを勧めたのである。しかし無神論者が相手だったので、彼は間接的にそれを神から始めることによって行なったのである。

あなたはこの問題のどこに立っているであろうか？あなたは100%死ぬ。あなたはいつの日か天

国に行く正しい切符を持っているだろうか？そして、その切符には、必ず(私は敢えて必ずと言う)イエスの血による印が押されていないなければならない。あなたは天国に神の子供として到着するか、永遠にそこに着かないかどちらかなのである。そこに中間地点はない。選択をしなければならないのだ。

以下は、ジョッシュ・マクダウェルがイエスに対する信仰について語っているものである。

キリスト教は世界最大の宗教であるが、他の宗教とは全く違う点がある。それは、ある意味ではひとつの宗教であるが、それは全てひとりの人物に関したものである。ジョゼフ・スミスがいなくてもモルモン教は存在するだろう。仏陀がいなくても仏教は存在するだろう。なぜなら、多くの人が仏陀であると主張しているから。しかし、イエスがいなければキリスト教はない。この宗教は消滅しているだろう。歩いて、話して、十字架につけられて、復活したイエスがいなければキリスト教は成り立たない。詰まるところ、それはすべてが神の子イエスについてのことなのだ。問題は、あなたが彼をどうするかである。⁸¹

ある時、わたしは一人の男がこう言っているのを聞いた

我々が罪の深い穴にいると想像してみなさい。この穴から抜け出す方法は何もない。誰かがあなたにはしごを降ろす。それは十段ある。それをあなたは登ろうとするが、一段一段がそれぞれ十戒の一つ一つであり、それを破った段にあなたは足を乗せることが出来ない。穴から出る方法はない。あなたは行き詰まっている。突然、イエスが飛び込んできて、もし望むなら彼の背中に乗せてくれると言う。そして、イエスはその穴からあなたを助け出してくれる完全な、罪のない救い主として、すべての段を踏みしめて、あなたを穴から助け出してくれるのである。

あなたはイエスに罪と死の穴の中から助け出してもらいたいだろうか？永遠の真実の謎は解けた。今度はあなたが何をしたいか決定する番である。

あなたは、熱い砂漠の砂に囲まれている灼熱の中でらくだの背中に乗っている。残りの集団はあ

あなたの後ろに長い列をなしている。なぜあなたが止まっているのかをいぶかしがりながら。

8章

次の段階

罪と地獄は結婚している。悔い改めが離婚を宣言しない限りは。

—チャールズ・スポルジョン

私たちが立っている状況を確認してみよう。証拠は圧倒的である。我々はそれぞれ全能の神の命令を破ってきた。私は審判の日に有罪である。あなたも有罪である。では、次の段階として、われわれは神との正しい関係を取り戻すために何をすればよいのだろうか？ 日常の英語での会話ではもはや使わない言葉がある。それは「悔い改め」である。それは人生に不可欠な概念を表す言葉であり、聖書はその言葉を100回以上使っている。

「悔い改め (repent)」とは何を意味するのか？ 英語と、その多くの語源となっているラテン語では、「re」は「再び」を意味し、「pent」は「考える」という意味である。

したがって、悔い改めとは再び考えること、あるいは何かを考え直すことである。旧約聖書において「悔い改め」と訳されているヘブル語は、「帰る」という意味であり、神のもとに帰るという意味合いを含んでいる。新約聖書のギリシア語で「悔い改め」と訳されている言葉は、「後悔」と「再考」を意味する言葉である。

したがって、悔い改めるときに我々は、神が我々に求める考えと行いに照らして、自分が考え、行なってきたことを考え直し、自分の罪から離れ、神に向かうのである。我々は神に逆らってきたことを残念に思い、彼の助けを借りてそれまでの生き方を変えたいと願うのである。我々は悔い改めると同時

に、生活の中で悔い改めたことに引き戻そうとする全てのことを投げ捨てたいと強く願うようになり、神の助けによって二度と元の乱れた生活に戻らないと決心するのである。神は悔い改めて、汚れからのきよめの赦しを受けてから元の罪に戻ることを、吐いた物、あるいは豚の小屋の泥に戻ることに例えている。

『犬は自分が吐いた物に戻る。』、『豚は身を洗って、また泥の中を転がる』という、ことわざどおりのことが、彼らに起こっているのです。」(第2 ペテロ 2 章 22 節)

同時に、我々は我々の信仰と信頼を救い主であるイエスに置くということである。いいかえれば、悔い改めと信仰は相伴って進むのである。これがわれわれが有罪であると宣言されている状態から救われるということである。つまり、我々が悔い改めて信じる時、神の家族の一員として新しく生まれたものとなり、もはや律法の有罪宣告のもとにはないということである。聖書がこのことについて、他に何を述べているか見てみよう。

「そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」(ルカ 13 章 3 節)

「あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、悔改める必要のない九十九人の正しい人のためよりも、大きな喜びが天にあるのです。」(ルカ 15 章 7 節)

「わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためです。」(ルカ 5 章 32 節)

『わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は淫らな行いを悔改めようとしない。見よ、わたしはこの女を病の床に投げ込む。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めないなら、大きな患難の中に投げ込む。』(黙示録 2 章 21-22 節)

これらの災害によって殺されなかった、人間の残りの者たちは、悔い改めて自分たちの手で造った物から離れるということをせず、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた偶像、すなわち見ることも聞くことも歩くこともできないものを、拝み続けた。また彼らは、自分たちが行なっている殺人、魔術、淫らな行いや盗みを悔い改めなかった。」(黙示録 9 章 20—21 節)

「この時からイエスは教宣を開始し、『悔い改めなさい。天の御国が近づいたから』と言われた。」(マタイ 4 章 17 節)

イエスは宣教を始めた時に、最初の言葉をどうするかについて永遠の知恵を用いられた。あなたも正しいことを言うのにその初めがいかに重要であるかわかるだろう。それがイエスの公の宣教の最初の言葉が『…悔い改めて福音を信じなさい。』(マルコ 1 章 15 節)であった理由である。

ではなぜ、「悔い改め」という言葉を選んだのだろうか？

「主は、ある人たちが遅れていると思っているように、約束したことを遅らせているのではなく、あなたに対して忍耐して居られるのです。だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。」(第 2 ペテロ 3 章 9 節)

「ですから、悔い改めて神に立ち返りなさい。そうすれば、あなたがたの罪はぬぐい去られます。」(使徒 3 章 19 節)

「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようようにと宣べ伝えてきました。」(使徒 26 章 20 節)

「神はそのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今はどこでも、すべての人に悔い改めを命じておられます。」(使徒 17 章 30 節)

『反対する人たちを柔和に教え導きなさい。神は、彼らに悔い改めの心を与えて、真理を悟らせてくださるかもしれません。』(第二テモテ 2 章 25 節)

「今は喜んでいますが。あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めたからです。あなたがたは神のみこころに添って悲しんだので、私たちから何の害も受けなかったのです。神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。」(第 2 コリント 7 章 9-10 節)

何かのことで捕まってしまったことを残念に思うのは悔い改めではない。新約聖書が書かれているギリシャ語では、「悔い改め」とは変化を強く示すことばである。心と思いの変化である。あなたが何をしたいかの変化である。救いはビールを飲んだり、覚せい剤を使ったり、婚外のセックスをしたり、テストでカンニングをしたり、両親に逆らったり、イエス・キリストに人生を委ねることでもない。それなら、ビールを飲み、覚せい剤を使い、婚外セックスをし、テストでカンニングをし、両親に逆らおうということになってしまう。あなたが悔い改める時、あなたの人生の中で目に見える変化があるはずである。あなたの再考、悔い、反省は、結果としてあなたの考えと行いに変化をもたらすのだ。なぜなら、イエスがあなたの人生に介入するとき、それが人生を変えるからである。

あなたがた救われてもやはり誘惑に苦しむことだろう。しかし、イエスがあなたを助けてくれるために一緒にいるのでその誘惑を克服するだろう。したがって、あなたの人生に変化があるはずである。あなたはあなたを神から離れさせていた行いを避けるようになる。あなたは違った人生を望むだろう。私の高校のときの仲間たちは、私の生き方を見て彼らが知っていた私と違うと言う。彼らは、私の内側にあるもの、つまり心と思いが変わったので、外側の変化を見ることが出来るのである。私は考えを神のほうに向かって変えた。そして神は、彼が望む私であるように私を変えてくださりつつあるのである。

悔い改めには明確な二つの段階がある。それは次のように例えられる。あなたはらくだにまたがって、灼熱の砂漠の中にいると考えてほしい。残りの隊列は後ろに長く並んでいる。あなたがなぜ止まったのかを考えながら。地平線をよく見た結果、あなたは自分の進むべき道が間違っていたという逃れられない事実気づく。それが第一の段階である。次の第二段階は、あなたが乗っていたらくだの向きを変えてぶつぶつ言う群衆に向かう時である。悔い改めはあなたがらくだの向きを変えるまでは確実に、あるいは完全に完了したとは言えない。

チャールズ・スポルジョンは言った…

人は殺人者が絞首台を嫌うように罪を嫌うかもしれない。しかし、これは悔い改めをではない。もし、わたしが罰を恐れて罪を嫌ったとしてもそれは罪の悔い改めではない。単に神様が公正であることを残念に思うだけである。しかし、わたしが罪をイエス・キリストに対する違反行為だと考え、そしてイエス・キリストを傷付けてしまったゆえに自分自身を憎むなら、わたしは本当に砕かれた心を持つことになるのである。⁸²

罪のもたらす結果だけが悔い改めを起こすのではない。神を傷つけることは、私の人生に抜本的な変化をもたらしたいという思いを与えるはずである。わたしたちはそのその罪の生活から離れたいと思うはずである。あなたは離れただろうか？あなたは人生を変えて神様の栄光を現したいであろうか？あなたは、あなたの全ての罪を許してもらいたいだろうか？あなたは神に天国での永遠の生活の準備を始めて欲しいだろうか？

チャールズ・スポルジョンは言った…

キリストの頭ににいはらの冠をかぶらせることであり、キリストの顔に唾を吐きかけて軽蔑し、キリストの手に釘を打つことであるがゆえに罪を憎むこと—これが悔改めである。地獄を恐れるからとか、罪が

痛みと刑罰をもたらすからではなく、キリストを、私のために筆舌に尽くしがたい痛みで苦しめることだからである。⁸³

旅行や人と話すことはいつでも冒険である。私はフロリダ大学で何回か話したことがある。通常 600—700 人の学生がおり、いつもよい時を過ごす。あるとき私は、話を終えた後、フロリダからロサンゼルスに向かって立とうとしていた。わたしは、テレビのライブショーに出るために、時間までに到着しなければならなかった。フロリダの空港に着くまでは全てが順調であった。しかし、すぐに霧が問題になっていることに気づいた。私が乗る予定の飛行機が濃い霧で着陸できないのである。私は遅れのために、乗り継ぎのアトランタに遅く着いた。そして、なんとご推察の通り、私がゲイトに着いた時には、乗り継ぎの飛行機はちょうど離陸してしまっていた。私は不愉快だった。

飛行機会社と話すともロサンゼルスにそれでも時間通りに着けるということが分かった。しかし、着陸するのは違う空港だという。もし、あなたがロサンゼルスの空港の立地と交通事情を知らなければ、それはあまり問題ではないかも知れない。しかし、ロサンゼルス空港に着いた後、ラッシュアワーのロサンゼルスショーに間に合うためにわざわざ横切らなければならないのだ。

そこで、わたしはショーのプロデューサーに電話して、キャンセルしたいか訊いた。彼らは挑戦してみようと言い、そして私の出番をショーの最後に変えてくれた。ロサンゼルスに着くと、スタジオの運転手は私をひろって撮影場所まで走り始めた。彼の名前はアナクハンダだった。彼はバハマの出身であった。私は彼と話し始めた。彼の運転中に訊いた。誰が一番今まで乗せた中で態度が悪かったかと。彼はそれは言えないと言ったが、最後には有名なセレブリティだと言った。

彼が私に言ったことの一つは、彼の仕事上、彼は自分からはお客さんに最初に話しかけることは許されないということだった。最初の言葉は、客が発しなければならぬのだ。そして、多くの人は

一言も口をきかないと言った。それは、周りの人々と一緒に人生を歩む私たちに対する悲しいコメントのように思えた。なぜなら、それは我々が普段目にする一人ひとりの価値にわたしたちが気付いてないことを示しているからだ。

考えてほしい。魂にどんな価値があるか。神様のエレミアに対する答えは

「わたしは、あなたを胎内に形造る前からあなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。」(エレミア書 1 章 5 節)

それが神様のエレミアに対する答えであり、あなたの魂の価値についてのあなたへの答えも同じことである。それは愛すべき重要なものである。神があなたの母の胎のなかにあなたを形作るまえに、彼はすでにあなたを知っていたのである。このように神はあなたのからだをあなたの魂をふさわしく反映するものとして、あなたの人生に対する彼の計画にふさわしい乗り物として造るにあたって、あなたを知っていたのである。あなたは神様にとって信じられないほど価値がある者なのである。神は人間を神のかたちに神の似姿に造ったと言った。

「神は仰せられた。『さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。』」(創世記 1 章 26 節)

神のかたちに造られたということを軽く考えてはならない。一人ひとりの魂は神にとって無限の価値を持っているのである。

「あなたこそ 私の内臓を造り 母の胎の内で私を組み立てられた方です。私は感謝します。あなたは私にくすしいことをなさって 恐ろしいほどです。私のたましいは それをよく知っています。私が隠れた所で造られ 地の深いところで織り上げられたとき 私の骨組はあなたに隠れてはいませんで

した。あなたの目は胎児の私を見られ あなたの書物にすべてが記されました。私のために作られた日々が しかも その一日もないうちに。」(詩篇 139 章 13-16 節)

誰がどう考え、何を言おうとも、あなたは、全能の神の目には恐ろしいほど、素晴らしくつくられたのである。わたしは運転手のアナクハンダと話している中で、「死んでこの世界を去る時そこには何があると思うか？」と訊いてみた。それは驚くような会話の始まりになった。彼は半分クリスチャン、半分イスラム教徒として育った。そして私たちはロサンゼルスを横切る高速道路で素晴らしい会話をするようになった。私が悔い改めについて話したときに、彼は自分の生活に嫌気がさし、変わりたいと言った。そして彼は、今がその時であることが分かった。

その後、会話の中で彼は神を呼び求め、罪を悔い改め、イエスを自分の救い主として受け入れると言う信仰告白をした。わたしたちが祈ったあと彼の顔が文字通り変わって行くのを見ることが出来た。「あなたがたに言います。それと同じように、一人の罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちの前には喜びがあるのです。」(ルカ 15 章 10 節)

彼は、神様が彼と話すために今日私を送ってくださったことが分かったと言った。考えてもみて欲しい。この男に会うために私は飛行機を乗り過ごし、違う空港に行き、たくさんの運転手の中から彼を選ばなければならないのである。これを神の聖なる計画と言う。これは偶然によるのではない。すなわち、この宇宙の神がこの出会いをお膳立てしてくださったので、私たちは会うことになったのである。

神はこんなことをよくなさる。あなたが今この本を読んでいるのも神の聖なる計画ではないだろうか？ 真実はあなたの目の前に示された。あなたは悔い改め、あなたの人生をイエスに委ねる準備が出来ているだろうか？ あなたが神と会う日は、いつかやって来る。神と会う前に、あなたは神の前に正しい状態であることを確かなものにしたのだろうか？ この本を読み終わる前に、あなたにはその機会が

ある。あなたは、今まで自分自身のためにやって来たことよりも良いことのために、あなたの人生を神の手に委ね、信頼する準備が出来ているだろうか？あなたは罪から離れ、神様のもとに行く準備が出来ているだろうか？もし、そうなら素晴らしい知らせがあなたを待っている。永遠の真実の謎はさらにはっきりと示され、次の章で完全に解き明かされるであろう。

人生には「あともうちょっと」がたくさんある。しかし、次には「あともうちょっと」はない。どちらを選ぶか。あなたの選択である

9 章

決断、決断

キリスト教は、追求されて不満足に終わったのではない。難しそうなので、誰も追求しようとしただけだ。—G.K.チェスタトン

ティモシー・マクベイが死ぬ前に興味深いことを言った。彼の最後の言葉は「私は私の運命の主人である。私は私の魂の船長である。」彼はインビクタスという詩から引用したのである。彼は永遠の時を過ごす所について決断したと言う意味で正しかったのだろう。しかし、彼が永遠のことについてコントロールできると考えていたとしたら完全に間違っている。聖書の神だけがコントロールできるのである。しかし、神はあなたに誰を、あるいは何を礼拝するかの自由を与えている。ところで、あなたの決定はどのようであろう？

フランク・シナトラの有名な歌の一つに「マイ・ウェイ(私のやり方)」がある。しかし、わたしのやり方でもなければあなたのやり方でもなく一誰のやり方でもなく神のやり方だけが審判の日には通用するのである。あなたは神の方法でやる準備が出来ているだろうか？われわれはみな死の谷への端に

むかって歩いている。我々は皆、崖っぷちから飛び降りることになる。問題はあなたがちゃんとしたパラシュートを持っているかどうかである。あなたは天国にやさしく着地するパラシュートを持っているだろうか？それともあなたのパラシュートは開かず、地獄にドスンと落ちてしまうだろうか？

この人生を思い通りに過ごし、年を取ってから神と良い関係を作ろうと思う人もいる。しかし、考えてほしい。あなたが若いか年取っているかは年齢によって決まるわけではない。いつ死ぬかによるのである。あなたが18歳だとしよう。80歳まで生きるとするとまだまだ残りの人生はある。だから相対的に言えば、あなたはまだまだ若いと言える。しかし、18歳でも今から一週間後に死ぬとすれば、あなたの人生の長さからすれば、相対的にあなたは非常に年老いているのである。我々は年寄りという杖をついたり、車いすに乗っていることを想像するが、必ずしもそうではない。それはあなたがいつ死ぬかにかかっているのである。つまり、あなたが年老いているか若いかは、あなたが何歳であれあなたには分からないと言うことである。あなたに簡単な質問がある。あなたは明日の朝必ず目が覚めると保証できるだろうか？もちろん、出来ないことをあなたは知っているだろう。

聖書は言う…

「主の日は、盗人が夜やって来るように来ることを、あなたがた自身よく知っているからです。」(第1テサロニケ5章2節)

明日があるかどうかわからないのだから、今日をあなたの救いの日にしなければならない。

「見よ、今は恵みの時、今は救いの日です。」(第Ⅱコリント6章2節)

あなたは今夜、最後に息を引き取った後、あなたの永遠の目的地が天国であることを確かなこととするまでは寝るべきでない。私が19歳の建設作業員と話しているとき、何をするのが楽しいか訊いてみた。彼は自分がビルディング・ジャンパーであると言った。それは何か？と尋ねると、「テレビで見た

ことない？ビルのでっぺんから他のビルへジャンプしてわたるやつだよ。すごいよ。」と答えた。すごいね。確かに。わたしは質問することが好きなので、「失敗したことはないの？」と訊いた。「一度あるよ」と彼は言った。一度彼はジャンプした時に、指だけが危うくビルの出っ張りにひっかかって体はビルに激しくぶつかったことがあった。彼は一旦そこにぶら下がり、かろうじてビルの上まで這い上がったとのことだった。

われわれの誰もが人生のどこかの時点で死の瀬戸際のところに行くのである。わたしたちは指先だけでひっかかっているのである。永遠の世界と隣り合わせなのだ。問題は自力でビルの上まで這い上がる力がないことである。ただ神のくぎで打たれた手だけが我々を永遠に安全なところへ引張上げてくれる。あなたは永遠の安全をたしかなものとするために、その神の手をつかむ準備が出来ているだろうか？

永遠の地獄に行くためにはあなたは何をする必要もない。あなたはもともと神様の戒めを拒否する性質をもって生まれてきたのである。だから、この事実を何とかするためになにかをしなければ、もともと地獄があなたの行くところなのだ。しかし、イエスは天国へ行くための方法を準備してくれたのである。彼はあなたの罪の代価を払い、天国への道を開いてくださったのである。だから、地獄に行くには何もする必要がない。しかし、天国に行くためには、昔の説教師が言ったように、イエスに頼り「悔い改め、告白して、あなたの汚いものを取り除く」必要がある。選択はあなた次第である。誰もがどちらかを選択しなければならない。どっちつかずでいるという選択肢はない。なぜならそれはサタンの側にいるということだからである。どちらも選ばないということは、本来行くべき地獄を選ぶということなのである。

「神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者はすでにさばかれている。神のひとり子の名を

信じなかったからである。」(ヨハネ 3 章 17-18 節)

イエスは信じないことはイエスを拒絶することだと言っている。そのような決断は、この本ですべての証拠があなたの前に提示された今、全く理解できない。実際、すべての証拠を見、自分の罪を知り、天国へ招待されていることを理解したうえで、それでも地獄に行くなどということは考えられない。一方、地獄からは何の招待も受けていない。それなのに、どうして天国への招待を無駄にすることなどあって良いだろうか？

しかし、その決断をする前にあなたは知らなければならないことがある。神は、あなたがイエスにあなたの人生を明け渡して、もあなたの生活が順風満帆で何の問題もないことは約束していない。もちろん聖書は、神はあなたの罪を許し、そして、「キリスト・イエスの栄光のうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます。」(ピリピ 4 章 19 節)と繰り返し約束している。それでもイエスを信じることは人生を向上させるためではない。ではなぜ、イエスは次のような約束をしたのだろうか？

「イエスは言われた。『まことに、あなたがたに言います。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子ども、畑を捨てた者は、今この世で、迫害とともに、家、兄弟、姉妹、母、子ども、畑を百倍受け、来たるべき世で永遠のいのちを受けます。』」(マルコ 10 章 29-30 節)

これは物質的な豊かさを約束しているようであるが、しかし、本当は何を言っているのであろう？これは私たちがこの世に対処するために助けとなる重要な一連の情報を提供するのである。第一に、イエスのゆえにこの世で所有するものを捨て去ることはないということである。それは、イエスにつくか、それとも家族や友人、所有物を取るか選択をせまられたとき、イエスを選べば、彼は私たちが失うすべてを回復して下さるばかりか、それ以上であるということである。

多くの人がこの事実を見、経験している。そして、イエスはそれを「今この世で」と言っている。

我々は家族や友人を憎んだり、捨てることは望まない。しかし、もしそれがイエスかそれらかどちらかという選択になった場合—おかしなことにこの世はしばしば信者に対してその選択を迫る—我々は、イエスが我々が失うもの、すなわち、家、兄弟、姉妹、母、子供ども、畑よりもはるかに多くを与えるように取り計らってくださることを知ることが出来る。

これはある意味では、あなたがキリストの体の一員として生まれた時に成就される。すでにその中にいる皆が、あなたの兄弟姉妹、父や母になるのである。そして、彼らの家はある意味であなたの家でもある。聖書を読むと、クリスチャンたちが家族でない人と食事をしたり訪ねたりしていることに何度も言及していることに気づく。イエスにある人生は、豊かに供えられる人生である。銀行の残高を示して「見て、これが俺が持っている財産だ」ということは出来なくても、われわれの必要な物は、全て必ず満たされると言うことである。

では、難しさはどこからくるのであろう。聖書箇所をもう一度読んでほしい。「迫害」という言葉を伴った表現があることに気付くだろう。これは何を意味するだろう？これは、イエスが滅びに至る道と言った広い道を行く人々が、私たちの前に立ちはだかるという意味である。

また、アンティオキア、イコニオン、リステラで私に降りかかった迫害や苦難に、よくついて来てくれました。私はそのような迫害に耐えました。そして、主はそのすべてから私を救い出してくださいました。キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」(第2テモテ3章11-12節)

それは誰もが常にというわけではではないが、時々それは起こる。そして、私たちが増々主に対して生きれば生きるほど、それは増々神の素晴らしさと、神を憎む人々の邪悪さを証言することになるの

である。イエスへの信仰によって我々は人々から拒絶されることが予想されるが、それと同時に、神が守ってくださり、救ってくださることも期待できるのである。イエスは言った…

「一つの町で人々があなたがたを迫害するなら、別の町へ逃げなさい。まことにあなたがたに言います。人の子が来る時まで、あなたがたがイスラエルの町々を巡り終えることは、決してありません。弟子は師以上の者ではなく、しもべも主人以上の者ではありません。弟子は師のように、しもべは主人のようになれば十分です。家の主人がベルゼブルと呼ばれるくらいなら、ましてその家の者たちは、どれほどひどい呼び方をされるでしょうか。ですから彼らを恐れてはいけません。おおわれているもので現されないものではなく、隠されているもので知られずにすむものはないからです。」(マタイ 10 章 23 - 26 節)

迫害と患難はイエスのために真に生きる者にはつきものである。それは約束である。なぜか？この世は神の栄光を讃えるつもりはないし、変わりたいとも思っていない。サタンもあなたを信仰から引き離すように努力する。私は、サタンはあなたの信仰に試練を与えればイエス・キリストを諦めて、神の子に従わなくなると考えているのだと思う。しかし、それは実際にはその反対なのだ。試練はあなたの信仰を強くするのである。

ただ、この世でのあなたの生活をよくするためにイエスを受けいれないように注意しなければならない。それはこの世で何かを得るためのものではなく、審判の日に神と正しい関係を持って神の前に立つためなのだ。ただし、地上での生活の間、神は我々が必要な物を全て与えてくださる。

事実、ある迫害は、あなたが霊的な面でもこの世のものにおいても祝福され、幸せであることをねたむ神をおそれない宗教的な人たちから来る。ここで祝福されているこの世のもの一家、土地、友人や家族など一は、あなたがイエスに來た時に失ったものの代わりに神が与えてくださったものである。

言い換えれば、イエスにあるあなたの人生は、イエスを信じると公言しながら実は信じない者に、ねたみを引き起こすのである。彼らにとって、誘惑やゴシップ、その他、思いつく限りの方法であなたを傷つけたい誘惑があまりにも強くて、我慢出来ないのである。

キリスト者と他者との関係は二つしかありえない。すなわち、宣教と交わりである。我々は誰にでも信者であるなしに関わらず宣教することが出来る。宣教とは友好的で相手の永遠の行き先について興味を持ち、その人とイエスについて話す機会を探すことである。私のロサンゼルスでの運転手との経験は、その一つである。

交わりとは、信者が他の信者とだけ持つことが出来る関係である。それは一人の信者から他の信者への宣教を含むこともあるが、深い考えの分かち合いや質問、祈りの要請やアドバイスなどが含まれる。信者は未信者とこれらのことを行うことは出来ない。なぜなら未信者の見解は、神が一人の信者を通して他の信者に語られるということに基づくよりも、この世の考えに基づいているからである。それがイエスが我々に、まだイエスに敵対している人たちに近づきすぎないように警告している理由である。

「聖なるものを犬に与えてはいけません。また、真珠を豚の前に投げてはいけません。犬や豚ははそれらを足で踏みつけ、向き直って、あなたがたをかみ裂くことになります。」(マタイ7章6節)

それを喜ばない者の前に真珠を投げるのは真珠を無駄にすることではない。神はまだまだ多くの真珠を持っている。この意味は、これらの豚は近づきすぎる者を内臓をかみ裂く牙をもっているということである。したがって、私たちが未信者を信者のように扱いたいという誘惑に駆られる時、それは非常に危険な考えである。それは顔からであれ背からであれ、彼らが我々を攻撃するように挑発するからである。

私たちがイエスの友であるということを除いて、私たちの挑発によって引き起こされたのではない迫害は、我々には恵みをもたらす。

「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。喜びなさい。大いに喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのですから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々は同じように迫害したのです。」(マタイ5章10-12節)

ジェームズ・エメリー・ホワイトは書いている。

クリスチャンが霊的であるということは、リトリートのセミナーで権威ある指導者の足のもとに座っていることではない。それはあなたが究極の質問と永遠の運命の行先について深く考えるときに、いつでもあなたの気分を良くするための、すばらしい、飲みやすい、安全な霊の一本の薬を人生に持つことでもない。イエスは人々を彼に従うように招いた—そして彼が向かった唯一の場所は十字架であった。真の霊的生活には、犠牲と義務と献身が伴うのである。⁸⁴

迫害は、あなたがイエスに従う時にはつきものであるが、疑いなくイエス・キリストにはそれ以上の価値がある。例えば、「イエスキチがい」とか「熱狂的信者」などと揶揄されるかもしれないが、それはイエスが十字架上であなたにしてくれたことと比較すれば大したことはない。

自分の罪が赦されるためにイエスを信じることによって、文字通り家族から縁を切られる場合もある。あるイスラム教徒やユダヤ教徒の家族は、もし息子や娘がキリストを信じる決心をしたら、もはや彼らとの関係を一切もたない。それはおおきな犠牲だ。しかし、神の子と永遠に共にいることには、その価値がある。イエスはこのようなときにどうすべきか言っている「しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」(マタイ5章44節)。あなたが

迫害する者のために祈るときに、それはあなたが彼らを見る目を変えさせる。そして、それはしばしば、彼らのあなたを見る目さえも変える。

わたしにはかつて親しい友人たちがいた。彼らはもはや私に電話を返して来ない。それは仕方がないことだ。わたしは彼らがイエスと友達になるように祈ることにしている。イエスとの親しい関係は、この世のどんなことよりも価値がある。そして、それが神の我々に対する最も大きな贈り物である。

「たとえ義のために苦しむことがあっても、あなたがたは幸いです。人々の脅かしを恐れたり、おびえたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしていなさい。ただし、柔和な心で、恐れつつ、健全な良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの善良な生き方をののしっている人たちが、あなたがたを悪く言ったことを恥じるでしょう。」(第一ペテロ 3章 14－16 節)

多くの人が自分はイエスの友であると言うが、彼らの行動こそが真実を語る。

「彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。『あなたがどこに行かれても、私はついて行きます。』イエスは彼に言われた。『狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子にはまくらすところもありません。』イエスは別のの人に、『わたしに従って来なさい』と言われた。しかし、その人は言った。『まず行って、父を葬ることをお許しください。』イエスは彼に言われた。『死人たちに、彼ら自身の死人たちを葬らせなさい。あなたは、出て行って、神の国を言い広めなさい。』また別の人が言った。『主よ、あなたに従います。ただ、まず自分の家の者たちに、別れを告げることをお許しください。』すると、イエスは彼に言われた。『鋤に手をかけてからうしろを見る者はだれも、神の国にふさわしくありません。』(ルカ 9章 57－62 節)

イエスはまた未信者がわれわれをほめるとき、われわれには問題があるだろうと言っている。

「人々がみな、あなたがたをほめるとき、あなたがたは哀れです。彼らの祖先たちも、偽預言者たちに同じことをしたのです。」(ルカ 6 章 26 節)

「哀れ(英語では woe)」とはどういう意味だろう？メリアム-ウェブスターオンライン辞書(www.merriam-webster.com)によれば、以下の意味である。

1. 不幸からくる深い苦しみ、苦痛、悲しみにある状態
2. 大きな悩み: 災害、苦痛 (経済的苦悩)

したがって、上記の聖書箇所ではイエスは、もし悪魔の群衆があなたを好むなら、あなたは苦痛と破滅にむかっていると述べているのである。もし彼らがあなたを好むなら、それはあなたが誤った道を行っていると確かなしめるのである。

もちろん、逆もまた真なりで、もしわれわれがイエスに誠実であるときに悪魔の群衆は、決してわれわれを好まない。私たちは、すべての人からは好かれないことを受け入れなければならない。実際、悪魔の群衆がわれわれに敵対するとき、我々はなにか正しいことをしているに違いないことを知らなければならない。他の人々の我々に対する意見は関係ない。神の意見だけが重要なのである。大切なのは、イエスに従うことである。あなたは次の聖句があなたのことを言っているのではないことを望むだろう。

「彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである。」(ヨハネ 12 章 43 節)

人々がどのようにあなたを扱ったとしても、神の方法が天国での永遠のいのちに至る最善の道であるだけでなく、唯一の道であることをいつでも覚えなければならない。そして、人々があなたの悪口

を言っているときに、神はあなたをほめ、誇りに思っているのである。

わたしの友達に漫談をする人がいる。わたしは彼のショーの一つを見に行った。彼のネタのある部分は、イエスをからかうことだった。その部分は彼の持ち時間のうち 20 分くらいであった。ショーの後に彼は私に最近はどうしてるかと訊いた。わたしはクリスチャンになったこと、そして今やっていることを説明した。彼は、彼のネタの 20 分の部分がどうだったかと訊いた。わたしは神の子を侮辱するのは良くないと思うと率直に言った。我々は話し続けて楽しい夜を過ごした。数年後、わたしは別の町にいて、数人の友達を彼のショーに連れて行った。彼がいつものネタでイエスをからかうところになった時、イエスについて最初の冗談を言った。その時に、彼はわたしの目を見ていた。私の反応を確かめるかのように。

わたしは座っているだけで笑わなかった。面白くなかったのである。彼はわたしの顔を見て、私が面白くもなんともないと思っていることが分かった。彼は突然そのネタをやめて別のネタを始めた。彼はイエスをまだ信じていなかった。しかし、彼はわたしの s 信仰を尊重してくれた。神が、やがて彼がイエスに関心を持つようにしてくださると信じている。多くの人にはあなたの決断認め、あなたが信じることに従って立とうと決心する時、それを支持してくれるだろう。彼らは神の国から遠くない。

「しもべは主人にまさるものではない、とわたしがあなたがたに言ったことばを覚えておきなさい。人々がわたしを迫害したのであれば、あなたがたも迫害します。彼らがわたしのことばを守ったのであれば、あなたがたのことばも守ります。」(ヨハネ 15 章 20 節)

「それから、群衆を弟子たちと一緒に呼び寄せて、彼らに言われた。『だれでも私に従って来なければ、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音のためにいのちを失う者は、それを救うのです。』」(マルコ 8 章 34-35)

節)

あなたの人生はイエスにおいてのみ見いだされるのである。あなたは彼のためにいのちを失う用意が出来ているだろうか？パウロは出来ていた。そしてこう書いた。

『やみの中から光が輝き出よ』』と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださったのです。私たちは、この宝を土の器の中に入れていきます。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかになるためです。私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。

途方に暮れますが、行き詰まることはありません。迫害されますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。私たちは、いつもイエスの死を身に帯びています。それはまた、イエスのいのちが私たちの身に現れるためです。私たち生きている者は、イエスのために絶えず死に渡されています。それはまた、イエスのいのちが私たちの死ぬべき肉体において現れるためです。』(第2コリント4章6-11節)

最近、わたしはフロリダの教会で話をした。ひとりの教会員は郵便局に勤めていた。彼は、クリスマスには毎年、客の一人一人に、出来合いのものではない素晴らしく愛に富んだクリスチャンとしてのメッセージを書いたカードを渡すことにしていた。彼は、私の話を聴いて、そのカードのメッセージがもっと具体的であるべきだと気がついた。彼はそれについて祈った。そして神は、すべてのカードに「あなたが今夜死んだらあなたが天国に行くに100%確信していますか」という質問を書くように導いてくださった。

それは重要な質問である。そして、彼は良い反応をお客さんから聞くこともある。しかし、それを嫌ったひとりの男が、郵便配達係の上司に電話をした。そして、そこでの話にも満足せず、そのまた

上の管理者のところまで行って話をした。管理者たちは彼を首にしようとしたが、彼がやったことは、それらのカードを料金なしで配っただけのことであることが分かった。そして、彼は首の代わりに1週間の停職となった。しかも有給で。その郵便局員は、この一連の出来事のすべてを通して、疑いもなく神の御手が彼を守ってくださっていたことが分かった。彼は主のためにそれをしたことをうれしく思った。彼はこのことは彼以外にもたくさんの人に影響を与えたと言った。彼はたくさんの人々にこの出来事について語った。そして、彼の信仰を多くのお客と分かち合った。彼は迫害は価値があったと言った。なぜなら、彼が真実のために立ち上がったら、神が彼と他の多くの人をそれを通して助けてくださったことを知ったからである。

パウロは旧約聖書の聖徒たちの患難と勝利について書いている。パウロの要約は以下である。

「これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。彼らは信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を配達させました。女たちは、死んだ身内の者たちをよみがえらせていただきました。また、」ほかの人たちは、もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。

また、ほかの人たちは嘲られ、むちで打たれ、さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、また、石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊や、やぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待されました。この世は彼らにふさわしくありませんでした。彼らは荒野、山、洞穴、土の穴をさまよいました。これらの人たちはみな、その信仰によって称賛されましたが、約束されたものを手に入れることはありませんでした。神は私たちのために、もっとすぐれたものを用意しておられたので、私た

ちを抜きにして、彼らが完全な者とされることはなかったのです。」(ヘブル 11 章 32-40 節)

これらの敬虔な聖徒たちは、ついにはイエス自身によって導かれて天の御国に入ることにより勝利を得たのである—それは彼らにとってなんと素晴らしい日であったろう。この世に合わせようとして生きるクリスチャンが多すぎる。わたしは神の目から見て価値のある生活を送りたいのであって、この世の目から見てではない。わたしは決してトラブルを起こそうというつもりはない。しかし、自分の立場をはっきりしなければならない場合には、いつでもイエスの側につきたいと思っている。わたしはイエスにとって誇れる存在でありたいと思う。

「私には、あなたがたに対する大きな確信があり、あなたがたについて大きな誇りがあります。私は慰めに満たされ、どんな患難にあっても喜びに満ちあふれています。」(第 2 コリント 7 章 4 節)

「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損とと思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。それは、私がキリストを得て、」(ピリピ 3 章 8 節)

ここにわたしの友人からの手紙がある。そこには、彼女がどのように思い切って一人の若い女性にイエスについて話したかが書いてある。

「わたしは友人のブランドンと一緒にコーヒーショップから家まで帰る途中の朝 10 時ごろ、一人の若い女性とすれ違いざまに「こんにちは」と声をかけた。わたしたちは彼女とすれ違ってまだ数歩も過ぎてなかったが、必要を感じて振り返った。わたしは彼女にちょっと話してもいいかと訊ねたら、彼女は『いや、わたしはイエス・キリストを見つけなければならないの』と彼女は言った。言うまでもなく、私たちはその答えに驚いた。そこでわたしたちは公園まで一緒に来てくれるように頼んだ。わたしたちは座り、彼女の話聞いた。

彼女の名前はハイジと言った。彼女は覚せい剤をやり牢屋に入っていた。そして、同性愛で悩んでいた。彼女はつねに神を信じていたが、その朝はなんだかイエスに会うような気がしていた。そこで、女はそこらじゅうの家や教会や人々に、どのようにしてイエスを見つけられるか聞いて回っていた。

わたしたちは、聖書を開き、彼女と分かち合った…彼女は公園のその場所で、キリストに人生を捧げた！天使がブランドンと私と一緒にパーティを開いていたかのようにだった。それから彼女はわたしの家に来て、持っていた覚せい剤をトイレに流し、パイプを叩き壊し、そのあとの24時間をわたしたちと共に過ごした。私たちは彼女と語りあい、彼女の話をお聞き、彼女の必要に応えた。それは信じられないような出来事だった。」

あなたにはこの若者たちがしたことをやるだけの勇気があるだろうか？あなたは、いつ何時イエスについて知りたいと深く願っている人があなたのすぐ近くに現れるか全く分からない。しかし、あなたが拒否を恐れたり、人の意見を気にしてたら、あなたは誰かにイエスについて話すべきだと感じて、それを無視してその場を通り過ぎてしまうだろう。あなたはイエスを語る恥ずかしさや恐れのためにその人が地獄に行かせてしまうのだ。どうか、そのようなことが起きないようにしてほしい。

「殉教者の声」という出版物—信仰のために迫害され、あるいは殺されてしまった何百万ものクリスチャンについて伝える働きをしている雑誌—で、わたしたちはイスンオクの話を読むことができる。

「わたしはクリスチャンになるまで何を囚人が歌っているのか知らなかった。」イスンオクは、北朝鮮で1987年から1992年まで服役していた。しかし彼女は、韓国に逃れ出るまでクリスチャンにはならなかった。彼女が初めてキリストを受け入れた時、彼女は、牢屋で見たり聞いたりしたことの記憶に圧倒された。

それらは単純なことであった。すなわち、クリスチャンたちが、まさに殺さようとするときに歌ってい

たことだった。その時は彼女はそれを理解できず、彼らが狂っていると思った。彼女は話すのを禁じられていたので、クリスチャンと話す機会がなかった。彼女はかれらが「アーメン」と言っていたのを覚えている。

「私が牢屋にいる間、クリスチャンが自分の信仰を否定したのを見たことはなかった。一人もである。クリスチャンたちが黙っていると、看守は怒り、彼らを蹴飛ばした。その時はなぜクリスチャンが、看守が望んでいるように「信じていません」と言って命の危険から逃れようとしなかったのが理解できなかった。」「わたしは、多くのクリスチャンが蹴る殴るの暴力が激しくなった時に讃美歌を歌っていたのを見た。看守らは彼らをきちがいと言い、電気室へと連れて行った。私はそこから生きて帰った人を知らない。」

賛美が彼女を捉えたのだ。おそらく、これらの貴重な聖徒たちの讃美が彼女の霊に種を植え、そしてついには彼女をクリスチャンにしたのだ。キリスト教に好奇心を抱く人は、それが真実かどうかを評価するために、スパイのようにクリスチャンに照準を合わせる。彼らは観察する。彼らはじっと見ている。彼らはそれを心に刻む。クリスチャンが試練に会う時、何も言わない傍観者たちはしばしば信仰者が信仰を捨てるのを見たいと望む。そうすれば、クリスチャンも他の人と結局は同じであることを確認することができるからである。

しかし、クリスチャンが試練の中や踏みつけられたときに笑うとき、信者が泣くかわりに手を叩くときに、彼らは驚嘆する。キリストに従う者がが悲しみの中で歌う時に、彼らは彼らの常識では説明できないことによって、引き込まれるのである。

神は神の民とともにいる

「私たちの父である神の御前に、あなたがたの信仰から出た働きと、愛から生まれた労苦、私たち

の主イエス・キリストに対する望みに支えられた忍耐を、絶えず思い起こしているからです。」(第一テサロニケ1章3節)

ここにもう一つの驚くべき信仰の証しがある。これほどまでの試練に会うクリスチャンは数少ない。しかし、それらの人たちは女性や子供も含めてみなこの基準に従って生きるのである。我々は、迫害者たちにイエスが現実であることを示そうと神が働いていることを知らなくてはならない。

「彼を道徳的に破滅させるか物理的に駆除しろ！」

トルクメニスタンの官僚たちは、この道路伝道者にもう我慢がならなかった。シャジルディ・アタコフはサパラムラット・ニアゾブ大統領の恩赦で2000年12月23日に解放されることになったが、大統領に忠誠を尽くすこととイスラムの教えに従うという誓いをしなければならなかった。シャジルディ・アタコフは恩赦を再び断った。

シャジルディ・アタコフは州の官僚から宣教をやめるように脅かされていた。彼は1998年12月に逮捕され、2年間の懲役を命じられた。しかし、検事はその判決が“穏便すぎる”ということで控訴した。そこでさらに2年の懲役を言い渡された。シャジルディは激しい殴打による痛みのために、自分の子供たちに触らないでくれと頼んだほどだった。

2000年2月に彼の妻と5人の子供たちは、家から強制的に退去させられ、遠いカフカという村に軟禁された。

2001年の2月に彼の家族が彼を訪れたとき、シャジルディは家族に別れを告げた。妻はその時に彼が何度も殴打され痛みつけられたために、腎臓や肝臓が痛み、黄疸になっていることに気が付いた。彼はほとんど歩くことが出来ず、しばしば意識を失った。彼は長く生きることは期待できなかった。にもかかわらず、シャジルディはまだ壊れていなかった。彼はあくまで譲らなかつたし、もしもキリスト

への忠誠をなくすことが釈放の条件であれば、決してそれには応じなかった。

人間は食事がなくても数週間生きることが出来るが、水なしでは数日も生きることが出来ない。それと同様に、霊的な栄養も同じことである。我々は数日、数週間、そして数年ですら仲間なしで生きることが出来る—我々の霊は孤独であるにもかかわらず、生き続けることが出来るのである。我々は平穩無事でなくでも、長引く病に耐えながらでもそれが出来る—我々の霊はくじかれても、生き延びるのである。

しかし、イエスキリストの望みなしで長い間耐えようとしても、魂が弱ってしまう。我々は、神様がその子供たちへ下さった素晴らしい贈り物である希望がなくては生きていけない。もしも、あなたがもうこれ以上やっていけないと思ったら、神に励ましを与え、やる気を起こしてくださるようお願いなさい。あなたはイエス・キリストにあるの強い希望によって、すべてのことに耐えることが出来るだろう。⁸⁶

奇妙に聞こえるかもしれないが、神の子供たちの死は、神にとって尊いのである。

「主の聖徒たちの死は 主の目に尊い。」(詩篇 116 編 15 節)

「私は、大きな声が天でこう言うのを聞いた。『今や、私たちの神の救いと力と王国と、神のキリストの権威が現れた。私たちの兄弟たちの告発者、夜も昼も私たちの神の御前で訴える者が、投げ落とされたからである。兄弟たちは、子羊の血と、自分たちの証しのことばのゆえに竜に打ち勝った。彼らは死に至るまでも自分のいのちを惜しまなかった。』」(黙示録 12 章 10-11 節)

多くの人が今日も世界中の多くの場所で神のために同じように苦しんでいるが、我々の多くはそこまで苦しめられない。それでもイエスに従う決心をする前に、その結果起こるかもしれないことを知らせておくことは理にかなっているだろう。しか、イエスに従うという決心をすることは、地上での一時的な迫害を償って余り有る価値がある。特に私たちがこの世を去る時に、信じる者たちのために神が用

意してくださっているものに比べたらそうである。

しかし、全ての報酬が次の世界においてというわけではない。

あなたを迫害する人がイエス・キリストこそ唯一の救い主であることを知ることが出来れば、この人生においてもその迫害は価値があるのである。使徒 17 章で使徒パウロがアテネのマーズ・ヒル(アレオパゴス)で説教していた。彼がイエスの復活について説教すると、群衆の中から面白い反応が見られた。群衆の中のある人たちは嘲笑し、またある人たちは躊躇し、そして、ある人たちは信じたのである。

これは今日起こっていることと全く一緒である。もしわれわれがイエスのために立ち上がることを選択すれば、ある人たちは嘲笑し、あるいは躊躇し、そしてある人たちは信じるのである。我々はこの選択をしなければならない。

そして、選択しないと言うことは選択していることだということを忘れてはならない。人々はただフェンスの上に乗る、神様かサタンかのどちらかを選択をしていないと考えるかもしれない。しかし、前にも言ったように、そのフェンスはサタンが所有しているのである。あなたはイエス・キリストを愛することを選ぶか、拒絶することを選ぶのか、どちらかしかないのである。

多くの人がテレビで、ある犯罪現場の調査をする番組を見ている。CSI(アメリカの刑事ドラマ)は、放映されて以来高い視聴率を維持している。そのドラマの組み立ては非常に興味深い。最初の 5 分では誰が犯人かを推測出来ない。様々な証拠を 55 分間で見せ、その後のにその証拠がどこに導くかを示し、そして最後にそれが誰にたどり着くかを見せるのである。

あなたは今この本で証拠が並べられているのを見た。あなたはその証拠が導いてたどり着く方、すなわち、イエスを信じて従う準備が出来ているだろうか？

聖書には(使徒 25-26 章)パウロがアグリッパ王にイエス・キリストの真実さを説得しようとしたことが記録されている。アグリッパ王は、パウロがもうすこしでアグリッパ王がクリスチャンになるように説得したと言った。アグリッパ王はその夜にほもうすこしでクリスチャンになっていたのである。

あなたはもう少しで最高評価を取れそうだった。あなたはバスケットボールで試合終了前の最後のシュートをもう少しで決めるところだった。

就職がもう少しで決まりそうだった。宝くじがもう少しで当たりそうだった。人生にはたくさんのもう少しがある。しかし次に関しては「もう少し」はない。もう少しで天国というのはない。もう少しでイエス・キリストを信じて従うということはない。あなたはその決心をするか否かどちらかである。どちらにするか、あなたの選択である。

もう少しということについてチャールズ・スポルジョンは次のように言った。

火事の中からもう少しで助かる人がいた。しかし、彼は焼け死んだ。もうひとりの人は病気でもう少しで治るところだったが、死んでしまった。もう少しで死刑の執行猶予を獲得できそうな人がいたが、絞首刑になった。そして、地獄にはもう少しで救われた人がたくさんいる。⁸⁷

第一列王記 18 章 21 節には 次のように書いてある。

「エリヤは皆の前に進み出て言った、『おまえたちははいつまで、どっちつかずによろめいているのか。もし主が神であれば、主に従い、もしバアルが神であれば、バアルに従え。』しかし、民は一言も彼に答えなかった。」

あなたはどちらに従おうとしているのだろうか？ イエスにだろうかサタンにだろうか？ イエスはあなたに全てを捨てて従うように望んでいる。エリヤがどちらにするのかと迫ったときの民のようになってはならない。「民は一言も彼に答えなかった。」彼らは何も言わなかったのである。しかし、決定しないと

言うのも答えである。それは主に従わないということである。どうぞ主に従う者になってくださいーあなたの永遠のために。

スポルジョンはまた言っている。

われわれは故意に喜んで失われているー全くどうしようもなく。しかも、われわれ自らの意思でという、最悪の失われかたである。我々は神から失われている。神は我々の心からの愛、信頼、従順を失っている。教会にからも失われている。われわれは奉仕することが出来ない。真実にからも失われている。我々は真実を知ることがない。正義からも失われている。その主張をわれわれは支持しない。

天国からも失われている。その聖なる場所にわれわれは入ることが出来ない。我々はそのように失われている。全能の神の憐れみがなければ、我々は底なしの深い穴の中に永遠に投げ込まれるのだ。⁸⁸

失われている！失われている！一つの魂を失うよりは、全世界が焼かれるほうが良い。ひとりの人の魂が失われるより、すべての星の光が失われ、空が破壊されたほうが良い。

次の二つの祈りを読んで、どちらがあなたに当てはまるか決めて欲しい。もしも、あなたがどちらも真面目に祈らないとしても、その場合は自動的に最初の方を祈っていることになる。なぜなら、この本を置いた時にあなたはどちらかに仕えているからである。唯一の質問は、あなたが仕えているのは誰かということである。

サタン様

聖書は、あなたはこの世の神であり嘘の父であると言っています。あなたは国々を騙し、未信者の心を盲目的にしています。

神は私が罪を犯したのでその王国に入れないと警告しています。わたしは嘘をつき、盗み、情欲をもって見て、心の中で姦淫を犯しました。わたしは憎悪を持っており、それは聖書はそれを殺人と同じだと言っています。わたしは不敬虔でした。わたしは神を第一にすることを拒否し、安息日を守らず、他人の所有物を欲しがり、両親を尊敬せず、偶像崇拝の罪を犯しました—私は自分に都合の良い神を作りました。

わたしは良心があるにもかかわらずこれらすべてを行いました。わたしは神がわたしに命を与えてくださったことを知っています。わたしは太陽ののぼるのを見ました。わたしは自然の音を聞きました。すべての信じられないほどたくさんの楽しみを享受しました。それらはすべて、惜しみなく与えて下さる神の御手によるものです。わたしは、もし罪の中で死んだら、二度と喜びを味わうことが無いことを知っています。

わたしはイエス・キリストがわたしの罪のために血を流し、死の力を滅ぼすために復活したことを知っています。しかし、今日わたしは罪を告白し罪を捨て去ることを拒絶します。審判の日に、火の池に投げ込まれる時、わたしは全て自分の責任だということを認めます。わたしが滅びることは神の意思ではありません。神は御子の死を通して私に対する愛を示しました。御子は、わたしに命を与えるために来たのです。盗み、殺し、そして破壊しに来たのはサタン、あなたです。あなたはわたしの霊的父です。わたしはあなたにこれからも仕え、あなたの望むことを行います。これは私が暗闇を愛し、光を憎むからです。もし、わたしが正気に戻らなければ、わたしは永遠にあなたのものです。アーメン。

神様へ、

わたしはあなたの戒めを破り、あなたに対して罪を犯しました。あなたがわたしにくださった良心にもかかわらず、わたしは情欲をもって見て心の中で姦淫を犯しました。わたしは嘘をつき、盗み、あな

たを愛することが出来ず、隣人を自分のように愛すことも出来ず、安息日を聖く保つことにも失敗しました。

わたしは強欲で、心に憎悪がありあなたの中から見て殺人を犯しました。わたしはあなたの名前をむやみに使い、わたしに都合の良い神を作りました。そして、わたしの罪の性質から両親を敬いませんでした。

もしわたしが、審判の日にあなたの燃えるような聖さの前に立ったら、もしわたしが犯したすべての隠れた罪、そしてわたしが口にしたすべてのくだらない言葉があなたにたいする罪の証拠として持ち出されたら、わたしは完全に有罪で、地獄に行くのがふさわしいです。

わたしはイエスがわたしのために十字架で苦しみ、死んでくださったことに言葉に出来ないほど感謝しています。イエスはわたしの罪のために傷つきました。彼がわたしのために罰金を払ってくれたので、私は法廷を出ることが出来ました。彼はあなたがどれほど私を愛しているか示してくれました。わたしは聖書の示す通り、イエスが死からよみがえったことを信じます。

わたしは今、罪を告白し、捨て去り、イエスを私の主、救い主として自分自身を明け渡します。わたしはもはや自分のためには生きません。わたしはわたしの体、魂、そして霊を生きた捧げものとしてあなたに捧げ、あなたの王国を広げるためにあなたに仕えます。わたしはあなたの言葉を毎日読んで、従います。それはひとえに、カルヴァリの十字架のゆえに、わたしは永遠に生きるからです。

永遠にあなたのもの

イエスの名によって祈ります。アーメン。

イエスは私たちに言う

「だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることとなります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。」(マタイ 6 章 24 節)

誰も二人の主人に仕えることはできない。あなたは人生でそして永遠に誰に仕えるのだろうか？もし、あなたが「自分」と答えるなら、あなたはサタンがその質問に対してしたのと同じ答えをしたのである。そして、まさにこの世でも次の世でも彼と共に歩むだろう。

「主に仕えることが不満なら、あの大河の向こうにいた、あなたがたの先祖が仕えた神々でも、今あなたがたが住んでいる地のアモリ人の神々でも、あなたがたの仕えようと思うものを、今日選ぶがよい。ただし、私と私の家は主に仕える。」(ヨシュア 24 章 15 節)

あなたは誰に仕えるだろう？実際にはあなたはすでに誰かに仕えている。氷はとても厚い。そして、あなたの決断の時である。あなたはジャンプ用のスロープを前に、スノーモービルに座っている。あなたはエンジンをかけて、走り出し、永遠の救いへのジャンプをする用意が出来ているだろうか？では、あなたの魂の最も深い所であなたがどちらにしたいかによって前に挙げた二つのうちのどちらかの祈りをしてください。

チャールズ・スポルジョンは言った

ひとつやって欲しいことがあるのだが…今夜時間を取って一人で考えてほしい。そして、主に對するあなたの態度を決めて、二つのうち一つの単語を書いてほしい。もし、あなたが信じてないなら「有罪」と、そしてイエスを信じ、彼にのみ信頼を置くなら「赦された」と。

もしもあなたが「有罪」と言う言葉を書かなくてはならなくても書いてほしい。わたしたちの教会の交わりに、若い男性が来て言いました。「わたしは有罪と書きました。そして、それを見ました。実際、わ

たしは自身の手で有罪と書いたのです。」彼を見ると、涙があふれ出て、心が破れ裂けそうであった。そして、やがて彼はキリストの元へ逃れ、紙を火に投げ入れ、「赦された」と書いた。

彼はこのように救われた6人目の人だった。だから、わたしはあなたにも試してほしい。有罪か赦されたかのどちらかであることを忘れてはならない。その中間はない。決断しようではないか。そして覚えてほしい。もしあなたが今日、有罪でも、まだあなたは地獄にいない。まだ、望みがある。

「…この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」(コロサイ1章27節)

10章

わたしは誰か？

ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。

使徒パウロ 第2コリント5章17節

あなたがクリスチャンになると不思議なことが起こる。あなたがかつて愛したものをあなたは憎み、あなたが憎んだものを愛すようになる。それを王に仕え続ける旅と考えてほしい。

もしもあなたがイエスに従う決心をしてないなら、あなたが最終的に彼に自分の人生を明け渡した時になにを経験するか知るために続けて読んでみてほしい。もしあなたがイエス・キリストに従う決心をしたなら、あなたは今読むことに驚くことだろう。あなたは今や神の目から見て、正式にまったく違う人なのである—神から見ると新しく造られたものなのである。あなたは義とされた。身代金は全部支払われたのである。あなたの罪に対する借金はずべて終わった。許されたのである。あなたは違う人である。

一人の男がそのことをこう言った

あなたがアメフトをやったとしたらあなたの才能と運動能力に見合った程度のプレイをするだろう。

しかし、ある日マイケル・ヴィック(訳者注:有名なアメリカのフットボール選手)があなたの体に入ったらまったく違ってしまっただろう。40ヤードを4秒2で走り、光のような動きの速さを持ち、ボールを手首の力だけで相手フィールドまで投げることが出来るだろう。あなたは完全に違う選手である。なぜか？中身が変わったからである。

これは一つのことを忘れている—マイケル・ヴィックが体の中にはいっても、マイケル・ヴィックの体になったわけではない。したがって、偉大な選手になりたいという願望はあっても、偉大な選手になるだけの能力があるだろうか？しかし、神の子があなたのうちに住み、彼があなたのためにしてくださったことによってあなたの人生を変えてしまったとき、人生は本当に生きるにふさわしいものになるのである。あなたのなかのマイケル・ヴィックがあなたの人生を変えるかもしれないが、神の子が想像できないような方法であなたの人生を変えてくださることを信じたほうがもっと良い。今やあなたは彼を信じているのだから。

神は言われる

「すなわち、代々の昔から多くの世代にわたって隠されてきて、今は神の聖徒たちに明らかにされた奥義を、余すところなく伝えるためです。この奥義が異邦人の間でどれほど栄光に富んだものであるか、神は聖徒たちに知らせたいと思われました。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。」(コロサイ1章26-27節)

今や、神の子はあなたの中に生きておられる。あなたはあなたの人生に起こる事柄の変化によって謙遜にされる。イエス・キリストに従うものとしてあなたがどうなるか見てみよう。

「もはや私が生きているのではなく、キリストがわたしのうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」(ガラテヤ 2 章 20 節)

イエスはあなたの中で、そしてあなたを通して生きているのである。ス波尔ジョンは言った
あなたがキリストの内にいるのを再確認するほどに、あなたの行動があなたの本当のアイデンティティにさらに反映され始めるのである。⁹⁰

ニール・アンダーソン博士による「暗やみへの勝利」から、あなたがどのような者になったのかを見てみよう。

わたしとは誰か？

わたしは受け入れられている…

わたしは神の子である(ヨハネ 1 章 12 節)

わたしはキリストの友である(ヨハネ 15 章 15 節)

わたしは義とされた(ローマ 5 章 1 節)

わたしは主と一緒にあり、主と一つの霊である(第一コリント 6 章 17 節)

わたしは対価を払って買い取られた。わたしは神に属している(第一コリント 6 章 19-20 節)

わたしはキリストの体の一部である(第一コリント 12 章 27 節)

わたしは聖徒である(エペソ 1 章 1 節)

わたしは神様の子供とされた(エペソ 1 章 5 節)

わたしは聖霊を通して神に近づくことが出来る(エペソ 2 章 18 節)

わたしはあがなわれすべての罪を許された(コロサイ 1 章 14 節)

わたしはキリストにあって満たされている(コロサイ 2 章 10 節)

わたしは安全である

わたしは罪に定められることはない(ローマ 8 章 1-2 節)

わたしは万事が益とされることを保証されている(ローマ 8 章 28 節)

わたしはすべての罪ありとする訴えから自由である(ローマ 8 章 31-34 節)

わたしはキリストの愛から引き離されることは決してない(ローマ 8 章 35-39 節)

わたしは、神によって堅く保たれ、油を注がれ、証印を押されている(第 2 コリント 1 章 21-22 節)

わたしはキリストと共に神のうちに隠されている(コロサイ 3 章 3 節)

わたしは、神が私のうちに始められた良い御業が完成されるという確信がある(ピリピ 1 章 6 節)

わたしは天国の市民である(ピリピ 3 章 20 節)

わたしは臆する霊ではなく、力と愛と慎み徒の霊を与えられた(第 2 テモテ 1 章 7 節)

わたしは折にかなった恵みとあわれみにあずかることができる(ヘブル 4 章 16 節)

わたしは神から生まれた者で、悪しき者が手を触れることは出来ない(第一ヨハネ 5 章 18 節)

わたしは重要な意味をもつ存在である

わたしは地の塩、世の光である(マタイ 5 章 13-14 節)

わたしはまことのブドウの木の枝、神のいのちとつながっている(ヨハネ 15 章 1, 5 節)

わたしは実を結ぶように選ばれ、任命されている(ヨハネ 15 章 16 節)

わたしはキリストの個人的な証人である(使徒 1 章 8 節)

わたしは神の宮である(第一コリント 3 章 16 節)

わたしは神に対する和解の使節である(第 2 コリント 5 章 17-21 節)

わたしは神と共に働く者である(第 2 コリント 6 章 1 節)

わたしはキリストと共に天上で座につく(エペソ 2 章 6 節)

わたしは神の作品である(エペソ 2 章 10 節)

わたしは確信をもって大胆に神に近づくことができる(エペソ 3 章 12 節)

わたしを強くしてくださるキリストによって何事でもすることが出来る(ピリピ 4 章 13 節)

これらは全てキリストを信じる者の内におこる変革の文字通り結果である。神様のわたしたちを変える力は驚くべきものである。

あなたが神の目から見て神に従うとしてどのような者であるかが分かったら、次の質問は、彼は一体、私を通して何をなさりたいのだろうかということである。あなたは、あなたの人生に神がもっておられる光栄ある計画によって、身の引き締まる思いをさせられるだろう。さあ次へ進もう。

陶芸家(創造主)は私たちの人生を私たちのためにかたちづくりたいと願っている。なぜなら、彼は、私たちの内に、そして私たちを通して、なすべき大いなることがあるからである。

11章 御子の光を反映する

過去に戻って新たに始めることは誰にもできないが、だれでも今から始めて新たな結末を作ることは出来る。－作者不明

さて、あなたは義とされた。次は聖化されるときである。その意味は、神はあなたをご自分の男や女として望んでいるように、かたちづくろうとされるということである。聖書ではそれを陶器師と粘土の比喩で描いている。

「しかし、今、主よ、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。私たちはみな、あなたの御手のわざです。」(イザヤ書 64 章 8 節)

ちょうど陶器師がろくろの前に座って粘土を思うような形にするように、神は我々がこの世にいる間に、わたしたちの人生をかたちづくり、わたしたちの中に、そして私たちを通して素晴らしいことをしてくださるのである。陶器師は、粘土が思うようにならなかったとってそれを捨てはしない。彼はそれを一旦押しつぶして、思うような形になるように作り直すのである。それは神のやり方と同じようである。神はその子供たちがなにか間違っただけをしたからとって捨てはしない。かわりに、神は我々の心に謙遜になる思いを与える。つまり、押しつぶして、神に対して悔改めるようにするのである。そして、神はまた作り直す。

ここに神に従うときの面白さがある。神が我々をかたちづくることを続けていくうちに、我々は益々自分の個性を発揮するようになるのである。そして、同時に我々はさらに神に似た者になる。さらにまた我々は、自分の人生において今は想像も出来ない方法で神が用いることが出来るように、神に徹底的に忠実な者となる旅の中にいるのである。

チャールズ・スポルジョンは言った

聖霊が聖書の中で死の床の場面を私たちにほとんど提供していないのは注目すべきことである。旧約聖書にも少ないが、新約聖書にはさらに少ない。その理由は、思うに聖霊は、どのように死ぬかよりもどのように生きるかについて考えさせたいからではないだろうか。なぜなら、いのちこそが中心的な課題だからである。生きている間に死ぬことを日々学んでいる人は、最後の日に自分の魂を誠実な創造者の手に渡すことは難しくないことが分かるだろう。⁹²

栄光のイエスにダマスコ途上で出会った経験を話しながら、パウロは人々にイエスについて話すのをやめることが出来なかったと言っている。

「ダマスコにいる人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤ地方全体に、さらに異邦人にまで、悔改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと宣べ伝えてきました。」(使徒 26 章 20 節)

パウロと同様にあなたも救われている。神はあなたを通して働きたいと願っておられる、あなたの人生が、悔い改めと信仰が真に反映したものとなるように。一度悔い改め、イエスを受け入れたなら、聖霊があなたの内に住んでおり、神があなたにしてくださったことと、これからして下さることへの感謝の気持ちが、あなたを神のために素晴らしい行いをしたいと言う欲求で満たすようになる。あなたが真に信じていることが、あなたの行動を規定する。いよいよ行動の時である。

「というのは、キリストの愛が私たちを捕らえているからです。私たちはこう考えました。一人の人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである、と。キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。ですから、私たちは今後、肉にしたがって人を知ろうとはしませ

ん。かつては肉にしたがってキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。ですから、だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(第2コリント5章14-17節)

「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その行いをあらかじめ備えてくださいました。」(エペソ2章10節)

神は、人がよい行いで満ちた人生を送るように造られたのである。神はあなたに神の栄光をあらわすように生きることを望んでいる。良かれ悪しかれ、あなたの行いはあなたが誰を愛するかを示しているのである。わたしの友人の一人が言った「あなたはあなたの言うことをしないかもしれない、しかしあなたはあなたの信じることをする。」わたしたちの行いはわたしたちの信じていることによって決まる。もし、わたしが盗みが悪いと信じていたら盗みをしないだろう。殺人も同様である。私が貧しい人を助けるのが正しいと信じていたらわたしはそれをするだろう。そして、あなたは神の子であるのだから、あなたの行いは、あなたが神に対して抱いている愛をあらわすだろう。

チャールズ・スポルジョンは言った

わたしはすべての祈りを一つのことに集中することにする。その一つのこととは、わたしは自身に対しては死に、すべて彼のために生きるようにということだ⁹³

あなたがする必要はない。あなたがしなければならないことは、ただ自分を通して神がしてくださることを願うだけである。あなたは持っているものをすべて彼に捧げる用意が出来ているだろうか？それがこの生き方をするための唯一の方法である。

クリントン大統領の不倫のスキャンダルの際に、アラン・キーズがテレビのショーでその事態を論

じていたが、興味深いことを言っていた。彼は、クリントンはこれらのことは私生活に関することであって、大統領としての仕事には影響しないと述べていると伝えた。それに対してキーズは言った。「アメリカの大統領は自由世界のリーダーである。一度その重大な職を拝命したら、その人は1日24時間、一年365日大統領である。実際、アメリカ大統領でないときなどない。」

同様にイエス・キリストの信者であるように選ばれたあなたは、1日24時間、1年365日イエスの信者である。あなたは常に信者である。そして人はいつもあなたを観察するだろう。あなたが成功することを期待しながら、あるいは失敗することを期待しながら。

「だが、愛する者たち。私たちはこのように言っていますが、あなたがたについては、もっと良いこと、救いにつながることを確信しています。神は不公平な方ではありませんから、あなたがたの働きや愛を忘れてはなりません。あなたがたは、これまで聖徒たちに仕え、今も仕えることによって、神の御名のために愛を示しました。私たちが切望するのは、あなたがた一人ひとりが同じ熱心さを示して、最後まで私たちの希望について十分な確信を持ち続け、その結果、怠け者とならずに、信仰と忍耐によって約束のものを受け継ぐ人たちに倣う者となることです。」(ヘブル6章9-12節)

もしも、イエスがあなたの中に生きているなら、どんな時もあなたは彼の意思をいぶかる必要はない。あなたはイエスにただ聞けばよい。聖書を読み、イエスに真実を教えてくれるように願えばよい。もし彼が何かをあなたにするように言うなら、そうするために助けてくれるように頼めばよい。常にすべてのことを彼に話さない。それが「祈り」です。聖書を信じる交わりの中や信者の集まりに行きなさい。ひとりの時も他の信者と一緒にいる時も、神を礼拝しなさい。見返りを期待しないで他の人を助けなさい。

あなたは貧しい人、ホームレス、病気の人、虐待されている人、見捨てられた人を助ける何百もの

組織に自発的に参加することが出来る。危機妊娠センター、ホームレスシェルター、等々、でイエスの仕事がたくさんある。盲目の人に読んで聞かせるボランティア、だれも面会に来ない入院している赤ん坊たちを訪ねるボランティア。読み書きのできない大人に教えること。あなたがイエスを愛するときに、あなたは人々を愛する。なぜなら、あなたの中のイエスが人々を愛しているからである。あなたは自分の利益よりも他人の利益を考える、なぜならあなたの中のイエスが彼らの利益を考えるからである。

聖書はわれわれをイエスとともに見る人でなく、イエスと共に働く人であると述べている。我々は、周囲の人々にイエスを示すことによって神の国のためにさらに専心する必要がある。—その人たちを知っているか知らないにかかわらずである。神は彼らを知っているし、彼のもとに来てほしいのである。

聖書にはサタンは「わたしは…する」と言ったと、繰り返し繰り返し記録されている。しかしイエスは、「わたしの意思でなく、あなたの意思がなされるように」と言ったと記録されている。われわれは自分の意思でなく神のみ旨がなされるように生きなければならない。もし私たちがイエスに十分近く歩むなら、我々は全身全霊で神様の栄光を現したいと望むようになるだろう。我々は神がわれわれに望むことをしたくなる。イエスは聖書で述べている。「私についてきなさい」。私が知っているのは、オーケーと言って彼に従い始めると、この世界のすべてのことが意味を成すようになることである。古い手に負えない問題も解決し始める。

わたしたちは最もやりがいのある人生を体験するために、そして神の栄光を現す人生を送るためには、神に従順に従わなくてはならない。従うことは自由な選択である。そして、それはなんと素晴らしい選択であろうか。

「花嫁は、輝くきよい麻布をまとうことが許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行いである。」(黙

示録 19 章 8 節)

一旦救われたら、あなたは神の聖徒である。あなたは義の行いによって神様に栄光をもたらすために創造されたのである。神は貴方に全てを捨てて神の栄光を現してほしいのだ。ためらうな。

「私たちはみな、善であれ悪であれ、それぞれ肉体においてした行いに応じて報いを受けるために、キリストのさばきの座の前に現れなければならないのです。」(第 2 コリント 5 章 10 節)

これは、すべての信者がひとたび肉体的に死んだときに受ける裁きである。あなたが天国に行くか地獄に行くかのさばきではない。そのとき、あなたはすでに天国にいる。それはあなたがこの地上での人生をどれほどイエスに支配していただいたかという裁きである。

「だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、藁で家を建てると、それぞれの働きは明らかになります。『その日』がそれを明るみに出すのです。その日は火とともに現れ、この火が、それぞれの働きがどのようなものかを試すからです。だれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。だれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、その人自身は火の中をくぐるようにして助かります。」(第 1 コリント 3 章 12-15 節)

あなたがイエスにゆだねたすべての人生が裁かれるのである。すべての行動がである。そして神のためにしたことが天国で報われるのだ。

「人の子は、やがて父の栄光を帯びて御使いたちとともに来ます。そしてそのときには、それぞれその行いに応じて報います。」(マタイ 16 章 27 節)

同じように創られた人はいないので、二人が同じ報いを受けることはない。つまり、同じ人生はないということなのだ。イエスは、あなたがイエスにあなたの人生をゆだねた後、その人生で行ったことの報酬を与える。彼のさばきは、あなたと違うように造られた誰かとの比較を伴わない。神はあなたをあ

なたとして造られたのだ。あなたがあなたを通して彼にさせていただいたことは報いを受けるであろう。そしてあなたが自分でしたことの価値は、一時的であり、永遠の価値はない。それは野火のように焼け尽きてしまうだろう。

イエスのことを他の人に話したいと思うことや、彼らに対してイエスのようにふるまうことは今に始まったことではない。聖書の中にも、イエスに出会った人たちに同じことが起こったと書かれている。彼らはイエスが自分のために何をしてくださったかを他の人に話したかった。アンデレ、ペテロ、井戸端の女、パウロ、ヨハネはみな神の御子と出会った人たちであり、誰かに話さないではいれなかったのである。イエスについて他の人たちに話すことは、イエスの栄光を現すことである。神は、彼らが悔い改め、イエスを信じるようになるために、あなたを用いることが出来る。

それは神がわれわれが救われた後、この地上に残しておられる一つの重要な理由である。失われた人々が死んで地獄に行ってしまう前に救いを伝えるために。女性は赤ちゃんが生まれた時に人にそのことを言う。なぜか？なぜなら彼女にはよいニュースがあるからだ。女性は9か月間赤ん坊を身ごもり、そして赤ん坊が生まれる。お母さんは喜びいっぱい、それを他の人に言わずにはいられない。

“福音“とは”よい知らせ“と言う意味である。実際それは偉大なニュースであるということである。神は私に対して怒ってはおられない。わたしは全能の神に対する違反を許される方法を知っている。イエスは、私の罪のために死んでくださり、そして死からよみがえられた。もし、赤ん坊が生まれた良いニュースを他の人に分かち合いたいのなら、なぜ出会った人全員に福音を分かち合いたくないなどということがあるだろう。今やあなたはイエスに従う者である。人を漁るときである。

「イエスは彼らに言われた。『わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。』」(マタイ

4章 19節)

かつて誰かが私に言った。もしあなたが人間を取る漁師になってないなら、あなたはイエスに従っていないと。繰り返して言う。もしあなたがた人間の魂の漁をしていないなら、あなたはイエスが命じたようにはイエスに従っていない。我々にとって失われた人に伝えるときである。誰もが死んで永遠の地獄に行かないように。あなたの光を世の暗やみの中で明るく輝かせるときである。イエスは我々は地の塩であると言った。塩は人の咽喉を乾かせる。人々は我々の生き方を見て、その声を聴き、必ずイエスを渴望するだろう。イエスだけを。

「人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」(ルカ 19 章 10 節)

イエスは言った。我々は失われた人を捜し求め救うべきであると。もしも、イエスにとって失われた者に手を伸ばすことが大事なら、それはわれわれにも同様なはずである。これ以上に単純な命令があるだろうか？我々は、神がそうするように導いてくださるすべての人に福音を伝えるためにここにいるのである。我々は弟子をつくるためにここにいるのである。神が備えてくださった心に種を植えるためにいるのである。そして、神はその種を育てることが出来るのだ。我々は、人々を地獄から略奪し、天国に住まわせるためにここにいるのだ。

チャールズ・スポルジョンは言った…

もし人が、ひとたび滅びゆく罪人への愛と恵み深い主への愛を持ったなら、彼は魂の救済にそのすべての情熱を注ぐようになるだろう。それは彼の

心をすっかり奪って、他の人を救済するために我を忘れるようになるだろう。彼は、炎の熱さをものともせず、焼け死んでしまいそうな人に真の人間愛をもって救出する勇敢な消防士のようになる。⁹⁴

ある日、実家に帰る道の途中で私は赤信号で止まった。すると、一人の女性が私の車の前を歩いて

きた。バスが交差点に来ており、もう一人の女性がバスに乗り遅れないように急げと怒鳴っていた。彼女は私の目の前を通って通りを走って渡り、バスを捕まえるために、別の通りを横切って突進した。突然、SUV が走っている彼女にぶつかった。彼女は空中に飛び、フロントガラスにぶつかり、別のほうにころがった。

私はできるだけ早く車を路肩に寄せて、彼女が倒れているところに行った。そこにはすでに彼女を助けようとしている人たちがいた。彼らは救急車を呼び、私は祈った。

彼女の友達が話しているところを聞くと、どうも東ヨーロッパの人のものであった。私が印象的だったのは、彼女が車とぶつかったときにたくさんの人が駆け付けたことである。男も女も、白人も黒人も、ヒスパニックも、だれもが彼女のところに駆け付けたのである。人種の壁もなく、経済的な壁もなかった。彼らは、誰かが助けが必要なを見て、助けに行ったのである。彼らを止めるものは何もなかった。その後、女性がどうなったのかは知らないが、少なくとも私は彼女のために祈った。

さて、あなたがこれを読んでいる間にも霊的な必要があり、地獄に行こうとしているすべての人たちのことを考えてほしい。神との正しい関係を持たず、永遠への備えが出来ていない多くの人々がいるのである。彼らは永遠に有罪とされるのである。

一時的に外傷を負った人は助けに行くことが出来るのに、どうして霊的に永遠に傷ついている人を助けに行かないことがあるだろうか？誰かがスイミング・プールでおぼれているのを見て、ほっておくことが出来るだろうか？何かをしなければならない。

ある男が、とにかく「反応」して、それからおぼれている人を助けに行くのだと言った。もしも、あなたがイエス・キリストがあなたの罪を許してくれたことを信じているなら、とにかく「反応」して、あなたの周りの人がだれも永遠の地獄に近づかないように出来ることは何でもすべきである。

スポルジョンは言った…

あなたは彼らが死ぬのを止めることはできない。しかし、神はあなたが彼らが永遠の地獄に行くのを止めることを助けてくれるかもしれない。あなたは、命がところは彼らの身体から失われていくのを止めることはできない。しかし、福音は、彼らが破滅へと向かうのを止めることができる。⁹⁵

あなたが天国に行ったらできない唯一のことがある。それは、失われた人に信仰を分かち合うことである。彼らはそこにはいない。だから、今しかないのである！彼らに接することが出来るところは一つしかない。それはこの地上である。

私の最初の本は『天国でできない一つのこと』である。多くの人が、この本が彼らを啓発し、失われた人へ大胆に福音を伝える情熱を持たせてくれたと言ってくれている。あなたは本屋に行くか、www.markcahill.org からそれを入手することが出来る。この世界に住むことは良いことである。なぜなら、われらは失われた人に接することが出来るから。それがパウロがあれだけ天国に行くことを望みながらも断固固として可能な限り長く生きることを願った理由である。

「さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音の前進に役立ったことを知ってほしいのです。私がキリストのゆえに投獄されていることが、親衛隊の全員と、ほかのすべての人たちに明らかになり、兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことで、主にあつて確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆にみことばを語るようになりました。

人々の中には、ねたみや争いからキリストを宣べ伝える者もありますが、善意からする者もあります。ある人たちは、私が福音を弁明するために立てられていることを知り、愛をもってキリストを伝えていますが、他の人たちは党派心からキリストを宣べ伝えており、純真な動機からではありません。鎖につながれている私をさらに苦しめるつもりなのです。しかし、それが何だというのでしょうか。見せかけであれ、

真実であれ、あらゆる仕方でキリストが宣べ伝えられているのですから、私はそのことを喜んでいきます。そうです。これからも喜ぶでしょう。というのは、あなた方の祈とイエス・キリストの御霊の支えによって、私が切に期待し望んでおりに、このことが結局は私の救となることを知っているからです。私の願いは、どんな場合にも恥じることなく、今もいつものように大胆に語り、生きるにしても死ぬにしても、私の身によってキリストがあがめられることです。

私にとっては生きることはキリスト、死ぬことは益です。しかし、肉体において生きることが続くなら、私の働きが実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。私は、その二つのことの間で板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。そのほうが、はるかに望ましいのです。しかし、この肉体にとどまるのが、あなたがたのためにはもっと必要です。このことを確信しているので、あなたがたの信仰の前進と喜びのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてとともにいるようになることを知っています。そうなれば、私は再びあなたがたのもとに行けるので、私に関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。」(ピリピ1章12-26節)

イエスは失われた人に福音を伝えるように頼んだのではない。それは選択肢ではない。命令である。次のイエスの言葉を読みながら、そこで言っていることを考えてほしい。

「それから、イエスは彼らに言われた。『全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。』」(マルコ16章15-16節)

ここで二つ注意することがある。一つは、信者は「すべての造られた者」に福音を伝えることを命じられていること。もう一つは、伝えられた福音を信じる者は天国に行き、伝えられたことを拒絶する者

は地獄に行くということである。

軍隊では上官の命令に従わないことを「命令服従違反」という。もしも、あなたが船の船長の権限を奪えばそれは“反乱”と呼ばれる。すべての作られたものの司令官であり、船長であり、救い主である方の命令に従わなければ、それはなんと呼ばれるだろう？そんなことを考えている場合ではない。とにかく彼の命令に従って失われた人々に福音を伝えるのだ。

私の友達が無神論者から手紙をもらった。あなたは彼の言うことを信じないかもしれないが、広い心で読んでみて欲しい。

あなたはすべての答えを得たと本当に信じているのですね。あなたは自分が100パーセント正しいと信じるように騙されたのです。それでは、一つのことを言わせてください。あなたは、自分が他の人々に対して思いやりがあると思いますか？もしも、あなたが神についておっしゃっていることが正しいなら、そしてあなたがそう信じているなら、どうして夜眠ることができるでしょうか？あなたが私と話しているとき、つまりあなたが信じていることによれば、永遠の地獄、神が造った永遠に痛みがある恐ろしい場所へ一直線に向かっている人と話しながら、そばにいて何もしないということなのですよ。

もしも、あなたが、毎日数千人の人が変えることが出来ない永遠の運命に落ち入っていると少しでも信じているなら、その人々の盲目さに怒り狂って道を走り回るべきではないでしょうか。それは、あなたが道の角に立ちながら、その前を人々が何も見ずにバスが来る通りに向かって突進して死んでいくのを黙ってみているのと同じことではないでしょうか。あなたは、やがて青信号に変わって渡れることを知っていることに満足して、なにもしないでいるようなものです。

考えてもみてください。もしも聖書が正しいければ、恐ろしい地獄が間違いなく待ち受けているのです。あなたはそこで起こることをただそのままにしておくだけで、自分だけ助かって他の人を助けようよ

うなどと考えもしないのです。もしあなたが言うことが正しいのであれば、あなたは思いやりがなく、冷淡で、全く自己中心的で、愛とか思いやりとかなどということについて語る資格はありません。

私は無神論者がクリスチャンが会うすべての人と信仰を分かち合わなければならないことを知っていることに感心した。しかし、それに気づいていないクリスチャンもいる。彼は、自分の信仰を分かち合わないクリスチャンがすべての人々の中で最も自己中心であると指摘しているのである。そのようなクリスチャンにならないで欲しい。心からそう願う。すべての魂が神にとっては重要である。神は彼らのために死んだのである。彼らに神が彼らのために何をしたのかを知らせようではないか。

私はダグラス・マッカーサー司令官の言葉をプリントしたTシャツを見た。

敵は目の前にいる。後ろにも、右にも左にもいる。彼らは今回は逃げおおせない。

なんという名言だろう。私はサタンと失われた人たちから逃げる必要はない。私たちは彼らに向かっていけばよいのである。神がついているのだ。神はすべての人のために天国への招待状を持っている。今度は我々がその招待状を会うすべての人に渡す番である。

私がこれまで述べなかったバニラアイスのお話を、ここでどうしても話す必要がある。私は彼との会話の中で、彼がキリスト教に真剣かどうか訊ねた。彼は言った。かつてはそうであったと。私は、どうしてかつては神の子であることに真剣だったなどということがあり得るのか不思議に思った。彼は前腕の十字架の刺青を見せて、胸には「イエスの聖なる心臓」(カトリックのシンボル)の刺青が入っていると聞いた。

私は彼に今はどうだと聞いた。彼はサイエントロジー(新興宗教のひとつ)を信じていると言った。私は彼にどうしてそれを選んだのか聞いた。私は彼の答えを終生忘れることはないと思う。彼は言った「ジョン・トラボルタ」と話したんだ。

私は唾然とした。ジョン・トラボルタがしていることは何なのだろう。彼は自分の信じていることのために立ち上がっているのだ。ジョン・トラボルタはそれを信じているので、真実でないことのためにでも大胆に立ち上がっているのに、われわれは真実を知っているにもかかわらず、立ち上がることに尻込みしそれを聞いているだけでいいのか？ そんなことはない！ 私はジョン・トラボルタに私よりも私よりも優れた証言をさせるなんて、そんなことは出来ない。あなたもジョン・トラボルタに負けてはいけない。もう一つあなたが覚えておくべきことは、あなたがあなたの信仰を分かち合うときに神はあなたがまいた種に水を注いでくださるということである。そしてその結果は、あなたが天国に行ってそこに誰がいるかを見るまでは決してわからないだろう。

私がタイガー・ウッズに証をしたときに、どのようにして「無罪」と宣言されるのか伝える前に、彼は歩き去ってしまった。私はまだ言いたいことがあったので残念だった。しかし後になって、神は私が植えた真理の種に水を注いでくださったことを示してくれた。以下のようにである。

私はタイガーとの話がまだ済んでないと感じていたので、私は幾人かの人に彼のために祈ってくれるように、また神が私が蒔いた種を育ててくださるように祈ってくださいと頼んだ。一週間の内に、私の友達がタイガーと永遠のことについて話す機会があり、タイガーの友達の一人が、夕食の間ずっと彼に証をする機会を持つことが出来た。神はこれらすべてのフォローアップをしてくれていた。私はそれにまるで気づかなかった。私は、それが神が望んでおられることなので、大切に扱ってくださることを知っておくべきであった。

「ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださるのは神です。」(第1コリント3章7節)

もしも、あなたが神に祈っているなら、神にタイガー・ウッズとコマーシャルのディレクターがともに

救われるように願って欲しい。今やっていることをやめて、ただちにそうして欲しい。そして、あなたの家族とあなたの友人のためにも。神は十二分に誠実なお方である。問題はあなたと私が誠実であるかということである。神はその王国を広げるために我々を信頼できるだろうか？

私の上に住んでいるジェイには小さな女の子がいる。彼らは休日にミネソタに行くつもりだった。彼は旅行するときに飛行機よりも車が好きだったので、私はてっきりミネソタまで車で行くと思っていた。私は封筒にせんべつを入れて渡した。驚くことに、彼は飛行機で行くと言ったので、私は娘さんの休日のために何かを買ってやってくれと言った。30分後に、ジェイはドアをノックしてお金は受け取れないと言ってきた。多すぎるというのである。私はそれは差し上げたものなので返してもらう訳にはいかないと言った。神が私の最初の本をたくさんの人が買うようにしてくださったので、私は金銭的に多少余裕があったのだ。そして、私はそれで誰かを祝福したかったのだ。

私はまた、与えるほうがもらうほうよりも幸いであることをようやく学んだのだと彼に言った。私は、「君がコーチをしているバスケットボールチームをシーズンオフに夕食に誘ったらいいじゃないか。」と言った。それで、彼はミネソタに行った。

ジェイが帰って来た時に、彼は旅の間中私と私がくれたお金について考えていたと言った。彼の眼を見ればそのお金が彼を非常に祝福したことが明らかだった。彼はミネソタで買ったお土産を持って来てくれた。そして、忙しすぎて彼が旅行中に読もうと思った私の本を読む時間がなかったと言った。

次の日にジェイは、ある女性の家を訪ねようとしていた。その女性には4人の子供がいて、ループス(皮膚病の一つ)に悩まされていた。彼は私からもらったお金の半分をもって行って彼女を祝福しよう決心していた。そして彼は出かけた。

その日の後、もう一度ドアをノックする音がした。彼の顔は輝き、とても興奮していた。彼が彼女に

お金を差し出すと、彼女は泣きだした。彼女は経済的に困っていてお金はとても大きな助けだったのだ。それが彼に影響を与えたことも明らかだった。次の日にドアを開けると、そこにはテープで紙切れが張りつけられていた。ジェイはお金の感謝に2ページの手紙を書いたのだ。まだ29ドルと小銭が少し残っていて、それで母親と住む彼の3歳の娘に初めての聖書を買ってあげるつもりだと書いてあった。

考えてもみよ。彼は教会に行っていないのに、今や娘に聖書を買ってあげたくなったのである。私の両親の家に子供用の聖書があったので、私はそれを持ってきてジェイにあげた。彼はとても喜んだ。私は、彼が聖書を持っているかどうか訊いた。、彼は持っていないと言ったので、欲しいかと訊くと、彼は欲しいと言った。そして彼はそれを読み始めるためのアドバイスを求めた。

神があなたに手を差し伸べてくださったように、ほかの人に手を差し伸べなさい。それには何千通りもの方法がある。しかしあなたは、イエスの静かで小さな声に心の耳を傾け、その声に従わなければならない。

スポルジョンは言った

われわれが毎年何千人もの人に福音を伝えなければならなかったとして、そして一人の魂しか救われなかったとしても、その一人の魂はすべての努力の十分な報酬である。なぜなら、一つの魂には無限の価値があるからだ。⁹⁶

私がアメリカ中から来た多くの韓国系の大人や若者と話していた。会議はシカゴ郊外のノース・セントラル大学で行われた。私が大学についたときに、数人の学生くらいの年の女性が私が泊まっていた寮の隣のテーブルに座っていたのに気づいた。なので、私は彼女たちに話し始めた。彼らはプルミエールという団体に働いていた。この団体の目的は学期の始まる6週間前に少数民族の学生を

キャンパスに集め、他の学生が来る前にきずなを深めるためであった。私は面白いと思ったが、彼らの人生に永遠の違いをもたらすことに関心を向けていた。イエスの名において神の力が人種の壁を打ち砕くだろう。私は証を始めたが、彼女たちはこの会話のどの部分も気に入らなかった。そこで、私は一冊の本を書いたのだが、その本にサインをしてみんなにあげたいと言った。

私が彼らの一人一人の本にサインをしているとき、一人の若い女性が来て私が何をしているのか訊いた。彼女の名前はタマラといった。そして彼女はこのイベントのスポンサーをしている多文化的多様性部門を取りまとめていた。彼女の声と仕草から私の存在が不愉快であることが見て取れた。なので、私は何をしているか話した。そこで、彼女はスタッフ達に話すのはいいが、少数派民族の学生がキャンパスに来て彼らには話しかけないでくれと言った。アメリカ合衆国憲法修正第一条で保障されている権利(宗教の自由な行使、表現の自由などを保証している)を行使することが出来る開かれた社会、自由に勝るものはない。

そこで、私は彼女に証を始めたが、彼女はそのすべてを嫌っていた。そこで、私は私の本を取り出し、サインをして彼女にあげた。後で、私は近くのごみ箱を見たが、一つの本も捨てられていなかった。私は少なくとも一つはあるだろうと想像していたのだが。

次の日、私はタマラが近づいてきたときに仲間と話していた。彼女は学生とは話さないように言ったはずだと言った。私は彼女に私は話す権利があると言った。彼女はキャンパスのガードマンをすでに呼んだと言った。彼女は目を上げて、「彼はここよ」と言った。すぐに20歳代前半のサングラスを付けたがガードマンがやって来た。彼は私を見て、「あなたはキャンパスで人々と話したり、本を渡したりしてはいけない。もし、あなたがキャンパスを今すぐに出ていかないなら、あなたを逮捕する。」と言った。」前に述べたマーク・ケイヒルが日常的に味わっていたことと同じだった。私は彼を見て、「私はここ

に居る韓国系の団体と一緒にであり、私は人々と話す権利があるはずだ。」と言った。

彼は一瞬気圧された。彼は私が寮をぶらぶらしている部外者だと思ったのだろうと思う。彼は私が自分の団体の中で話すのは自由だが、他の団体の人としゃべってはいけないと言った。私は彼を見て、「私はキャンパスに入ったら、憲法修正第一条で保障されている権利を失うのか」と訊ねた。私はこの質問を彼に3度した。彼は答えなかった。彼は、このキャンパスに私たちが来ることを認める契約書にサインしたキャンパスの担当者と話さなければならないと言った。

そこで私は、「私に対するクレームの内容は何なのか？」と聞いた。彼はそれは言えないと言った。そこで彼を見て、「あなたに質問がある。あなたがもしも今夜死んだらあなたは天国に行くと言っている100%の確信を持っていますか？」面白いことに、もしも私のしていることが違法なら、彼はその場で直ちに私を逮捕しなければならなかったはずだ。しかし、もちろん彼は逮捕しなかった。

彼は言った。「私はあなたの質問に今答えることは差し控えます。」我々の誰もが忘れてはならないことがある。それは、人々はその質問に今は答えないことにするかもしれないが、いつかは誰もがその質問に答えなければならない日が来るということである。

私は昼食をとりに行った。私は結局、若者たちの為にフットボールキャンプを主催している大学のフットボール選手達と座ることになった。我々はすぐに仲良くなった。何人かはクリスチャンで、そうでない者もいた。一人のカトリックの男性は、聖書を二日前に初めて開いたと言った。彼はいくつか質問があると言ったので、私はそれに答えた。彼らは皆私の本を欲しがった。そこで、私はサインをして彼らに本をあげた。私がサインをしているときに横を見ると、なんとタマラが私をじっと見ているではないか！これは彼女の意にそぐわない。

翌日、私はカトリックの男性が一日で私の本を80ページ以上読んだことを聞いた。そのあと、フツ

トボール選手の一人がキャンパスで聖書研究を始めたと聞いたが、最終的に私が聞いたところによると、なんと、それに20名以上の人が参加しているとのことであった。

私たちの団体のリーダーであったデイビット牧師が、私に対して起こったことについてキャンパスの責任者と話しに行った。それが月曜日のことだった。その前日の日曜日に、韓国系の子供たちは日曜礼拝のために分かれて街中の様々な教会へ行った。キャンパスの責任者はデイビット牧師に、韓国系の子供たちのグループが彼の教会に来たと言った。彼は子供たちが来てくれたことは本当に恵みであったし、私の行動は何の問題もなく、ガードマンは行き過ぎだったと言い、彼を適切に処置すると言ってくれた。デイビット牧師は、その夜私が若者たちに話した後、90人くらいの韓国系の若者たちが全く同じことをしたと彼に言った。その責任者は、それも問題ないとデイビット牧師に言った。ワオ!

「ある夜、主は幻によってパウロに言われた。『恐れなさい、語り続けなさい。黙ってはいかない。わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、わたしの民がたくさんいるのだから。』」(使途18章9-10節)

黙ってはいけない。主は我々が彼のために徹底的に大胆に立つことを望んでおられる。主は我々と共にいる。主はキャンパスの責任者のように我々には想像もつかない場所に人々を置いている。我々の仕事は単純にイエス・キリストの真実のために堅く立つことである。その週、韓国系の子供たちは大学生たちと良い会話の時を持った。タマラとガードマンのためにぜひ祈ってほしい。

スポルジョンは言った…

もしも、人がナイアガラの滝を言葉で止めることが出来ると言ったとしても、もし神が私に罪人が罪その狂った罪の生涯を生き続けることを止めることを許してくださるなら、彼がうらやましくはない。もし、

ある被造物がベスビオス火山の火の上に指を置いてその炎を消すことができるとして、私にはそれができないことを残念に思わない、もしも、私が神に対する不敬虔をやめさせ、彼に祈ることを教えるために用いられるなら。この霊的力は想像できる限り最高のもので、もっとも望まれるべきものである。⁹⁷

6月は重要な月だ。多くの都市や州でそれは「プライドの月」と呼ばれるものになっている。どういう意味かという、それはゲイやレズビアン⁹⁸の生活様式を祝う月なのである。それは彼らのコミュニティーの中でその運動が浸透していることを祝う時なのだが、第一の目的は彼らの生活様式を全く問題ないものとして他の人に認めさせるためのものである。私は彼らのイベントに「プライド」というタイトルをつけるのは驚くべきことだといつも感じてきた。プライドはいつでも悪いことを意味するからである。

「高慢(プライド)は破滅に先立ち、高ぶった霊は挫折に先立つ。」(箴言16章18節)

すべての人が、プライドは永遠の破滅に先だつことを知らなければならない。そして、高慢な人、傲慢な人には、ある日必ず滅びが訪れるのである。2003年6月はゲイ団体にとって特別に意義のあるものだった。なぜなら、それは最高裁がゲイの家庭内の私生活における同性愛のセックスを合法であると決定したときだからである。いつも忘れてはならない。、最高裁の判事も含めて人が何と言おうと、神の言葉が最終的に堅く立つことを。

「そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見ることを行っていた。」(士師記21章25節)

もしも、人々が王であるイエスに従わなかったら、大衆に従うか、なんでも好きなことをするかである。我々が神の目から見て正しいことよりも我々自身の目から見て正しいことを行うことに固執するとき、つねに不幸な結果になるのである。

6月の最後の週末は、国中の大都市が主催するお祭りでゲイ運動の勝利を待望することを祝う日なのである。アトランタではそれは「プライド祭り」と呼ばれる。この年は最高裁の判決が出たときから数日後だったので、特別にゲイ団体が興奮してパーティを開くことをあなたも想像できるだろう。

ここ6、7年、私は毎年この祭りに行っている。アトランタのゲイプライド祭は国で2番目に大きくて、20万から30万の人が参加する。そしてもちろん、私が行くのは、何人かと話し、永遠の真実を彼らと分かちあうためである。10人くらいの人とその週末には証をしに行った。われわれはこのお祭りで、間違いなく手助けを必要としていた。そこには多くの失われた人がおり、彼らに近づこうとするほど彼らを愛しているクリスチャンは少ない。われわれはどうして彼らの探している真実を携えてまっすぐに彼らに向かわずに、罪人たちから逃げ去ってしまうのだろう。

土曜日に私は6人のグループが座っているのを見かけた。そこで、私は祈り、それから彼らのところに向かった。一人の若い女性が携帯で話すために集団から離れた。私は残りの5人と会話を始めた。全員に「あなたが死んだ後、そこにはなにがあると思いますか？」という質問をした。

突然、男性の一人が電話をかけていた若い女性にむかって「ミッシェルいますぐここにこい」と言った。私は何が起こるのか想像できなかった。彼女が来たときに彼は私に同じ質問をもう一度してくれと頼んだ。私がすると、彼女が突然目を大きくした。「どうしたの？」と私が訊ねると、彼女は、「私たちは一週間前に全く同じ質問について4時間話した」といった。彼女はそのときに議論した内容を記録したノートまで実際に持っていると言った！それで私たちは、死んだあとどうなるかについて1時間以上話した。

例えば、私はこの会話の間、一人の男性に彼の父親との関係について尋ねた。彼は言った「父を憎んでいる」と。彼は父親がある時、実際に彼を窓から飛び出るほど殴ったと言った。彼は、子供のこ

ろにたばこの火を肌につけられたとも言った。私は彼に性的虐待を受けたことがあるかと訊いた。彼は、15歳の時にボーイスカウトのキャンプで誰かの父親に性的虐待を受けたと言った。彼は同性愛についての思いがその時から始まったと言った。このことを語るときに彼の目からは涙があふれた。

その日遅く、私はアレックスという17歳の少年とも話した。彼も父親とのひどい関係を話した。同様におじさんに6歳から8歳まで3年間性的虐待を受けていたと言った。

我々は、しばしば問題を見ていると思っけていても、実はその症状だけを見ているに過ぎない。例えば、多くの人は同性愛が問題だと考える。しかし、実際にはそれは単なる症状に過ぎない。研究者たちは社会的要因が人々を同性愛の道に進ませると考えている。このことには二つの大きな要因がある。一つは子供と同性の親との関係の崩壊にある。例えば、息子と父親の間関係、あるいは娘と母親の関係の破壊である。多くの場合は離婚か片親が常に働きすぎている場合である。

子供を同性愛に走らせる二番目の大きな要因は、往々にして性的な虐待である。したがって、ここでわれわれはとてつもない痛みを抱えた人々と対しているのであり、われわれは実際にその解決策を持っている。それはイエスキリストの力、癒し、許し、そして解放である。しかし、われわれはなんと多くの場合、彼らに癒しを与える真実をもたらす代わりに彼らを非難することであろうか。

同性愛の生活スタイルからの救済の手助けについては、エクソダス・グローバル・アライアンス (www.exodusglobalalliance.org) とスティーブン・ベネットミニストリー (www.sbministries.org) で見つけることができる。両方ともゲイの人々と信仰を分かち合ったり、あるいは救済するために用いることができる多くの情報を提供している。

お祭りでのミッシェルとの会話に戻ると、話の終わりの頃に、彼女は私を見て言った。「私は永遠について真剣に信じている人とどうにかして会いたいとずっと思っていた。あなたの目と表情を見て、

あなたがこれを真実だと知っているということが事実として分かる。」

ちょっと考えてもらいたい。我々はいつも人が聞く必要があるのは私たちの言葉だと考える。しかし、問題は言葉だけでなく、その伝え方がこれらの痛みを持つ人たちにイエスを伝えるためには重要なのである。あなたは偽の情熱を持つことはできない。そして、あなたは主を愛するか愛さないかのどちらかである。あなたが本当に主を愛するとき、それは周囲の人に大きく、そしてはっきり伝わる。ミッシェルと友人は私の最初の本が欲しいとメールをくれた。霊的に飢え乾いている人は、永遠に彼らを満足させるものを探し求めているのである。もし、あなたがイエスを知っているなら、彼を霊的に飢えている人々に伝えようとしなないだろうか？

チャールズ・スポルジョン（私がどれだけこの人が好きか気づいたのだろうか？）は言った。

もし、救い主を愛していないたった一人の男性か女性が居て、一人っきりでシベリアに住んでいたとして、そして地球上の数百万人の主を信じる人がその人に会うためにそこに旅行しなければならないとしたら、そしてそのすべての人が彼が改心するまでイエスのもとに来るように嘆願しなければならないとしたら、それでも、そのすべての熱意、働き、出費はそれに値する価値があるものである。一つの魂は多くの熱心なクリスチャンの働きの報酬として十分なものである。ひとつの魂は値段のつけようのないほど貴重なのだから。⁹⁸

最近、ダラスへ向かう飛行機で私はサンフランシスコに住む男性の隣に座った。彼は強いフランスなまりを持っていた。彼はフランス生まれだがここ15年間はアメリカに住んでいた。我々は人生と神のことについて熱心に語り合った。彼はまだ信者ではなかったが、とてもオープンでたくさんの質問を持っていた。しばらくして、彼は片づけなければならない仕事があるが、後で話したいことがあると言った。着陸する少し前に彼は仕事を終え、6か月前に彼の父親が亡くなったと言った。彼の父親はフラ

ンスに住んでいて、時差があったので父親の死を12時間後に知ったのだった。

彼の父親の死の朝、彼は起きてそして、また眠りに戻った。その起きてるとも寝てるともつかないときに彼は自分に男が話しかける幻を見た。その男は白髪でテレビ伝道師のようだったが、それ以上のものだった。彼はその男が神について話そうとしているが分かったが彼には聞こえなかった。私はなぜかと聞くと、彼は「聞きたくなかったから」と答えた。それは真実だろう。神が語り掛けようとしているとき、ある人々はとにかく聞きたくないのだ。

9月11日はアメリカにとって「警告」だった。多くの人が神について考え始めた。しかし、彼らのほとんどはすぐに神から離れ、日常生活の慌ただしさの中に戻っていった。

さて、飛行機の彼に起こったことについて話そう。夢の場面が変わった。突然、彼は大きな劇場か公会堂のようなところにいた。さっきと同じ不思議な男が、たくさんの人とともにステージに立っていた。人々は彼のほうに一人ずつ歩いてきた。サンフランシスコの男性はこれをステージの後方から見ていた。彼は、そのしゃべっている男は前に見た男と同じだったが今度は後ろからしか見えなかったと言った。その男は長い白い流れるような髪を垂らし、長い白いゆったりとしたローブを着ていた。

彼はこのシーンが重要なことは分かった。しかし、それについてどう理解してよいかわからなかった。私は聖書を取り出し、使徒2章17節を彼に示した。そこは、旧約の預言者ヨエルの言葉が引用してあるところである。

「その後、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人は夢を見、青年は幻を見る。その日わたしは、男奴隷にも女奴隷にもわたしの霊を注ぐ。」(ヨエル書2勝28-29節)

そして神はこれを今日も行っているのである。私は人々が見た夢について素晴らしい話を聞いた

ことがある。私は神が夢を通してこの未信者に近づこうとしていたことを信じた。私は彼に黙示録1章14節を見せ、イエスを次のように描いているところを説明した。「その頭と髪は白い羊毛のように、また雪のように白く…」。またマルコ9章3節には、イエスが山で変貌したとき、彼の衣は非常に白く輝いていたと書いてあることを示した。

私はこの男性に、彼が幻で見た主の前にいつの日か立つようになるのだと信じていることを知ってもらいたかった。そこで彼に尋ねた。「あなたはそこに立つ準備ができていますか？あなたのお父さんはそこに立ちました。そして私もそこに立ちます。やがてあなたも。」

審判はすべての人に来る。問題は、「あなたは審判の日に準備ができていますか？」ということである。もしそうなら、あなたは人々がその準備ができてるように助けているだろうか？それがわれわれがここにいる理由である。私のモットーは、もし彼らが呼吸をしているなら、彼らはイエスを必要としているということである。

「正しい人の結ぶ実はいのちの木。知恵のある者は人の心をとらえる。」(箴言 11 章 30 節)

あなたは常に人生を賢い人として過ごしたいであろう。神の目から見て、魂を勝ち取る人は賢い人である。賢くあれ。チャールズ・スポルジョンは言った。

「魂を救うことについて議論がしたいか？天国を見上げなさい。そして、もしも救い主であるイエスについて教える者がいなくなったら、罪人たちはどうやって金のハープに触れ永遠の歌を学ぶことが出来るのか自身に尋ねてみよ。しかし、最もよい議論はすべてイエスの傷の内に見い出される。あなたはイエスに栄光を帰したくなり、そして彼の頭に王冠が被せられることを願うようになる。そして、あなたが出来る最善のことは、彼のために魂を勝ち取ることである。これこそイエスが切望する戦利品であり、その獲得のために戦うトロフィーであり、彼の一番の装飾品の宝石である。」⁹⁹

ある日、私のアパートが水にあふれ始めた。どこかに壊れたパイプがあるはずだが、修理屋はそれがどこかわからなかった。しかし、彼らはそれが私の部屋の中でないことは確信していた。彼らはようやくとなりのアパートであることを発見した。彼らは私に、もし私がいて気が付いていなかったら、帰るまでにアパート中が15センチの深さの水であふれていたであろうと言った。私は祈り始めた。私は神に祈り始めた。カーペットが水でびしょびしょで気が動転していたが、クリスチャンとしてこれを扱うことができるように祈った。

私は、この水漏れの事件によってかかわるように神がしてくださった人たちに証しする機会をもらえるように祈った。

修理屋の名前はラマダンと言った。なんと立派なムスリムの名前だろう。私が彼に証しを始めたときに、彼が敬虔なクリスチャンであることが分かった。彼は名前を変えたくないと言った、なぜなら、それによって他の人たちにイエスを分かち合うためにたくさんのドアを開けるからということだった！私は彼に私の初めて書いた本を渡した。彼はとても喜んでいて。

少し後に、ある男がカーペットを切り取って捨て捨てるために来た。彼の名前はローレンスと言った。話すにつれて、彼は心を開いた。彼はクリスチャンではなかったが、地獄からどのように救われるかについて20分以上話した。彼はそのことについて書いてある本を欲しがったので、彼にそれをあげた。1週間おきに彼は狼瘡で死にかけている母を訪ねていた。彼は母の医療費の支払いを助けていた。私はたまたまアラバマのある人々から献金を頂いていたので、それを彼の母親の医療費の足しにしておうと決めた。

私は彼が去る前に、彼のために祈る機会を持つことが出来た。彼はとても感動していた。私はそれを彼の目を見てわかったし、私が時間をとって話してくれたことが彼にとってどれだけ意味があった

かを語ってくれた。

人は真実に飢え乾いている。彼らの乾いた魂を満たすために神の生きた水を与えなければならぬ。古い死んだような心地よいところから飛び出せ。その場所の外にだけ、本当に生きるべき場所があるのだ。私はテネシーの若者の会議で話した。ここにそこにいたユースパスターの手紙の要約がある。

大みそか間近のころだった。キャンプから家に帰る途中に、私たちは昼ご飯を食べるためにタコベルによった。そこにつくとタイヤがパンクしたので、修理工を呼んだ。待っている間にデシは、ブレーキの一つの部品が破損して、それがタイヤに当たってパンクしたことを発見した。デシが大みそかに古いスクールバスの部品を探しているところを想像してもらいたい。私はタコベルで19人の十代の若者たちと一緒に4時間近くも待たなければならなかった。

これが奇跡の始まりだった。一人一人の若者が、あなたからもらった本、「One Thing You Can't Do in Heaven (天国で出来ない一つのこと)」をバスまで取りに来たのです。ほとんどの若者はこの本をもらっても読まないでしょう。しかし、若者たちは時間があつたのでそこに座って本を読んでいました。そして、一人ずつ証しをし始めたのです—タコベルとその隣のガソリンスタンドで。

他のバスが我々をピックアップするために来たのは驚きでした。夫が出てから4時間近く経っていたし、彼から何の連絡もなかったもので、私はこのことをどうやって知ったのかと運転手に聞きました。彼女(運転手)はノックスビルにいて、私の夫が私たちが困っていることを話していたのを小耳にはさんで、バスを何台も持っていたので、迎えに来てモーテルまで送ることに決めたのだと言ったのです。

若者たちは残ったお金というお金をカンパし始めました。そのお金は、モーテルのもう一泊代に当てられたのです—親切にも、マネージャーがそのお金で足りるように割引をしてくれたのです。そして、

生徒たちはイエスのことについて盛り上がっていました。それは、モーテルの支配人が、イエスについて話している人があまりにも多すぎると、何人かから苦情があったとわれわれに言わなければならないほどでした！（後で詳しく聞くと、実際には一人の男性だけだった。）

その夜は最も祝福されて終わりました。若者たちはその本が人生を変えたと言いました。彼らは、証しするのが初めは死ぬほど恐ろしかったこと、そしてやるにつれてどれほど易しくなっていたかを話していました。彼らは故郷のインディアナ州の人々に重荷を感じ始めました。彼らは学年ごとのリストを作り、イエスのことについて生徒全員に話すことを目標にしたかったのです。それはものすごい神様の働きでした。マーク。なんという祝福でしょうか。

個人的なことを言えば、あなたのメッセージを聞いたとき、私も目からうろこが落ちたように感じました。私は聖書を今までよりもたくさん読んでいたし、忙しく奉仕もしていました。…でも、ずっと感じていた神様との近さはなくなってしまうていたのです。それがなぜだかわかりませんでした。（サタンはクリスチャンでさえも盲目にできる）。

そんなところへ、あなたのメッセージは衝撃でした。私はずっと一対一の個人伝道をしないでいました。たしかに、私の奉仕を通して、生徒たちは主のもとへ来ました。しかし、奉仕以外で個人的に一対一で福音を伝えることを止めてしまっていたのです。言ってみれば、私は神の仕事に忙しくしながら、本当に神の仕事携わるとはどいうことか忘れていたのです。魂を救った時の神様とのすばらしい一体感、個人的な魂の獲得いからくる魂への重荷をもつこと、すべての物事をアレンジしてくださる神を見ること—あなたには私の言うことがわかるでしょう。

あなたのメッセージは本当に心に届きました。神は本当にあなたを、若者たちとそのリーダーに触れてくださるために用いられました！

私たち大人が、考えてばかりで何もしないのに、どうして若者たちがどのように失われた人に接するのか、その真実について耳を傾け、それに邁進するだろうか？

「今、私は人々に取り入ろうとしているのでしょうか。神に取り入ろうとしているのでしょうか。あるいは、人々を喜ばせようと努めているのでしょうか。もし今なお人々を喜ばせようとしているのなら、私はキリストのしもべではありません。」(ガラテヤ1章10節)

「彼らは、神からの栄誉よりも、人からの栄誉を愛したのである」(ヨハネ12章43節)

あなたの上司や友人があなたについて何を言っても問題ではない。問題はイエスがあなたについて何と言うかだ。だから、人を喜ばず人になるな。神を喜ばず者であれ。それが唯一の生き方だ。

チャールズ・スポルジョンは言った

もし、眠れない夜を過ごすことがないならば、もし目から涙があふれることがなければ、心が張り裂けるような経験がなければ、あなたは熱心だと言われる可能性はない。あなたは本当の熱心さの元を知らない。なぜなら、クリスチャンの情熱の出発点はその心にあるのだ。心は悲しみで満ちていなければならぬが、同時に聖なる情熱で高鳴っていなければならない。心は、神の栄光を継続して追い求めることに飢え乾いていなければならない。そうでなければ、我々は神が我々に教えようとしておられる情熱のようなものは、決して何ひとつ得られない。¹⁰⁰

祈りの詩の偉大な作者は書いている…

『月のように とこしえに堅く立つ。その子孫は 雲の上の確かな証人である。』セラ」(詩篇 89篇 37節)

私はこの聖句についてある日考えていた。月は大空の誠実な証人である。この本の最初の章(創

造について)から述べているように、それは空にあるだけで神の栄光をあらわしている。我々は月を見て、月がどうやってそこに掛かっているのか考える。我々は宇宙がなぜこれほど精密に整えられているのか不思議に思うし、なぜ科学者はいつ月になるのか、いつ月食が起こるのか正確に言うことができるのか不思議に思う。我々は月が潮の満ち引きや、地球の自転にさえ大きな役目を果たしていることを知っている。しかし、私たちのように科学に詳しくない普通の人たちにとって、月の大きな働きは、太陽の光を反射することである。それは三日月でも、半月でも、満月でもそうである。しかし、大事なことがある。月は太陽の光を反射して我々に見せるために、太陽に対して、我々との関係において正しい角度でなければならない。

そこで、はっとした。それはイエス・キリストの信者と同じではないか？我々は太陽の光を反射してなくてはならないのではないか？我々は神の子の光を反射してなければならない。大事なことは何なのか？我々は、御子に対して正しい角度にいななければならない。

我々が神の言葉を読み、それに従い、祈り、礼拝し、知っていることにしたがって生きる時、我々は他の人々の人生に神の子、イエス・キリストの光を反射することができるのである。人々は真実に飢えている。そして、我々は、彼らがそれを見ることが出来るように反射したいと願っている。

チャールズ・スポルジョンは言った

私は確信している。他の人が救われることを望まずに救いの価値を知ることは不可能であると。有名な説教者ホイトフィールドは言った。「改心するやいなやすぐに、私は他の人が改心するための媒介者でありたいと思った。私には一緒にトランプをしたり、一緒に罪を犯したり、一緒に悪事を働いた多くの若い友達がいた。最初に私がしたことは、彼らの家に行って彼らの救いのために自分が何ができるかを見に行くことだった。そして、彼らの多くが救い主のもとに来るのを見るという喜びを得るまで

は、休むことができなかった。¹⁰¹

私は最近アトランタの聖書研究会で話をした。参加者の一人に、「NBAの内側」というTNT局のテレビ番組で司会をしているアーニー・ジョンソンがいた。彼は神の前にとっても謙遜な人で、私たちはそのあとに楽しく会話をした。彼は彼のテレビ局(TNT)のスタジオの録画に招いてくれた。そこで、私は水曜日の夜にそこへ行った。車を駐車場に入れるときに、私はガードマンと話をし始めた。彼は誠実に教会に通っているが、死んだときに100%天国に行けるかどうか確信がなかった。私は彼のために本にサインをしてあげ、車を停めた。

アーニーは迎えに来て、私を彼のオフィスまで連れて行ってくれた。私たちは楽しく会話をしたが、彼はショーの用意をするためにすぐに行かなければならなかった。そこで、彼はそこで働いている女性の一人に、そこに来て私と話しをするように言った。彼女と私は素晴らしい話ができ、彼女は人生の「探索モード」の真っ最中にいた。彼女はカトリックの家庭で育ったが、彼女自身の真実を見出したいと望んでいた。アーニーが戻ってきたので、私は彼女にも私の本をサインしてあげた。

あなたもどこへ行くにも、失われた人に話をする機会を求めなさい。チャンスはどこにでもある。アーニーと私はセットから出て、彼は様々な場所を見せてくれた。私はどのようにしてショー全体が成り立っているのか興味があったので、彼はショーの内側と外側を見せてくれた。

ショーが始まる前に、マジック・ジョンソン、チャールズ・バークリー、ケニー・スミスら共同司会者がゲームを見て大きなコントロール・ルームで話をする。たくさんの冗談が飛び交い、ゲームはあまり見ない。ハーフタイム・ショーのあと、後半のゲームショーの前に、私はマジック・ジョンソンと主のことにについて20分間話す機会があった。それは素晴らしい会話だった。マジックは、会話の間中一度しか私から目を離さなかった。

マジックは忠実にLA(ロサンゼルス)の教会に通っていた。彼は教会で育った。会話のあるところで、私は向かいの部屋のチャールズを見て、マジックに「いつの日か天国でチャールズに会いたいかい？」と尋ねた。彼は会いたいと言った。私は彼を見て言った。それについて何をするつもりか。その時に少し緊張が走ったが、人はその人生においてイエスに付くかどうかの選択を迫られる必要がある。我々は天国で誰かに会いたいだろうが、現実的な問題は、それについてわれわれが何をするかである。私は証についての私の本にサインをしてマジックにあげた。アーニー・ジョンソンは、後で、マジックが「君が今夜、連れてきた友達をととても気に入った」と言っていた、と教えてくれた。

ショーの後、チャールズと何人かのスタッフはアトランタのバーの並んだ地域にあるクラブに出かけた。私も彼らと一緒にいくことにした。最初のクラブで、ある男性が会話の終わりに、「あなたと話して、とても霊的に充実した夜だった。」と言った。

ある若い女性は、主を心から愛しているが、飲みに来てダンスをするのが好きだと言った。私は彼女にこのクラブの中でだれか死んだら地獄に行くと思うかと聞いた。彼女は「そう思う」と答えた。

私はそこで彼女にそのことに対してどうするつもりかと訊いた。彼女はただ泣き始めた。もし私たちが人が死んで地獄に行くと言っていると言いながら、それに対して何もしないなら、問題は我々は本当に信じているのだろうかということだ。チャールズ・スポルジョンは言った「あなたは他の人が救われるのを見たいと思わないか？ 思わないなら、あなた自身が救われていないということだ。それは確かなことである」ほとんどのクリスチャンと称する人は、他の人が救われるのを見たいと願う。ただ、どのようにして信仰を分かち合ったらよいか分からないだけなのだ。

私はあなたに再度お薦めしたい。私の最初の本、「One Thing You Can't Do in Heaven」を読んでほしい。そうすれば、あなたは効果的にまた聖書的に信仰を分かち合う方法を学ぶことができる

(www.markcahill.org)。少し後に、私たちはその地区の別のクラブに行った。そこには、サン・フランシスコフォーティナイナーズとフィラデルフィア・イーグルスのワイド・レシーバー、テレル・オーエンスがいた。私たちは、少しの間話す機会があった。私は彼の目を見て聞いた「もしあなたが今夜死んでも、100パーセント天国に行くという確信がありますか？」

私はクラブから出るときに、何枚かのトラクトをバーテンダーと警備員と居合わせた人たちに渡した。一人の男性は私と数分間話をした。私は彼に本を書いたことを話して、彼の住所をメールで連絡してくれるように名刺を渡した。私は彼に本を送ると言った。午前3時半だったので、私はそこを出た。しかし数日後にその男性はメールをくれたので、本を送った。どこにいる人も良い知らせを聞きたいと待っている。そして、あなたはそれが真実であることを知っているのだから、行って彼らに知らせるべきである。

チャールズ・スポルジョンは言った

最近では、しばしばクリスチャンが人の集まりで彼の信仰を話題にしないのがエチケットだとされる。そんなエチケットは捨ててしまえ。それは地獄のエチケットである。もしも、その魂が危険であると信じているならば、仲間の魂に対する本当の礼儀は彼に話しかけさせる。¹⁰²

スポルジョンはこうも言った

神の教会に加わっていないながら、あなたがたの内のだれが沈黙していることに満足できるだろうか？ あなたはあなたの周りの人が地獄に行くのをそのままにして満足出来るか？ 何だって？ キリストの愛を伝えたことがない？ ええっ？ 自分の子供に救いについて話したことがない？ これが正しいなどということがあるか？ 神の御名によって、目を覚ませ！ 何のためにあなたは地上に残されているのか？ もしも、あなたがすべきことがないなら、なぜこの罪深い世界にいるのか？ ¹⁰³

葬式に行くときに、その人が死んだなどという嘘を信じてはいけない。それは単純に正しくない。彼らの体はたしかに死んでいる。しかし、体は魂を地上で運ぶのに使う乗り物に過ぎない。魂こそ本当のその人であって、体ではない。そして、魂は不滅である。それは決して死なない—場所を変えるだけである。

したがって棺桶にいる人の魂は天国にいるか地獄にいるかである。行先は、二つのうちの一つである。そういうことだ。あなたはあなたが会う人すべてが、いつの日かあなたと一緒に確実に天国にいるようにするために何をしているのか？さあ、イエスへの愛によって生まれた魂に対する情熱を持った男の遺書を読んでみよう。

福音を恥としない者の交わり

(殉教したアフリカ人の最後の言葉)

私は福音を恥としない者の交わりの一員だ。

賽は投げられた。私は一歩踏み出した。

もう決心したのだ。私はイエス・キリストの弟子なのだ。

私は振り返らず、休止せず、速度を落とさず、後退せず、止まることもしない。私の過去は贖われ、私の現在の状態には意味があり、未来は保証されている。

私は程度の低い生き方はもう終わった。目に見えるものに頼る生き方、すべすべの膝、色のない夢、鎖の付いたビジョン、世的な話、安っぽい施し、そして歪められたゴール。

私の歩調は定まっており、あゆみは早く、ゴールは天国。道は細く険しい。仲間は少ないが、ガイドは信頼できる。私の使命は明らかである。

私はあきらめず、後退せず、止まらず、黙らない。キリストの大義のために伝え切り、祈り切り、献げ尽くし、蓄え尽くし、この世での滞在が満ちるまでは。

私はイエスが戻るまで行かなければならない。倒れるまで捧げなければならぬ。全ての人があるまで宣べ伝え、イエスが来るまで働かなくてはならない。

そして、イエスがご自身のものを迎えるために再び来るときに、イエスは私を簡単に見分けるだろう。

私の旗色は明らかだ。「私は福音を恥としません。」(ローマ1章16節)¹⁰⁴

これが救われないで死んでいく人々の悲惨さを理解している救われた魂の情熱である。彼は、できる限り多くの人を神の国に彼と一緒に入れるようにするために人生を捧げたのである。私はこれらの話が、あなたが会う人すべてがやがていつか天国で、「イエスがわたしのためにしてくれたことについて教えてくれてありがとう」と言うようになるような生き方を始める勇気を与えることを願う。そこにはアクセスしなければならない失われた世界がある。そして、今こそそれをする時だ。一つ私たちが知らないのはどれほどの時間が残されているかだ。

12章

チクタク、チクタク、チクタク

毎日を最後の日であるかのように生きよ。その日はいつか訪れる

著者不明

あなたがバスケットボール場に入ると、必ず時計付きのスコアボードがある。ある日、私はその時計が時間を刻むのを見ていた。5, 4, 3, 2, 1, 0—そして、笛が鳴って試合が終わった。

それは私をハッとさせた。我々の人生もそのようなものだ。我々の時計は毎日時を刻んでいる、そ

していつかは我々は死ぬ。時計はいつも動いている。我々が知らないのはどれほどの時間が残されているかだ。しかし、我々が確かなこととして知っているのは、時計はチクタク時を刻み続けるということだ。あなたは残された時間で何をするつもりなのだろうか？

チャールズ・スポルジョンは言った

時計が動く音をちょっと聞いてみなさい。それは永遠の脈拍の鼓動である。それはあなたを追ってくる死の足音だ。チクタクいうたびに死の足音はあなたの背後に近くなっている。¹⁰⁵

スポルジョンはこうも言った

時計が時を刻む音を聞きなさい。振り子が行ったり来たりするとき、それはあなた方の内の幾人かに言っているのだ。「今しかない。今しかない。今しかない」と。あなたはイエスに信頼してあなたの魂を委ねますか？¹⁰⁶

神は、我々が残された時間を精一杯大切に使わなきゃならないと警告する。

「機会を十分に活かしなさい。悪い時代だからです。」(エペソ5章16節)

あなたは時間を有効に使わなければならない。我々は悪い時代に生きている。多くの人々が生きている間に見ることはないであろうと思っていたものが、今日起こっているのを我々は見ている。それは起こっているのである。

もし、あなたがシャツを失くしたら、あなたは店に行つて別のを買うことができる。あなたが100ドルを失ったら、あなたは仕事をすればそのお金をまた得ることができる。しかし、時間だけは過ぎ去つたら取り戻すことができない。神はあなたが生まれた日も死ぬ日も知っている。あなたの地上での時間は限られており、それは束の間のことである。それは明らかに期限がある。しかし、ここの歩みを終え

れば、時は永遠にある。あなたは、あなたの永遠が間違いなく喜びであるために、ここでの時間で何を
するつもりだろうか？

チャールズ・スポルジョンは言った

天国と地獄は遠くない。あなたは時計の針が次に進む前に天国にいるかもしれない。それらが遠く
あるように見えるからと言って、それをいい加減にするのではなく、それを厳粛に自覚しよう。なぜな
ら、それは近いのだから。今日この日、陽が落ちるまでに、今ここに座っている何人かは、天国か地獄
の現実を見ることになるかもしれない。¹⁰⁷

最後の言葉

最も素晴らしいことの一つは、人々が死ぬ前に言ったこと一息を引き取る直前に残した言葉一を
読むことである。あなたはこれらの人が最後に言ったことを読んで、それらの人々にとって何が重要
だったのか多く学ぶことができる。そしてそれは、彼らが最後の息を引き取ったあとに何が待ち構えて
いたのかということについて洞察を与えるかもしれない。

これらの引用は、レイ・コンフォートの The Evidence Bible からなされたものである

カーディナル・ボルジア「私は人生において必要なものは死以外はすべて与えられてきたが、ああ、
私は今、準備ができていない死を目前にしている。」

エリザベス1世 ”私の全ての所有物をしばしの時間と引き換えに…”

トーマス・ホップズ(リバイアサンを書いた無神論者、リバイアサンは、絶対君主制と人々への圧政を正当化するために書かれた)「私は最後の旅立ちを迎えようとしている。暗黒への大跳躍だ。」

アン・ボレン(ヘンリー8世の妻、ヘンリー8世によって死刑にされた)「おお神よ、私の魂に哀れみを。おお神よ、私の魂に哀れみを」

ヘンリー(英国王子)「私の体をロープで縛って、ベッドから出し、灰の中に寝かせてくれ。怒っている神に対して悔い改めの祈りの中で死ぬるように。あなたたちと共に下らない遊びで失った時間を、ああ私は今欲しいと虚しく思う」

ソクラテス「この世のすべての知恵は私たちがこの地上を去るときに帆を掲げる小さないかだにすぎない。もしも、確かな拠りどころがあるならそれは聖なる言葉であろう」

トニー・ハンコック(イギリスのコメディアン)「私が存在したことをみんなが忘れるだろう。私の後には何も残らない。何も引き継ぐものもない。だれも嘆かない。それがすべての中で最もつらい」

フィリップ3世(フランス国王)「私は神に、どんな報告書を提出すればいいのだろう。私はもっと別の生き方をすべきだった。」

ヴォルテール(懐疑的哲学者)「私は神様と人間に見放された。あなたが私に半年の人生をくれるなら私の価値の半分をあげる。そして、私は地獄に行く、あなたとともに。ああ、キリスト！ああ、イエス・キリスト。」

この才能あるフランスの著述家はイエスにかつて「みじめな者を呪え」と言った。

アルダス・ハックスリー(ヒューマニスト・無神論者)「すべての人の人生の問題に関わってきて、最後に「がんばれ、そしてもう少し親切になれ」というアドバイス以上の何も提供すべきものがないことを知る

のは少し恥ずかしい。」

カール・マルクス「出ていけ、失せろ。最後の言葉などというものは、言いたいことを生きているうちに十分に言わなかった馬鹿者どもが口にする事だ。」

ナポレオン「不思議なことに、私自身とアレキサンダーとシーザーの野望は雲散霧消してしまっただが、ユダヤの田舎者、イエスは、何世紀のもわたってその手を伸ばし、人々とと国の行く末を支配している。

ダイアナ(英国王女)(警察のファイルに)「神様。何が起こったのですか？」

ジェームズ・ディーン「楽しい日々は終わった」

ジョナサン・エドワーズ(伝道者)「神に信頼せよ。そうすればなにも恐れることはない」

パトリック・ヘンリー「お医者さん、私はあなたに、もうすぐ死ぬ者にとってキリストへの信仰がどれほど現実的で有益であるかを観察してもらいたい」

(遺言に彼が書いた言葉:「私が愛する家族に与える遺産のすべてはこれである。すなわち、キリストへの信仰、それこそ彼らを本当に豊かにするものである」)

D.L.ムーディ(伝道者)「地が後退しているのが見える。天国が開いて、神が私を呼んでいる」

ウィリアム・シェークスピア「私は、永遠にいのちを受け継ぐものとされるために、ただ私の救い主イエス・キリストの功德を希望とし、確信をもって信じつつ、創造主である神の手に私の魂をゆだねる。そして身体はそこから造られた地に帰る。」

マルティン・ルター「あなたの手に私の霊を委ねます！あなたは私を贖ってくださいました。真実の神よ」

ジョン・ミルトン(英国の詩人)「死は、永遠の宮殿の扉を開けるすばらしい鍵である」

チャールズ・ディケンズ「私は私たちの主であり救い主であるイエス・キリストを通して、神の哀れみに私の魂をゆだねる。そして、私の愛する子供たちに新約聖書の教えにしたがって歩むように、謹んで勧める”

ダニエル・ウェブスター「私はまだ生きている。」死に際に彼は言った。「大きな神秘はイエス・キリスト、福音である。もしも、永遠の命の希望をもっていなかったら、私たちはどうなってしまだろう？神に感謝する。イエス・キリストの福音が命と永遠性を明らかにしてくれて」

アンドリュー・ジャクソン「わが子よ、私のために嘆かないでくれ…私はわたしの神のものだ。私は彼のものだ。私は少し先に行くが、君たちすべてに天国でまた会えることを望み信じている。」

ヘンリー・ウォード・ビーチャー 「さあ、謎の時だ」

ビーチャーは偉大な心を持っていたが、死の向こう側の謎に対する答えを知らなかった。ビーチャーは知らなかったが、あなたはこの本を読んだので知っている。問題はそれについてどうするかだ¹⁰⁸

偉大なピューリタンであったジョン・オーウェンは、死の床で秘書に友人への手紙を口述筆記させる時に、「私はまだ生きている者たちの世界にいる。」と言ったところで、『わたしは今死んでいる者の国にいるが、すぐに生きている者の国へ行くことを待ち望んでいる』と書き直せ」と言った。¹⁰⁹

時間は過ぎていく。そして、いつかは我々一人一人の身体が停止する時が来る。あなたが最後の息を引き取るのは今日かもしれない。もし、そうなら最後の言葉は何だろう？

あなた_____

もしも、あなたに人生にもう少し時間があつたとするならどうしますか？今まで生きてきたとは違う生き方が出来るとしたらどうしますか？もしあなたが死ぬ前に最期に希望を書き残すことができるとしたらどうしますか？もしも、その言葉のように生きれるとしたらどうですか？それはどのような言葉ですか？

あなた _____

それどころか、天の主に向かって高ぶり、その宮の器を自分の前に持ってこさせ、あなたと貴族たちとあなたの側室や侍女たちは、それを使ってぶどう酒を飲みました。あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しました。しかしあなたの息をその手に握り、あなたのすべての道をご自分のものとされる神を、あなたはほえたたえませんでした。(ダニエル 5章 23節)

神はあなたの息、命そのものを御手の中に握っている。彼はそれをいつでも取り上げて永遠に捨て去ることができる。彼はあなたに引き続き息をさせることを選んでくれたのだ。あなたはその与えられた命で、何をするつもりだろうか？あなたは神の栄光を現すだろうか？それともそうではないだろうか？あなたの選択である。この本は私が書いて、あなたはそれを読んだ。この本を読み終えて、あなたの生活をまた始めるときに、覚えていてほしい。あなたは誰かに仕えている。あなたがまだ息をしているうちは、その瞬間の命の息を神が与えてくださっているのだということを覚えていて欲しい。問題はあなたはそれをどう生きるかである。あなたがまだ救われてないなら、今が神に明け渡す時である。

もし、あなたが救われているなら、徹底的に神のために生きなさい。あなたがひとたび死んで天国か地獄に行ったら、方から他方へ行くことはできないのである。

真実は明らかになった。あなたの旅はまだ続く。大切なことに決着をつけないまま死んではならない。審判の日に後悔があってはならない。人生を無駄にしないで欲しい。あなたにはまだ、この瞬間生きるべき時間がある。わたしは、その時間がどう使われるのか心懸かりである。どうか時間を有意義に使って欲しい。

One Heartbeat Away

1 The Barna Group, Americans Describe Their Views About Life After Death, October 21, 2003.

2 Ibid.

3 Sir Winston Churchill,

4 Robert Jastrow, *Until the Sun Dies*, (New York: W. W. Norton, 1977), 21.

5 F. Darwin, ed., *The Life and Letters of Charles Darwin* (New York: D. Appleton & Co., 1905), 276.

6 C. S. Lewis, *God in the Dock: Essays on Theology and Ethics*, (Grand Rapids, MI: Wm. B. Eerdmans Publishing Co., 2001), 211.

7 David Thomas, *The Source of Everything: The Hidden Truth* (Bloomington, IN: Wesbow Press) 8
Ibid.

9 Dr. Scott Huse, *The Collapse of Evolution*, 2d ed. (Grand Rapids, MI: Baker Book House, 1993), 71–72.

10 As quoted in *Austin AmericanStatesman*, October 19, 1997.

11 Stephen Hawking, *A Brief History of Time* (New York: Bantam Books, 1988), 162

12 Fred Hoyle, “The Universe: Past and Present Reflections,” *Annual Review of Astronomy and Astrophysics*, 1982, 20:16.

13 Paul Davies, *The Cosmic Blueprint* (New York: Simon and Schuster, 1988), 203.

14 As quoted in Dr. Henry F. Schaefer, *Science and Christianity: Conflict or Coherence?* (University of Georgia, 2003), 71.

15 As quoted in Fred Heeren, *Show Me God* (Wheeling, IL: Searchlight Publications, 1995), 200.

16 As quoted in H. Margenau and R. A. Varghese, eds., *Cosmos, Bios, and Theos* (La Salle, IL: Open Court, 1992), 83.

17 George Greenstein, *The Symbiotic Universe* (New York: William Morrow, 1988), 27.

18 Ronald Clark, *The Life and Times of Einstein* (New York: World Publishing, 1971), 18–19.

19 J. P. Moreland, *Scaling the Secular City: A Defense of Christianity* (Grand Rapids, MI: Baker Academic, 1987), 220.

20 Ken Ham, *The Answers Book* (Green Forest, AR: New Leaf Press; Master Books, 2003), 125. 21
Martin Moe, “Genes on Ice,” *Science Digest*, December, 1981, 89 [11], 36, 95.

22 G. G. Simpson, C. S. Pittendrigh, and L. H. Tiffany, *Life: An Introduction to Biology* (New York: Harcourt, Brace, and World, 1965), 241.

23 Francis Crick, “In the Beginning,” *Scientific American*, February 1991, 12.

24 Charles Darwin, *The Origin of Species*, 6th ed. (London: John Murray, 1872), 49.

25 G. G. Simpson, *Tempo and Mode in Evolution* (New York: Columbia University Press, 1984), 106.

26 A. J. Marshall, *Biology and Comparative Physiology of Birds* (New York: Academic Press, 1960), 1.

27 H. W. Smith, *From Fish to Philosopher* (New York: Little Brown, 1953), 26.

- 28 As quoted in Arthur C. Custance, *Evolution or Creation?* (Ottawa: Doorway Papers, 1988),
- 29 David B. Kitts, “Paleontology and Evolution or Creation?” (Ottawa: Doorway Papers, 1988)
- 30 Robert L. Carroll, “Towards a new evolutionary synthesis”, *Trends in Ecology and Evolution*, 15, (2000), 27-32
- 31 Adapted from “Questions for Evolutionists” <<http://www.drdino.com/articles.pjp?spec=76>>
- 32 Dr. Colin Patterson, letter to Luther D. Sunderland, April 10, 1979.
- 33 Niles Eldridge, *Reinventing Darwin: The Great Debate at the High Table of Evolutionary Theory* (New York: John Wiley & Sons, 1995), 95.
- 34 Fredrick Hoyle and Chandra Wickramasinghe, *Evolution from Space* (London: J.M. Dent and Sons, 1981), 24.
- 35 Carl Sagan, *Cosmos* (New York: Random House, 1980), 278.
- 36 Richard Dawkins, *The Blind Watchmaker* (New York: W. W. Norton & Co., 1987), 4.
- 37 Michael Behe, *Darwin’s Black Box* (New York: Free Press, 1996), 39.
- 38 Charles Darwin, 146.
- 39 Dr. Scott Huse, *The Collapse of Evolution*, 2d ed. (Grand Rapids, MI: Baker Book House, 1993), 92.
- 40 Bruce Alberts, “The Cell as a Collection of Protein Machines: Preparing the Next Generation of Molecular Biologists,” *Cell*, 92, February 8, 1998, 291.
- 41 Michael Behe, 252–253.
- 42 Richard Dawkins, *River Out of Eden* (New York: HarperCollins Publishers, 1995), 17.
- 43 Bill Gates, *The Road Ahead* (Penguin Books, 1996), 228.
- 44 James Shapiro, “In the Details... What?” *National Review*, September 19, 1996, 62–65. 45 “The Brainy Bug: What Makes Ticks Tick,” *BreakPoint* with Charles Colson, Commentary #000912, September 12, 2000.
- 46 Ibid.
- 47 Ibid.
- 48 As quoted in Dr. Jobe Martin, *The Evolution of a Creationist* (Rockwall, TX: Biblical Discipleship Publishers, 2002), 106.
- 49 William McCall, “Ocean Sponge May Be Best for Fiber Optics,” August 22, 2003, .
- 50 Ibid.
- 51 Ibid. 238 One Heartbeat Away
- 52 Paul Davies, *Superforce: The Search for a Grand Unified Theory of Nature* (New York: Simon and Schuster, 1984), 235–236.
- 53 Dr. Jobe Martin, *The Evolution of a Creationist*, 131–133.
- 54 George Wald, *The Molecular Basis of Life* (San Francisco: W. H. Freeman and Co., 1968), 339.

- 55 As quoted in Dr. Scott Huse, *The Collapse of Evolution*, 2d ed. (Grand Rapids, MI: Baker Book House, 1993), 146.
- 56 Richard C. Lewontin, "Billions and Billions of Demons," *The New York Review of Books*, (January 9, 1997), 31.
- 57 Robert Jastrow, *Until the Sun Dies* (New York: W. W. Norton & Company, 1977), 51–52.
- 58 Ron Ayres, "The Truth about the Truth," 19, August 2002,
- 59 Russell Ash, *The Top 10 of Everything* (New York: DK Publishing, 1998), 123.
- 60 Quote from Josh McDowell, *The New Evidence That Demands a Verdict* (Nashville: Thomas Nelson, 1999), 35.
- 61 *Ibid.*, 49.
- 62 *Ibid.*, 61.
- 63 *Ibid.*, 100.
- 64 Evelyn Bayle Kinkead, *Modern Century Illustrated Encyclopedia*, Vol. 12, (Australia, McGraw-Hill: 1972)
- 65 From Columbus' diary, quoted in the American Christian Heritage Blog, Feb 2010, <<http://acheritagegroup.org/blog/?p=196>>
- 66 The Barna Group, *Americans Describe Their Views About Life After Death*, October 21, 2003.
- 67 *Ibid.*
- 68 Frank Harber, "10 Objections to Christianity and How to Respond," *Today's Christian Woman*, March/April 2000,
<<http://www.christianitytoday.com/tcw/2000/002/7.62.html>>
- 69 *The Great Divorce*, 75; as quoted in W. Martindale and J. Root, *The Quotable Lewis* (Wheaton, IL: Tyndale, 1989), 293.
- 70 Maurice Rawlings, M.D., *Beyond Death's Door* (Nashville: Thomas Nelson, 1978), 19–20.
- 71 The Barna Group, *Americans Describe Their Views About Life After Death*, October 21, 2003. Ted
- 72 Koppel, 1987 commencement address at Duke University, *MediaWatch*, April 1989.
- 73 excerpted from an introductory page to W. Y. Fullerton, *Charles Haddon Spurgeon: A Biography*, <<http://www.spurgeon.org/misc/biopref.htm>>
- 74 Tom Carter, ed., *Spurgeon At His Best* (Grand Rapids, MI: Baker Book House, 1988), 192.
- 75 *Ibid.*, 69.
- 76 C. S. Lewis, *Mere Christianity* (New York: Macmillan Publishing, 1975), 56. acheritage 239
- 77 Josh McDowell and Don Stewart, *Answers to Tough Questions* (Wheaton, IL: Living Books, Tyndale House Publishers, 1980), 39.
- 78 *Spurgeon At His Best*, 16.
- 79 *Ibid.*, 45.

- 80 Ibid., 45.
- 81 Josh McDowell and Don Stewart, Answers, 39.
- 82 Spurgeon At His Best, 174.
- 83 Ibid., 174.
- 84 James Emery White, You Can Experience the Spiritual Life (Nashville, TN: Word Publishing, 1999), 194.
- 85 Voice of the Martyrs, Extreme Devotion (Nashville, TN: W Publishing Group; Thomas Nelson, 2001), 150.
- 86 Ibid., 151
- 87 Spurgeon At His Best, 108.
- 88 Ibid., 122.
- 89 Ibid., 38.
- 90 Ibid., 46.
- 91 Dr. Neil T. Anderson, “Who I Am In Christ,”
- 92 Spurgeon At His Best, n.r.
- 93 Ibid., 67.
- 94 Ibid., 68.
- 95 Ibid., 68.
- 96 Ibid., 69.
- 97 Ibid., 69.
- 98 Ibid., 70.
- 99 Ibid., 225.
- 100 Ibid., 219.
- 101 Ibid., 220.
- 102 Ibid., 220.
- 103 Ibid., 205.
- 104 Voice of the Martyrs, Extreme Devotion, 150.
- 105 Spurgeon At His Best, 205
- 106 Ibid., 67.
- 107 Ibid., 67.
- 108 Ray Comfort, The Evidence Bible, 1504–1505 109 John M. Drescher, Pulpit Digest, Summer, 1985, N. pag